

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第172集

岩村田遺跡群
西八日町遺跡Ⅳ

長野県佐久市岩村田西八日町遺跡発掘調査報告書

2010. 3

佐 久 市
佐久市教育委員会

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第172集

岩村田遺跡群
西八日町遺跡Ⅳ

長野県佐久市岩村田西八日町遺跡発掘調査報告書

2010. 3

佐 久 市
佐久市教育委員会



H30号住居址全景（南から）



H30号住居址カマド（古墳時代）



H19号住居址カマド (古墳時代)



H35号住居址カマド (平安時代)



H36号住居址カマド (奈良時代)



H40号住居址カマド (古墳時代)



H42号住居址カマド (古墳時代)



H64号住居址カマド (古墳時代)



H67号住居址カマド (古墳時代)



H77号住居址カマド (古墳時代)



西八日町遺跡IV石器



西八日町遺跡IV石器



H41-11

H66-16



H65-3

H77-7

西八日町遺跡IV 紡錘車、石・土製品



D15号土坑須恵器壺



西八日町遺跡Ⅳ玉類



西八日町遺跡Ⅳ H61号住居址 白玉



H36号住居址墨書 (有)



H25号住居址墨書



H25号住居址墨書



H75号住居址墨書



H98号住居址墨書 (別)

例 言

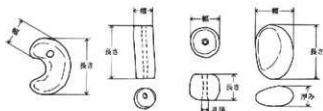
1. 本書は佐久市建設部都市計画課による佐久都市計画事業岩村田相生町南土地区画整理事業に伴う岩村田遺跡群 西八日町遺跡Ⅳの発掘調査報告書である。
2. 事業主体者 佐久市中込3056 佐久市建設部都市計画課
3. 調査主体者 佐久市中込3056 佐久市教育委員会 教育長
4. 遺跡名及び発掘所在地
岩村田遺跡群 西八日町遺跡Ⅳ
佐久市岩村田2130-6外
5. 発掘担当者 現場作業 平成19・20・21年度 上原 学
整理作業 上原 学
6. 本書の編集・執筆は上原が行った。
7. 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。
8. 本遺跡出土鉄製品の保存処理は、株式会社文化財ユニオンに委託した。

凡 例

1. 遺構の略称は以下の通りである。
H-竪穴住居址 F-掘立柱建物址 M-溝状遺構 D-土坑 P-ピット
2. スクリーントーンの表示は以下の通りである。



3. 挿図の縮尺は以下の通りである。
遺構 竪穴住居址・掘立柱建物址・土坑1/80 溝状遺構1/80・1/120・1/160・1/200 単独ピット1/80
遺物 土師器・須恵器・灰釉陶器・その他の土器 1/4 石・石器類1/4・2/3・1/1 鉄製品1/4
4. 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
5. 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水系高を標高とした。
6. 土層・遺物の色調は「新版 標準土色帖」による。
7. 調査グリッドは小グリッド4×4m、大グリッド40×40mである。
8. 住居址の区割りは上を北とし、北東隅から逆時計廻りとし、4区画（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ）に分割した。
9. 遺物観察表中の〔 〕は推定値、〈 〉は残存高を示す。
10. 本文中の時代区分のうち、5世紀末～6世紀初頭とした住居址については、全体図では、古墳時代中期として彩色した。
11. 石製品・玉類の計測は次のとおりである。



目 次

第 I 章	発掘調査の経緯	1
第 1 節	立地と経過	1
第 2 節	調査体制	2
第 3 節	遺構と遺物の概要	3
第 II 章	遺跡の環境と周辺遺跡	3
第 1 節	自然環境	3
第 2 節	周辺遺跡	5
第 3 節	基本層序	8
第 III 章	遺構と遺物	13
第 1 節	整穴住居址 (H)	13
H 1 号住居址	— 13	
H 5 号住居址	— 15	
H 10 号住居址	— 17	
H 13 号住居址	— 20	
H 16 号住居址	— 23	
H 21 号住居址	— 26	
H 24 号住居址	— 30	
H 27 号住居址	— 31	
H 30 号住居址	— 37	
H 33 号住居址	— 42	
H 36 号住居址	— 46	
H 40 号住居址	— 53	
H 43 号住居址	— 59	
H 46 号住居址	— 64	
H 49 号住居址	— 68	
H 52 号住居址	— 72	
H 59 号住居址	— 74	
H 62 号住居址	— 80	
H 65 号住居址	— 84	
H 68 号住居址	— 89	
H 72 号住居址	— 91	
H 77 号住居址	— 95	
H 80 号住居址	— 99	
H 85 号住居址	— 104	
H 88 号住居址	— 108	
H 97 号住居址	— 113	
H 103 号住居址	— 116	
H 3 号住居址	— 13	
H 6 号住居址	— 15	
H 11 号住居址	— 19	
H 14 号住居址	— 21	
H 19 号住居址	— 24	
H 22 号住居址	— 28	
H 25 号住居址	— 30	
H 28 号住居址	— 33	
H 31 号住居址	— 40	
H 34 号住居址	— 44	
H 37 号住居址	— 48	
H 41 号住居址	— 55	
H 44 号住居址	— 61	
H 47 号住居址	— 67	
H 50 号住居址	— 69	
H 53 号住居址	— 73	
H 60 号住居址	— 76	
H 63 号住居址	— 80	
H 66 号住居址	— 85	
H 70 号住居址	— 90	
H 74 号住居址	— 93	
H 78 号住居址	— 97	
H 82 号住居址	— 100	
H 86 号住居址	— 107	
H 93 号住居址	— 110	
H 98 号住居址	— 114	
H 104 号住居址	— 119	
H 4 号住居址	— 14	
H 8 号住居址	— 16	
H 12 号住居址	— 19	
H 15 号住居址	— 22	
H 20 号住居址	— 26	
H 23 号住居址	— 28	
H 26 号住居址	— 31	
H 29 号住居址	— 35	
H 32 号住居址	— 41	
H 35 号住居址	— 45	
H 38 号住居址	— 51	
H 42 号住居址	— 57	
H 45 号住居址	— 63	
H 48 号住居址	— 68	
H 51 号住居址	— 72	
H 57 号住居址	— 74	
H 61 号住居址	— 76	
H 64 号住居址	— 82	
H 67 号住居址	— 87	
H 71 号住居址	— 91	
H 75 号住居址	— 94	
H 79 号住居址	— 98	
H 84 号住居址	— 102	
H 87 号住居址	— 107	
H 94 号住居址	— 111	
H 99 号住居址	— 115	
H 105 号住居址	— 119	
第 2 節	掘立柱建物址 (F)	120
F 1 号掘立柱建物址	— 120	
F 2 号掘立柱建物址	— 120	
F 3 号掘立柱建物址	— 121	

F 4号掘立柱建物址-134	F 5号掘立柱建物址-121	F 6号掘立柱建物址-122
F 7号掘立柱建物址-122	F 8号掘立柱建物址-122	F 9号掘立柱建物址-123
F 10号掘立柱建物址-124	F 11号掘立柱建物址-124	F 12号掘立柱建物址-125
F 13号掘立柱建物址-125	F 14号掘立柱建物址-125	F 15号掘立柱建物址-126
F 16号掘立柱建物址-126	F 17号掘立柱建物址-127	F 18号掘立柱建物址-127
F 19号掘立柱建物址-127	F 20号掘立柱建物址-128	F 21号掘立柱建物址-129
F 22号掘立柱建物址-129	F 25号掘立柱建物址-129	F 26号掘立柱建物址-130
F 27号掘立柱建物址-131	F 31号掘立柱建物址-131	F 29号掘立柱建物址-131

第3節 溝状遺構 (M) 133

M 1号溝状遺構-133	M 2号溝状遺構-134	M 3号溝状遺構-134
M 4号溝状遺構-135	M 5号溝状遺構-135	M 6号溝状遺構-136
M 7号溝状遺構-136	M 8号溝状遺構-137	M 9号溝状遺構-137
M 10号溝状遺構-137	M 13号溝状遺構-138	M 14号溝状遺構-138
M 15号溝状遺構-138		

第4節 土坑 (D) 139

D 1号土坑-139	D 2号土坑-139	D 3号土坑-139
D 4号土坑-139	D 5号土坑-139	D 6号土坑-139
D 7号土坑-139	D 8号土坑-139	D 9号土坑-139
D 10号土坑-140	D 12号土坑-140	D 13号土坑-140
D 15号土坑-140	D 17号土坑-140	D 18号土坑-140
D 19号土坑-140	D 20号土坑-140	D 21号土坑-141
D 22号土坑-141	D 29号土坑-142	D 30号土坑-143
D 33号土坑-143		

第5節 ビット 144

第6節 古銭 158

写真図版

抄録

圖版目次

圖版目次			
第1區 岩村田遺跡群 西4町遺跡IV 位置圖 (1:100,000)	1	第79區 I152号住居址遺構・遺物実測区	73
第2區 千曲川橋之口	3	第80區 I153号住居址遺構・遺物実測区	73
第3區 在久市地質園	4	第81區 I157号住居址実測区	74
第4區 周辺遺跡位置圖 (1:10,000)	6	第82區 I159号住居址遺構・遺物実測区	75
第5區 基本留存式式	8	第83區 I160号住居址実測区	76
第6區 遺跡配座圖	9、10	第84區 H61号住居址実測区	77
第7區 遺跡周辺遺構配座圖	11、12	第85區 H61号住居址遺物実測区	78
第8區 H1号住居址遺構・遺物実測区	13	第86區 H61号住居址実測区	79
第9區 H3号住居址実測区	13	第87區 H162号住居址実測区	80
第10區 H14号住居址遺構・遺物実測区	14	第88區 H63号住居址実測区	80
第11區 H5号住居址遺構・遺物実測区	15	第89區 H63号住居址方マド・遺物実測区	81
第12區 H6号住居址遺構・遺物実測区	15	第90區 H64号住居址遺構・遺物実測区	82
第13區 H8号住居址実測区	16	第91區 H64号住居址遺物実測区	83
第14區 H8号住居址遺物実測区	17	第92區 H65号住居址遺構・遺物実測区	84
第15區 H10号住居址遺構・遺物実測区	18	第93區 H66号住居址実測区	85
第16區 H11号住居址実測区	19	第94區 H166号住居址遺物実測区	86
第17區 H112号住居址実測区	20	第95區 H166号住居址遺物実測区	87
第18區 H113号住居址実測区	20	第96區 H67号住居址実測区	88
第19區 H13号住居址遺物実測区	21	第97區 H67号住居址遺物実測区	88
第20區 H14号住居址実測区	21	第98區 H67号住居址遺物実測区	89
第21區 H14号住居址遺物実測区	22	第99區 H68号住居址遺構・遺物実測区	90
第22區 H15号住居址遺構・遺物実測区	23	第100區 H70号住居址実測区	91
第23區 H16号住居址実測区	24	第101區 H71号住居址実測区	91
第24區 H16号住居址遺物実測区	24	第102區 I172号住居址遺構・遺物実測区	92
第25區 H119号住居址遺構・遺物実測区	25	第103區 I172号住居址遺物実測区	93
第26區 I120号住居址実測区	26	第104區 H74号住居址実測区	93
第27區 H21号住居址実測区	27	第105區 H74号住居址遺物実測区	94
第28區 H21号住居址遺物実測区	27	第106區 H75号住居址実測区	94
第29區 H22号住居址実測区	28	第107區 H75号住居址遺物実測区	95
第30區 H23号住居址実測区	29	第108區 I177号住居址実測区	95
第31區 H23号住居址遺物実測区	29	第109區 H77号住居址方マド実測区	96
第32區 I124号住居址遺構・遺物実測区	30	第110區 I177号住居址遺物実測区	96
第33區 H25号住居址遺構・遺物実測区	30	第111區 H78号住居址遺構・遺物実測区	97
第34區 H25号住居址実測区	31	第112區 H79号住居址実測区	98
第35區 H27号住居址実測区	31	第113區 H79号住居址遺物実測区	99
第36區 H27号住居址遺物実測区	32	第114區 I180号住居址実測区	100
第37區 I128号住居址実測区	33	第115區 I180号住居址遺物実測区	100
第38區 I128号住居址遺物実測区	34	第116區 H82号住居址実測区	100
第39區 I128号住居址遺物実測区	35	第117區 H82号住居址遺物実測区	101
第40區 I129号住居址実測区	36	第118區 H82号住居址遺物実測区	102
第41區 I129号住居址遺物実測区	37	第119區 H84号住居址遺構・遺物実測区	103
第42區 H30号住居址実測区	38	第120區 H84号住居址遺物実測区	104
第43區 H30号住居址遺物実測区	39	第121區 H85号住居址実測区	105
第44區 H31号住居址実測区	40	第122區 I185号住居址遺物実測区	106
第45區 H31号住居址遺物実測区	41	第123區 I186号住居址実測区	107
第46區 I132号住居址実測区	41	第124區 I187号住居址遺構・遺物実測区	108
第47區 H32号住居址遺物実測区	42	第125區 H88号住居址遺物実測区	109
第48區 H33号住居址遺構・遺物実測区	43	第126區 I188号住居址遺物実測区	110
第49區 I134号住居址実測区	44	第127區 H93号住居址実測区	110
第50區 I134号住居址遺物実測区	45	第128區 H93号住居址遺物実測区	111
第51區 H35号住居址実測区	45	第129區 H94号住居址実測区	112
第52區 H35号住居址遺物実測区	46	第130區 H94号住居址方マド実測区	112
第53區 H36号住居址遺構・遺物実測区	47	第131區 I194号住居址遺物実測区	113
第54區 I136号住居址遺物実測区	48	第132區 I194号住居址遺物実測区	113
第55區 H37号住居址遺物実測区	49	第133區 H97号住居址実測区	113
第56區 I137号住居址遺物実測区	50	第134區 I197号住居址遺物実測区	114
第57區 H37号住居址遺物実測区	51	第135區 H98号住居址遺物実測区	115
第58區 H38号住居址遺構・遺物実測区	52	第136區 H99号住居址遺構・遺物実測区	116
第59區 H38号住居址遺物実測区	53	第137區 I1103号住居址実測区	117
第60區 H40号住居址遺構・遺物実測区	54	第138區 I1103号住居址遺物実測区	118
第61區 I141号住居址実測区	55	第139區 H104号住居址遺構・遺物実測区	119
第62區 H41号住居址遺物実測区	56	第140區 H105号住居址実測区	119
第63區 H42号住居址実測区	58	第141區 H105号住居址遺物実測区	120
第64區 H42号住居址遺物実測区	58	第142區 F1号竪立柱建物址実測区	120
第65區 H42号住居址遺物実測区	59	第143區 F2号竪立柱建物址遺構・遺物実測区	121
第66區 H43号住居址実測区	60	第144區 F3号竪立柱建物址実測区	121
第67區 H43号住居址遺物実測区	61	第145區 F5号竪立柱建物址実測区	121
第68區 H44号住居址遺構・遺物実測区	62	第146區 F6号竪立柱建物址実測区	122
第69區 I145号住居址遺構・遺物実測区	63	第147區 F7号竪立柱建物址実測区	122
第70區 I145号住居址遺物実測区	64	第148區 F8号竪立柱建物址実測区	123
第71區 I146号住居址実測区	65	第149區 F9号竪立柱建物址実測区	123
第72區 H46号住居址・遺物実測区	66	第150區 F10号竪立柱建物址実測区	124
第73區 H47号住居址遺構・遺物実測区	67	第151區 F11号竪立柱建物址実測区	124
第74區 H48号住居址遺物実測区	68	第152區 F12号竪立柱建物址実測区	125
第75區 H49号住居址遺物実測区	69	第153區 F13号竪立柱建物址実測区	125
第76區 H50号住居址遺物実測区	70	第154區 F14号竪立柱建物址実測区	125
第77區 H50号住居址遺物実測区	71	第155區 F15号竪立柱建物址実測区	126
第78區 I151号住居址遺構・遺物実測区	72	第156區 F16号竪立柱建物址実測区	126
		第157區 F17号竪立柱建物址実測区	127

第138回	F18号独立柱建物址実測図	127
第139回	F19号独立柱建物址実測図	128
第140回	F20号独立柱建物址実測図・遺物実測図	128
第141回	F21号独立柱建物址実測図	129
第142回	F22号独立柱建物址実測図	129
第143回	F25号独立柱建物址実測図	130
第144回	F26号独立柱建物址実測図	130
第145回	F27号独立柱建物址遺物・遺物実測図	131
第146回	F31号独立柱建物址実測図	131
第147回	F29号独立柱建物址実測図	132
第148回	M1号溝状遺構 遺構・遺物実測図	133
第149回	M2号溝状遺構 F4号独立柱建物址遺構・遺物実測図	134
第170回	M3号溝状遺構 遺構・遺物実測図	134
第171回	M4号溝状遺構実測図	135
第172回	M5号溝状遺構実測図	135
第173回	M6号溝状遺構 遺構・遺物実測図	136
第174回	M7号溝状遺構実測図	136
第175回	M8号溝状遺構実測図	137
第176回	M9号溝状遺構実測図	137
第177回	M10号溝状遺構実測図	137
第178回	M13号溝状遺構実測図	138
第179回	M14号・M15号溝状遺構 遺構・遺物実測図	138
第180回	D1～D9号土坑・D6号土坑遺物実測図	139
第181回	D10・12・13・15・17～20号土坑 D15号土坑遺物実測図	140
第182回	D21号土坑実測図 D22号土坑・遺物実測図	141
第183回	D22号土坑遺物実測図	142
第184回	D29号土坑実測図	142
第185回	D30・33号土坑実測図	143
第186回	ピット実測図(1)	144
第187回	ピット実測図(2)	145
第188回	ピット実測図(3)	146
第189回	ピット実測図(4)	147
第190回	ピット実測図(5)	148
第191回	ピット実測図(6)	149
第192回	ピット実測図(7)	150
第193回	ピット実測図(8)	151
第194回	ピット実測図(9)	152
第195回	ピット実測図(10)	153
第196回	ピット実測図(11)	154
第197回	ピット実測図(12)	155
第198回	ピット実測図(13) P4R遺物実測図	156
第199回	ピット実測図(14)	157
第200回	古銭	158

表目次

第1表	周辺道路表	8
第2表	H1号住居址遺物観察表	13
第3表	H4号住居址遺物観察表	14
第4表	H5号住居址遺物観察表	15
第5表	H6号住居址遺物観察表	16
第6表	H8号住居址遺物観察表	17
第7表	H10号住居址遺物観察表	19
第8表	H13号住居址遺物観察表	21
第9表	H14号住居址遺物観察表	22
第10表	H15号住居址遺物観察表	23
第11表	H16号住居址遺物観察表	24
第12表	H19号住居址遺物観察表	26
第13表	H21号住居址遺物観察表	28
第14表	H23号住居址遺物観察表	29
第15表	H24号住居址遺物観察表	30
第16表	H25号住居址遺物観察表	31
第17表	H27号住居址遺物観察表	32
第18表	H28号住居址遺物観察表	35
第19表	H29号住居址遺物観察表	37
第20表	H30号住居址遺物観察表	40
第21表	H31号住居址遺物観察表	41
第22表	H32号住居址遺物観察表	42
第23表	H33号住居址遺物観察表	44
第24表	H34号住居址遺物観察表	45
第25表	H35号住居址遺物観察表	46
第26表	H36号住居址遺物観察表	48
第27表	H37号住居址遺物観察表	51
第28表	H38号住居址遺物観察表	53
第29表	H40号住居址遺物観察表	55
第30表	H41号住居址遺物観察表	57
第31表	H42号住居址遺物観察表	59
第32表	H43号住居址遺物観察表	61

第33表	H44号住居址遺物観察表	63
第34表	H45号住居址遺物観察表	64
第35表	H46号住居址遺物観察表	67
第36表	H47号住居址遺物観察表	68
第37表	H48号住居址遺物観察表	68
第38表	H49号住居址遺物観察表	69
第39表	H50号住居址遺物観察表	71
第40表	H50号住居址遺物観察表	72
第41表	H51号住居址遺物観察表	72
第42表	H52号住居址遺物観察表	73
第43表	H53号住居址遺物観察表	74
第44表	H59号住居址遺物観察表	76
第45表	H60号住居址遺物観察表	76
第46表	H61号住居址遺物観察表	79
第47表	H63号住居址遺物観察表	82
第48表	H64号住居址遺物観察表	83
第49表	H64号住居址遺物観察表	83
第50表	H65号住居址遺物観察表	85
第51表	H66号住居址遺物観察表	87
第52表	H67号住居址遺物観察表	89
第53表	H68号住居址遺物観察表	90
第54表	H72号住居址遺物観察表	94
第55表	H74号住居址遺物観察表	98
第56表	H75号住居址遺物観察表	96
第57表	H77号住居址遺物観察表	95
第58表	H77号住居址遺物観察表	97
第59表	H78号住居址遺物観察表	98
第60表	H79号住居址遺物観察表	99
第61表	H80号住居址遺物観察表	100
第62表	H82号住居址遺物観察表	102
第63表	H84号住居址遺物観察表	104
第64表	H85号住居址遺物観察表	106
第65表	H85号住居址遺物観察表	107
第66表	H87号住居址遺物観察表	108
第67表	H88号住居址遺物観察表	110
第68表	H93号住居址遺物観察表	111
第69表	H94号住居址遺物観察表	113
第70表	H97号住居址遺物観察表	114
第71表	H98号住居址遺物観察表	115
第72表	H99号住居址遺物観察表	116
第73表	H103号住居址遺物観察表	118
第74表	H104号住居址遺物観察表	119
第75表	H105号住居址遺物観察表	120
第76表	F2号獨立柱建物址遺物観察表	121
第77表	F20号獨立柱建物址遺物観察表	128
第78表	F27号獨立柱建物址遺物観察表	131
第79表	M1号溝状遺構遺物観察表	133
第80表	F4号獨立柱建物址・ M3号溝状遺構遺物観察表	134
第81表	M6号溝状遺構遺物観察表	136
第82表	M14号溝状遺構遺物観察表	138
第83表	D6号土坑遺物観察表	139
第84表	D15号土坑遺物観察表	140
第85表	D22号土坑遺物観察表	142
第86表	土坑観察表	143
第87表	ピット観察表	156
第88表	古銭観察表	158

写真目録

表目次

表目次

表目次

表目次

表目次

表目次

表目次

表目次

表目次

表目次

表目次

表目次

表目次

表目次

表目次

表目次

表目次

表目次

表目次

表目次

表目次

表目次

表目次

表目次

表目次

K区東側全築 (南から)	H27号住居址カマド掘方 (南東から)
K区西側全築 (南東から)	H27号住居址方全築 (西から)
図版八	H28号住居址全築 (南から)
L区東側全築 (南東から)	H28号住居址カマド (南から)
L区西側全築 (東から)	H28号住居址カマド (南東から)
図版九	H28号住居址方全築 (南から)
B区調査風景 (西から)	図版十八
C区表土除去作業 (西から)	I129号住居址全築 (南から)
D区表土除去作業 (西から)	I129号住居址カマド (南から)
E区調査風景 (北から)	H29号住居址遺物出土状況 (1)
J区表土除去・廃土処理作業 (東から)	H29号住居址遺物出土状況 (2)
K区表土除去作業 (東から)	I129号住居址カマド掘方 (南から)
L区調査風景 (西から)	I129号住居址掘方全築 (南から)
L区表土除去作業 (西から)	I130号住居址全築 (西から)
図版十	I130号住居址カマド (南から)
I11号住居址全築 (南から)	図版十九
H1号住居址掘方全築 (西から)	H30号住居址遺物出土状況
H3号住居址全築 (南西から)	H30号住居址北東コーナー土坑 (北東から)
H4号住居址全築 (南から)	I130号住居址カマド掘方 (南から)
H4号住居址カマド (南西から)	I130号住居址掘方全築 (南から)
I14号住居址カマド (北から)	I131号住居址全築 (南から)
H4号住居址カマド構築跡出土状況 (南から)	H31号住居址掘方全築 (南から)
I14号住居址カマド掘方 (南から)	I132号住居址全築 (南から)
図版十一	H32号住居址掘方全築 (南から)
H4号住居址掘方全築 (南西から)	図版二十
H5・6号住居址全築 (東から)	I133号住居址全築 (南から)
H5・6号住居址掘方全築 (東から)	I133号住居址カマド (南から)
I18号住居址全築 (南から)	I133号住居址カマド掘方 (南から)
I18号住居址カマド (南から)	H33号住居址掘方全築 (南から)
H8号住居址カマド掘方 (南西から)	H34号住居址全築 (西から)
H8号住居址掘方全築 (南から)	H34号住居址カマド (南から)
H10号住居址全築 (西から)	H34号住居址カマド掘方 (南から)
図版十二	I134号住居址掘方全築 (西から)
I110号住居址カマド掘方 (西から)	図版二十一
H10号住居址掘方全築 (南西から)	H35号住居址全築 (南から)
H11号住居址全築 (東から)	H35号住居址カマド (南から)
H11号住居址掘方全築 (東から)	H35号住居址カマド (南東から)
H12号住居址全築 (南から)	I135号住居址掘方全築 (南から)
I112号住居址掘方全築 (南から)	I136号住居址全築 (南から)
I113号住居址全築 (西から)	I136号住居址カマド (西から)
I113号住居址カマド (南から)	I136号住居址カマド掘方 (南西から)
図版十三	I136号住居址掘方全築 (西から)
H13号住居址カマド掘方 (南から)	図版二十二
H13号住居址掘方全築 (南西から)	H37号住居址北側調査部分全築 (西から)
H14号住居址北側調査部分掘方全築 (東から)	H37号住居址南側調査部分全築 (東から)
H14号住居址南側調査部分全築 (西から)	H37号住居址カマド西側遺物出土状況
I114号住居址掘方全築 (西から)	I137号住居址カマド輸送物出土状況
I115号住居址掘方全築 (西から)	I137号住居址遺物出土状況
I115号住居址カマド (南から)	I137号住居址カマド (南から)
I115号住居址カマド行材状況 (南から)	I137号住居址北側調査部分掘方全築 (西から)
図版十四	H37号住居址南側調査部分掘方全築 (東から)
H15号住居址カマド掘方 (南から)	図版二十三
H15号住居址掘方全築 (西から)	H38号住居址全築 (北東から)
H16号住居址全築 (南西から)	H38号住居址遺物出土状況 (1)
H16号住居址掘方全築 (北西から)	I138号住居址遺物出土状況 (2)
H19号住居址全築 (北西から)	H38号住居址遺物出土状況 (3)
H19号住居址カマド (北西から)	H38号住居址遺物出土状況 (4)
H19号住居址カマド (西から)	H38号住居址跡
H19号住居址カマド掘方 (南西から)	H38号住居址遺物除去後全築 (北東から)
図版十五	I138号住居址掘方全築 (南西から)
H19号住居址掘方全築 (南から)	図版二十四
H20号住居址全築 (北西から)	H40号住居址全築 (西から)
H21号住居址全築 (西から)	H40号住居址カマド (南から)
H21号住居址カマド (南から)	H40号住居址カマド掘方 (南から)
H21号住居址カマド掘方 (南東から)	H40号住居址掘方全築 (西から)
I121号住居址掘方全築 (西から)	I141号住居址全築 (南から)
H22号住居址北側調査部分全築 (南から)	I141号住居址カマド (南から)
H22号住居址カマド掘方 (東から)	I141号住居址カマド掘方 (南から)
図版十六	I141号住居址掘方全築 (南から)
I122号住居址北側調査部分掘方全築 (南から)	図版二十五
H22号住居址南側調査部分掘方全築 (北から)	H42号住居址全築 (南から)
H23号住居址全築 (東から)	H42号住居址遺物出土状況 (1)
H23号住居址掘方全築 (東から)	H42号住居址遺物出土状況 (2)
H24号住居址全築 (西から)	H42号住居址カマド (南から)
H24号住居址掘方全築 (西から)	I142号住居址カマド掘方 (南から)
H25・26号住居址全築 (東から)	H42号住居址掘方全築 (南から)
H25・26号住居址掘方全築 (西から)	H43号住居址全築 (南から)
図版十七	H43号住居址カマド (南から)
I127号住居址全築 (東から)	図版二十六
I127号住居址カマド (南西から)	H43号住居址カマド掘方 (南から)

H43号住居址敷方全量 (南から)
H44号住居址全量 (南から)
H44号住居址敷方全量 (南から)
H45号住居址全量 (南から)
H45号住居址敷方全量 (南から)
H46号住居址全量 (南から)
H46号住居址敷方全量 (南から)

図版二十七

H46号住居址遺物出土状況
H46号住居址敷方全量 (南から)
H47号住居址全量 (東から)
H47号住居址敷方全量 (東から)
H48号住居址全量 (南東から)
H48号住居址敷方全量 (南東から)
H49号住居址全量 (南から)
H49号住居址敷方全量 (南から)

図版二十八

H50号住居址敷方マド (南から)
H50号住居址敷方マド天井石除去後 (南から)
H50号住居址敷方全量 (南から)
H51号住居址全量 (北東から)
H51号住居址敷方全量 (北東から)
H52号住居址全量 (東から)
H52号住居址敷方全量 (東から)
H53号住居址全量 (南東から)

図版二十九

H53号住居址敷方全量 (東から)
H57号住居址全量 (南から)
H57号住居址敷方全量 (南から)
H59号住居址全量 (南から)
H59号住居址敷方マド (南から)
H59号住居址敷方マド敷方 (南から)
H59号住居址敷方全量 (南から)
H60号住居址全量 (南から)

図版三十

H60号住居址敷方全量 (南から)
H61号住居址全量 (南から)
H61号住居址敷方全量 (南から)
H61号住居址敷方マド敷方 (南から)
H61号住居址敷方全量 (南から)
H62号住居址全量 (南から)
H62号住居址敷方マド (南から)

図版三十一

H62号住居址敷方全量 (南から)
H63号住居址全量 (南から)
H63号住居址敷方全量 (南から)
H63号住居址敷物出土状況 (1)
H63号住居址敷物出土状況 (2)
H63号住居址敷方マド (南から)
H63号住居址敷方マド敷方 (南から)
H63号住居址敷方全量 (南から)
H64号住居址全量 (北西から)

図版三十二

H64号住居址敷物除去後 (南から)
H64号住居址敷方マド西側遺物出土状況
H64号住居址敷方マド (北西から)
H65号住居址敷方マド遺物除去後 (南西から)
H65号住居址敷方マド (南西から)
H65号住居址敷方全量 (南西から)
H65号住居址敷方西側調査部分全量 (西から)
H65号住居址敷方東側調査部分全量 (南東から)

図版三十三

H65号住居址西側調査部分敷方全量 (西から)
H65号住居址東側調査部分敷方全量 (南東から)
H66号住居址西側調査部分全量 (南西から)
H66号住居址東側調査部分全量 (北から)
H66号住居址東側調査部分敷物出土状況
H66号住居址敷方マド (南から)
H66号住居址敷方マド敷方 (南から)
H66号住居址西側調査部分敷方全量 (南から)

図版三十四

H66号住居址東側調査部分敷方全量 (北東から)
H67号住居址敷物出土状況
H67号住居址敷方マド (南東から)
H67号住居址敷方マド敷方 (南から)
H67号住居址敷方全量 (南から)
H68号住居址全量 (南から)
H68号住居址敷方マド (南から)
H68号住居址敷方マド敷方 (南から)

図版三十五

H68号住居址敷方全量 (南から)
H70号住居址全量 (南から)
H70号住居址敷方全量 (南から)
H71号住居址全量 (南から)
H71号住居址敷方マド (南から)
H71号住居址敷方マド敷方 (南から)
H71号住居址敷方全量 (南から)
H72号住居址東側調査部分全量 (東から)

図版三十六

H72号住居址西側調査部分全量 (西から)
H72号住居址敷方マド (西から)
H72号住居址敷方マド敷方 (南から)
H72号住居址東側調査部分敷方全量 (東から)
H72号住居址西側調査部分敷方全量 (南西から)
H74号住居址西側調査部分全量 (南西から)
H74号住居址東側調査部分全量 (南から)
H74号住居址敷方マド敷方 (南から)

図版三十七

H74号住居址東側調査部分敷方全量 (南から)
H74号住居址西側調査部分敷方全量 (北から)
H75号住居址全量 (南東から)
H75号住居址敷物出土状況
H75号住居址敷方全量 (南東から)
H77号住居址西側調査部分全量 (南から)
H77号住居址東側調査部分全量 (南から)
H77号住居址敷方マド東側遺物出土状況

図版三十八

H77号住居址敷方マド (南から)
H77号住居址敷方マド敷方 (南から)
H77号住居址敷方全量 (南から)
H78号住居址全量 (東から)
H78号住居址敷方マド (南から)
H78号住居址敷方全量 (東から)
H79号住居址全量 (東から)
H79号住居址敷物出土状況

図版三十九

H79号住居址敷方マド (南西から)
H79号住居址敷方全量 (南から)
H80号住居址全量 (南西から)
H80号住居址敷方マド (南から)
H80号住居址敷方マド敷方 (南から)
H80号住居址敷方全量 (南西から)
H82号住居址東側調査部分全量 (南西から)
H82号住居址西側調査部分全量 (南から)

図版四十

H82号住居址東側調査部分敷方全量 (南から)
H82号住居址西側調査部分敷方全量 (南から)
H84号住居址全量 (南東から)
H84号住居址敷方マド (東から)
H84号住居址敷方マド敷方 (南から)
H84号住居址敷方全量 (南西から)
H84号住居址敷方マド敷方 (南から)
H84号住居址敷方全量 (南東から)
H85号住居址全量 (南から)

図版四十一

H85号住居址刀子出土状況
H85号住居址敷物出土状況
H85号住居址敷物出土状況
H85号住居址敷方マド (南から)
H85号住居址敷方マド敷方 (南から)
H85号住居址敷方全量 (南から)
H86号住居址全量 (南から)
H86号住居址敷方全量 (北東から)

図版四十二

H87号住居址全量 (南西から)
H87号住居址敷方全量 (南から)
H88号住居址全量 (西から)
H88号住居址敷方マド (西から)
H88号住居址敷方マド敷方 (南から)
H88号住居址敷方マド敷方 (西から)
H88号住居址敷方全量 (西から)
H89号住居址全量 (南から)

図版四十三

H93号住居址敷方マド (南から)
H93号住居址敷方マド敷方 (南から)
H94号住居址全量 (南東から)
H94号住居址敷方マド (南西から)
H94号住居址敷方マド敷方 (南から)
H94号住居址敷方マド敷方 (南から)
H94号住居址敷方全量 (南から)
H97号住居址南-東側調査部分全量 (東から)

図版四十四

- H97号住居址北側調査部分全景 (南から)
- H97号住居址カマド (南から)
- H97号住居址カマド裏方 (南から)
- H97号住居址南・東側調査部分全景 (東から)
- H97号住居址北側調査部分全景 (南から)
- H98号住居址全景 (南から)
- I198号住居址カマド (南から)
- I198号住居址カマド裏方 (南から)

図版四十五

- H98号住居址裏方全景 (南から)
- I199号住居址全景 (南から)
- I199号住居址裏方全景 (南から)
- I1103号住居址全景 (南東から)
- I1103号住居址カマド (南から)
- H103号住居址カマド裏方 (南から)
- H103号住居址裏方全景 (南東から)
- H104号住居址全景 (南から)

図版四十六

- I1104号住居址カマド裏側 (南から)
- H105号住居址全景 (南から)
- H105号住居址カマド (北から)
- H105号住居址裏方全景 (北から)
- F1号竪立柱建物址全景 (西から)
- F2号竪立柱建物址全景 (西から)
- F3号竪立柱建物址全景 (西から)
- F5号竪立柱建物址全景 (北西から)

図版四十七

- F6号竪立柱建物址全景 (北から)
- F7号竪立柱建物址全景 (南東から)
- F8号竪立柱建物址全景 (南東から)
- F9号竪立柱建物址全景 (東から)
- F10号竪立柱建物址全景 (西から)
- F11号竪立柱建物址全景 (南から)
- F14号竪立柱建物址全景 (南から)
- F15号竪立柱建物址全景 (南から)

図版四十八

- F16号竪立柱建物址全景 (南から)
- F17号竪立柱建物址全景 (南から)
- F18号竪立柱建物址全景 (北東から)
- F19号竪立柱建物址全景 (北西から)
- F20号竪立柱建物址全景 (東から)
- F21号竪立柱建物址全景 (南から)
- F22号竪立柱建物址全景 (南から)
- F25号竪立柱建物址全景 (東から)

図版四十九

- F26号竪立柱建物址全景 (南から)
- F27号竪立柱建物址全景 (南から)
- F29号竪立柱建物址全景 (南から)
- D1号土坑全景 (南東から)
- D2号土坑全景 (西から)
- D3号土坑全景 (北から)
- D4・5号土坑全景 (南東から)
- D6号土坑全景 (北東から)

図版五十

- D7号土坑全景 (南から)
- D8号土坑全景 (東から)
- D9号土坑全景 (北東から)
- D10号土坑全景 (北東から)
- D12号土坑全景 (南東から)
- D13号土坑全景 (東から)
- D15号土坑全景 (南東から)
- D13号土坑遺物出土状況

図版五一

- D17号土坑全景 (北東から)
- D18号土坑全景 (南東から)
- D19号土坑全景 (西から)
- D20号土坑全景 (北西から)
- D21号土坑全景 (南から)
- D22号土坑全景 (北西から)
- D29号土坑全景 (南から)
- D30号土坑全景 (南から)

図版五十二

- D33号土坑全景 (南から)

- B区東側M1号溝状遺構全景 (東から)
- F区M1号溝状遺構全景 (東から)
- B区西側M1号溝状遺構全景 (東から)
- B区M2号溝状遺構全景 (北から)
- C区M3号溝状遺構全景 (北から)

図版五十三

- C・D区M3・10号溝状遺構全景 (南から)
- D区M3・5・10号溝状遺構全景 (北から)
- E区M4号溝状遺構全景 (北から)
- F区M4号溝状遺構全景 (北から)
- C区M5号溝状遺構全景 (北から)

図版五十四

- D区M5号溝状遺構全景 (南から)
- D区M6号溝状遺構全景 (南東から)
- C区M6号溝状遺構全景 (南から)
- C区M6号・7号溝状遺構全景 (南から)
- I区M9号溝状遺構全景 (西から)

図版五十五

- K区M14号溝状遺構全景 (西から)
- L区M11・15号溝状遺構全景 (北から)
- H28-19角釘H33-7/17・H33-8線H47-8線H48-3刀子

図版五十六

- H50-18角釘H52-1角釘H53-3/17・H65-7線H74-6刀子
- H85-17/17・H85-18線H85-19鉛筆F4-1刀子

図版五十七

- H4・5・6・8・10・13号住居址遺物

図版五十八

- H114-15・16・19・21号住居址遺物

図版五十九

- H23-24・25・27号住居址遺物

図版六十

- H28号住居址遺物

図版六十一

- H29-30号住居址遺物

図版六十二

- H30-31・32・33号住居址遺物

図版六十三

- H34-35-36号住居址遺物

図版六十四

- H37号住居址遺物

図版六十五

- H38号住居址遺物

図版六十六

- H40-41・42号住居址遺物

図版六十七

- H42-43・44-45号住居址遺物

図版六十八

- H45-46・47・48-49号住居址遺物

図版六十九

- H60-31・52-53号住居址遺物

図版七十

- H59-80-61号住居址遺物

図版七十一

- H63-64号住居址遺物

図版七十二

- H64-65-66号住居址遺物

図版七十三

- H66-67号住居址遺物

図版七十四

- H67-68-72号住居址遺物

図版七十五

- H72-74-75-77-78号住居址遺物

図版七十六

- H79-80-82号住居址遺物

図版七十七

- H82-84-85号住居址遺物

図版七十八

- H85-87-88-93-94号住居址遺物

図版七十九

- H94-97-98-99-103号住居址遺物

図版八十

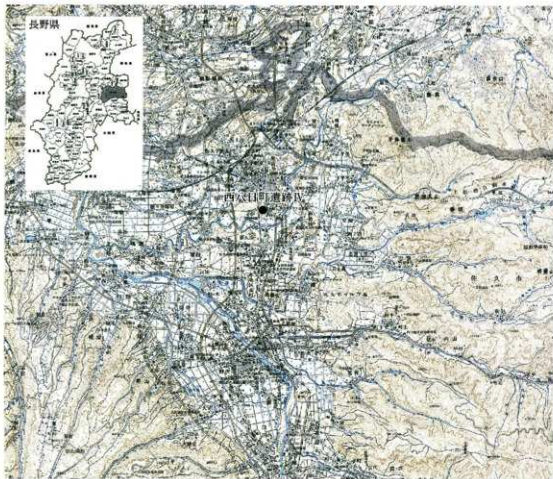
- H103-104-105号住居址、F2-20-27号竪立柱建物址
- M1-6-14号溝状遺構、D6・15-22号土坑、P48号ピット遺物

第I章 発掘調査の経緯

第1節 立地と経過

岩村田遺跡群は佐久市岩村田に所在し、佐久地域特有の浅間の麓から放射状にのびる浸食谷である田切りに挟まれたおおよそ南北方向の台地上に広く展開する。今回の調査対象となった西八日町遺跡は、田切りに挟まれた台地の南端に近く、北方に聳える浅間山の麓に源を発す湯川の右岸第2段丘上に位置する。標高は701m内外を測り、湯川との比高差は約22mである。周辺地域の地盤は浅間山の降下火山灰と砂礫層で水はけが良く、安定しており、古くから生活の場として広く利用されている。また、本遺跡が含まれる岩村田遺跡群周辺は縄文時代に始まり、弥生・古墳・奈良・平安時代の原始・古代から、現在に残る岩村田の町並みの基礎ともなった中世城郭である大井城（北から石並城・王城・黒岩城）、近世末に築城された藤ヶ城跡まで幅広い時期の遺跡が存在する複合遺跡で発掘調査も数多く行われている。

今回、佐久市建設部都市計画課による区画整理事業が行われることとなり、事前に文化財保護協議を行った結果、佐久市教育委員会が主体となり、遺跡の記録保存を目的とした発掘調査を実施する運びとなった。



第1図 岩村田遺跡群 西八日町遺跡IV位置図 (1:100,000)

第2節 調査体制

平成19年度

調査受託者 佐久市教育委員会 教育長 木内清
事務局 社会教育部長 柳沢義春
社会教育部次長 山崎明敏
文化財課長 中山 悟 (4月～6月)
森角吉晴 (7月～)
文化財調査係長 三石 宗一
文化財調査係 並木節子 (10月～) 林幸彦 須藤隆司 小林眞寿
羽毛田卓也 富沢一明 神津格 上原学 出澤力
調査主任 佐々木宗昭 森泉かよ子
調査担当者 上原学

平成20年度

調査受託者 佐久市教育委員会 教育長 木内清
事務局 社会教育部長 内藤孝徳
社会教育部次長 柳澤本樹
文化財課長 森角吉晴
文化財調査係長 三石宗一
文化財調査係 並木節子 林幸彦 須藤隆司 小林眞寿 羽毛田卓也
富沢一明 神津格 上原学 出澤力
調査主任 佐々木宗昭 森泉かよ子
調査担当者 上原学

平成21年度

調査受託者 佐久市教育委員会 教育長 木内清 (4月～5月)
土屋盛夫 (5月～)
事務局 社会教育部長 内藤孝徳 (4月～6月)
工藤秀康 (7月～)
社会教育部次長 金澤英人 (4月～6月)
文化財課長 森角 吉晴
文化財調査係長 三石 宗一
文化財調査係 並木節子 林幸彦 須藤隆司 小林眞寿 羽毛田卓也 富沢一明
神津格 (4月～9月) 上原学 井出泰章 (10月～) 出澤力
調査主任 佐々木宗昭 森泉かよ子
調査担当者 上原学

調査員 (平成19～21年度)

浅沼勝男 浅沼ノブ江 阿部和人 安藤孝司 岩崎重子 江原富子 小幡弘子
柏木義雄 堺益子 里見理生 田中ひさ子 土屋武士 中嶋フクジ 萩原宮子
比田井久美子 広瀬梨恵子 細萱ミスズ 武者幸彦 柳沢武 横尾敏雄
依田美穂 依田三男 渡邊久美子 渡辺長子 渡辺学

第3節 遺構と遺物の概要

調査遺構 竪穴住居址 81軒 (弥生時代 2軒 古墳時代 47軒 奈良時代 13軒
平安時代 18軒 不明 1軒)

掘立柱建物址 26棟 (古墳時代～中世)
土坑 22基 (奈良・平安時代～中世)
溝状遺構 13条 (奈良・平安時代～中世)
単独ピット

出土遺物

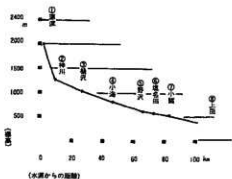
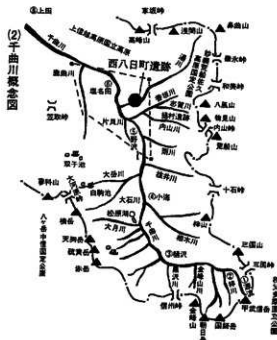
弥生土器 (甕・壺・鉢)
土師器 (杯・碗・甕・壺・高杯・羽釜)
須恵器 (杯・甕・蓋・壺・はそう)
灰釉陶器
骨類 (獣骨・人骨-古墳～中世)
土・石製品・石器 (石鏃・砥石・搗臼・擦石・敲石・台石・紡錘車)
金属製品 (刀子・釘・鉄鏃・紡錘車・不明品)
玉類 (白玉・土玉・勾玉・管玉)

第II章 遺跡の環境と周辺遺跡

第1節 自然環境

佐久地域は、周辺を山地及び台地に囲まれた盆地状を呈し、一般に佐久平と呼ばれている。北には現在も噴煙を立ち上らせる浅間山が聳え、南には蓼科火山が東西に連なる。東は関東山地が南北方向に連なり、群馬県との境をなしている。西には御牧原・八重原といった台地が広がり蓼科火山群北端の裾野に接している。佐久平水系の代表は千曲川で、源は南方の川上谷に発し、南佐久から北流し、沢筋の支流を集めつつ水量を増し佐久平に注ぎ込む。その後、やや北西に流れを変え、蓼科山麓の支流を集めた片貝川、浅間山の東麓に源を発す湯川、東の関東山地からの田子川、志賀川といった支流を集めた滑津川などと合流し、西方の御牧ヶ原台地急崖にそって長野方面へと貫流する。

このように佐久地域は周囲を山地に囲まれ、水にも恵まれた盆地が広がっており、佐久平と呼ば



第2図 千曲川概念図

報告書1985 「彌村遺跡Ⅱ、遺跡の環境」転載

し、切り立った断崖により台地をおよそ南北方向に細長く分断している。これに対し、南部地域は千曲川の氾濫源沖積地及び滑津川など支流の谷口扇状地で形成され、地表下は河床礫層と沖積粘土層地帯となっている。今回調査を実施した岩村田遺跡群西八日遺跡Ⅳは北部地域の浸食谷（田切り）に挟まれた南北方向に細長い台地南端に近い、標高701m内外を測る湯川右岸河岸段丘上に位置する。



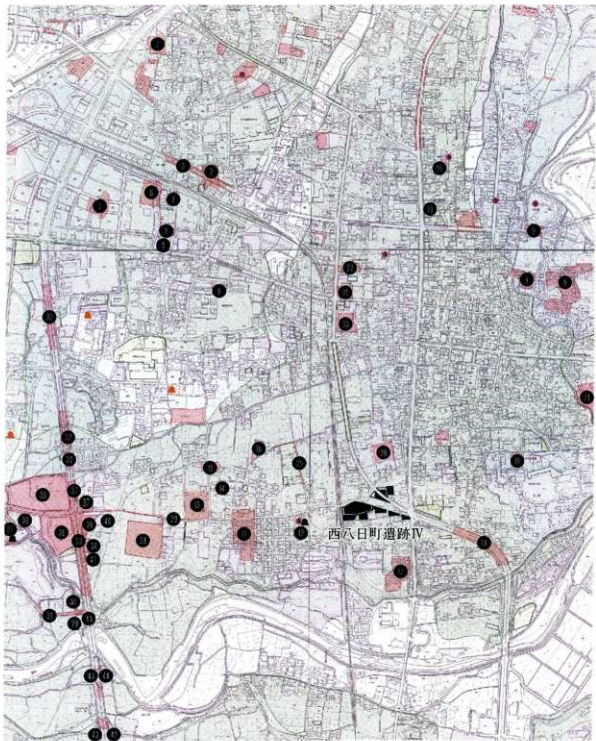
佐久平周辺航空写真（南から）

第2節 周辺遺跡

西八日町遺跡は岩村田市街地一帯に広がる岩村田遺跡群内に含まれ、遺跡の大小はあるものの縄文時代から近世末に築城された藩ヶ城跡まで幅広い時期の遺跡が混在する複合遺跡である。また周辺には多くの遺跡が所在し、遺跡の密集地域であることが発掘調査例から確認されている。

調査区周辺の状況を時代別に述べると、湯川右岸の縄文時代は、北東方向の湯川右岸に所在する上ノ城遺跡で縄文時代の落とし穴、中期の土器片、石鎌・石錐・石斧が、下信濃石遺跡で早期の押型文土器片が、湯川左岸の第2段丘上縁辺の寺畑遺跡からは草創期の爪型文土器が出土している。爪型文土器はこの時期のものとしては出土量もまとまっており良好な資料である。こうした状況から今のところ、北西方向の西近津遺跡、東方の寄山遺跡のようなまとまった規模の生活跡は確認されていない。

弥生時代前期は、湯川右岸の低位段丘上に所在する岩村田遺跡群下信濃石遺跡の斜面地に堆積した黒色土中から、まとまった資料が出土している。遺物は土器・土偶・石器で、土器は水式と考えられる。条弧文の甕、網代底の甕底部2点の放射性炭素年代測定では、 $2,400 \pm 30$ 、 $2,440 \pm 30$ という年代が得られ、さらに石器に使用された黒曜石の産地測定では長野県諏訪星ヶ台群102点、和田土屋橋西群1点という結果が出ている。その他、湯川左岸第1段丘上の寺畑遺跡群仲田遺跡では胴部から口縁にかけての壺が出土している。中期後半から後期になると遺構数は増加する。湯川右岸では西方の落合あたりから本遺跡が所在する西八日町遺跡東側の段丘端部まで遺構の存在が確認されている。代



第4図 周辺遺跡位置図 (1:10,000)

表的な遺跡として、西一本柳遺跡、北西の久保遺跡、北一本柳遺跡、東一本柳遺跡、西八日町遺跡をあげることができる。これらの遺跡一帯に中期後半から後期にかけて大規模な集落が展開していたとされ、集落を囲んだと思われる溝跡も確認されている。遺物では多量の土器に加え、西一本柳遺跡Ⅰで人面付土器の人面部、西一本柳遺跡Ⅲ・Ⅳで銅製石製品、北一本柳遺跡では土坑及び住居址内から銅剣が出土している。銅剣については岩村田及び周辺部だけで上直路遺跡、五里田遺跡、円正坊遺跡、北一本柳遺跡などから20点以上が出土しており、鉄剣を加えると数は更に増える。佐久地域に銅を装着する文化の存在が伺われる。

古墳時代前期では南西方向に位置する湯川左岸の台地上に所在する今井西原遺跡周辺で4世紀の集落跡の存在が認められる。本遺跡周辺の右岸段丘上からは、僅かな遺構及び土器が出土する程度であり、集落が存在する可能性は伺い知ることができるが、その規模は弥生時代後半に栄えたほどの勢いはないように思われる。古墳時代の半ばを過ぎた5世紀中頃から遺跡数の増加が認められる。湯川右岸については弥生時代に集落が形成された地域に重なる場所も多いが、西八日町遺跡では北に向かうほど弥生時代の遺構は減少し、古墳時代以降の遺構が主体となる。代表的な遺跡として西一本柳遺跡、北西の久保遺跡、北一本柳遺跡、東一本柳遺跡、西八日町遺跡に加え、北東方向の上ノ城遺跡、南西方向に位置する湯川対岸の寺畑遺跡群仲田遺跡にも集落の広がりが認められる。また5～7世紀末頃の古墳も点在しており、西方の東一本柳古墳では調査によって金銅製の馬具が出土している。中でも杏葉に施された彫金は見事である。現在消滅している古墳は径10mの円墳で、南に開口部を持つ横穴式石室を備えていた。さらに西方の北西の久保遺跡では、6世紀代の墳丘部を消失した円墳である17号墳周溝内から人物（武人・巫女）、動物（馬・鹿・鳥）、器材（折・盾等）埴輪が多数出土した。周辺地域では、これだけの種類の埴輪を有する古墳は今のところ発見されておらず貴重な資料である。

奈良・平安時代の遺跡分布も古墳時代後半とほぼ同じ地域に展開し、遺構数も多い。湯川対岸の左岸第1段丘上に所在する仲田遺跡からは寺院跡を思わせる奈良時代の八花鏡（花卉双蝶八花鏡）、寺の文字が墨書された須恵器環など特徴的な遺物が出土している。

中世では北方の湯川右岸第2段丘陵辺に中世大井氏の城である大井城（北から石並城・王城・黒岩城）が築城され岩村田地域一帯は城下町として栄えていた。大井城跡（黒岩城）の調査からは竪穴状遺構、土坑、掘立柱建物址、溝状遺構が発見され、遺構内から挿鉢、石臼等が多量に出土した。また、北方の龍雲寺敷地内で行われた菅田遺跡Ⅴの調査では竪穴状遺構・土坑といった遺構が発見され、遺物は陶磁器及び多量のかわらけが出土している。その他、本遺跡を含めた周辺の遺跡からも中世の遺構・遺物が発見されている。戦国期にはいと「民家六千軒、交易四達し、賑わい国府にまされり」と栄えた岩村田地域も文明16年（1484）村上氏の攻撃を受けた後、幾度となく戦乱に巻き込まれ衰退の一途をたどったとされている。

近世中期以降になると岩村田地域は城下町であるとともに中山道の宿場町としても栄えていった。江戸末期にはそれまでの陣屋が手狭となり湯川右岸の急崖を利用して藤ヶ城が築城されたが、明治維新によって完成には至らなかった。本丸周辺は現在岩村田小学校として利用されており、土塁・石垣等の一部が見られる。

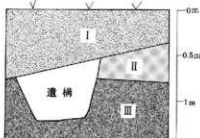
No.	遺跡名	所在地	年代	出土遺構	調査年度	報告書
1	円正坊遺跡Ⅱ	岩村田円正坊	弥生・古・平	住居址8、掘立柱建物址1、土坑1、土壇8	I28	第55号
2	円正坊遺跡Ⅲ	岩村田円正坊	古・平	住居址18、掘立柱建物址36、円形周溝遺跡8、溝状遺跡3	H11	
3	円正坊遺跡Ⅳ	岩村田円正坊	弥生・古・平	住居址52、周溝遺跡10、周溝1、溝状遺跡3	III11～13	第102号
4	円正坊遺跡Ⅴ	岩村田塚本	弥生・古・平	住居址37、掘立柱建物址4、挿鉢1、土坑20、溝状遺跡2、土坑	H14	牛乳15
5	円正坊遺跡Ⅵ	岩村田円正坊	弥生・古・平	住居址38、掘立柱建物址5、竪穴状遺跡12、1坑、溝状遺跡2、土坑	III14	年報17
6	清水田遺跡Ⅰ	岩村田清水田	弥生・古・平	住居址13、土坑	S53	
7	清水田遺跡Ⅱ	岩村田清水田	弥生	住居址9、溝状遺跡2、土坑	H10	第110号
8	藤ヶ城跡Ⅰ	岩村田藤ヶ城	弥生	住居址14、溝状遺跡2、土坑12、溝状遺跡4		
9	大井城跡（黒岩城跡・王城跡・石並城跡）	岩村田	弥生・古・中・近	住居址、竪穴状遺構、1坑、溝状遺構、井戸址、掘立柱	S59～61	大井城跡

No.	遺構名	所在地	時代	出土遺構	調査年度	報告書
10	中環遺跡	岩村田中宿	古・中	包屋址3, 竪穴遺構7, 土坑14, 土坑3, 土坑5	197	第65巻
11	東一本環遺跡	岩村田東一本跡	古→中	住居址	543	
12	東一本環古墳	岩村田東一本跡	古	古墳址1	545	第一本報告書 岩村田東一本跡古墳 遺構1
13	北一本環遺跡	岩村田北一本跡	古・古・中	住居址17	546~547	出土の文化財
14	北一本環遺跡Ⅱ	岩村田	古	住居址4, 土坑3, 溝址2	515	年報14
15	北一本環遺跡Ⅲ	岩村田	古→中	住居址3, 溝址2, 土坑	515	年報15巻
16	宮の前遺跡	岩村田宮の前	古	住居址2, 溝址2, 土坑1	518	第140巻
17	西八町遺跡	岩村田西八町	古→中	住居址146	558	
18	上の環遺跡	岩村田上の環	古・古・中	住居址8, 特殊遺構1, 土坑31, 溝穴遺構7	548	うたのびよう
19	上ノ環遺跡	岩村田上ノ環	古・古・中	おとし石, 住居址11棟	514	第111巻
20	観音堂遺跡	岩村田観音堂	古→中	住居址3, 竪穴遺構27, 土坑176, 土塚遺4, 溝穴遺構3	519	第270巻
21	下宿の遺跡	岩村田下宿石巻	古・中	寺院関連遺構1, 竪穴遺構址16, 土坑47, 溝址6, 土坑	5116	第134巻
22	内西環遺跡Ⅰ	岩村田内西環	古→中	住居址1, 竪穴遺構7, 土坑15, 竪立柱遺構址13, 土坑6棟	445	
23	観音堂遺跡	岩村田観音堂	古→中	住居址3, 竪立柱遺構址3, 溝穴遺構23, 内前溝溝3, 竪穴遺構33, 土坑203, 土坑6, 土坑	1410	第85巻
24	内西環遺跡Ⅱ	岩村田内西環	古→中	溝址, 土坑, 土坑, 溝穴遺構	532	
25	東大門遺跡	岩村田	古→中	溝穴遺構2	523	
26	宮田遺跡	岩村田宮田	古	溝穴遺構1	554	
27	宮田遺跡Ⅱ	岩村田宮田	古→中	竪穴遺構6, 土坑14, 土坑5, 溝穴遺構3	519	年報9
28	北西の久保遺跡	岩村田北西の久保	古→古・中	住居址26, 土坑1, 溝址7, 溝溝8, 本榊墓, 竪立柱遺構址3, 溝穴遺構6, 土坑7	557 ~ 559	北西の久保
29	西一本環遺跡Ⅰ	岩村田一本環	古→古	住居址5, 竪立柱遺構址3, 土坑1, 溝穴遺構1	554	第34巻
29	西一本環遺跡Ⅱ	岩村田一本環	古→中	住居址6, 竪立柱遺構址5, 土坑1, 溝穴遺構1		
29	西一本環遺跡Ⅲ	岩村田一本環	古→中	住居址6, 竪立柱遺構址5, 土坑1, 溝穴遺構1	554	第37巻
30	中西の久保遺跡Ⅰ	岩村田中西の久保	古→中	住居址13, 竪立柱遺構址1, 土坑4, 溝穴遺構2		
30	中西の久保遺跡Ⅱ	岩村田中西の久保	古→中	住居址23, 竪立柱遺構址5, 溝址2, 土坑6, 土坑	446	
30	中西の久保遺跡Ⅲ	岩村田中西の久保	古→中	住居址6, 竪立柱遺構址2, 溝址2, 土坑6, 土坑	5110	
31	西一本環遺跡Ⅳ	岩村田下種田	古→古	V→住居址8, 竪立柱遺構址10, 土坑7, 溝穴遺構13, 土坑 Ⅱ→溝穴遺構7, 土坑	V-148 VI-309 I-148 II-4110	第91巻
32	中環遺跡Ⅰ・Ⅱ	岩村田中環	不明	水堀址 しがらみ状遺構 自然成跡	I-148 II-4110	
32	西の本環遺跡Ⅰ・Ⅱ	岩村田西の本	古→古	住居址16, 竪立柱遺構址1, 土坑1, 溝穴遺構6	I-148 II-4110	
33	西一本環遺跡Ⅲ	岩村田一本環	古→中	住居址20, 竪立柱遺構址5, 土坑12, 溝址11, 土坑	517~8	第75巻
34	西一本環遺跡Ⅳ	岩村田一本環	古→古→中	住居址17, 竪穴遺構1, 竪立柱遺構址5, 土坑8, 溝穴遺構6, 土坑	510	年報8
35	西一本環遺跡Ⅴ	岩村田一本環	古→中	住居址21, 竪立柱遺構址5, 土坑12, 溝址8, 溝溝4, 土坑	514	第123巻
36	西一本環遺跡Ⅵ	岩村田一本環	古→中	住居址106, 竪立柱遺構址4, 土坑19, 溝址14, 土坑	5115	年報14
37	西一本環遺跡Ⅶ	岩村田1797-1号	古	住居址2, 溝址6	5115	年報15
38	西一本環遺跡Ⅷ	岩村田下種田	古→古→中	住居址6, 竪立柱遺構址3, 竪穴遺構6, 土坑38, 溝穴遺構4, 土坑	543	第125巻
39	西一本環遺跡Ⅸ	岩村田下種田	古→中	住居址35, 竪立柱遺構址5, 土坑1, 溝址1, 土坑	5117	第129巻
40	西一本環遺跡Ⅹ	岩村田下種田	古→中	住居址18, 竪立柱遺構址3, 土坑3, 溝址5	5119	第154巻
41	西一本環遺跡Ⅺ	岩村田	古→古→中	住居址18, 土坑6, 竪立柱遺構址6, 溝址3, 土坑	5120	第160巻
42	寺廟遺跡Ⅰ	鶴久保下宿	古	住居址7, 溝穴遺構1, 溝穴遺構1	516	第50巻
43	中西/久保遺跡Ⅱ	岩村田中西/久保	古→中	住居址30, 竪立柱遺構址10, 土坑7, 溝址5, 土坑		
43	神社遺跡	鶴久保下宿	古→中	住居址30, 竪立柱遺構址11, 土坑6, 土坑	517	第65巻
43	寺廟遺跡Ⅱ	鶴久保下宿	古	住居址1, 竪穴遺構2, 土坑3, 溝址3, 土坑		
44	神社遺跡Ⅱ	鶴久保下宿	古	住居址2, 竪立柱遺構址1, 土坑1, 土坑	518	第141巻

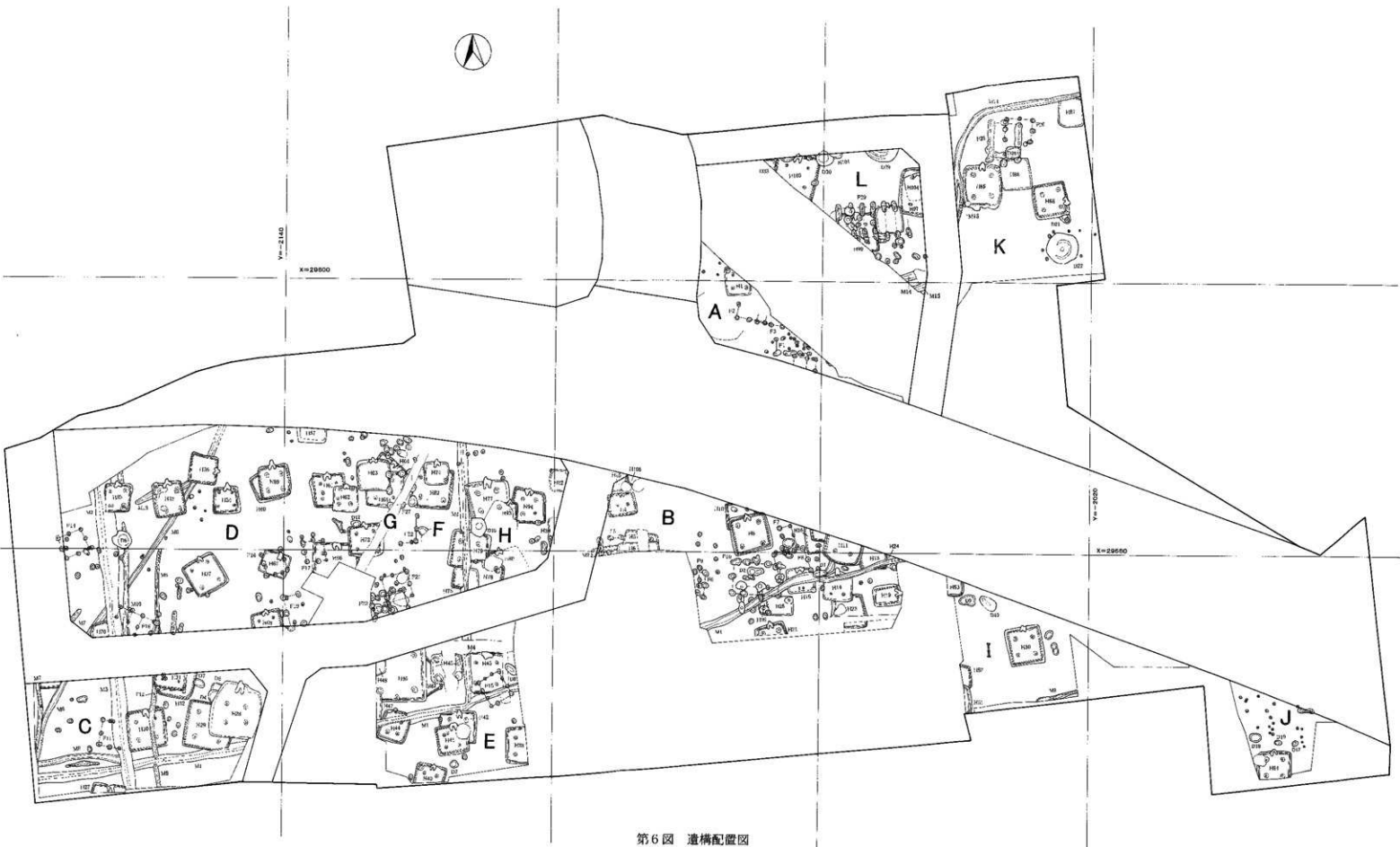
第1表 周辺遺跡表

第3節 基本層序

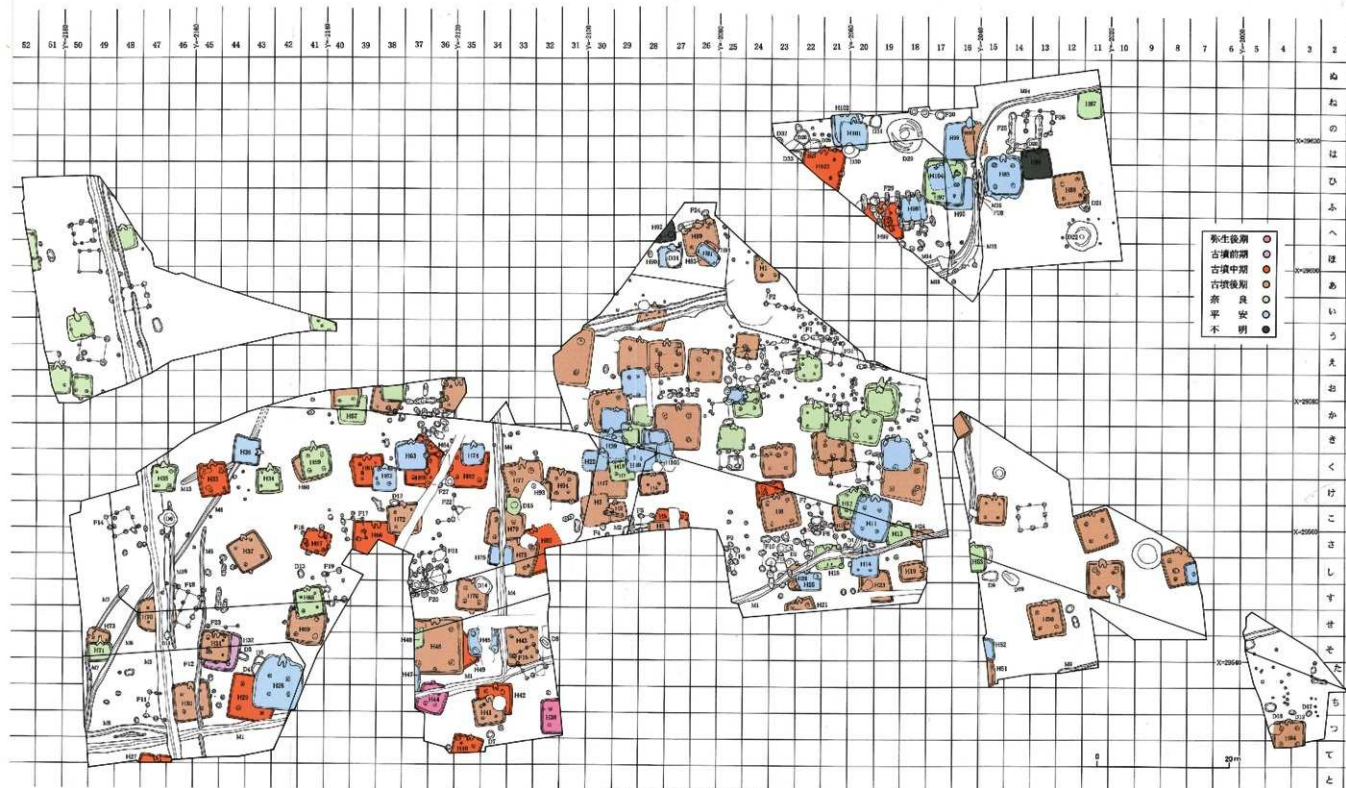
I層は耕作土または埋土で層厚は40~60cmを測る。II層は浅間山の噴出等によって堆積したローム層で存在しない地域も認められ層厚は0~30cmを測る。III層は湯川層の砂層で何層にも厚く堆積している。こうした状況から歴史的な生活状況を考えると、調査区一帯は水はけも良く安定した住みやすい土地であったと考えられる。遺構確認は基本的にII層上面であるが、地域によってはロームの堆積が薄く耕作土直下がIII層の湯川層になる地域もあり、こうした地域での遺構確認は砂層のIII層上面で行った。



第5図 基本層序模式図



第6図 遺構配置図



第7図 遺跡周辺遺構配置図

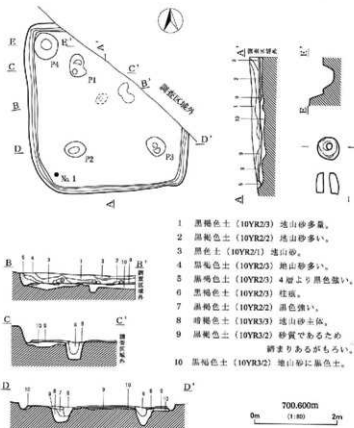
第三章 遺構と遺物

第1節 竪穴住居址

H1号住居址

遺構は24-アグリッドに位置し、北東コーナー部は道路に破壊されている。平面形態は調査状況から方形と思われる。規模は東西3.8m、南北4.0m、確認面から床面までの深さは最深で20cmを測り、覆土はすり鉢状の自然堆積である。床面はやや硬質で壁際に幅15cm内外の溝が巡る。ピットは床面上で深さ40cm程度の主柱穴が3個、北西隅に径60cm、深さ30cmの土坑が認められ、床面中央付近に粘土が堆積していた。カマドは確認できなかった。掘方は地山の砂に黒色土の混入した黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕・白玉が出土した。いずれも小破片である。遺物の特徴から古墳時代後期とした。



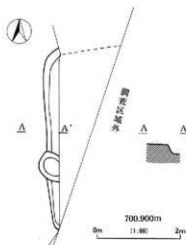
第8図 H1号住居址遺構・遺物実測図

番号	種類	径	孔径	厚さcm	重量g	備考
1	白土	0.65	0.21	0.71	0.38	片欠

第2表 H1号住居址遺物観察表

H3号住居址

遺構は31-コグリッドに位置する。東側の大半は区画道路分となる。全体の形状はやや丸丸の方形で、調査規模は南北4.4m、東西50cm、確認面から床面までの深さは30cmを測る。遺物は土師器が僅かに出土した。西側の調査で土師器の坏・甕・砥石が出土しており、土師器模倣坏から6世紀、古墳時代後期とした。

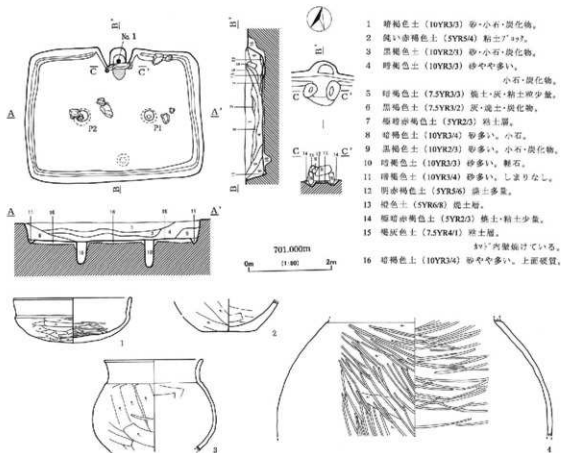


第9図 H3号住居址実測図

H4号住居址

遺構は28-けグリッドに位置する。平面形態は東西方向に長いやや隅丸の長方形である。規模は東西4.1m、南北3.1m、確認面から床面までの深さは最大で40cmを測る。覆土はすり鉢状の自然堆積である。床面は全体的に硬質で壁際に幅15cm内外の溝が走り、ピットは深さ56cm、75cmの主柱穴が2個認められた。カマドは北壁中央に構築され、火床及び両袖、焚き口部の袖石、天井石が残存していた。火床には厚さ6cm程度の厚みで焼土が堆積し、両袖は粘土を多用して構築されていた。煙道の立ち上がりは火床から約60°と、やや急な傾斜で検出面に至る。掘方は全体に5cm程度と薄く、貼り床状に暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕、石製品が出土した。混入遺物として平安時代の墨書された土師器坏片が出土している。土師器模倣坏の存在から6世紀、古墳時代後期としたい。



第10図 H4号住居址遺構・遺物実測図

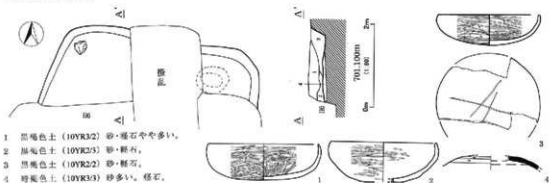
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文庫	残存率・部位	色調等
1	土師器	坏	14.5	丸底	5.5	口縁破ナデ 底部～底面外面ヘラケズリ 内面ミガキ	30	内外表7.5YR4/3褐色
2	土師器	甕	-	6.5	(4.0)	外面～底面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	底部～胴部	外面10YR2/4褐色黄褐色
3	土師器	甕	12.1	-	(11.2)	口縁破ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	40	内外表7.5YR7/4褐色
4	土師器	甕	-	-	-	外面ヘラケズリ破ミガキ 内面ヘラナデ破ミガキ	胴部破片	内外表5YR5/6褐色

第3表 H4号住居址遺物観察表

H5号住居址

遺構は27-コグリッドに位置する。南側をH6に切られ、中央付近は南北方向に大きく攪乱によって破壊されている。平面形態は残存状況から隅丸の方形又は長方形と考えられる。規模は東西4.7m、南北は残存規模の最大で1.9m、確認面から床面までの深さは33cmを測る。床面は僅かに硬質な面が認められるが、厚みが薄いことから部分的に掘方に埋め込まれた砂質の埋土が顔をのぞかせる。カマド、ピット、壁際の溝は確認できなかった。掘方時に北東隅から径80cm程度の土坑状の窪みが認められた。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕が出土した。土師器模倣坏の存在から5世紀後半、古墳時代中期としたい。



- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 砂・礫石やや多い。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・礫石。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) 砂・礫石。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 砂多い。径70。

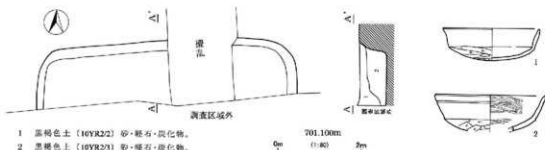
第11図 H5号住居址遺構・遺物実測図

番号	種類	形状	口径cm	底径cm	高さcm	面・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	坏	[13.6]	丸底	4.4	内外面ニガキ	50	内外面5YR5/4近い赤褐色
2	土師器	坏	[13]	丸底	4.9	外面ヘラケズリ埋ミガキ 内面ヘラケズリ・ニガキ	40	内外面5YR5/4近い赤褐色
3	土師器	坏	12.0	丸底	3.7	内外面ニガキ	25	外面2.5YR4/4近い赤褐色
4	須恵器	甕	-	-	(1.8)	口コナチ 天井部凹面ヘラケズリ	天井部破片	内外面10YR5/1褐色

第4表 H5号住居址遺物観察表

H6号住居址

遺構は28-コグリッドに位置し、南側の大半は調査区域外となり、中央付近は南北方向の攪乱によって破壊されている。平面形態は残存状況から隅丸の方形又は長方形と考えられる。規模は東西6.0m、南北は調査規模で1.4m、検出面から床面までの深さは65cmを測る。床面と地山の境に僅かに硬質な面が認められるが、目立った貼り床、掘方は確認できなかった。ピット、カマドも認められなかった。遺物は土師器の坏・甕が僅かに出土した。土師器模倣坏の特徴及び古墳時代のH5を切ることから6世紀末～7世紀、古墳時代後期としたい。



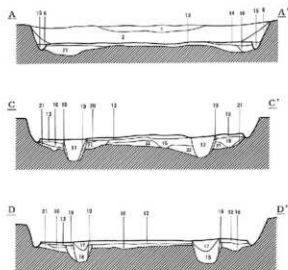
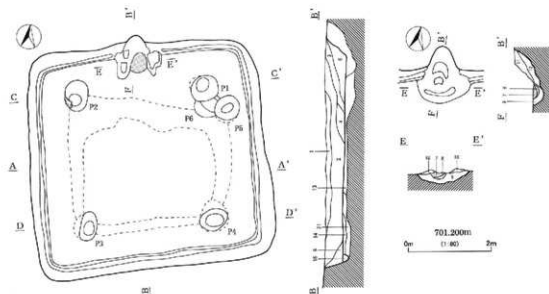
- 1 赤褐色土 (10YR2/2) 砂・礫石・炭化物。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・礫石・炭化物。

第12図 H6号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	埴	11.5	丸底	3.9	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	100	内径表7.5YR7.6褐色
2	土師器	埴	13.6	丸底	4.4	口縁外縁横ナデ 縁部～底面ヘラケズリ 内面ミガキ	40	内径表5YR5/4鈍い赤褐色

第5表 H6号住居址遺物観察表

H8号住居址

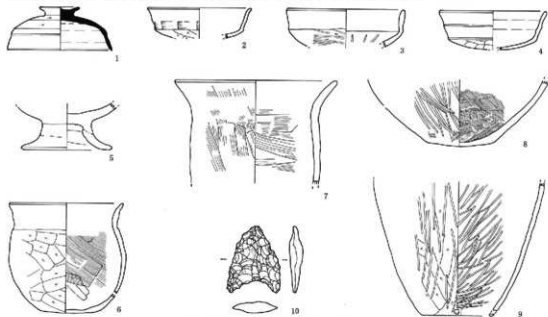


- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・礫石。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・軽石・炭化物。
- 3 灰褐色土 (7.5YR4/2) 灰・粘土多い。
- 4 暗褐色土 (7.5YR2/3) 灰・粘土少量。
- 5 黒褐色土 (5YR2/2) 灰・粘土・炭土粒。
- 6 黒褐色土 (10YR2/2) 砂・軽石。
- 7 褐色土 (5YR6/8) 炭土層。
- 8 暗赤褐色土 (5YR3/4) 炭土多い。
- 9 暗褐色土 (5YR2/3) 炭土・炭化物。
- 10 褐灰色土 (7.5YR4/1) 粘土層。一部炭土化。
- 11 炭褐色土 (5YR4/2) 粘土・炭土多量。
- 12 暗赤褐色土 (5YR2/4) 砂・粘土・炭土多い。
- 13 黒褐色土 (10YR2/3) 砂やや多く硬質。(床)
- 14 暗褐色土 (10YR3/4) 硬質。(床)
- 15 黒褐色土 (10YR2/3) 砂多くしまりなし。
- 16 黒褐色土 (10YR3/2) 砂主体。しまりなし。
- 17 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・小石。
- 18 暗褐色土 (10YR3/3) 砂主体。褐色土。
- 19 灰褐色土 (10YR4/4) 砂主体。暗褐色土。
- 20 褐色土 (10YR4/6) 硬質?砂。
- 21 黒褐色土 (10YR2/3) 砂多い。しまりややあり。
- 22 鈍い灰褐色土 (10YR4/3) 砂多量。暗褐色土。

第13図 H8号住居址実測図

遺構は23-こグリッドに位置し、H10を切る。平面形態はやや隅丸の方形である。規模は東西5.4m、南北5.2m、確認面から床面までの深さは最大で45cmを測る。覆土はすり鉢状に堆積した自然堆積と思われる。床面は全体に硬質面を持ち壁際に幅10~15cmの溝が巡る。ピットは6個確認できP1~4が主柱穴でP5・6はP1の建て替え穴もしくは抜き取り穴と思われる。カマドは北壁中央に構築され火床及び両袖の一部、煙道の立ち上がり部が残存していた。火床は径45cm、厚さ10cmの焼土が堆積し、袖及び煙道立ち上がり部に粘土が使用されていた。火床から煙道の立ち上がりは約53°の傾斜で検出面に至る。住居址の掘方は中央が高く貼り床のみ存在し、周囲はやや低く、貼り床直下に地山の砂を含む黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・高坏・甕・甔、須恵器の蓋・甕、混入遺物として石楯が出土した。須恵器の蓋の形状及び口辺有段の模倣坏から古墳時代後期、6世紀末~7世紀としたい。



第14図 H8号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	須恵器	甕	12.9	—	5.3	つまみ取り付け 内外面ロクロナデ 天身面ヘラケズリ	35	内外面N4/O灰色
2	土師器	高坏ナ	[12.8]	丸底	(3.7)	口縁横ナデ両ハケナデ 胴部ヘラケズリ 内面ヘラナデ等5箇上目一ヶナ	口縁~底縁部分	内外面5YR6/4緑い暗褐色
3	土師器	坏	[14.6]	丸底	(4.6)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ナデ・放射状ミガキ	口縁~底縁部分	内外面5YR6/4緑い暗褐色
4	土師器	坏	[13.2]	丸底	(5.8)	有段口縁 口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁~底縁部分	内外面10YR5/2灰黄色白粉
5	土師器	高坏	—	[11.6]	(5.9)	内外面ヘラナデ	胴部~口縁部分	外面5YR5/3緑い暗褐色
6	土師器	甕	14	7.2	13.5	口縁横ナデ 外面・底縁ヘラケズリ 内面胴部の残るヘラナデ	80	内外面7.5YR4/1黄灰色
7	土師器	甕	[19.8]	—	(12.7)	口縁横ナデ・ハケナ 内外面発色の残るヘラナデ	口縁~胴部部分	内外面7.5YR5/4緑い黄褐色
8	土師器	甕	—	8.2	(6.1)	外面ヘラケズリ底ナデ 底縁ヘラケズリ 内面胴部の残るヘラナデ	底縁~胴部下半	外側7.5YR5/3緑い黄褐色包
9	土師器	甕	—	[8.0]	(6.5)	底縁横筋有段 外面ヘラケズリ底ミガキ 内面ヘラナデ接ミゴキ	底縁~胴部部分	外面7.5YR6/4緑い暗褐色

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
10	石楯	2.05	1.6	6.4	0.93	黒曜石

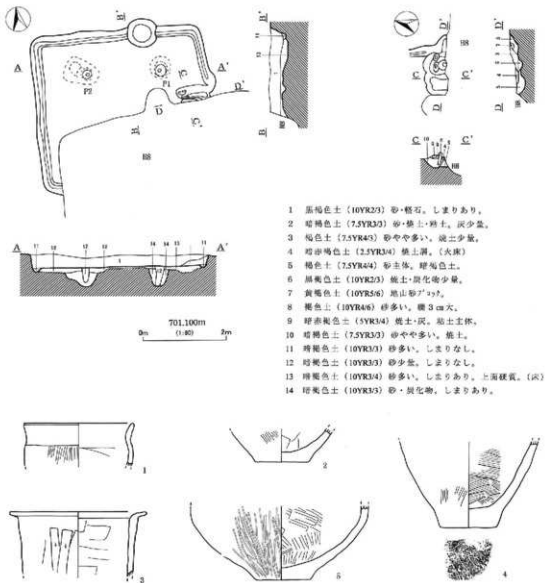
第6表 H8号住居址遺物観察表

H10号住居址

遺構は24-けグリッドに位置し、H8に切られる。平面形態は残存状況から方形と思われる。規模は東西4.1m、南北3.7m、検出面から床面までの深さは30cmを測る。覆土は単層の黒褐色土で、人

為的、自然堆積かの判断はできなかつた。床面は全体に硬質面を持ち、壁際に幅15cm内外の溝が巡る。ピットは床面上で主柱穴の柱痕が2個、壁際に1個が認められた。カマドは東壁中央付近に構築されているが火床のほぼ中央から南側はH8に破壊されている。北側の袖及び焚き口部の石材、火床が半分残存していた。火床には6cm厚の焼土が堆積し、煙道の立ち上がりは火床から約30°の角度で検出面に至る。住居の掘方は中央が薄く、周辺部がやや深い状態で硬くしまった暗褐色土が埋め込まれていた。主柱穴は径50cm内外、深さは60cmの掘方となった。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の甕が出土した。破片が大半を占める。土師器甕の特徴から5世紀、古墳時代中期とした。



第15図 H10号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	甕	13.5	-	15.2	口縁部ナデ 赤土の残るヘラナデ 内面ヘラナデ	口縁破片	内外面5YR5/3深い赤褐色土
2	土師器	甕	-	16.6	14.2	外底-底面ヘラナデ 内面ヘラナデ	底面破片	内外面2.5YR5/3深い赤褐色土
3	土師器	甕	16.8	-	18.0	口縁部ナデ 外底ヘラナデ	口縁破片	内外面2.5YR5/3深い赤褐色土
4	土師器	甕	-	7	10.5	底面本底面 外底ヘラナデ 内面ヘラナデ	底面-胴部破片	外底5YR5/3深い赤褐色土
5	土師器	甕	-	6.9	9.1	外底ヘラナデ 底ミナ 内面ヘラナデ	底面-胴部破片	内外面5YR6/6褐色・黒色

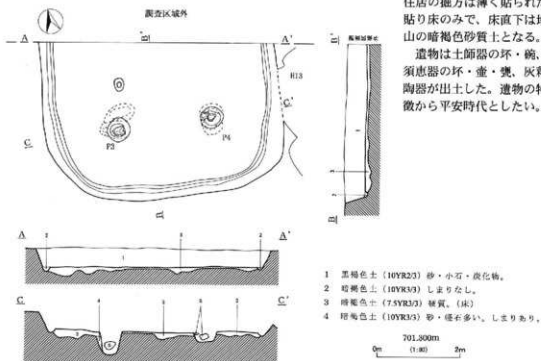
第7表 H10号住居址遺物観察表

H11号住居址

遺構は20-コグリッドに位置し、H12・13・16を切り、北側は道路調査分となる。住居址全体の平面形態はやや南北方向に長い隅丸長方形で、道路分を含めた規模は東西5.4m、南北6.3m、検出面から床面までの深さは50cmを測る。(調査規模は東西5.4m、南北3.8m) 覆土は黒褐色土の単層で、床面は薄く貼り床され、壁際に幅10～15cmの溝が巡る。ピットは床面上で支柱穴4本、小ピット1個が認められた。カマドは道路調査分の北壁中央に構築されているが煙道部及び左袖付近は攪乱に破壊されている。右袖及び左袖・火床の一部が残存していた。右袖は先端部及び内壁面部の石材が残存し、火床には径60cm、厚さ5cmの焼土が堆積し、煙道の立ち上がりは約27°の角度で検出面に至る。

住居の掘方は薄く貼られた貼り床のみで、床直下は地山の暗褐色土となる。

遺物は土師器の坏・碗、須恵器の坏・壺・甕、灰釉陶器が出土した。遺物の特徴から平安時代とした。

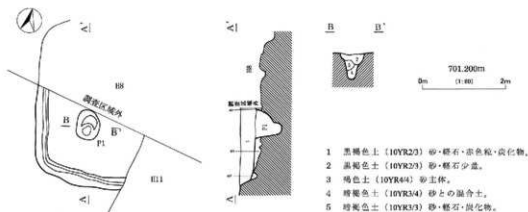


第16図 H11号住居址実測図

H12号住居址

遺構は21-コグリッドに位置し、H11に切られる。北側は道路調査分となる。平面形態は隅丸方形と思われる。調査規模は東西2.4m、南北2.0m、検出面から床面までの深さは35cmを測る。覆土は黒褐色土の単層である。床面は薄くやや硬い面を持つ。壁際に幅10cm程度の溝が巡る。ピットは支柱穴1個が認められた。カマドは北壁に構築されている。住居の掘方は砂質の暗褐色土が埋め込まれていた。

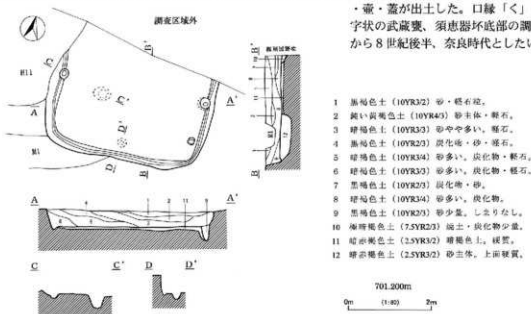
遺物は土師器の坏・甕、須恵器坏・蓋の破片が出土した。遺物の特徴から奈良時代とした。



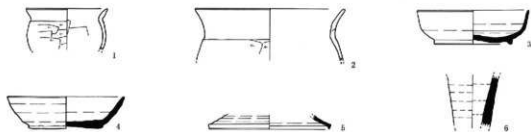
第17図 H12号住居址実測図

H113号住居址

遺構は19-さグリッドに位置しH11、M1に切れ、H24を切る。北側は道路調査分となる。平面形態はやや東西に長い隅丸方形である。道路分を含めた規模は東西4.0m、南北3.2m。検出面から床面までの深さは40cmを測る。(調査規模は東西4.0m、南北2.8m) 覆土はすり鉢状に堆積した自然堆積である。床面は全体に硬質で壁際に幅10cm程度の溝が通る。ピットは壁際に2個認められた。住居内の床面上には他にピットが認められないことから壁際の柱穴と思われる。カマドは道路調査分の北壁中央に構築されている。両袖の一部及び火床、煙道の立ち上がりが残存していた。袖には構築材と考えられる石材が認められ、火床には厚さ8cm程度の焼土が堆積し、煙道の立ち上がりは火床から約50°の傾斜で検出面に至る。住居の廻方は南側がやや低くなるが、その他は暗赤褐色土の硬質な貼り床のみで、窪み程度のピットが2個確認できた。遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕・壺・蓋が出土した。口縁「く」の字状の武蔵甕、須恵器坏底部の調整から8世紀後半、奈良時代としたい。



第18図 H113号住居址実測図

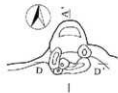
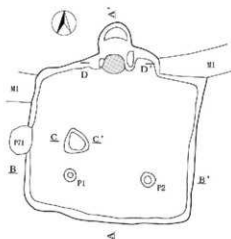


第19図 H13号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	圖 物・文 様	残存率・部位	色測等
1	土師器	壺	10	—	5.3	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁・胴縁破片	内外面7.5YR4/4鈍赤褐色
2	土師器	壺	18.4	—	16.3	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁破片	内外面5YR4/4鈍赤褐色
3	須恵器	高台付鉢	13.8	16.6	4.2	内外面口口横ナデ 底部同輪糸切り 高台縁付口	40	内外面5Y6/2Rオリーブ色
4	須恵器	鉢	14.4	8.5	3.9	内外面口口横ナデ 底部同輪糸切り 裏に底面陥上毛足付付口 裏に同輪糸切り 火だまき	40	内外面5Y5/1褐色
5	須恵器	壺	14.8	—	11.6	口口横ナデ	底面破片	内外面5R6/3灰白色
6	須恵器	壺	—	—	10	口口横ナデ	底部破片	外面2.5Y2/1黄灰色

第8表 H13号住居址遺物観察表

H14号住居址



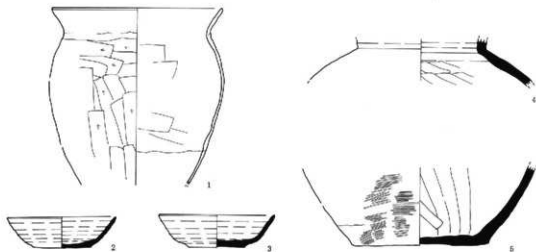
701.200m
1:100 2m

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・礫石散。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・礫石散。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・礫石散・炭化物。
- 4 黒褐色土 (10YR3/2) 砂・礫石散・炭化物。焼土少量。
- 5 灰褐色土 (7.5YR4/2) 焼土主体。
- 6 糊状赤褐色土 (7.5YR2/3) 粘土・灰・焼土。
- 7 黒褐色土 (10YR2/3) 小石・砂・炭化物。焼土少量。
- 8 赤褐色土 (2.5YR4/6) 焼土層。
- 9 糊状赤褐色土 (5YR2/3) 焼土・粘土・灰。
- 10 暗褐色土 (7.5YR2/2) 焼土層。
- 11 暗褐色土 (7.5YR3/4) 砂主体。焼土・炭化物・灰。
- 12 暗褐色土 (10YR3/4) 砂多い。上面硬質。(灰)
- 13 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・礫石・焼土。
- 14 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・礫石・焼土。
- 15 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土・粘土粒・炭化物。
- 16 黒褐色土 (10YR2/2) 焼土・粘土粒・炭化物。

第20図 H14号住居址実測図

遺構は20-レグリッドに位置し、M1に切れられ、H23を切る。平面形態は方形である。規模は東西3.9m、南北3.6m、確認面から床面までの深さは最大で50cmを測る。覆土はすり鉢状の自然堆積と思われる。床面は貼り床状に硬質でピットは3個認められた。やや浅いがP1・2が支柱穴と思われる。壁際の溝は確認できなかった。カマドは北壁中央に構築され一部をM1に破壊されている。両袖及び火床から煙道にかけての立ち上がりが残存していた。袖は粘土を利用し石材は認められなかった。火床には径50cm、厚さ8cm程度の焼土が堆積していた。煙道は火床から約38°の角度で立ち上がり、壁面中腹で18°の緩やかな傾斜となり検出面に至る。住居の掘方は上面硬質の暗褐色土と褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕が出土した。口縁「コ」の字状の土師器武蔵甕の存在から平安時代、9世紀前半としたい。



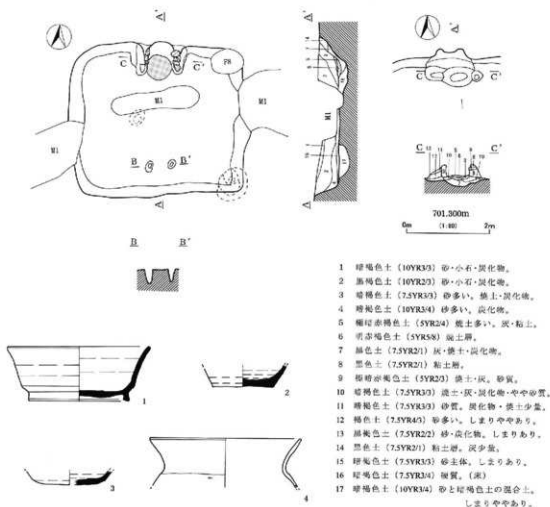
第21図 H14号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	甕	[21.0]	-	[21.0]	口縁横ナデ 内面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	40	外底5YR5/2鈍い赤褐色
2	須恵器	坏	[13.4]	[7.2]	3.8	口縁横ナデ 底面軸線垂直 火がすき	25	内外底5Y5-10灰白色
3	須恵器	坏	[14.2]	[6.8]	4	口縁横ナデ 底面軸線垂直 火がすき	40	内外底5Y5/1鈍灰白色
4	須恵器	甕	-	-	3.6	外面自然形付着 内面ヘラナデ	胴土器残片	内外底2.5Y5/1鈍灰白色
5	須恵器	甕	-	16.9	19.7	外面甲巻 底面明辺部ヘラケズリ 内面ヘラナデ	底面〜底面下平	内外底2.5Y6/2灰白色

第9表 H14号住居址遺物観察表

H15号住居址

遺構は21-レグリッドに位置し、M1、F8に切られる。平面形態は隅丸方形である。規模は東西3.8m、南北3.3m、検出面から床面までの深さは最大で53cmを測る。覆土はすり鉢状の自然堆積と思われる。床面は全体に硬質である。床面上では南側に入口に関すると思われる小ピット2個が認められたが支柱穴及び、壁際の溝は確認できなかった。カマドは北壁の中央に構築されている。両袖及び火床から煙道の立ち上がりが残存していた。袖及びカマド周辺の構築には粘土が使用され、袖には一部石材が認められた。火床は径60cm、厚さ6cmの厚みの焼土が堆積し、煙道の立ち上がりは火床から28°の角度で検出面に至る。住居の掘方は5cm内外の硬質土と、南側に一部20cm厚の暗褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の甕・坏、須恵器の坏・甕・壺が出土した。口縁「く」の字状の土師器武蔵甕、須恵器坏底部のヘラ削りから奈良時代、8世紀前半としたい。



第22図 H15号住居址遺構・遺物実測図

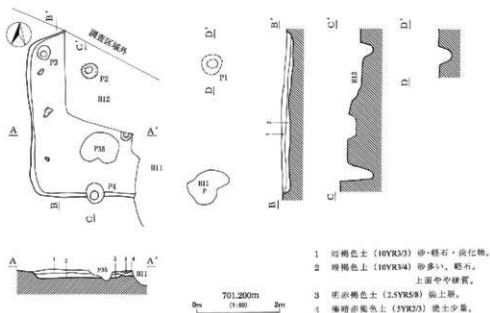
番号	遺構	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	色澤等
1	須弥器	高台付杯	17.6	12.5	6.7	ロケロナデ 底面内寄り機軸辺部ヘラケズリ 高台付り付	85	内面2.5YR4/3赤褐色 内面7.5YR5/3黄土褐色
2	須弥器	壺	-	7.5	13.7	内外面ロケロナデ 底面回転痕有り	底面	外面10YR6/1灰褐色
3	須弥器	杯	-	6.5	11.8	ロケロナデ 底面回転ヘラケズリ	底面部分	内外面10YR6/1灰褐色
4	上須弥器	皿	18.6	-	16.0	口縁部ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁部付	内外面5YR4/3赤褐色

第10表 H15号住居址遺物観察表

H16号住居址

遺構は21-こグリッドに位置し、H11・12に切られる。平面形態は残存状況から隅丸方形又は隅丸長方形と思われる。東西は残存規模で2.6m、南北4m、検出面から床面までの深さは最深で10cmと浅い。床面は硬く、ピットは床面上で3個、H11掘方下から1個確認できた。P1～3が支柱穴である。カマドは東壁のやや南側と思われる位置に焼土及び粘土が僅かに認められることからH11に大半が破壊されたと考えられる。住居の掘方は10cm内外の厚みで暗褐色土、褐色土が埋め込まれており硬質である。

遺物は土師器の壺・甕片が出土したが量は少ない。土師器模倣坏の形状から6世紀、古墳時代後期としたい。



第23図 H116号住居址実測図



第24図 H16号住居址遺物実測図

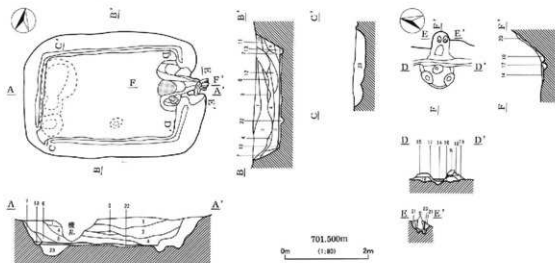
番号	遺物	形状	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	壺	19.4	-	3.6	外面刷毛付 内面刷毛付	口縁部片	内外面3YR7/4鈍い紅色

第11表 H16号住居址遺物観察表

H19号住居址

遺構は18-1に位置する。平面形態は東西方向に長い隅丸長方形で、規模は東西4.5m、南北3.1m。検出面から床面までの深さは56cmを測る。床面は薄く貼り床され、壁際に幅10～15cmの溝が巡る。ピットは床面上からは確認できなかった。カマドは東壁のほぼ中央に存在する。構築材は粘土を主体とし、火床脇の袖内壁部及び煙道部に一部石材が使用されていた。火床には径40cm、厚さ6cmの焼土が堆積しており、そこからやや急な角度で検出面に立ち上がる。住居址の掘方は薄く貼られた床直下は、西側を除きほとんど掘り込まれていなかった。床下からピットが1個確認できた。

遺物は土師器の坏・高坏・甕・甔が出土した。口辺に段を有する土師器坏の存在から6世紀末から7世紀、古墳時代後期としたい。



- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・軽石少量。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・軽石や中多い。
- 3 黒褐色土 (10YR2/3) 石・軽石・褐色土粒。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) 砂・軽石多い。しまりなし。
- 5 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・軽石多い。
- 6 暗褐色土 (10YR3/4) 砂多い。軽石少量。
- 7 明黄褐色土 (10YR6/6) 砂主体。褐色土。
- 8 鈍い黄褐色土 (10YR5/3) 砂²や³。
- 9 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂・軽石多い。
- 10 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・軽石。
- 11 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂多量。
- 12 暗褐色土 (10YR3/4) 砂・軽石多い。
- 13 暗褐色土 (10YR3/3) 洞窟。
- 14 赤褐色土 (2.5YR4/8) 粘土層。
- 15 黒褐色土 (7.5YR3/1) 粘土層。
- 16 赤褐色土 (2.5YR2/1) 粘土・灰・炭化物。
- 17 暗赤褐色土 (2.5YR3/2) 粘土・砂・炭土。
- 18 暗暗赤褐色土 (5YR2/4) 粘土粒・炭化物・灰・炭土。
- 19 暗暗赤褐色土 (5YR2/5) 粘土・軽石粒・灰。
- 20 暗赤灰色土 (10R3/1) 粘土主体。暗褐色土。
- 21 暗暗赤褐色土 (5YR2/3) 灰少量。
- 22 暗褐色土 (10YR3/4) 砂・軽石・炭化物。
- 23 暗褐色土 (10YR3/4) 砂多い。軽石・炭化物。



第25図 H19号住居址遺構・遺物実測図

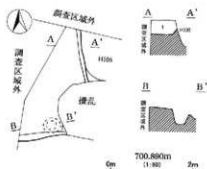
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	杯	[14.0]	丸底	(4.8)	口縁ナデ 外面ヘラナズリ 内面ナデ	口縁破片	内外面5YR5/4鈍い赤褐色
2	土師器	高杯	-	-	(8.7)	外面磨ミガキ 内面ヘラナズリ	胴部破片	外面7.5YR5/6暗褐色・灰色
3	土師器	甕	-	フ	(2.8)	外面・底面ヘラナズリ後ミガキ 内面ヘラナズリ	底蓋	外面7.5YR5/6暗褐色・灰色
4	土師器	甕	[8.4]	-	(8.8)	外面ヘラナズリ 内面ヘラナズリ磨ミガキ	底蓋・胴部破片	内外面7.5YR5/4鈍い褐色
5	土師器	甕	-	-	(7.3)	口縁ナデ 外面ヘラナズリ後鈍いミガキ 内面磨ミヘラナズリ	胴部端部破片	内外面7.5YR5/4鈍い褐色

第12表 H19号住居址遺物観察表

H20号住居址

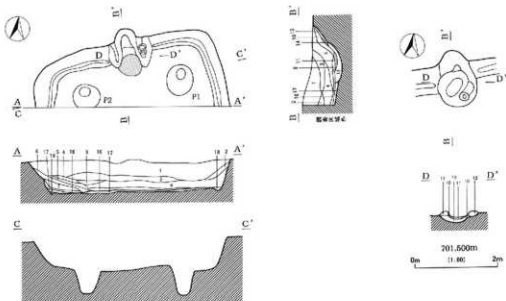
遺構は28-くグリッドに位置し、H105を切る。西側の大半は区画道路分となる。平面形態は東西方向に長い隅丸長方形である。全体の規模は東西4.0m、南北3.7m。検出面から床面までの深さは35cmを測る。(調査規模は東西1.2m、南北2.4m) 床面はやや硬く、壁際の溝及びピットは確認できなかった。カマドは道路調査分の北壁東寄りに構築され、両袖及び火床から煙道への立ち上がりが残存していた。西袖には内壁側に石材が埋め込まれていた。火床には径40cm、厚さ4cmの焼土が堆積し、煙道は火床から30°のやや緩やかな傾斜で検出面に立ち上がる。住居の掘方は厚み5cm内外の暗褐色土のみである。

遺物は須恵器の坏・甕、土師器の甕が出土した。土師器甕の口縁が「コ」の字であることから9世紀、平安時代とした。



1 黒褐色土(10YR3/2) 燻山形・小石。
第26図 H20号住居址実測図

H21号住居址



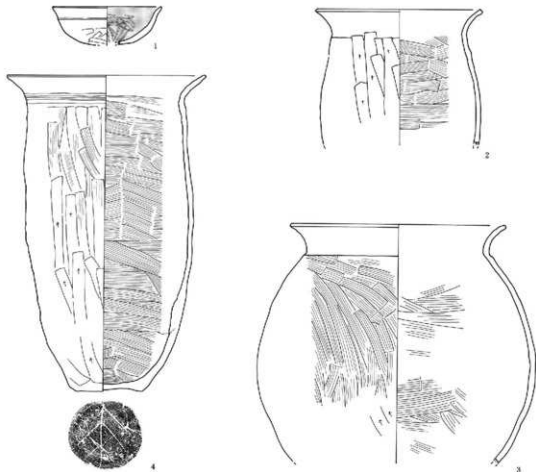
1 黒褐色土(10YR2/3) 砂・軽石少量。
2 暗褐色土(10YR3/4) 砂・軽石やや多い。
3 暗褐色土(10YR3/3) 砂・軽石やが多い。炭化物。
4 黒褐色土(10YR2/2) 砂・軽石・炭化物。

- | | |
|--------------------------------------|-----------------------------|
| 5 暗褐色土 (10YR3/4) 砂・磁石・炭化物。 | 12 暗赤灰色土 (7.5R3/1) 粘土層。 |
| 6 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・磁石多い。 | 13 黒褐色土 (5YR2/2) 焼土・炭微塵。 |
| 7 暗褐色土 (10YR3/5) 砂・磁石多い。 | 14 暗赤褐色土 (10R2/5) やや色けた粘土層。 |
| 8 灰褐色土 (7.5YR4/2) 砂・磁石少量、炭化物・炭・焼土多い。 | 15 暗赤灰色土 (2.5YR3/1) 粘土層。 |
| 9 暗赤褐色土 (5YR3/3) 焼土・炭・炭化物多い。 | 16 黒褐色土 (10YR2/5) 復瓦 (床) |
| 10 暗赤褐色土 (2.5YR3/6) 焼土・炭少量。 | 17 褐色土 (10YR4/4) 砂主体、暗褐色土。 |
| 11 暗赤褐色土 (2.5YR2/3) 焼土層。 | 18 暗褐色土 (10YR3/5) 砂多い。(炭様) |

第27図 H21号住居址実測図

遺構は22-スグリッドに位置し、南側の半分は調査区域外となる。平面形態は調査状況から隅丸の方形又は長方形と思われる。調査規模は東西4.6m、南北1.8m、確認面から床面までの深さは70cmを測る。床面は周辺の一部を除き硬質で、壁際に幅15cm内外の溝が巡る。ピットは深さ60cmほどの支柱穴が2本認められた。カマドは北壁の中央に構築されている。粘土及び石材を利用した袖の一部及び火床から煙道にかけての立ち上がりが残存していた。火床には径55cm、深さ5cmの焼土が堆積していた。掘方は薄く、ほぼ貼り床のみの状態であった。

遺物は土師器の坏・甕が出土した。胴上部が直線的で口縁部が大きく開く土師器長胴甕の形状から7世紀、古墳時代後期としたい。



第28図 H121号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	埴	13.4	丸底	4.7	口縁ナデ 内面ミガキ・黒色胎地 外面ヘラケズリ	30	外面10YR5/2に黒褐色土 内面黒色
2	土師器	甕	20.6	—	16.5	口縁ナデ 外面ヘラケズリ 内面黒胎地の残るヘラナデ	口縁～胴部	外面5YR7/4鈍い褐色 内面5YR5/4鈍い赤褐色
3	土師器	甕	26.4	—	28.2	口縁ナデ 内外面黒胎地の残るヘラナデ	口縁～胴部	内外面5YR5/4鈍い赤褐色
4	土師器	甕	24.3	8	38.7	口縁ナデ 外面黒ヘラケズリ 内面黒胎地の残るヘラナデ 柱状土師器	90	外面5YR5/4鈍い赤褐色

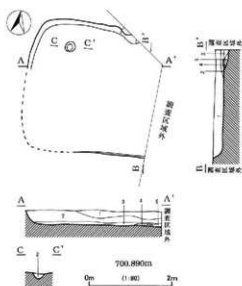
第13表 H21号住居址遺物観察表

H22号住居址

遺構は30-cmグリッドに位置する。東側の一部は区画道路路となる。平面形態はやや隅丸の東西方向に長い長方形である。全体の規模は東西4.2m、南北3.2m、確認面から床面までの深さは25cmを測る。(調査規模は東西3.2m、南北3.0m)床面は硬質である。壁溝は確認されなかった。ピットは北西コーナーに1個存在したが性格は不明である。カマドは道路分である北壁中央に構築されている。貼り床直下の掘方は存在しなかった。

遺物は土師器環・甕の破片である。口縁「コ」の字状の土師器武藏甕などから平安時代としたい。

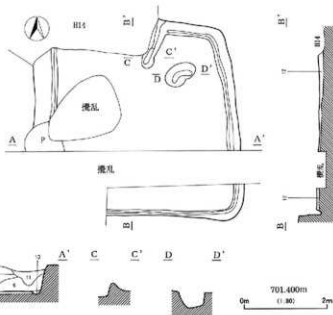
- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 地山砂、小石。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) 1層より明るい。
- 3 暗褐色土 (7.5YR3/3) 粘土。(貼り床)
- 4 暗褐色土 (7.5YR3/4) 粘土層。焼土化。
- 5 暗褐色土 (10YR3/3) 地山砂多量。良く締まる。



第29図 H22号住居址実測図

H23号住居址

遺構は19-cmグリッドに位置し、H14に切られ、一部水道管等の攪乱に破壊されている。平面形態は残存状況から隅丸方形と考えられる。規模は東西4.4m、南北4.6m、検出面から床面までの深さは73cmを測る。床面は貼り床され全体に硬質である。壁際には幅10cm内外の溝が巡り、ピットは主柱穴が1個確認できた。他のピットは攪乱に破壊されたと思われる。カマドは北壁中央に構築されているが西側の大半をH14

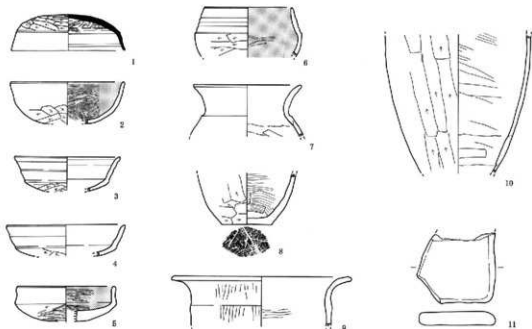


- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------------|
| 1 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・軽石混・炭化物。 | 7 褐色土 (10YR4/4) 砂多量。粘土粒少量。 |
| 2 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・軽石混。炭化物やや多い。 | 8 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘土・灰多い。 |
| 3 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・軽石多い。炭化物。 | 9 黒褐色土 (10YR2/3) 黒褐色土77%。 |
| 4 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・軽石少ない。炭化物・粘土。 | 10 暗褐色土 (7.5YR3/4) 砂主体。しまりなし。(周縁) |
| 5 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・軽石やや多い。粘土・炭化物。 | 11 黒褐色土 (10YR2/2) 砂・軽石少ない。 |
| 6 暗褐色土 (10YR3/4) 砂多い。軽石。 | 12 褐色土 (7.5YR4/4) 砂主体。しまりなし。 |

第30図 H23号住居址実測図

が破壊し東袖のみ一部残存していた。袖の先端部に一部粘土が認められた。掘方は5cm程度の硬質な貼り床のみである。

遺物は土師器の坏・蓋、須恵器の蓋・甕、石製品が出土した。土師器模倣坏の口辺部有段及び須恵器蓋の特徴から古墳時代後期、7世紀としたい。



第31図 H23号住居址遺物実測図

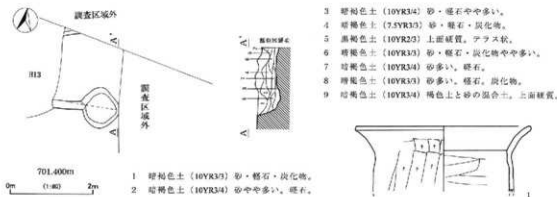
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	保存庫・部位	色調等
1	土師器	蓋	14	—	4.5	外縁部ヘラケズリ 内面ヘラナデ ロコロナデ	90	内面黒2.5Y3/1黄褐色
2	土師器	坏	[14]	丸底	(5.1)	口縁横ナデ 体部〜底部ヘラケズリ 内面ミガキ・黒色地埋	25	外面10YR6/4暗い黄褐色
3	土師器	坏	[13]	丸底	(4.2)	口縁横ナデ 口縁横ナデ 体部〜底部ヘラケズリ 内面ナデ	25	内面黒10YR6/4暗い黄褐色
4	土師器	坏	[14.6]	丸底	(3.8)	口縁横ナデ 口縁横ナデ 体部〜底部ヘラケズリ 内面ナデ	25	外面5YR5/3暗い黄褐色
5	土師器	坏	[12.1]	丸底	(4.2)	口縁横ナデ 体部〜底部ヘラケズリ 内面ミガキ・黒色地埋	30	外面2.5Y4/1黄褐色
6	土師器	坏	[10.8]	—	(6.1)	口縁横ナデ・2本の浅段 外面ヘラケズリ 内面ミガキ・黒色地埋	25	外面10YR4/1黄褐色
7	土師器	蓋	[13.2]	—	(6.2)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁部片	外面5YR4/2黄褐色
8	土師器	甕	—	[6]	(6.2)	外面ヘラケズリ 底縁本巻痕 内面糸痕の残るヘラナデ	口縁部片	外面7.5YR5/3暗い黄褐色
9	土師器	甕	[22.2]	—	(6.1)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁部片	外面7.5YR5/3暗い黄褐色
10	土師器	甕	—	—	(16.3)	外面横ヘラケズリ 内面横ヘラナデ	胴部部片	外面7.5YR5/3暗い黄褐色

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
11	石	8.7	9.7	1.8	261	

第14表 H23号住居址遺物観察表

H24号住居址

遺構は18-さグリッドに位置し、H13、M1に切られる。北側の一部は道路調査分となる。平面形は残存状況から東西方向に長い隅丸長方形と思われる。道路分を含めた規模は南北2.0m、東西は残存規模で3.2m、検出面から床面までの深さは50cmを測る。(調査規模は東西1.6m、南北2.0m)床面は硬質で、北壁に床面より一段高いテラス状の平坦面が存在し、上面は硬質である。壁際の溝、ピット、カマドは存在しなかった。遺物は土師器の甕、須恵器の甕が出土した。胴上部が直線の土師器甕の形状から古墳時代後期としたい。



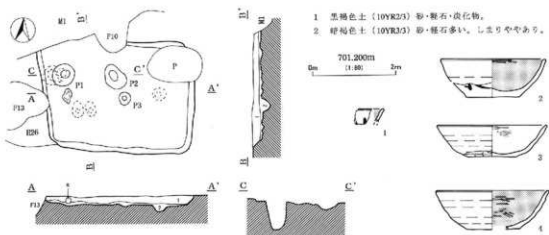
第32図 H24号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	甕	[21.6]	-	50.0	口縁部ナデ 外面細ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁部ナデ	内外面5Y7.5/4.2(1)・褐色

第15表 H24号住居址遺物観察表

H25号住居址

遺構は22-レグリッドに位置し、M1・ピットに切られ、H26を切る。平面形態はやや東西に長い長方形で、規模は東西3.5m、南北2.5m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。ピットは床面上で3個、掘方で3個認められたが本住居址に伴うか不明である。壁際の溝、カマドは確認できなかった。遺物は土師器の杯・甕、須恵器の杯・甕が出土した。土師器杯の形状から平安時代、9世紀としたい。



第33図 H25号住居址遺構・遺物実測図

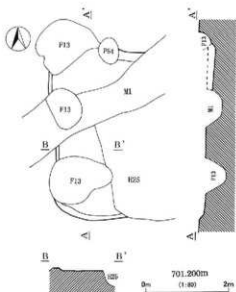
番号	器種	器形	口径cm	口径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	埴	—	—	—	ロクロコテ 葉書 No.2と同一型林小? 内面黒色処理	1/3残片	外蓋5YR5/6暗赤褐色
2	土師器	埴	[13]	6.5	4.7	ロクロコテ 葉書 No.1と同一型林小? 内面黒色処理 色調不明	5/9	外蓋5YR5/6暗赤褐色
3	土師器	埴	[13.6]	[5.8]	3.9	ロクロコテ 葉書 No.1と同一型林小? 内面黒色処理 色調不明	5/9	外蓋5YR5/3暗赤褐色
4	土師器	埴	[14]	[6.4]	4.8	ロクロコテ 葉書 No.1と同一型林小? 内面黒色処理	4/9	外蓋5YR5/9暗赤褐色

第16表 H25号住居址遺物観察表

H26号住居址

遺構は23-しグリッドに位置し、M1、H25、F13に切られる。平面形態は残存状況から隅丸方形又は長方形と考えられるが、残存部分は僅かである。規模は南北3.8m、東西は残存規模の最大で1.6m、検出面から床面までの深さは10cmと浅い。壁際の溝、ピット、カマドは確認できなかった。

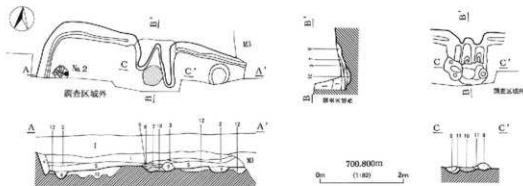
遺物は土師器の埴・豊・高埴が出土した。遺物の特徴から6世紀、古墳時代としたい。



第34図 H26号住居址実測図

H27号住居址

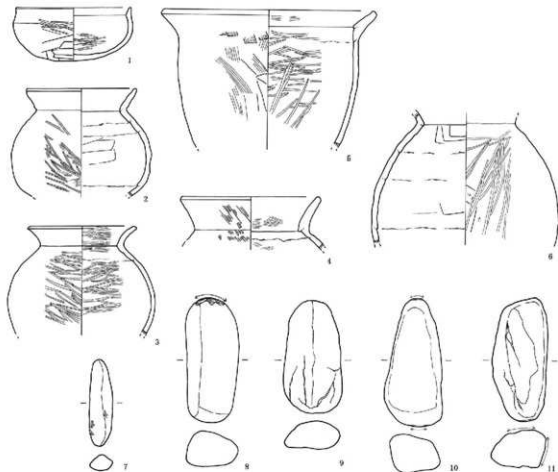
遺構は47-てグリッドに位置し、東側をM3に切られ、南側は調査区域外となる。平面形態は調査状況から隅丸方形と考えられる。規模は確認規模で東西4.8m、南北は最大で1.2m、検出面から床面までの深さは35cm、表土から床面までの深さは73cmを測る。覆土は緩やかなすり鉢状で、自然堆積と思われる。床面は貼り床されて硬質である。壁際には溝が巡り、北東コーナー付近に径50cm、深さ18cmの土坑、西壁際にピット1個が存在する。カマドは北壁中央付近に構築され、両袖及び火床から煙



- 1 暗褐色土 (10YR3/4) 軽石多い、s-J.
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石・s-J.
- 3 暗褐色土 (7.5YR3/4) 炭石・炭化物・灰.
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 軽石・s-A・炭化物.
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) 軽石・s-A・炭化物・砂.
- 6 暗褐色土 (10YR3/4) 砂多い、r-L・軽石.
- 7 黒褐色土 (7.5YR2/2) 灰多い。糞土・炭化物・粘土.
- 8 灰褐色土 (7.5YR4/2) s-L多い。粘土・灰・粘土.
- 9 極暗赤褐色土 (5YR2/3) 粘土層.
- 10 赤褐色土 (2.5YR4/8) 糞土層.
- 11 暗赤褐色土 (5YR3/6) 粘土層。中・中強土化.
- 12 暗褐色土 (10YR3/3) 土間硬質.

第35図 H27号住居址実測図

道部の立ち上がりが残存していた。袖は粘土で構築され、北壁から火床を挟み込むように80cm程度延びている。石材は認められなかった。火床には径50cm、厚さ10cmの焼土が堆積し、煙道は火床から15°と緩やかな傾斜で検出面に立ち上がる。胴方は最大20cm厚の暗褐色土が埋め込まれており上面は硬質である。遺物は土師器の坏・甕が出土した。口縁端部が外反する土師器坏、甕の特徴から古墳時代中期、5世紀後半としたい。



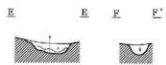
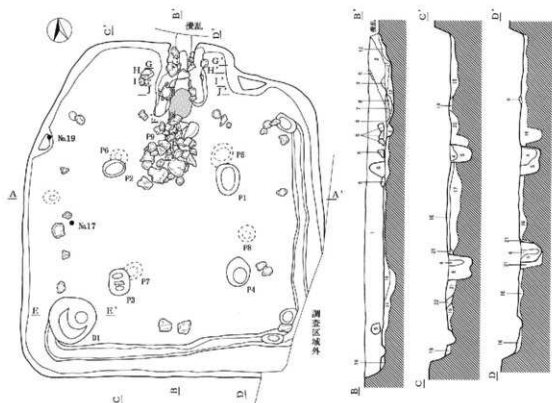
第36図 H27号住居址遺物実測図

番号	品種	形状	口径cm	底径cm	高さcm	測 量・文 様	残存率・部位	色調等
1	土師器	坏	14.2	6.5	6.5	口縁端ナデ 体部~口縁ヘラケズリ 体部の一部にて方キ 内面ヘラナデ後ミガキ	90	外面5YR6/4鈍い褐色
2	土師器	甕	[13.6]	6.6	(13.5)	口縁端ナデ 胴部ヘラケズリ後ミガキ 内面ヘラナデ	口縁~胴部	内外面5YR4/2灰褐色
3	土師器	甕	[13.4]	-	(13.3)	口縁端ナデ 胴部ヘラケズリ後ミガキ 内面ヘラナデ後ミガキ	口縁~胴部	外面7.5YR4/2灰褐色・黒色部
4	土師器	甕	17.3	-	(6.6)	口縁端ナデ 口縁・外面基部の残るヘラナデ	口縁100	内外面5YR6/6褐色
5	土師器	甕の片断	[26.4]	-	(16.8)	口縁端ナデ 外面基部の残るヘラナデ 内面赤褐色・ミガキ	口縁~胴部	外面5YR6/4鈍い赤褐色色
6	土師器	甕	-	-	(16.2)	外面ヘラケズリ後ミガキ 内面ヘラナデ・輪痕み	胴部~胴部	外面5YR6/4鈍い赤褐色色

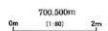
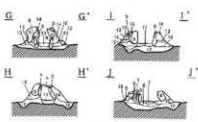
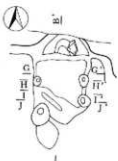
番号	品種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考	番号	品種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
7	燧石	10.6	2.85	2	64.12		10	燧石	15.7	7.15	4.7	828.23	新断面打痕
8	燧石	15.3	6.55	4.9	742.97	先端部打痕	11	燧石	15.25	6.8	4.8	726.39	先端部打痕・側面打痕
9	燧石	13.85	7.2	3.4	<52.98	先端部打痕							

第17表 H27号住居址遺物観察表

H28号住居址



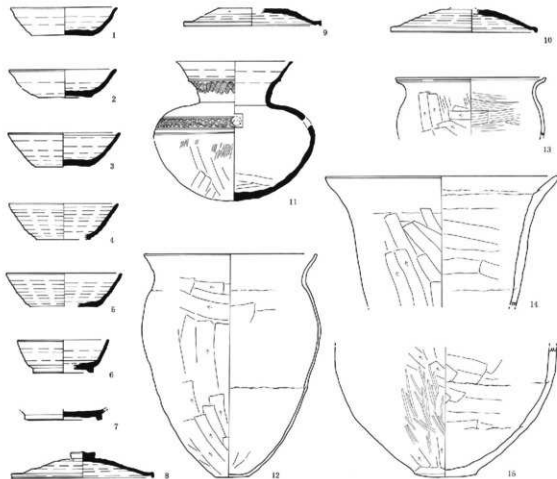
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物・軽石・ α - α 粒。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 粘土・粘土粒少量、炭化物。
- 3 暗赤色土 (10R3/6) 粘土多量。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 粘性弱い、炭化物微量。
- 5 黄褐色土 (10YR5/2) 粘性弱、砂・黒色土との混合土。
- 6 暗褐色土 (5YR2/3) 粘土・灰・粘土・炭化物。
しまりなし。
- 7 明赤褐色土 (2.5YR5/6) 粘土層。(火灰)
- 8 暗赤褐色土 (2.5YR2/3) 粘土層。やや焼土化。
- 9 鈍い赤褐色土 (2.5YR4/4) 砂質。焼土。
- 10 黒褐色土 (7.5YR2/2) 粘土主体。 α - α ・軽石。
- 11 暗赤褐色土 (7.5YR2/3) 砂・炭化物・粘土。
- 12 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりあり。
- 13 黒色土 (7.5YR2/1) 粘土層。
- 14 黒褐色土 (5YR2/2) 粘土層。
- 15 暗赤褐色土 (5YR2/3) 粘土層。
- 16 暗褐色土 (10YR3/4) しまりあり。



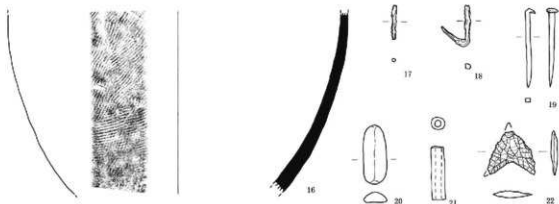
- 17 暗褐色土 (10YR3/3) α - α との混合土。
- 18 黄褐色土 (10YR5/6) 地山 α - α 。
- 19 暗褐色土 (10YR3/3) α - α ・砂・軽石や多い。
- 20 暗褐色土 (10YR3/3) α - α ・砂・軽石。
- 21 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) α - α 多い、砂・軽石。

第37図 H28号住居址実測図

遺構は42-たグリッドに位置し、H29を切る。平面形態の基本は隅丸の方形で北壁部が一部張り出す。規模は東西7.0m、南北は張り出し部を含め7.8m、検出面から床面までの深さは45cmを測る。覆土はカマド部を除き暗褐色土の単層である。床面は壁寄りの一部を除き貼り床され硬質である。壁際の溝は東及び南壁に巡り、壁面より内側に位置する。ピットは支柱穴が4個、カマド前部に浅い窪み状のピットが1個、溝に沿って3個が存在し、南西コーナー付近には径1m、深さ30cmの土坑が認められた。支柱穴の深さは60cm前後を測る。カマドは北壁のやや張り出した位置に構築され、前面の床面上にカマドの石材らしき焼け石が散在し、両袖及び火床から煙道の立ち上がりが残存していた。カマドは大型で、両袖は粘土内に石材を多用して造られ、北壁から内側に火床を挟み込むように1.8m延びていた。火床には径70cm、厚さ8cmの焼土が堆積し、煙道へは火床から80cmほどは平坦で、そこから30°の傾斜で検出面に立ち上がる。住居の掘方は中央部は5cm内外の貼り床のみで、周辺部は20cm程度の厚みを持つ暗褐色土が埋め込まれ、上面硬質な部分と軟弱な部分が存在した。掘方からは支柱穴周辺に同規模のピットが存在し、また、北壁周辺が不成形であることから建て替えもしくは拡張を行った可能性が伺えた。遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・蓋・甕・壺が出土した。土師器は小破片が多い。底部回転糸切り後未調整の須恵器坏、口縁「コ」の字状の土師器武蔵甕から平安時代、9世紀前半としたい。11は古墳時代のはそうである。



第38図 H28号住居址遺物実測図



第39図 H28号住居址遺物実測図

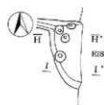
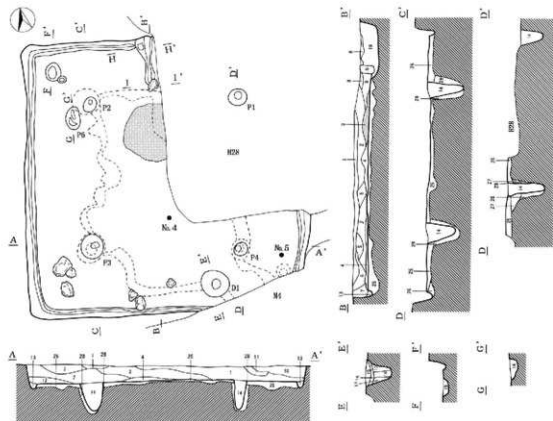
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	簡説・文様	残存率・部位	色調等
1	煎茶器	杯	13.1	7.5	3.4	内外面ロクロナデ 底面回転糸切り 灰ダスキ	80	内外面灰色
2	煎茶器	杯	[12.2]	6.6	3.4	内外面ロクロナデ 底面回転糸切り	40	内外面5Y6/1灰色
3	煎茶器	杯	[13.9]	6.5	4.2	内外面ロクロナデ 底面回転糸切り 灰ダスキ	60	内外面5Y6/1灰色地
4	煎茶器	杯	[13.4]	[6.6]	4.4	内外面ロクロナデ 底面回転糸切り 灰ダスキ	30	内外面5Y6/1灰色地
5	煎茶器	杯	[14.2]	[8.2]	4.1	内外面ロクロナデ 底面回転糸切り 灰ダスキ	30	内外面5Y6/1灰色
6	煎茶器	高台付杯	[11.2]	[7.4]	4	内外面ロクロナデ 底面回転糸切り高台取付付	30	内外面5P83/3紫色灰色
7	煎茶器	高台付杯	-	9.5	(3.0)	底面回転糸切り高台取付付 高台取り付に短縮ナデ	底面100	
8	煎茶器	蓋	[17.5]	-	3.3	内外面ロクロナデ 大洋車回転ヘラケズリ つまみ盛り付付	35	内外面5Y4/0灰色地
9	煎茶器	蓋	[16.9]	-	(2.2)	内外面ロクロナデ 大洋車回転ヘラケズリ	30	外面2.5Y7/1灰白色
10	煎茶器	蓋	[18.1]	-	(2.8)	内外面ロクロナデ 大洋車回転ヘラケズリ	30	外面2.5Y7/1灰白色
11	煎茶器	ほろ	[14.3]	丸底	17.1	ロクロナデ 口縁緑紋文 煎茶器用蓋に磨損状文 煎茶器用蓋へラケズリ 自然加付蓋 煎茶器用蓋へラケズリ	50	内外面5Y4/0灰色地
12	土師器	甕	21.2	4.1	27.3	口縁ロクロナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	65	内外面5Y26/4黄褐色
13	土師器	甕	[18.6]	-	(2.1)	口縁ロクロナデ 外面ヘラケズリ 内面灰底の残るヘラナデ	口縁部分	内外面2.5Y7/3黄褐色
14	土師器	甕の口	[28.6]	-	(36.0)	口縁ロクロナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁-胴部	内外面2.5Y8.5/5明赤褐色地
15	土師器	甕	-	[7.6]	(16)	外面ヘラケズリ後ミサキ 底面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	底面-胴部	内外面2.5Y8.5/5明赤褐色地
16	煎茶器	蓋	-	-	-	外面平打型 内面ナデ	全面部分	内外面5Y4/1灰色地

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考	番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
17	鉄角釘	4.28	0.19	0.52	3.88		20	ミガキ石	7.2	2.85	1.3	2.58	
18	鉄角釘	8.85	0.72	0.67	10.08		21	管土	3.65	0.55	-	6.47	直径 0.18cm
19	鉄角釘	9.6	1.4	0.7	13.45		22	石敷	1.35	1.5	0.2	0.31	付・個人遺物

第18表 H28号住居址遺物観察表

H29号住居址

遺構は43-ちグリッドに位置し、H28に北東コーナー付近を大きく破壊され、M4に南東コーナーを切られる。平面形態は残存状況から方形と思われる。規模は東西6.7m、南北6.6m、検出面から床面までの深さは35cmを測る。覆土は西方向からの自然堆積と思われる。床面は全体的に硬質で、壁際に幅10cm前後の溝が巡る。ピットは7個確認でき、P1~4が支柱穴である。南壁寄りには径75cm、深さ60cmの土坑が存在する。支柱穴の深さは床面から80cm内外を測る。カマドは北壁中央に構築されているが、火床を含め東側はH28に破壊され、西袖及び火床の僅かな部分が残存していた。カマド前部の床面には広い範囲で粘土の散布が認められた。西袖は北壁から1.2m内側に延びる大型のもので、粘土で構築されている。袖先端の焚き口部には石材が埋め込まれていた。住居の掘方は中央部は5cm程度の貼り床のみで、周辺部がやや深く掘り下げられ、貼り床直下にやや砂質の暗褐色土が埋め込まれていた。

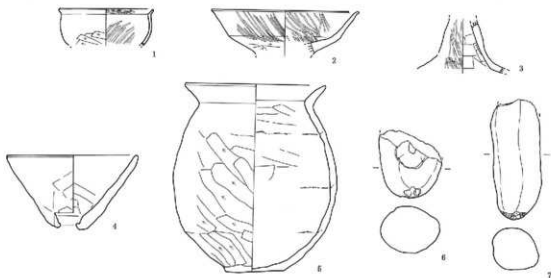


- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物・軽石・ α - Δ 。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物・軽石・ α - Δ 。
- 3 暗赤褐色土 (5YR3/2) 炭化物多量。焼土・灰。
- 4 黒褐色土 (7.5YR2/2) 炭化物多量。焼土・灰。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) α - Δ 多い。軽石。
- 6 褐色土 (10YR4/4) α - Δ 多い。
- 7 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物・ α - Δ ・軽石。
- 8 黒褐色土 (7.5YR2/2) 焼土・ α - Δ ・軽石。
- 9 黒褐色土 (7.5YR3/2) 焼土・炭化物・ α - Δ 。
- 10 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物・軽石多い。 α - Δ 。
- 11 褐色土 (10YR4/6) α - Δ 多い。軽石。
- 12 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) α - Δ 多い。軽石・炭化物。
- 13 褐色土 (10YR4/4) しまりなし。(同層)
- 14 暗褐色土 (10YR3/3) 砂との混合土。しまりなし。
- 15 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物多い。
- 16 暗褐色土 (10YR3/4) 砂・軽石・炭化物。
- 17 褐色土 (10YR4/4) 砂主体。暗褐色土・硬石。
- 18 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物・砂・軽石。
- 19 黒褐色土 (7.5YR3/1) 粘土多い。
 α - Δ ・炭化物。3 α 1'種。
- 20 黒褐色土 (5YR3/1) 粘土層。
- 21 黒褐色土 (7.5YR3/2) 焼土層。砂・炭化物。
- 22 暗褐色土 (10YR3/3) α - Δ との混合土。
しまりあり。
- 23 暗赤褐色土 (5YR3/3) 粘土多い。
- 24 暗褐色土 (10YR3/4) 砂多い。焼土・炭化物。
- 25 暗褐色土 (10YR3/3) 砂との混合土。硬質。
- 26 暗褐色土 (10YR3/4) 砂主体。しまりなし。
- 27 暗褐色土 (10YR3/3) 砂との混合土。
 α - Δ 1'種。しまりなし。
- 28 褐色土 (10YR4/6) 砂主体。黄褐色土。
しまりなし。

700.500m
0m (1:80) 2m

第40図 H29号住居址実測図

遺物は土師器の坏・高坏・甕・甕、須恵器片が出土した。土師器高坏坏部の特徴、坏口縁端部が僅かに外反することから古墳時代中期、5世紀後半としたい。



第41図 H29号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	钵	11.6	—	5.5	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ミガキ	口縁・外面破片	内外面5YR6/6褐色
2	土師器	高坏	18.2	—	15.4	外面口縁横ナデ残ミガキ 外面坏部底縁ヘラケズリ残ミガキ 内面横ナデ残ミガキ	坏底2/3	内外面2.5YR5/6明赤褐色
3	土師器	高坏	—	—	16.7	外面ミガキ 内面ヘラナデ	胴部1/3	内面5YR6/6褐色
4	土師器	甕	15.1	2.5	9.1	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 底部穿孔	85	内外面7YR6/6褐色
5	土師器	甕	17.5	7.2	23	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ・ヘラナデ 底部ヘラケズリ 内面ヘラナデ	95	外面10YR6/4暗い黄褐色地

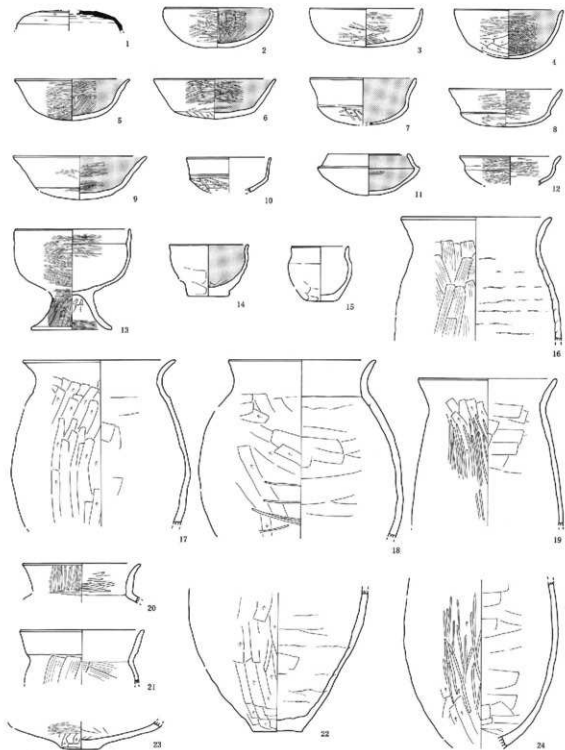
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考	番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
6	内石	8.3	7.75	0.7	396.29	破片取 破片	7	外石	14.8	6.3	0.2	638.1	破片取 破片

第19表 H29号住居址遺物観察表

H30号住居址

遺構は46-ちグリッドに位置し、M3に西壁の一部をM5に住居址の中央からやや東の一部を切られる。平面形態は方形である。規模は東西5.4m、南北5.6m、検出面から床面までの深さは54cmを測る。覆土はすり鉢状の自然堆積である。床面は貼り床され硬質であるが周辺部で一部軟弱な箇所も存在した。壁際には溝が巡る。ピットは床面上で9個認められP1～4が主柱穴である。北東隅には径75cmの土坑が2個並ぶが、断面からD1後にD2が掘り込まれている。また、P1を除き壁溝から主柱穴に向かって幅20cm程度の溝が認められた。カマドは北壁中央に構築されている。両袖及び火床から煙道にかけて残存していた。袖は北壁から火床を挟み込むように内側に1m程度延び、内壁部に石材が埋め込まれ、火床には径70cm、厚さ30cmの焼土・灰の堆積が認められた。煙道は火床から30°の傾斜で立ち上がり、壁の途中で20cm程度の平坦面を持った後60°と急な傾斜で検出面に至る。平坦面付近の天井及び壁面には石材が残存し、カマド西脇にはカマド構築材と思われる扁平な焼け石が散在していた。住居掘方の中央は貼り床だけで浅く、周辺はやや深く掘り込まれ、貼り床直下に地山の砂を含む褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕・壺・小型壺、須恵器坏・甕片が出土した。土師器模倣坏及び長胴甕の形状から古墳時代後期、6世紀としたい。

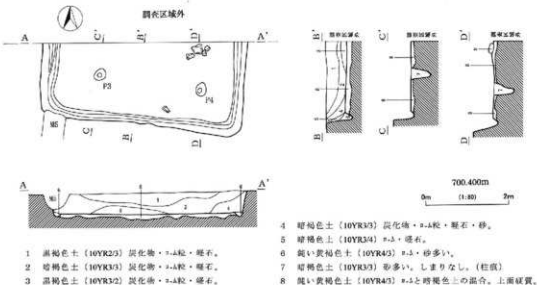


第43圖 H30号住居址遺物実測圖

番号	形種	型形	口径cm	底径cm	高さcm	裏面・文様	残存率・部位	色調号
1	土師器	壺	—	—	22.0	口縁ナデ 外肩部ハケラケズリ 外肩部自然磨材着	30	内外面 灰色
2	土師器	杯	13	丸底	4.9	口縁ナデ 外肩ハケラケズリ後ミガキ 内面黒色染付・放射状ミガキ	70	外面10YR3/4鈍い黄褐色 内面黒色
3	土師器	杯	[14]	丸底	4.7	口縁ナデ 外肩ハケラケズリ後ミガキ 内面ミガキ	50	外面7.5YR3/6褐色・黒褐色 内面黒色
4	土師器	杯	[13.4]	丸底	8	口縁ナデ 外肩部ハケラケズリ・体部ミガキ 内面黒色染付・ミガキ	65	外面7.5YR3/4鈍い黄褐色 内面黒色
5	土師器	杯	[14.2]	丸底	5	外肩ミガキ 内面黒色染付・ミガキ	50	外面5YR5/8暗赤褐色 内面黒色
6	土師器	杯	[15]	丸底気味	4.9	外肩体部ミガキ 底面ハケラケズリ 内面黒色染付・ミガキ	50	外面2.5Y2/1黒色 内面黒色
7	土師器	杯	13.2	丸底	5.7	口縁ナデ 体部～底面ハケラケズリ 内面ナデ・黒色染付	50	外面5YR5/4鈍い赤褐色 内面黒色
8	土師器	杯	[14]	丸底気味	4.6	外肩口上ナデ後ミガキ 体部～底面ハケラケズリ後ミガキ 内面ミガキ	30	外面5YR6/6褐色・灰褐色 内面黒色
9	土師器	杯	[15]	丸底気味	4.9	外肩口上ナデ 体部～底面ハケラケズリ 内面ミガキ・黒色染付	60	外面10YR3/4鈍い赤褐色 内面黒色
10	土師器	杯	[16.4]	丸底	4.2	口縁ナデ 外肩体部～底面ハケラケズリ 内面ナデ	口縁～体部破片	内外面5YR7/4鈍い褐色 内面黒色
11	土師器	杯	[16]	丸底	5	口縁ナデ 体部～底面ハケラケズリ 内面ミガキ・やや染付・黒色染付	80	外面5YR5/2黒褐色 内面黒色
12	土師器	杯	[12.5]	丸底	3.5	内外面ミガキ	口縁～体部破片	内外面10YR7/3鈍い黄褐色 内面黒色
13	土師器	高杯	[14.4]	9.9	12.3	体部口縁～体部ミガキ・底面ハケラケズリ 体部外側面ミガキ・内面黒色染付後ミガキ	50	内外面7.5YR7/6褐色 内面黒色
14	土師器	小型杯	[9.7]	5.1	6.3	口縁ナデ 外肩・底面ハケラケズリ 内面ハナナデ 黒色染付	50	外面10YR3/4鈍い黄褐色 内面黒色
15	土師器	小型杯	7.1	4	6.7	口縁ナデ 外肩・底面ハケラケズリ 内面ハナナデ	50	外面10YR3/4鈍い黄褐色 内面黒色
16	土師器	壺	18.6	—	(15)	口縁ナデ 外肩部面に残るハナナデ 内面ハナナデ・縁部ハナナデ・縁部ハナナデ	50	外面7.5YR3/6褐色 内面黒色
17	土師器	壺	18.8	—	(20.3)	口縁ナデ 外肩部ハケラケズリ 内面ハナナデ	40	外面7.5YR7/6褐色 内面黒色
18	土師器	壺	[18.1]	—	(21.8)	口縁ナデ 外肩ハケラケズリ 内面ハナナデ・輪部ハナナデ	30	外面5YR5/6褐色 内面黒色
19	土師器	壺	[17.2]	—	(18)	口縁ナデ 外肩ハケラケズリ後ミガキ 内面ハナナデ	口縁～胴部破片	外面2.5YR6/6褐色 内面黒色
20	土師器	壺	14.5	—	4.9	口縁ナデ後ミガキ	口縁100	内外面5YR6/6褐色 内面黒色
21	土師器	壺	[15.2]	—	6.7	口縁ナデ 内外面表面に残るハナナデによるナデ	口縁～胴部破片	外面7.5YR3/2鈍い赤褐色 内面黒色
22	土師器	壺	—	6	(17.6)	外肩部ハケラケズリ 体部ハケラケズリ 内面ハナナデ・輪部ハナナデ	底面～胴部	外面7.5YR4/2灰褐色 内面黒色
23	土師器	壺	—	4.8	3.6	外肩ハケラケズリ後ミガキ 内面ハナナデ	底面～胴下部	外面5YR3/2鈍い赤褐色 内面黒色
24	土師器	壺	—	—	(20.7)	外肩ハケラケズリ後ミガキ 内面ハナナデ	胴部下半部	外面5YR3/4赤褐色 内面黒色

第20表 H30号住居址遺物観察表

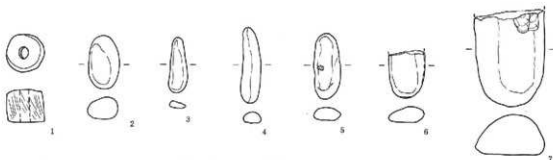
H31号住居址



第44図 H31号住居址実測図

遺構は45-メグリッドに位置し、M5・F12に切られ、H32を切る。北側の半分は区画道路分となる。平面形態はやや隅丸の方形である。道路分を含めた規模は東西4.8m、南北4.2m、検出面から床面までの深さは45cmを測る。(調査規模は東西4.8m、南北2.0m) 覆土はすり鉢状の自然堆積である。床面は硬質で貼り床され、壁際に溝が巡る。ピットは主柱穴が4個認められた。ピットの深さは床面から50cm内外を測る。カマドは区画道路分の北壁中央に構築されている。袖は火床を挟み込むように北壁から内側に80cm程度延び、粘土で構築されている。内壁部には石材を埋め込み、焚き口には崩落しかけた天井石が残存していた。火床は長径60cm、厚さ10cmの焼土が堆積し、煙道は火床から45°の傾斜で検出面に立ち上る。住居の掘方には上面の硬質な鈍い黄褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・高坏・甕・白玉が出土した。北側の道路部分で出土している底部から大きく開く土師器坏などの形状から古墳時代後期、6世紀としたい。



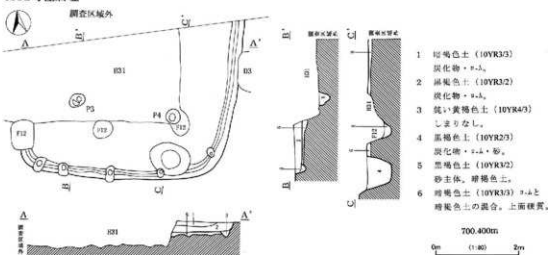
第45図 H31号住居址遺物実測図

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
1	白玉	1	1.2	-	2.16	帯孔孔径0.3
2	磨-IT 燧石	6.5	3.8	2.6	96.98	
3	磨-IT 燧石	6.8	2.3	1.1	18.68	
4	磨-IT 燧石	9.2	2.5	1.4	38.97	

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
5	磨石	8	3.3	1.8	68.55	
6	磨石	5.7	4.25	3.5	66.92	
7	磨石?	11.9	8.7	5.1	743.57	

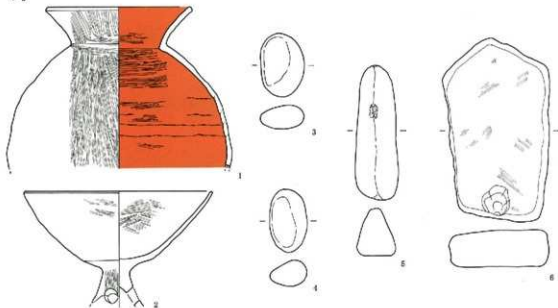
第21表 H31号住居址遺物観察表

H32号住居址



第46図 H32号住居址実測図

遺構は44-メグリッドに位置し、H31、F12に切られる。北側の一部は区画道路分となる。平面形態は残存状況から隅丸方形と考えられる。道路分を含めた規模は東西4.6m、南北5.8m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。(調査規模は東西4.6m、南北3.8m)床面は貼り床され硬質で、壁際に溝が巡る。ピットは主柱穴が4個、壁際に5個認められた。主柱穴の深さは床面上から50cm内外を測る。また、南東コーナー付近に径1m、深さ60cmの土坑が掘り込まれている。カマドは存在しなかった。遺物の特徴から炉が使用された時期である可能性が伺える。掘方は貼り床のみであった。遺物は土師器甕・高坏が出土した。甕の形状、透かしを持った土師器の高坏から古墳時代前期としたい。



第47図 H32号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存半・部位	色調等
1	土師器	甕	18.0	-	19.8	外面ミガキ 内面ミガキ・輪切み施 口縁内面赤彩	口縁~胴部	外面V字に90度赤褐色
2	土師器	高坏	23.1	-	11.4	外面ミガキ 内面高坏の残るヘラナデ・ミガキ 胴部に土製立文	胴部~頸上部	外面V字に90度赤褐色

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考	番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
3	礫石	7.8	5.4	2.9	178.94		5	礫石	16.55	5.3	5.8	738.84	正倉・高坏に属す
4	礫石	7.7	4.6	3.1	135.06		6	礫石	22.6	13.2	5.2	2095.88	

第22表 H32号住居址遺物観察表

H33号住居址

遺構は45-メグリッドに位置し、M6・13に切られる。平面形態は南北方向にやや長い隅丸長方形である。覆土は北方向からの自然堆積と考えられる。床面は全体的に硬質で貼り床され、壁際に幅10cm内外の溝が巡る。ピットは主柱穴4個と、南壁際に1個が存在する。主柱穴の深さは床面から50cm内外を測る。また北西コーナーに径80cm、深さ35cmの土坑が認められた。カマドは北壁中央に構築され、両袖と火床から煙道に至る立ち上がり部が残存していた。袖は北壁から50cm程度内側に延び粘土で構築され、西袖に一部石材が埋め込まれていた。火床は径60cm、厚さ5cmの焼土が堆積し、煙道は火床から30°内外の傾斜で検出面に立ち上がる。住居の掘方は主柱周辺のみ一部深く掘り込まれ、その他の地域は5cm程度の貼り床のみである。

遺物は土師器の坏・高坏・甕、須恵器の甕片が出土したが小破片が多い。口縁端部がわずかに外反する土師器坏から古墳時代中期、5世紀後半としたい。

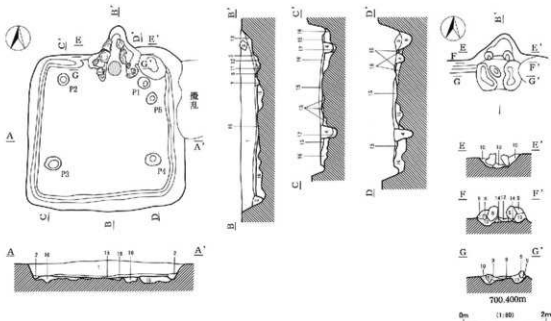
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	杯	[13.8]	丸底	(5)	口縁ミガキ 外面底部ミガキ底面ヘラケズリ 内面ミガキ	25	外面7.5YR2/4鈍い赤褐色
2	土師器	杯	[13.5]	丸底	(4.5)	口縁飾ナデ 体部へ底面ヘラケズリ 内面磨耗	25	外面10YR3/4鈍い赤褐色・黒褐色
3	土師器	杯	[13.6]	丸底	(5.2)	外面ミガキ 内面磨削ミガキ	25	内外表面5YR5/4鈍い褐色
4	土師器	高杯	—	丸底	(3.1)	外面短ミガキ・底面飾ナデ 内面ヘラケナデ	輪郭50	内外表面7.5YR7/4鈍い褐色
5	土師器	壺	—	丸底	(3.1)	外面・底面ミガキ 底面中央上げ底・ミガキ 内面ヘラケナデ	底面・胴下半	外面7.5YR7/4鈍い褐色

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
6	四石	8.3	8.1	4.8	85.94	解石
7	方丁	12.5	7.5	0.4	12.13	

第23表 H33号住居址遺物観察表

H34号住居址

遺構は43-けグリッドに位置する。平面形態は隅丸の方形である。規模は東西3.5m、南北3.6m、検出面から床面までの深さは40cmを測る。覆土は暗褐色土の単層である。床面は壁際に一部軟弱な部分もあるが、それ以外は硬質である。壁際には幅10~15cmの溝が巡る。ピットは5個認められ、P1~4が主柱穴である。南東コーナーには長さ72cm、深さ50cmの土坑が存在する。カマドは北壁中央に構築されている。袖と火床からの立ち上がり部には粘土が使用され、袖の焚き口及び内壁には



- 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物・軽石・#4。
- 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂多い。しまりなし。
- 暗褐色土 (7.5YR3/3) 灰・炭土・粘土少量。
- 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・軽石・炭化物。
- 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・軽石・炭化物。
- 暗褐色土 (10YR3/4) 砂多い。しまりなし。
- 暗赤褐色土 (5YR3/3) 粘土・灰。やや砂質。
- 暗赤褐色土 (2.5YR3/4) 粘土層。(火床)
- 黒褐色土 (5YR2/1) 粘土層。
- 暗赤褐色土 (5YR2/3) 粘土・灰・粘土・砂。
- 暗赤褐色土 (5YR2/4) 粘土層。(火床)
- 黒褐色土 (5YR2/2) 灰・炭化物。
- 暗赤褐色土 (5YR2/3) 濃土・灰・炭化物。
- 暗褐色土 (7.5YR3/4) 灰・炭化物。
- 黒褐色土 (10YR2/3) 硬質(床)
- 暗褐色土 (10YR3/4) 暗褐色土と#3の混合。
- 褐色土 (10YR4/4) 砂。しまりなし。

第49図 H34号住居址実測図

石材が埋め込まれていた。火床には径35cm、厚さ6cmの焼土が堆積し、煙道部へは火床から60cmは平坦で、その後55°と急な傾斜で検出面に立ち上がる。住居の掘方は中央は浅く、周辺部が深く掘り込まれた状態である。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏・甕が出土したが、小破片が大半を占める。底部へラ削りを施す須恵器坏の特徴から奈良時代、8世紀前半とした。



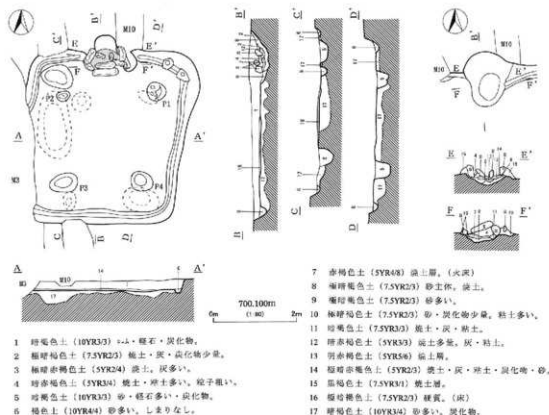
第50図 H34号住居址遺物実測図

番号	品種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	図数・文様	残存率・部位	色調等
1	須恵器	钵	24.6	7	3.9	内外面口ケロナテ 底部ヘラケズリ	30	内外面2.5Y6/7黄褐色
2	須恵器	钵	16.1	8.5	4.8	内外面口ケロナテ 底部ヘラケズリ	70	外面2.5Y4/1黄褐色

番号	品種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
3	石鏡	(1.5)	1.6	0.25	0.62	土層台・瓦入遺物

第24表 H34号住居址遺物観察表

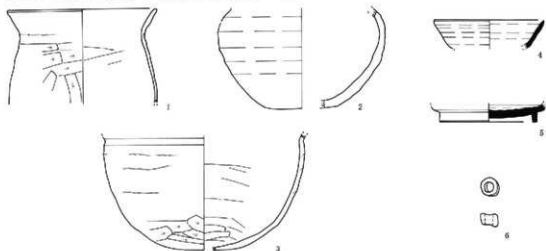
H35号住居址



第51図 H35号住居址実測図

遺構は47-けグリッドに位置し、M3に切られる。平面形態は隅丸の方形である。地山が砂質土であるため北東コーナー付近は若干壁の崩れが認められる。規模は東西3.8m、南北4.1m、検出面から床面までの深さは25cmを測る。覆土は暗褐色土の単層である。床面は非常に薄い貼り床が認められ、壁際には10cm内外の溝が巡る。ピットは主柱穴4個、壁柱穴小ピット2個が認められた。主柱穴の深さは床面から35cmを測る。北西コーナーには長径80cm、深さ25cmの土坑が存在した。カマドは北壁中央に構築されている。両袖と火床から煙道に至る立ち上がり部が残存していた。袖の内壁側には石材が埋め込まれ、焚き口部付近に崩落した天井石が残存していた。火床には東西に並んで2本の支脚石が埋め込まれ、周辺には厚さ8cm前後の焼土が堆積していた。煙道部は火床から40°の傾斜で検出面に立ち上がる。住居の掘方は薄い貼り床直下に砂質の暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕・蓋が出土した。口縁の形状が「く」の字状の土師器甕及び底部ヘラ削りの須恵器坏の存在から奈良時代、8世紀としたい。



第52図 H35号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	甕	18.4	-	(11.5)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁一部土埋破片	外面2.5YR5/6明赤褐色
2	土師器	鉢	-	9.1	(12.1)	外面ロクロナデ 内面ヘラナデ・摩耗	底部40	外面2.5YR2/4鈍い褐色
3	土師器	鉢	-	-	(14)	口縁横ナデ 外面・底部ヘラケズリ・輪郭みだり 内面ヘラナデ	製壊破片	外面5YR5/3鈍い赤褐色
4	須恵器	坏	-	-	-	内外面ロクロナデ	口縁破片	内外面5Y6/3灰色
5	須恵器	蓋付付片	-	(12)	(2.2)	底部ヘラケズリ底部有筋り付片	製壊破片	内外面5Y5/1灰色

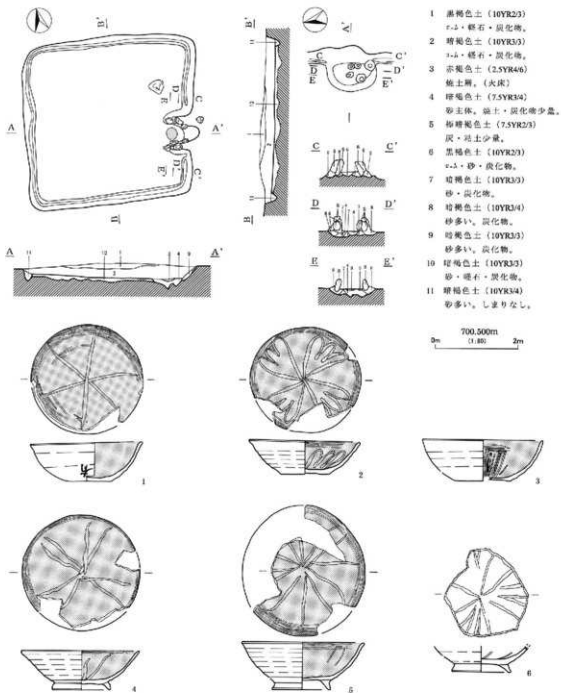
番号	器種	長さcm	幅cm	孔径cm	重量g	備考
6	土師器	0.26	0.55	0.3	0.16	溝が割戻りあり

第25表 H35号住居址遺物観察表

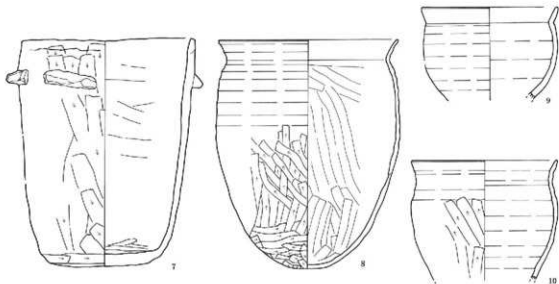
H36号住居址

遺構は44-くグリッドに位置し、M6・13に切られる。平面形態はやや隅丸の方形である。規模は東西4.0m、南北3.8m、検出面から床面までの深さは35cmを測る。覆土は緩やかなすり鉢状の自然堆積と思われる。床面はやや硬さを持つが硬質ほどではない。壁際には幅10cmほどの溝が巡る。ピットは確認できなかった。カマドは東壁のやや南に位置する。両袖と火床及び煙道に至る立ち上がり部が残存していた。袖は東壁から火床を挟み込むように内側に60cm程度延び、焚き口部及び内壁に沿って石材が埋め込まれていた。火床は径35cm、厚さ5cmの厚みで焼土が堆積しており、軽石製の面取りされた支脚石が存在した。煙道部へは火床から20cm程は平坦で、その後40°の傾斜で検出面に立ち上がる。住居の掘方は10～15cmの厚みで砂質の暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕・碗・羽釜、須恵器の坏・甕、灰釉陶器が出土した。本住居址は土師器坏・碗の形状、軸轆裏の存在から平安時代、9世紀後半としたい。



第53図 H36号住居址遺構・遺物実測図



第54図 H36号住居址遺物実測図

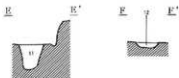
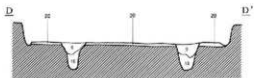
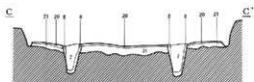
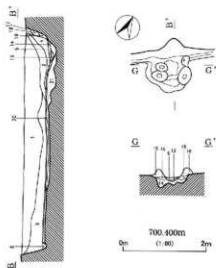
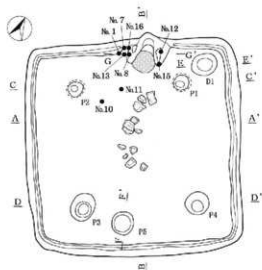
番号	器種	形状	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	杯	13.9	5.7	4.8	ロクロナデ 外面「有」筋書 底面筋書 内面「有」筋書 文様筋書・黒色肌理	90	外面10YR7/3鈍い黄褐色・黒色
2	土師器	杯	13.7	6	4.1	ロクロナデ 外面筋書・底面筋書・黒色肌理 内面筋書・底面筋書・黒色肌理	80	外面5YR6/4鈍い褐色色
3	土師器	杯	14.9	(6.9)	5	外面口出ロクロナデ 外面下部～底面筋書 内面「有」筋書・黒色肌理	50	外面5YR6/3鈍い褐色色
4	土師器	碗	14.5	7.1	4.8	外面ロクロナデ 底面筋書切り表面筋書付付 内面文様筋書・黒色肌理	80	外面5YR7/4鈍い褐色色
5	土師器	碗	15	7.2	5.8	外面ロクロナデ 底面筋書切り表面筋書付付 内面文様筋書・黒色肌理	55	外面5YR4/3鈍い赤褐色
6	土師器	碗	-	7.3	(3.2)	外面ロクロナデ 底面筋書切り表面筋書付付 内面筋書筋書	40	内外面5YR5/4鈍い赤褐色
7	土師器	羽釜	21.2	12.2	27.9	外面ヘラケズリ 筒貼り付 底面ヘラケズリ 内面ヘラケズリ	50	外面2.5Y5/3鈍い赤褐色
8	土師器	燗桶	(23)	(5)	26.1	外面上唇はロクロナデ・下部ヘラケズリ 内面ヘラケズリ	30	外面2.5Y5/3鈍い赤褐色
9	土師器	鉢	16.8	-	(11.4)	内外面ロクロナデ	40	外面5YR6/3鈍い褐色色
10	土師器	壺	(18)	-	(14.6)	口出ロクロナデ 外面筋書ヘラケズリ 内面ロクロナデ	30	内外面5YR7/4鈍い褐色色

第26表 H36号住居址遺物観察表

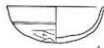
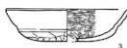
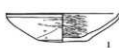
H37号住居址

遺構は43-さグリッドに位置する。調査区の関係から2回に分けて調査を行った。平面形はやや隅丸の方形である。規模は東西5.0m、南北5.0m、検出面から床面までの深さは60cmを測る。覆土はすり鉢状の自然堆積と思われる。床面は硬質で貼り床されている。壁際には幅10～15cmの溝が巡る。ピットは5個確認でき、支柱穴はP1～4で、P5は位置的に入口に関するものと考えられる。北東コーナーには径60cm、深さ70cmの土坑が存在する。カマドは北壁の中央に構築されている。両袖と火床から煙道に至る立ち上がりが残存していた。両袖は北壁から内側に60cm程度延び、粘土で構築されている。石材は認められなかった。火床には径50cm、厚さ5cmの焼土が堆積していた。煙道部へは火床から30cm程は平坦で、その後70°と急な傾斜で検出面へ立ち上がる。住居の掘方は北壁で深い他は貼り床と薄い砂主体の鈍い黄褐色土が埋め込まれている。

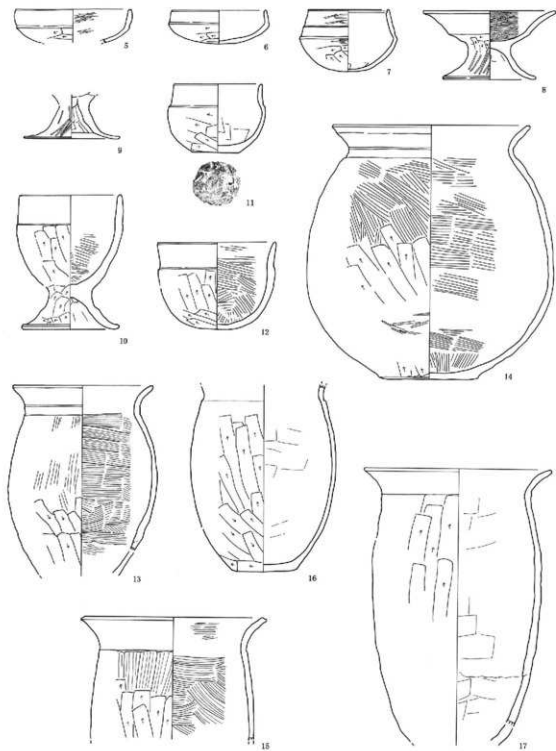
遺物は土師器の杯・甕・高杯が出土した。短脚の高杯、横做杯の形状から古墳時代後期、7世紀とした。



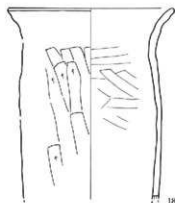
- 1 黒褐色土 (10YR2/2) r-A・軽石・炭化物。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) r-A・軽石多い、炭化物・礫土。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) r-A・軽石・炭化物。
- 4 黒褐色土 (2.5Y3/1) 礫土層。
- 5 灰褐色土 (7.5YR4/2) 灰層、焼土・炭化物。
- 6 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・r-A、しまりなし。
- 7 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・r-A・炭化物。
- 8 暗褐色土 (10YR3/4) 砂主体、しまりなし。
- 9 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・軽石。
- 10 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂主体、しまりなし。
- 11 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・r-A・軽石・炭化物。
- 12 黒褐色土 (10YR2/3) r-A・砂。
- 13 赤褐色土 (2.5YR4/6) 礫土層。(火灰)
- 14 暗赤褐色土 (5YR3/3) 砂主体、焼土・炭化物。
- 15 暗褐色土 (10YR3/3) 砂主体。
- 16 黒褐色土 (7.5YR3/1) 礫土層。
- 17 暗赤褐色土 (5YR3/3) 礫土主体、焼土・炭。
- 18 暗褐色土 (7.5YR3/3) r-A・焼土・炭。
- 19 極暗赤褐色土 (5YR2/3) 粘土・炭・焼土。
- 20 極暗褐色土 (7.5YR2/3) 炭化物・硬質。(炭)
- 21 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂主体、暗褐色土。



第55図 H37号住居址遺構・遺物実測図



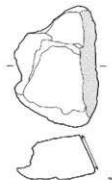
第56图 H37号住居址遗物实测图



18



19



20

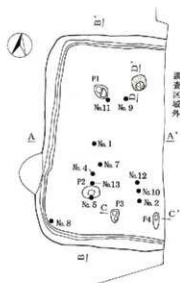
第57図 H37号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	割製・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	杯	13.8	6	3.5	外面・底部ヘラケズリ後ミガキ 内面ミガキ	99	内面黄15YR7/2黄褐色
2	土師器	杯	[14.4]	丸底	(5.2)	口辺織ナデ 外面縁部ヘラケズリ 内面放射状文	50	内面黄5YR7/4黄褐色
3	土師器	杯	[15.1]	丸底	4	外面口辺織ナデ 外縁～底部ヘラケズリ 内面ミガキ	25	外面15YR5/3黄褐色
4	土師器	杯	[17]	丸底	4.5	口辺織ナデ 外面縁部～底部ヘラケズリ 内面ヘラケナデ	30	外面7.5YR5/2黄褐色
5	土師器	杯	[14.0]	丸底	(4.1)	外面口辺織ナデ 外縁～底部ヘラケズリ 内面ミガキ	25	内外面10YR7/2黄褐色
6	土師器	杯	[11.4]	丸底	4.1	内外面口辺織ナデ 外縁～底部ヘラケズリ 内面ヘラケナデ	40	内外面15YR8/3黄褐色
7	土師器	杯	[10]	丸底	7.6	内外面口辺織ナデ後外面ミガキ 外縁～底部ヘラケズリ 内面ヘラケナデ	40	内外面5YR7/4黄褐色
8	土師器	高杯	16.1	11.5	8.4	外縁口辺外面織ナデ・外縁～底部ヘラケズリ 内面ミガキ 胴部外縁ミガキ・底縁織ナデ 内面ヘラケナデ	85	外面5YR6/6褐色
9	土師器	高杯	—	11.7	(5.8)	胴部外縁ヘラケズリ後底ミガキ 内面ヘラケナデ	胴部60	外面2.5YR5/4黄褐色
10	土師器	高杯	12.5	[12]	18.4	外縁口辺織ナデ外面縁部～底部ヘラケズリ 内面赤褐色ヘラケナデ 胴部外縁ヘラケズリ 内面ヘラケナデ	80	内外面5YR4/3黄褐色
11	土師器	鉢	10.9	5.7	8.5	口縁織ナデ 外面縁部～底部ヘラケズリ 内面ヘラケナデ	90	外面5YR5/3黄褐色
12	土師器	鉢	[14.9]	丸底	19.2	外面口辺織ナデ・外縁～底部ヘラケズリ 内面赤褐色ヘラケナデ	80	外面5YR5/3黄褐色
13	土師器	甕	[17.2]	—	(23.3)	口辺織ナデ 外面ヘラケズリ・赤褐色 内面赤褐色ヘラケナデ	60	外面6YR5/2黄褐色
14	土師器	甕	[24.4]	[12.2]	21	口辺織ナデ 外面上縁赤褐色ヘラケナデ・赤褐色・下部ヘラケズリ・下底ミガキ 胴部ヘラケズリ 内面赤褐色ヘラケナデ	40	内外面5YR7/4黄褐色
15	土師器	甕	[22.8]	—	(14.9)	口辺織ナデ 外面ヘラケズリ・赤褐色ヘラケナデ 内面赤褐色ヘラケナデ	口縁～胴部50	内外面5YR5/3黄褐色
16	土師器	甕	—	7.9	(22.9)	外面ヘラケズリ 内面ヘラケナデ	胴部～胴部	外面5YR5/2黄褐色
17	土師器	甕	23	—	(34.1)	口辺織ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラケナデ 表面粘土粒子	40	外面5YR6/2黄褐色
18	土師器	甕	20.4	—	(23.4)	口辺織ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラケナデ	40	外面5YR6/2黄褐色

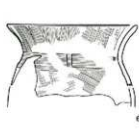
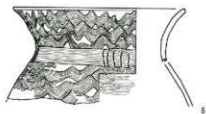
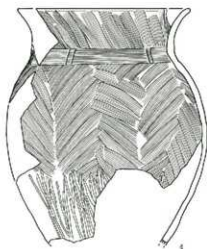
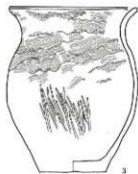
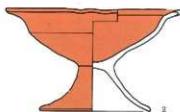
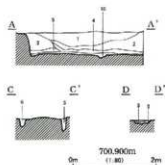
第27表 H37号住居址遺物観察表

H38号住居址

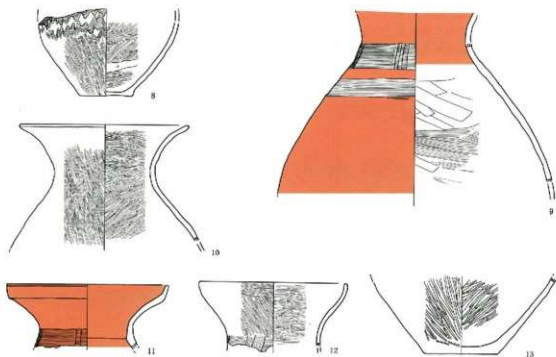
遺構は32-つグリッドに位置し、東側は調査区域外となる。平面形は調査状況からやや隅丸の方形又は長方形と考えられる。規模は南北4.8m、東西は調査規模の最大で3.1m、検出面から床面までの深さは55cmを測る。覆土はすり鉢状で自然堆積と考えられる。床面は硬質で壁際に幅10cm内外の溝が巡る。ピットは4個確認でき、P1・2が支柱穴、P3・4は入口に関するピットである。P1は北側支柱6間と思われる位置に存在する。径40cm、深さ8cmの窪み程度の掘り込みで、底面に4cm程度の粘土及び、石が1個存在する。掘方はほとんど無く、厚さ4cm内外の貼り床が存在するのみである。遺物は弥生土器の鉢・甕・壺・高杯が出土した。赤色塗彩された壺、櫛歯文を多用した甕など遺物の特徴から弥生時代後期とした。



- 1 基褐色土 (10YR2/2) 砂・軽石・炭化物。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) 砂質。砂・炭化物多い。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) 砂質。砂・炭化物多い。
- 4 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物多量。
- 5 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物多量。
- 6 黒褐色土 (10YR2/2) 砂・炭化物。しまりなし。
- 7 褐色土 (10YR4/4) 砂主体。
- 8 暗褐色土 (5YR2/3) 炭土・炭化物多い。
- 9 赤褐色土 (2.5YR4/4) 炭土層。
- 10 暗褐色土 (7.5YR2/3) 炭土・炭化物。やや砂質。しまりややあり。



第58図 H38号住居址遺構・遺物実測図



第59図 H38号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	弥生土器	鉢	14.9	5	6.4	内外両赤色塗彩	80	内外面2.5YR5/6赤赤褐色
2	弥生土器	高杯	21.7	11.5	11.5	内外両赤色塗彩 器内内面ヘラナデ	80	内外面10R5/6赤色
3	弥生土器	甕	15.8	8.1	20.3	外面上部縞線状文・下部縞ミガキ 底面ナデ	70	外底2.5YR5/6褐色
4	弥生土器	甕	[21.1]	—	(29)	内面口辺縞ナデ 内面ナデ 口縁内面縞文 器底止めの縞線状文1/4本(器底 部上部縞線状文 器下部縞ミガキ 内面ヘラナデ	50	外底3YR5/4緑い赤褐色
5	弥生土器	甕	31.3	—	(11.8)	外底縞線状文 器底止めの縞線状文1/4本(器底 ミガキ	口縁100～器底	内外面7.5YR5/6褐色
6	弥生土器	甕	16.2	—	(10.1)	口縁外底縞線状文 器底止めの縞線状文1/4本(器底 縞線状文 内面ヘラナデ	口縁100～器底	内外面2.5YR5/4緑い赤褐色
7	弥生土器	甕	16	—	(11)	口縁縞線状文 1/4内面外底ヘケ目状縞 器底外底ヘケ目状縞	口縁～器上部	内外面5YR7/4緑い褐色
8	弥生土器	甕	—	6.6	(10.6)	器底外底縞線状文 器下部縞ミガキ 内面ミガキ・ヘラナデ	器底～器中央部	外底0YR7/6褐色
9	弥生土器	甕	—	—	(23.4)	外底・口辺内面赤色塗彩 器底止めの縞線状文1/4本(器底 縞線状文山形文 器底ヘケ目状文 内面ヘラナデ・口縁縞線化ヘラナデ	口縁～器中央部	外底6YR5/4緑い赤褐色
10	弥生土器	甕	20.8	—	(15.2)	内外面ヘラミガキ	口縁～器中央部	内外面0YR7/4緑い褐色
11	弥生土器	甕	19.8	—	(7.9)	内外面赤色塗彩 器底止めの縞線状文5箇所	口縁100	内外面10R5/4赤褐色
12	弥生土器	甕	18.3	—	(8.6)	口辺内外面ミガキ 器底縞線状文・器下文5箇所	口縁100	内外面2.5YR5/2緑い赤褐色
13	弥生土器	甕	—	9.1	(8.5)	内外面ミガキ	器底～器下部	外底7.5YR5/2褐色

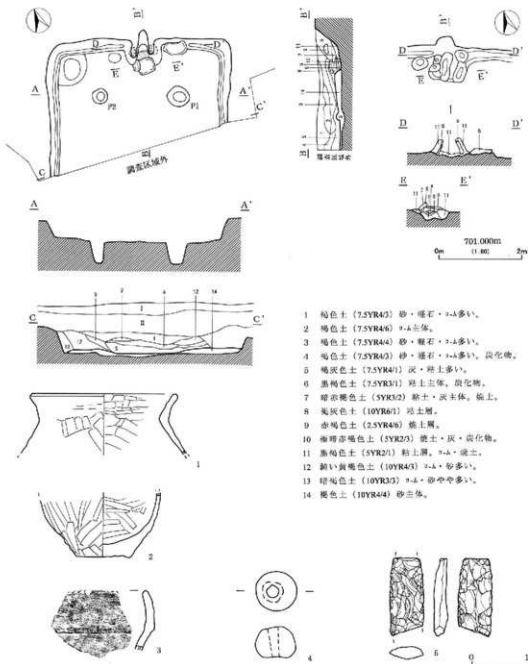
第28表 H38号住居址遺物観察表

H40号住居址

遺構は35-7でグリッドに位置し、南側は調査区域外となる。平面形は調査状況からやや隅丸の方形と考えられる。規模は東西4.2m、南北は調査規模の最大で3.0m。検出面から床面までの深さは50cmを測る。覆土はすり鉢状であるが、床面付近にロームの塊が堆積するなどの状況から一部は人為的による可能性が考えられる。床面は極薄い床が存在するが、直下は掘方の砂質土となる。壁際には幅10cm内外の溝が巡る。2個の主柱穴及び北西コーナーに径60cmの土坑が存在する。カマドは北壁中央に構築され両袖及び火床から煙道に至る立ち上がりが残存していた。袖は北壁から内側に50cm延び、内壁部分に石材が埋め込まれていた。また、焚き口部には二分された天井石が残存していた。火床には厚さ5cmの焼土が堆積し、壁側に40cmの平坦部を持った後、50°の角度で検出面に立ち上が

る。住居の壁方は10cm内外の厚みで砂主体の褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の環・甕・土玉が出土したが量は少ない。口縁端部が僅かに外反する土師器坏片から古墳時代中期としたい。また、混入遺物と考えられる尖頭器が出土した。



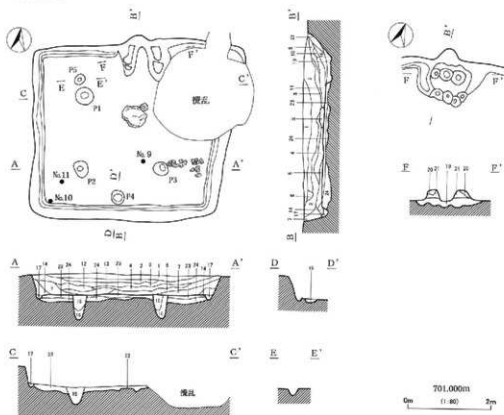
第60図 H40号住居址遺構・遺物実測図

番号	品類	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	保存率・部位	色調等
1	上埴器	壺	18.2	—	7.4	口辺外周模ナデ 外周ヘラケズリ 内面口辺ヘラケズリ 同	口縁部片	内外面10YR6/4鈍い黄棕色
2	上埴器	壺	—	6.7	8.0	斗倉・底周ヘラケズリ 内面ヘラナデ	底部～胴下部	内外面7.5YR6/4鈍い黄棕色
3	上埴器	壺	—	—	—	口辺模ナデ 内面華粒	口縁部片	内外面10YR7/4鈍い黄棕色

番号	品類	長さcm	幅cm	孔径cm	重量g	備考	番号	品類	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
4	土玉	1.2	1.25	0.3	1.37		5	尖頭器	3.85	1.7	0.6	5.24	同坑欠世-汲入遺物

第29表 H40号住居址遺物観察表

H41号住居址

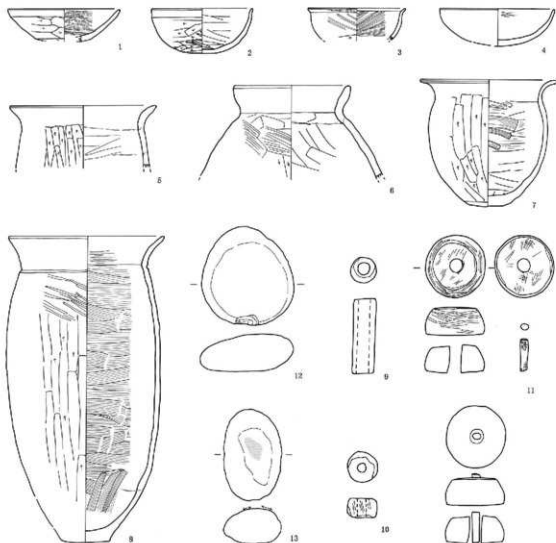


- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 砂質。±Δ・軽石・炭化物。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 砂質。±Δ・軽石・炭化物。
- 3 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂質。±Δ多い。礎石・炭化物。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 砂質。±Δ多い。軽石・炭化物。
- 5 黒褐色土 (10YR2/2) 砂質。±Δ・炭化埃多い。
- 6 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂質。±Δ多量。
- 7 褐色土 (10YR4/4) 砂質。±Δ多量。
- 8 褐灰色土 (5YR4/1) 灰・炭土主体。
- 9 黒褐色土 (5YR3/1) 灰・粘土多量。炭化物。
- 10 褐灰色土 (5YR5/1) 粘土? ±Δ。
- 11 暗赤褐色土 (2.5YR3/1) 粘土・灰・粘土多い。
- 12 暗褐色土 (10YR3/4) 砂質。±Δ・炭化物・軽石。
- 13 黒褐色土 (10YR2/3) 砂質。±Δ・炭化物・軽石。
- 14 暗褐色土 (10YR3/4) 砂質。±Δ多い。しまりなし。
- 15 暗褐色土 (10YR3/4) 砂やや多い。炭化物。しまりなし。
- 16 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂多い。しまりなし。
- 17 暗褐色土 (10YR3/3) 砂少量。しまりなし。
- 18 暗暗赤褐色土 (5YR2/3) 灰・炭化物・粘土やや多い。
- 19 暗暗褐色土 (7.5YR2/3) 灰・炭化埃少量。砂。
- 20 暗赤褐色土 (5YR3/2) 粘土層。
- 21 黒褐色土 (5YR3/1) 粘土層。
- 22 暗赤褐色土 (5YR3/3) 粘土・埃土多い。炭化物。
- 23 暗褐色土 (10YR3/3) やや軽質。(灰)
- 24 褐色土 (10YR4/4) 砂土体。

第61図 H41号住居址実測図

遺構は34-ちグリッドに位置し、H42を切り北東コーナー付近を攪乱に破壊される。平面形は方形である。規模は東西4.4m、南北4.0m、検出面から床面までの深さは50cmを測る。覆土はすり鉢状の自然堆積と考えられる。床はやや硬い面を持ち、壁際に幅10cm内外の溝が巡る。ピットは5個確認できP1~3が主柱穴、P4は入口に関するものと思われる。カマドは北壁中央に構築され、両袖の一部と煙道への立ち上がりが残存していた。袖は北壁から内側に80cm程度延び、粘土を多用している。火床と思われる位置に焼土は若干認められるが堆積しているほどではなかった。火床付近からは50°の角度で内湾気味に検出面へ立ち上がる。掘方は15cm程度の厚みで褐色・暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕・白玉・管玉・土製紡錘車が出土した。紡錘車には一部炭化した芯が残存していた。口縁端部がわずかに外反する土師器坏など5世紀後半の特徴を有する遺物も認められるが、H42の混入と考えられるため、土師器甕の形状から古墳時代後期、7世紀とした。



第62図 H41号住居址遺物実測図

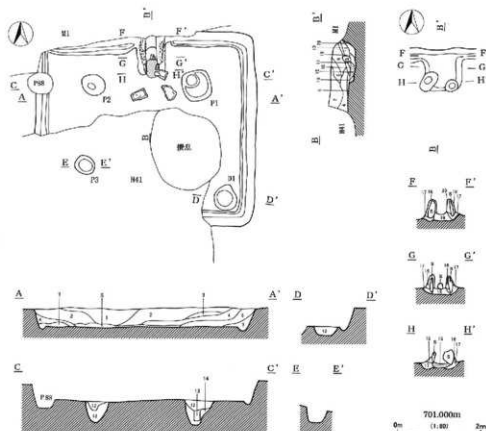
番号	器種	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	卍	13.8	6.8	40	口縁積ナデ 外面体部～底面ヘラケズリ 内面ミガキ	50	内外黄7.5YR4/3褐色
2	土師器	卍	[12.4]	丸底	5.5	口縁積ナデ 外面ヘラケズリ・ミガキ 内面ヘラナデ	50	内外黄5YR5/6暗赤褐色
3	土師器	卍	[12]	—	3.0	内外面ミガキ	口縁破片	内外黄5YR5/6暗赤褐色
4	土師器	卍	[14.5]	丸底	4.6	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	40	外面5YR6/6褐色
5	土師器	卍	[18]	—	7.6	口縁積ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁～胴部破片	内外黄5YR5/2暗褐色
6	土師器	卍	[14.4]	—	11.5	口縁積ナデ 外面ヘラケズリ後ヘラナデ 内面ヘラナデ	口縁～胴部破片	内外黄10YR7/3黄褐色
7	土師器	卍	[17]	5.8	15.5	口縁積ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	50	内外黄7.5YR6/4暗褐色
8	土師器	卍	19	5.8	27.6	口縁積ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	50	内外黄7.5YR6/4暗褐色

番号	器種	長さcm	幅cm	孔径cm	重量g	備考	番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
9	菅玉	2.3	0.8	0.29	1.83		12	磨・燧石	12.1	11.5	4.8	76.435	断面に磨打痕
10	白土	0.3	0.9	0.30	0.74	研石製	13	磨石	11.1	7.15	4.15	38.443	
11	銅線串	1.7	3.8	0.7	34.44	土製							

第30表 H41号住居址遺物観察表

H42号住居址

遺構は34-ちグリッドに位置し、H41、M1に切られる。平面形態は残存状況から方形と考えられる。規模は東西5.4m 南北4.4m 検出面から床面までの深さは45cmを測る。覆土はすり鉢状の自然堆積と考えられる。床面は全体に硬質で壁際に幅15cm内外の溝が巡る。3個の支柱穴及び南東隅に

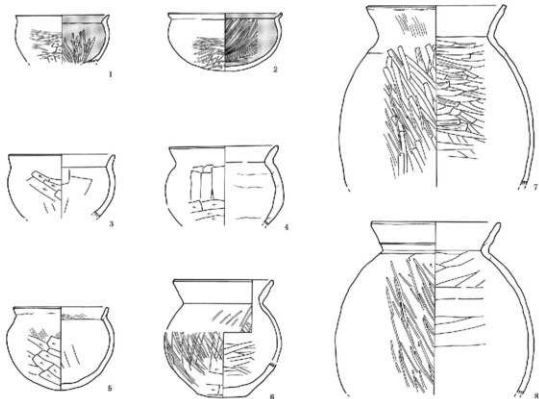


- | | |
|---------------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・炭化物。 | 11 暗褐色土 (2.5YR2/3) 黄土・灰多い。 |
| 2 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・砂・炭化物。 | 12 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・炭化物。 |
| 3 暗褐色土 (10YR3/4) 砂・砂や多い。炭化物。 | 13 暗褐色土 (10YR3/3) 砂や多い。しまりなし。 |
| 4 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・砂や多い。炭化物。 | 14 暗褐色土 (10YR3/4) 砂多い。しまりなし。 |
| 5 暗褐色土 (5YR2/0) 黄土・炭化物多い。 | 15 赤褐色土 (2.5YR4/8) 黄土層。(火床) |
| 6 暗褐色土 (7.5YR3/3) 砂・炭化物。 | 16 暗褐色土 (5YR3/2) 粘土層。 |
| 7 暗褐色土 (5YR2/3) 砂・炭化物。 | 17 暗褐色土 (5YR2/3) 砂・炭化物・粘土。 |
| 8 暗褐色土 (5YR3/2) 黄土・灰・粘土多い。 | 18 暗褐色土 (2.5YR3/3) 砂・黄土・炭化物。 |
| 9 暗褐色土 (5YR3/4) 黄土?砂・黄土・灰・粘土多い。 | 19 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂多い。 |
| 10 暗褐色土 (2.5YR2/2) 黄土・灰多い。 | 20 赤褐色土 (2.5YR4/6) 砂?内壁。粘土化。 |

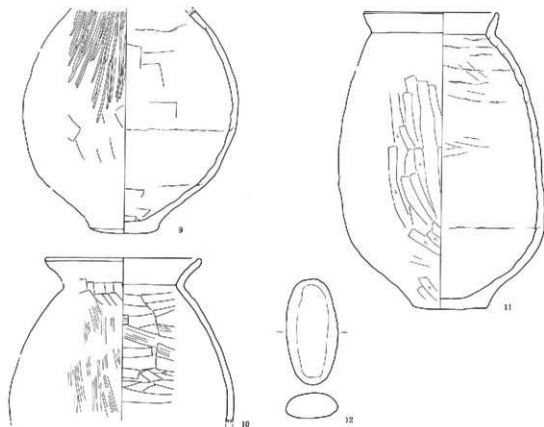
第63図 H42号住居址実測図

土坑が1個存在していた。主柱穴の深さは60cm内外を測る。カマドは北壁の中央に構築され、両袖と火床から煙道へ延びる立ち上がりが残存していた。袖は北壁から内側に90cm延び、先端の焚き口から内壁部には石材が埋め込まれていた。火床には径40cm、厚さ10cmの焼土が堆積し、北壁寄りに支脚石が認められた。煙道部へは火床から30cm平坦で、そこから40°の角度で検出面に立ち上がる。床下の掘方は認められなかった。

遺物は土師器の坏・鉢・甕・擦石が出土した。口縁端部がわずかに外反するやや深みのある土師器坏及び表面に光沢のあるナデを施すやや胴丸の土師器甕から古墳時代、5世紀後半としたい。



第64図 H42号住居址遺物実測図



第65図 H42号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	罎	[11.4]	丸底	5.90	口縁横ナデ 外面半環ミガキ・底面ヘラケズリ 内面ナデ地肌製成ミガキ 黒色地肌?	25	外面2.5YR5/6暗赤褐色
2	土師器	罎	[14]	丸底	7.1	口縁横ナデ 外面半環ミガキ・底面ヘラケズリ後ミガキ 内面ナデ地肌製成ミガキ 赤褐色地?	40	外面5YR5/3暗赤褐色地
3	土師器	罎	13	—	7.80	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	30	内外面5YR3/2暗赤褐色地
4	土師器	罎	13.3	—	6.80	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ・ヘラナデ 内面ヘラナデ	50	外面7.5YR5/2黒い褐色
5	土師器	小壺	14.6	丸底	16.2	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ・ハケ状底 内面ヘラナデ	95	外面10YR6/2暗黄褐色
6	土師器	小壺	[12.4]	丸底	6.1	口縁横ナデ 外面斜め糸底 内面ヘラナデ	40	外面3YR5/2灰褐色
7	土師器	罎	[17.2]	—	[22.1]	口縁横ナデ・縦糸底 外面斜めヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁・胴部破片	外面10YR7/4暗い黄褐色・黒褐色
8	土師器	罎	[16]	—	[21.3]	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ後ミガキ 内面ヘラナデ	30	外面7.5YR6/6褐色
9	土師器	罎	—	8.3	[27.5]	外面下部ヘラケズリ・上部ケズリ地肌製成ミガキ 内面ヘラナデ・輪状糸底	30	外面10YR7/3暗い黄褐色地
10	土師器	罎	19.2	—	[29.0]	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ後表面現るヘラナデ	口縁・胴上部	内外面7.5YR6/4暗い褐色
11	土師器	罎	[16.6]	9	26.5	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ・輪状糸底	80	外面10YR8/2R白色

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
12	磨石	12.85	11.8	3.2	338.19	—

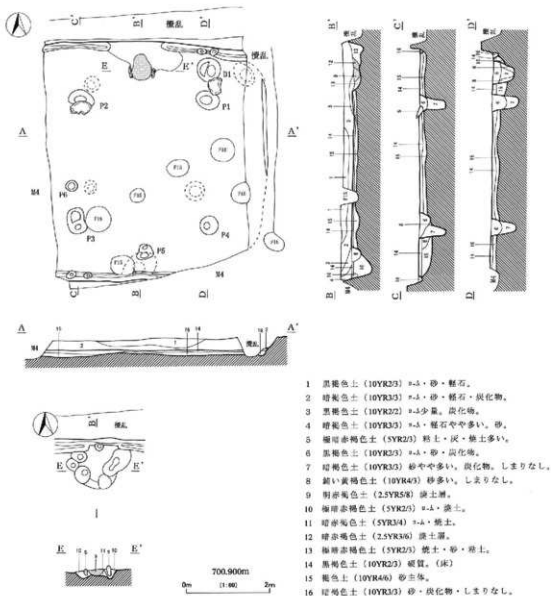
第31表 H42号住居址遺物観察表

H43号住居址

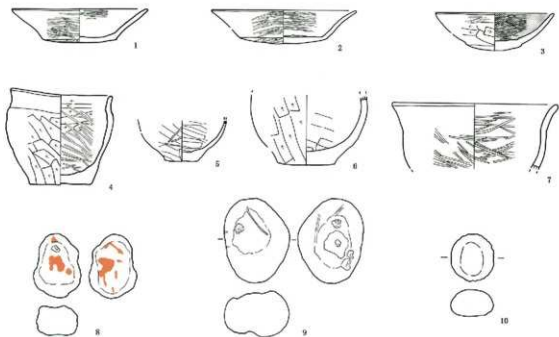
遺構は33-メグリッドに位置し、M4に切られ、東側は機乱に僅か破壊されている。平面形は不明であるが残存壁の状況から方形又は長方形と考えられる。規模は南北5.8m、東西は残存規模で5.3m、検出面から床面までの深さは30cmを測る。床面は硬く貼り床され、残存した壁際には幅10cm内

外の溝が存在する。ピットは5個確認できP1~4が支柱穴、P5は入口に関すると考えられる。カマドは北壁中央に構築されているが大きく破壊され、粘土が周辺に散在し、火床と焚き口部に埋め込まれた石材が残存していた。火床には10cmの厚みで焼土が堆積していた。住居の掘方は硬質の床直下に地山の砂主体の褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の甕、擦石・凹石が出土した。底部から大きく開く土師器坏の存在から古墳時代後期、6世紀としたい。



第66図 H43号住居址実測図



第67図 H43号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	埴	[18.6]	10.7	4.1	口縁横ナゲ後ミガキ 底面ヘラケズリ 内面みこみ彫理粧	30	内外面5YR6/6褐色
2	土師器	埴	[17.8]	10.7	4.1	口縁横ナゲ後ミガキ 底面ヘラケズリ後ミガキ みこみ彫ナゲ後一箇ミガキ	30	外面5YR6/4褐色
3	土師器	埴	[14.8]	6.6	4.8	外面口縁横ミガキ・底面ヘラケズリ 底面ヘラケズリ 外面ミガキ・底面彫理	50	外面5YR6/4褐色
4	土師器	小壺	12.6	7.6	11	口縁横ナゲ 外面ヘラケズリ 底面ヘラケズリ 外面ヘラケズリ後ミガキ 底面彫理	60	外面5YR6/4褐色
5	土師器	小壺	—	4.2	(5)	外面ヘラケズリ後一箇ミガキ 底面ヘラケズリ 外面ヘラケズリ	35	内外面5YR6/3褐色
6	土師器	小壺	—	7	(8.6)	外面ヘラケズリ 外面ヘラケズリ 底面ヘラケズリ	35	内外面5YR6/3褐色
7	土師器	鉢	[20.4]	—	30	口縁外面横ナゲ 外面ヘラケズリ後ミガキ 内面ナゲ後ミガキ	口縁・外面横ナゲ 外面10YR6/4褐色	褐色

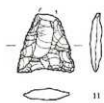
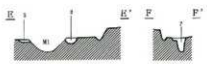
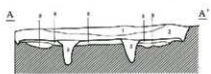
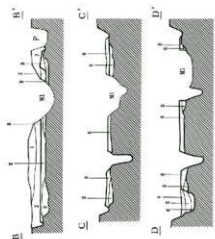
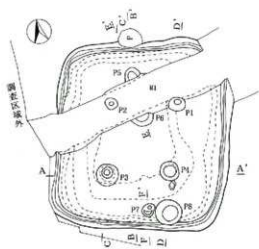
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
8	磨石	7.9	6.8	3.8	154.7	赤色顔料付着
9	磨石	10.4	8.1	5.8	325.3	滑り・擦・巻
10	押石	6.8	5.2	3.3	124.7	

第32表 H43号住居址遺物観察表

H44号住居址

遺構は36-ちグリッドに位置し、M1に切られる。平面形は隅丸方形である。規模は東西4.0m、南北4.3m、検出面から床面までの深さは40cmを測る。覆土はすり鉢状の2層で自然堆積と考えられる。床面は硬質で壁際に幅10cm内外の溝が巡る。ピットは8個認められ、P1~4が支柱穴、P7は入口に関すると思われる。焼土を伴うが確認できなかったが位置的にP6が炉である可能性が考えられる。住居の掘方は中央が高く、周辺部がやや低い状態で、周辺部の床直下には砂主体の暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器系の甕及び弥生土器の壺・甕・鉢・高坏・石鎌が出土したが量は少ない。弥生系と土師器系の古い段階の土器が混在していることから弥生時代と古墳時代の境に位置する住居址であると考えられる。



700,900m
0m 1:400 2m

- 1 暗褐色土 (10YR3/3) r-L・磁石多い。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) r-L・磁石・炭化物。
- 3 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物・灰。
- 4 黒褐色土 (10YR2/2) 磁石密・炭化物。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) 砂・r-L多い、炭化物。
- 6 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・r-L。
- 7 暗褐色土 (10YR3/3) 砂やや多い、しまりなし。
- 8 黒褐色土 (10YR2/3) 硬質(米)
- 9 暗褐色土 (10YR3/4) 砂質r-L主体。

第68図 H144号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器系?	高坪	—	13.7	(7)	胴部外面赤色塗彩・内面一帯赤彩 胴部2段の穿孔 上段4、 下段は残存せず 口径約1cm	胴部40	外面赤色
2	弥生土器	甕	—	—	—	外面條造瓦状文 縷状文	口縁破片	外面7.5YR7/4鈍い棕色
3	弥生土器	甕	—	—	—	外面條造瓦状文 縷状文	口縁破片	外面7.5YR7/4鈍い棕色
4	弥生土器	壺	—	—	—	外面條造瓦状文 赤色塗彩	口縁~胴上部破片	外面赤色釉
5	弥生土器	甕	—	—	—	外面條造瓦状文・縷状文	胴部破片	外面7.5YR5/2鈍い褐色釉
6	土師器系?	甕	—	—	—	外面條造瓦状文	胴部破片	外面5YR5/4鈍い赤褐色釉
7	弥生土器	甕	—	—	—	外面條造瓦状文	胴部破片	外面10YR7/4鈍い黄棕色
8	弥生土器	甕	—	—	—	外面條造瓦状文	胴部破片	外面10YR7/4鈍い黄棕色
9	土師器系?	甕	—	—	—	外面條造文	胴部破片	外面5YR5/4鈍い赤褐色釉
10	弥生土器	甕	—	—	—	外面條造文	胴部破片	外面10YR7/4鈍い黄棕色

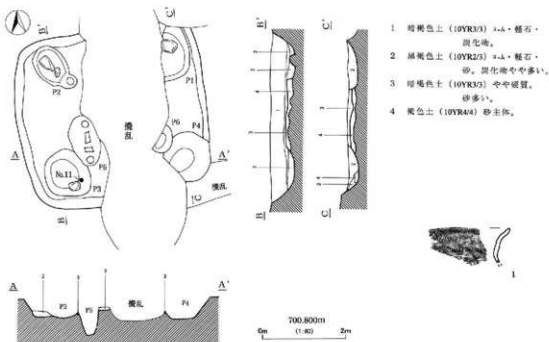
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
11	石匙	1.8	1.75	0.35	0.99	先端部欠損

第33表 H44号住居址遺物観察表

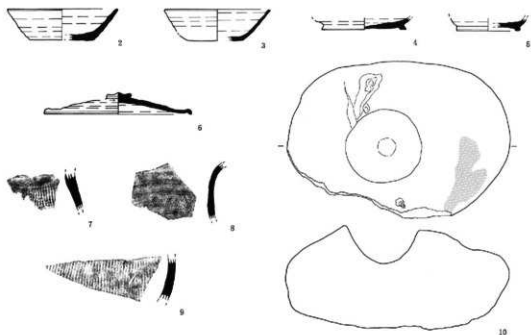
H45号住居址

遺構は35-メソグリッドに位置し、H49を切り、南北方向の中央を大きく攪乱に破壊されている。平面形は残存状況から隅丸の方形である。規模は東西4.2m、南北4.2m、検出面から床面までの深さは35cmを測る。床面はやや硬質である。ピットは6個認められたがいずれも浅い窪み程度である。P1・2には底面に石が存在した。住居の掘方は15cm内外の厚みで地山の砂主体の褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕・蓋・埴白が出土した。口縁「コ」の字状の武蔵甕の存在から平安時代、9世紀前半としたい。



第69図 H45号住居址遺構・遺物実測図



第70図 H45号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	甕	-	-	-	内外面横ナデ	口縁破片	内外面0YR3/3濃い赤褐色
2	須恵器	杯	[13.5]	[7.6]	3.8	内外面ロクロナデ 底面凹形糸切り	口縁～底縁破片	内外面10Y5/1灰白色
3	須恵器	杯	[13]	[6.7]	3.8	内外面ロクロナデ 底面凹形糸切り	口縁～底縁破片	内外面10Y5/1灰白色
4	須恵器	高台付坪	-	10.4	(1.2)	ロクロナデ 底面凹形糸切り横溝付付付	底縁破片	内外面2.5YR4/1赤灰色地
5	須恵器	高台付坪	-	7.9	1.5	ロクロナデ 底面凹形糸切り横溝付付付	底縁破片	内外面10YR7/1灰白色
6	須恵器	甕	[18]	-	2.7	ロクロナデ 外側面凹形ヘラケズリ つまみ足り付付	25	内外面10YR7/1灰白色
7	須恵器	甕	-	-	-	外面平行明き 内面ナデ	破片	内外面10YR3/1黄灰色
8	須恵器	甕	-	-	-	外面横ナデ・明き 内面自然釉付着	底縁破片	外面10YR4/1黄灰色
9	須恵器	甕	-	-	-	外面平行明き 内面ナデ	底縁破片	内外面10YR3/1黄灰色

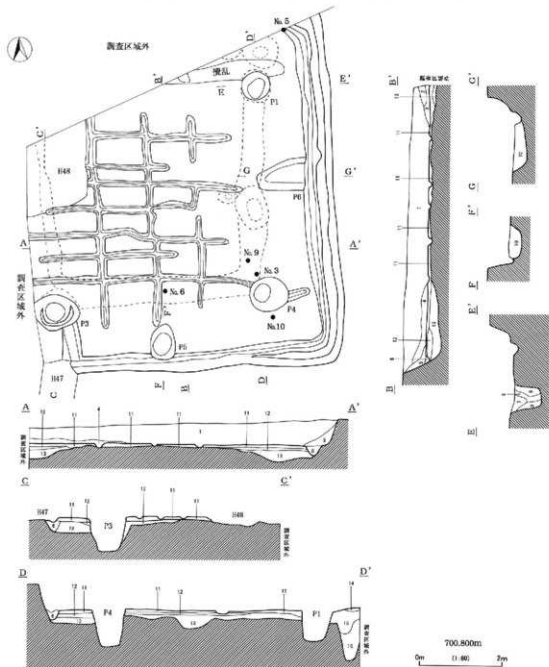
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
10	開口	19.3	27.4	1.2	7750	口径9・底径3.6

第34表 H45号住居址遺物観察表

H46号住居址

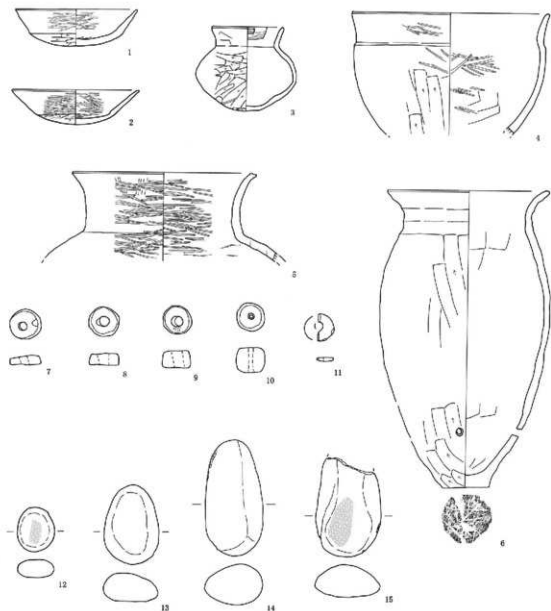
遺構は36-セグリッドに位置し、H47・48に切られ、H49を切る。北側の一部は道路調査分となり、西側は調査区域外となる。平面形は方形である。道路分を含めた全体の規模は南北8.6m、東西は調査規模で7.6m、検出面から床面までの深さは55cmを測る。(調査規模は東西7.6m、南北8.5m)床面は硬く格子状に幅15cm、深さ10cm程度の溝が掘り込まれている。壁際には幅10～15cmの溝が巡るが東の溝は壁面よりやや西側に寄る。ピットは道路調査分を含めて6個確認できP1～4が主柱穴、P5は入口に関すると考えられる。カマドは北壁の中央に構築され、両袖及び焚き口部から煙道への立ち上がりが残存していた。袖は粘土を使用し、北壁から70cm程度内側に延びている。先端には石材が埋め込まれ、焚き口部の天井石が認められた。火床には焚き口前部まで広がった焼土が堆積し、煙道部は約40°の角度で内湾気味に検出面へ立ち上がる。住居の掘方は中央部は貼り床程度と浅く、周辺部は貼り床直下を20cm程度掘り下げ、砂と暗褐色土の混合土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕・壺、須恵器の坏・甕・白玉・擦石などが出土した。丸底の底部から大きく開く土師器坏、胴上部に最大径をもつ土師器甕の存在から古墳時代後期、6世紀としたい。



第71図 H46号住居址実測図

- 1 暗褐色土 (7.5YR2/3) 砂・軽石・炭化物。
- 2 赤褐色土 (5YR2/3) 焼土・灰・炭化物やや多い。
- 3 濃い赤褐色土 (2.5YR4/4) 灰多い。焼土・粘土。
- 4 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物多い。
- 5 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・灰やや多い。炭化物。
- 6 暗褐色土 (7.5YR2/3) 砂・炭化物・しまりなし。
- 7 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・小石・軽石。しまりなし。
- 8 暗褐色土 (10YR3/4) 砂・小石・軽石。しまりなし。
- 9 濃い黄褐色土 (10YR4/3) 砂主体。しまりなし。
- 10 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・軽石・小石・炭化物。
- 11 暗褐色土 (7.5YR3/3) 覆質。(灰)
- 12 暗赤褐色土 (5YR3/3) 暗褐色土と砂の混合。
- 13 濃い赤褐色土 (5YR4/3) 砂主体。褐色土。
- 14 暗褐色土 (7.5YR2/3) 焼土・炭化物。
- 15 暗褐色土 (7.5YR3/3) 砂・炭化物。しまりなし。
- 16 暗褐色土 (7.5YR3/4) 砂・炭化物。しまりなし。



第72図 H46号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	杯	15	丸底	4.0	口辺内外面ミガキ 底部へラケズリ 内面ミガキ	50	内外面5YR4/3弱い赤褐色
2	土師器	杯	[15.6]	丸底	4.2	口辺内外面ミガキ 底部へラケズリ後ミガキ 内面ミガキ	50	内外面5YR7/6棕色地
3	土師器	蓋	8.9	丸底	10.3	口縁ハケナデ 外面へラケズリ 内面へラケナデ	90	外面2.5YR5/4弱い赤褐色地
4	土師器	甕	[24.3]	—	(3.5)	口縁後子後一帯ミガキ 外面へラケズリ 内面へラケナデ後一帯ミガキ	口縁・側面破片	内外面5YR7/4弱い棕色
5	土師器	甕	25.5	—	(10.8)	口縁後子後一帯ミガキ 外面へラケズリ後ミガキ 内面へラケナデ後一帯ミガキ	口縁・肩落	外面5YR7/4弱い棕色
6	土師器	甕	19.8	5.7	26.5	口縁後子後一帯ミガキ 外面へラケズリ 胴下部に埴1穴の穿孔	70	外面5YR5/2沢褐色

番号	器種	長さcm	幅cm	孔径cm	重量g	備考
7	白玉	0.2	0.95	0.25	0.39	磨石
8	珪石	0.2	0.9	0.22	0.08	磨石
9	珪石	0.26	0.9	0.22	0.8	磨石
10	珪石	0.75	0.9	0.15	0.5	磨石
11	白玉	0.18	0.85	0.3	0.09	磨石

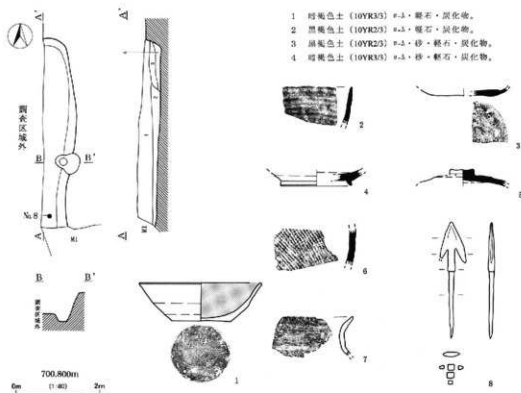
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
12	磨石	5.4	4.5	2.2	66.5	磨1面
13	磨石	5.7	6.7	3.6	88.22	
14	磨石	14.2	7.1	5	744.35	側面磨打面
15	磨・磨石	12.1	8	4	494.9	磨1面・側面磨打面

第35表 H46号住居址遺物観察表

H47号住居址

遺構は37-たグリッドに位置し、H46を切り、M1に切られ、西側は調査区域外となる。調査できた範囲は僅かである。調査規模は最大で東西60cm、南北4.4m、検出面からの深さは40cmを測る。床面はやや硬さを持ち、東壁にピットが1個存在した。カマドは認められなかった。

遺物は土師器の杯・甕、須恵器の杯・蓋・甕が出土した。口縁「コ」の字状の武蔵甕から平安時代9世紀としたい。



第73図 H47号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等	
1	土師器	埴	16	7	4.7	内外面ロクロナデ 底面中央部切り底丸縁部ヘラケズリ	内面	98	外面7.5YR7/4黒い褐色
2	須恵器	埴	-	-	-	内外面横ナデ	口縁破片	外面10YR4/1黒褐色	
3	須恵器	埴	-	[7.8]	(1)	ロクロナデ 底面中央部切り	底面破片	内外面10YR8/1黒褐色	
4	須恵器	高台付埴	-	[8.6]	(2)	高台部付け	底面破片	外面10Y5/1黒色	
5	須恵器	蓋	-	-	(2.1)	内外面ロクロナデ 底面3筋条切り つまみ部付け	天井部破片	内外面5Y6/1灰白色	
6	須恵器	蓋	-	-	-	外面磨子状切ぎ	底面破片	外面7.5Y7/1灰白色	
7	土師器	埴	-	-	-	ロクロナデ	口縁破片	内外面7.5YR5/4黒い褐色	

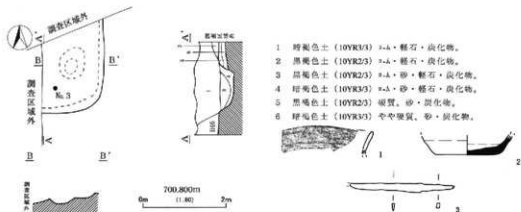
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
8	鉄皿	14.3	3.2	0.7	22.31	伊州一徳文館

第36表 H47号住居址遺物観察表

H48号住居址

遺構は37-メグリッドに位置する。H46を切り、北側は道路調査分となり一部攪乱に破壊される。西側は調査区域外となる。平面形態は貼り床の残存状況から隅丸の方形又は長方形と考えられる。調査規模は東西1.5m、南北3.0m、検出面から床面までの深さは西側断面から50cm内外と考えられる。床面は硬く貼り床されている。床面上でピット、カマド等は確認できなかった。

遺物は土師器の甕、須恵器の埴が出土した。量は少なく破片が大半を占める。底部ヘラ削りを施す須恵器埴の存在から奈良時代としたい。



第74図 H48号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	埴	-	-	-	ロクロナデ	口縁破片	内外面2.5YR5/4黒い赤褐色
2	須恵器	埴	-	[7.8]	(2.5)	外面ロクロナデ 底面ヘラケズリ	底面一体部破片	内外面10YR3/1黒褐色

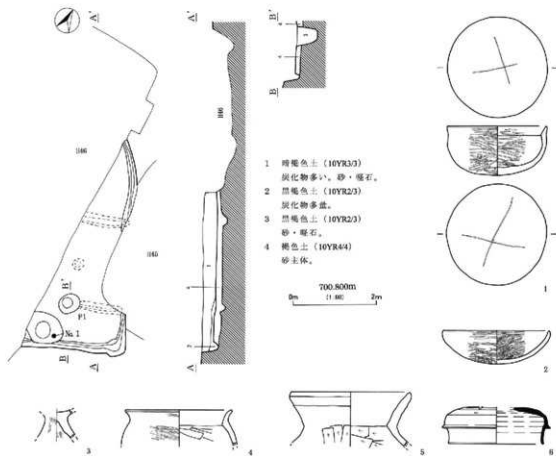
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
3	刀子	12.9	1.2	0.4	0.98	伊州一徳文館

第37表 H48号住居址遺物観察表

H49号住居址

遺構は35-メグリッドに位置し、H45、H46に切られる。平面形態は残存状況から方形又は長方形と考えられる。残存規模は最大で東西2.4m、南北5.0m、検出面から床面までの深さは32cmを測る。床面はやや硬さを持ち、壁際に溝が巡る。ピットは3個確認できP1が柱柱穴で、柱柱穴から壁へ延びる東西方向の溝が2本存在した。間仕切りに関する可能性が伺える。カマドは確認できなかった。掘方は地山の砂主体の褐色土が15cmの厚みで埋め込まれていた。

遺物は土師器の埴・高埴・甕、須恵器の蓋が出土した。須恵器蓋の形状から古墳時代中期、5世紀としたい。



第75図 H49号住居址遺構・遺物実測図

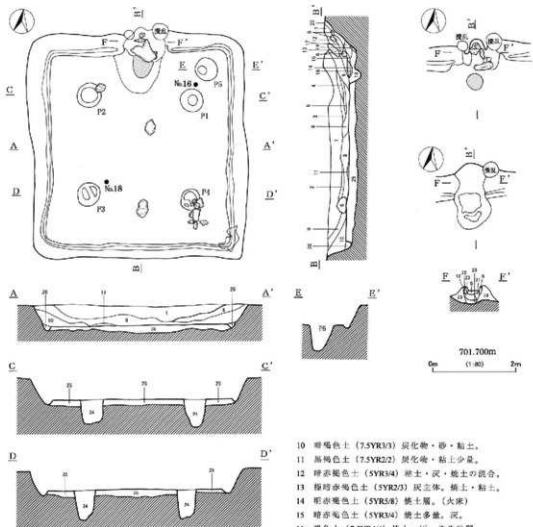
番号	器種	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	埋存層・部位	色調等
1	土師器	罎	12.3	丸底	6.1	口縁細ナデ・ミガキ 体部~底部ヘラケズリ横ミガキ 内面ミガキ 高麗・内面みこみ調にヘタ記号「X」	25	外面2.5YR6/4褐色
2	土師器	罎	[13.3]	丸底	4.1	内外面ミガキ	25	外面10YR6/3褐色・黄褐色地
3	土師器	高杯	-	-	(3.5)	外面ハケ状 内面ヘラナデ	25	外面7.5YR6/3褐色・褐色
4	土師器	小笠	[13.5]	-	(4.4)	外面ミガキ 内面ヘラナデ	口縁~胴部破片	外面7.5YR4/1褐色
5	土師器	甕	[15]	-	(6.7)	口縁細ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁~胴部破片	外面7.5YR6/4褐色・褐色
6	土師器	甕	[11.8]	-	4.5	口縁細ナデ 天部細部ヘラケズリ	25	外面7.5Y4/1褐色

第38表 H49号住居址遺物観察表

H50号住居址

遺構は13-セグリッドに位置する、平面形態は方形である。規模は東西5.2m、南北5.4m、検出面から床面までの深さは48cmを測る。床面は硬質で壁際に幅15cm程度の溝が巡る。ピットは深さ65cm内外の支柱穴が4本、北東コーナーにピット状の土坑が認められる。カマドは北壁中央に構築されている。石材と粘土で構築された袖及び天井石の一部と火床から煙道にかけての立ち上がりが残存していた。火床には径60cm、厚さ10cmの焼土が堆積し、煙道部は火床から50cmの位置において約50°の角度で検出面に立ち上がる。掘方は全体に15cm程度の厚みで暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の罎・高杯・鉢・甕、石製品、鉄釘が出土した。土師器罎及び甕の形状から古墳時代後期、6世紀としたい。

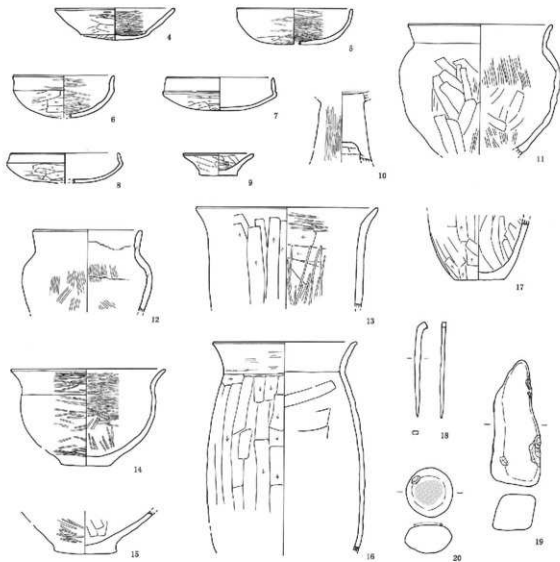


- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・軽石・炭化物。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・軽石・炭化物。
- 3 暗赤褐色土 (5YR2/3) 粘土・粘土少量。
- 4 暗赤褐色土 (5YR3/3) 粘土・粘土少量。
- 5 暗赤褐色土 (7.5YR2/3) 粘土・粘土少量。
- 6 暗赤褐色土 (2.5YR3/4) 粘土層。
- 7 暗赤褐色土 (2.5YR3/6) 粘土層。粘土・炭化物。
- 8 黒褐色土 (5YR2/2) 粘土・炭。
- 9 暗赤褐色土 (7.5YR2/3) 炭化物・砂・粘土。

- 10 暗褐色土 (7.5YR3/3) 炭化物・砂・粘土。
- 11 黒褐色土 (7.5YR2/2) 炭化物・粘土少量。
- 12 暗赤褐色土 (5YR3/4) 粘土・炭・粘土の混合。
- 13 暗赤褐色土 (5YR2/3) 泥主体。粘土・粘土。
- 14 暗赤褐色土 (5YR3/8) 粘土層。(穴床)
- 15 暗赤褐色土 (5YR3/4) 粘土多量。炭。
- 16 褐色土 (7.5YR4/4) 粘土・炭、やや砂質。
- 17 暗褐色土 (7.5YR3/3) 砂・炭。粘土少量。
- 18 暗赤褐色土 (7.5YR2/3) 砂・炭。粘土少量。
- 19 暗褐色土 (7.5YR3/4) 砂多い。炭化物。
- 20 暗赤褐色土 (5YR3/4) 粘土。やや砂質。
- 21 暗赤褐色土 (2.5YR3/3) 粘土層。
- 22 暗赤褐色土 (2.5YR2/2) 粘土・炭化物。
- 23 暗赤褐色土 (5YR3/3) 粘土・砂。
- 24 暗褐色土 (10YR3/3) 砂と暗褐色土の混合。しまりなし。
- 25 暗褐色土 (7.5YR3/3) 砂・軽石。土面やや硬質。
- 26 暗褐色土 (10YR3/4) 砂多い。しまりなし。



第76図 H50号住居址遺構・遺物実測図



第77図 H50号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	鉢	[16.2]	9.2	4.2	外面体部横ナデミガキ 底部ヘラケズリ 内面ミガキ・黒色結核	50	外面5YR7/0褐色・内面黒色
2	土師器	鉢	[16.4]	9	3.9	外面体部横ナデ後ミガキ 底部ヘラケズリ横ミガキ 内面ミガキ・黒色結核	50	外面7.5YR4/3褐色胎
3	土師器	坪	[16.4]	—	(4.6)	口縁～体部横ナデ後ミガキ 底部ヘラケズリ 内面ミガキ	口縁～底部破片	内外面2.5YR5/9褐色斑色
4	土師器	坪	[14.7]	8.4	3.9	口縁～体部横ナデ後ミガキ 底部ヘラケズリ 内面ミガキ	30	外面10YR7/3褐色・底面白・黒色
5	土師器	坪	[14.9]	丸底	4.4	口縁～体部横ナデ後ミガキ 底部ヘラケズリ 内面ミガキ	25	内外面5YR5/9褐色斑色
6	土師器	坪	[12.4]	丸底	5.2	口縁横ナデ後ミガキ 体部～底部ヘラケズリ・ミガキ 内面ミガキ	25	外面10YR6/4褐色・裏面黒色
7	土師器	鉢	[13.7]	丸底	3.6	口縁横ナデ 体部～底部ヘラケズリ 内面ナデ	25	外面10YR4/1褐色胎
8	土師器	鉢	[13.2]	丸底	4.1	口縁横ナデ 体部～底部ヘラケズリ 内面ナデ	80	内外面7.5YR6/4褐色胎
9	土師器	鉢	8.6	4.6	2.8	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	50	内外面10YR7/3褐色・裏面黒色

第39表 H50号住居址遺物観察表

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	色調等
10	土師器	高坪	-	-	36.0	外面縦ミガキ 内面ヘラナデ 黒色粘土	口縁50%	外面5YR5/4緑い棕色
11	土師器	甕	17.8	-	(16.1)	口縁ナデ 外面ヘラナデ・ハケ状痕 内面ヘラナデ・ハケ状痕	口縁・胴部遺片	内外面5YR5/6棕色
12	土師器	甕	[13.4]	-	(10)	口縁ナデ 外面ヘラナデ・ハケ状痕 内面ヘラナデ・ハケ状痕	口縁・胴部遺片	外面5YR5/4緑い棕色
13	土師器	甕(2)	[22.4]	-	(12.2)	口縁ナデ 外面縦ヘラナデ 内面口縁ナデ・縦ミガキ 外面ヘラナデ・横ミガキ	口縁・胴部遺片	外面5YR5/4緑い棕色
14	土師器	鉢	[19.1]	6.1	11.8	口縁内外面縦ミガキ 外面ヘラナデ・横ミガキ 内面ヘラナデ	30	外面2.5YR5/6棕色粘
15	土師器	甕	-	7.6	(5.2)	外面ヘラナデ・横ミガキ 内面ヘラナデ	底部・胴下部	外面5YR5/3緑い赤棕色
16	土師器	甕	17.6	-	(20)	口縁ナデ 外面ヘラナデ 内面ヘラナデ	60	外面5YR7/6褐色粘
17	土師器	甕	-	6.1	(8.1)	外面ヘラナデ 底部ヘラナデ 内面ヘラナデ	底部・胴下部	外面5YR5/2K褐色

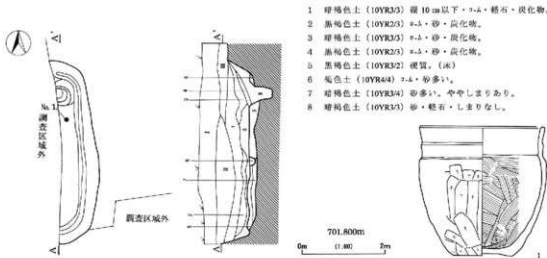
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考	番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
18	瓦釘	11.7	0.7	0.4	12.81		19	瓦釘	15.5	6.1	4.9	721.62	内面に瓦打痕
20	瓦釘	5.9	0.7	2.3	171.15								

第40表 H50号住居址遺物観察表

H51号住居址

遺構は15-タグリッドに位置し、H52を切り、西側の大半は調査区域外となる。調査規模は東西80cm、南北4.4m、検出面から床面までの深さは60cmを測る。床面はやや硬さを持ち、壁際に溝が巡る。北東コーナーに径55cm、深さ60cmを測るビット状の土坑が存在する。掘方は床面直下に暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の甕が出土したが量は少ない。遺物の特徴から古墳時代後期とした。



- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 深10cm以下・コ・粘・軽石・炭化物。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) コ・粘・砂・炭化物。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) コ・粘・砂・炭化物。
- 4 黒褐色土 (10YR2/3) コ・粘・砂・炭化物。
- 5 黒褐色土 (10YR3/2) 硬質。(床)
- 6 褐色土 (10YR4/4) コ・粘・砂多。
- 7 暗褐色土 (10YR3/4) 砂多。ややしまりあり。
- 8 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・軽石・しまりなし。

第78図 H51号住居址遺構・遺物実測図

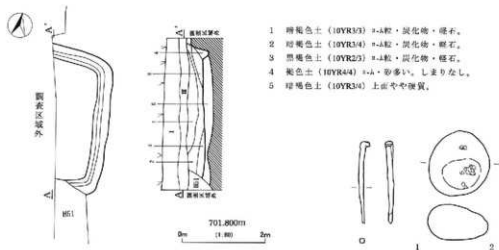
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	甕	15.4	7.3	13.8	口縁ナデ・有段 外面ヘラナデ 内面カシ状縦線ヘラナデ	90	外面5YR5/2K褐色

第41表 H51号住居址遺物観察表

H52号住居址

遺構は15-タグリッドに位置し、H51に切られ、西側の大半は調査区域外になる。調査規模は東西1.2m、南北3.2m、検出面から床面までの深さは60cmを測る。床面は硬質で壁際に溝が巡る。ビットは確認されなかった。掘方は壁際最深部で25cmを測り、暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は須恵器の坏・蓋、土師器の甕が出土したが破片が多く量も少ない。底部回転糸切り後未調整の須恵器坏から平安時代とした。



第79図 H52号住居址遺構・遺物実測図

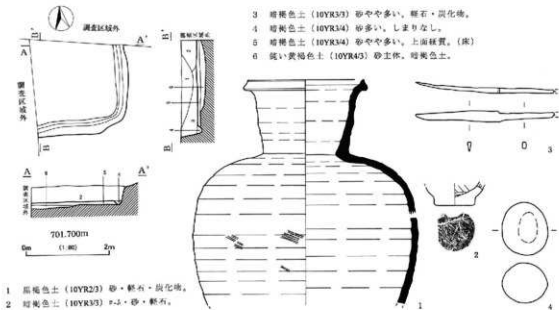
番号	品名	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考	番号	品名	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
1	釘	10.2	0.6	0.7	12.74		2	礫石	5	7.4	4.4	302.8	

第42表 H52号住居址遺物観察表

H53号住居址

遺構は16-レグリッドに位置し、北側は道路調査分、西側は調査区域外となる。道路分を含めた規模は東西2.4m、南北4.8m。検出面から床面までの深さは40cmを測る。(調査規模は東西2.4m、南北2.4m) 床面はやや硬質で実際に溝が巡る。ピットは確認されなかった。掘方は4~12cmの厚みで地山の砂を多く含む鈍い黄褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕が出土した。底部回転系切りの須恵器坏の存在から奈良時代としたい。



第80図 H53号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	須恵器	甕	14.2	-	27.3	口縁ロソデ 胴部外面自然釉付着 丹前一部印さ	口縁-胴部	内外面10YR5/2灰褐色
2	土師器	甕	-	5	2.6	底面木葉文	底部	内外面10YR7/4緑・黄褐色

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
3	刀子	17.2	1.4	0.8	24.12	

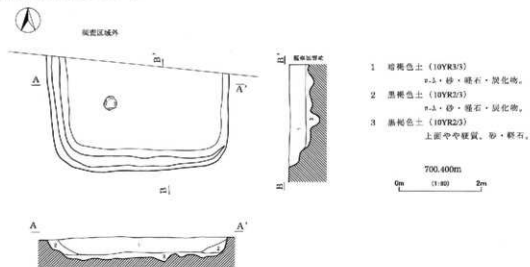
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
4	磨石	6.4	3.6	4.9	253.25	

第43表 H53号住居址遺物観察表

H57号住居址

遺構は39-かグリッドに位置し、北側半分は道路調査区域となる。平面形態は南北に長い隅丸長方形で、道路分を含めた規模は東西5.3m、南北6.3m、検出面から床面までの深さは50cmを測る。(調査規模は東西5.3m、南北2.7m)床は貼り床され硬質で、北壁と西壁に段を有する。ピットは認められなかった。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕・蓋が出土した。本調査区内では破片が大半である。北側の道路調査部分において形状の確認できる遺物が出土し、口縁「コ」の字状になりかけの武蔵甕の存在から奈良時代としたい。

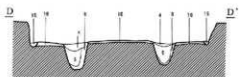
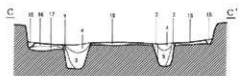
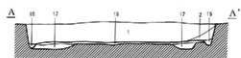
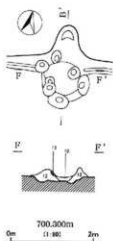
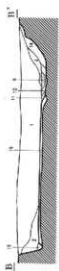
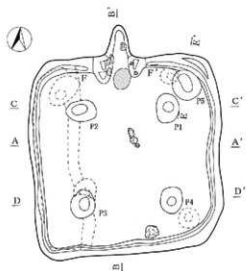


第81図 H57号住居址実測図

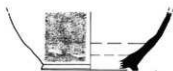
H59号住居址

遺構は41-くグリッドに位置し、H60を切る。平面形態は隅丸方形である。規模は東西4.5m、南北4.6m、検出面から床面までの深さは60cmを測る。床面は貼り床され全体に硬質である。壁際には幅10cm内外の溝が巡る。ピットは主柱穴が4個認められ、深さは55cm内外を測る。北東コーナーには径80cm、深さ20cmの土坑が存在する。カマドは北壁中央に位置し、両袖と火床から煙道部に至る立ち上がりが残存していた。袖は粘土で構築され、西袖の内壁部に一部石材が埋め込まれていた。火床には径50cm、厚さ8cmの厚みで焼土、灰が堆積していた。煙道部は火床から20cmほど平坦で、その後40°の角度で検出面に立ち上がる。住居の掘方は西側の一部が20cmほど深く掘り込まれている他は全体に5cm内外の貼り床となる。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・甕が出土した。量は少なく、破片が大半を占める。底部全体にヘラ削りを施した須恵器坏の存在から奈良時代、8世紀前半としたい。



- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 多量の砂・軽石・炭化物。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) 多量の砂・軽石・炭化物。
- 3 赤褐色土 (10R2/1) 粘土層。炭化物・砂。
- 4 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・炭化物。しまりなし。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) 砂主体。しまりなし。
- 6 暗褐色土 (10YR3/5) 砂・軽石。しまりなし。
- 7 暗褐色土 (10YR3/3) 砂多い。しまりなし。
- 8 黒褐色土 (10YR3/2) 砂多い。しまりなし。
- 9 暗赤褐色土 (2.5YR3/6) 粘土層。(火床)
- 10 赤褐色土 (2.5YR2/1) 灰多い。粘土少量。
- 11 褐色土 (7.5YR4/3) 砂多い。
- 12 黒色土 (7.5YR2/1) 粘土層。
- 13 暗赤褐色土 (2.5YR3/6) 3y' 内層。粘土化
- 14 暗褐色土 (7.5YR3/3) 粘土・炭化物少量。
- 15 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・炭化物。しまりなし。
- 16 黒褐色土 (10YR2/3) 硬質。(灰)
- 17 暗褐色土 (10YR3/3) 砂や多い。



第82図 H59号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口徑cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	葉面器	葉	-	[11.6]	7.1	口沿ロケナデ 底部両面彫り付	底部・側下縁部	内外面N3/C暗灰色
2	葉面器	坪	13.9	8.4	4.2	口沿ロケナデ 底部ヘラケズリ	80	内外面2Y7.5/3灰黄色
3	土師器	坪	[14.5]	丸底丸縁	3.0	口縁横ナデ 底部ヘラケズリ 内面黒色粘り	30	外面5YR5.6褐色粒

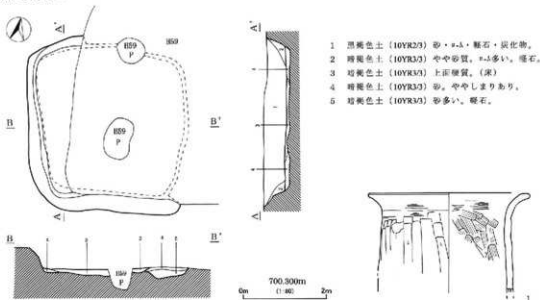
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
4	砥石	8.8	5	3.5	159.7	砥石1

第44表 H59号住居址遺物観察表

H60号住居址

遺構は42-くグリッドに位置し、H59に切られる。平面形は残存状況から隅丸方形と考えられる。規模は南北3.6m、東西は残存規模で3.2m、検出面から床面までの深さは60cmを測る。残存した床面は硬質である。壁面は砂質土に掘り込まれていることから壁面上部は崩落している。壁際の溝、ピット、カマドは確認できなかった。住居址の掘方は僅かにH59より深く掘り下げられていたことから床面のおおよその範囲を確定することができた。

遺物は土師器の坏・甕が出土した。量は少なく、破片が大半を占める。遺物の特徴から古墳時代後期としたい。



第83図 H60号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	器形	口徑cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	葉	[20]	-	(4.2)	口沿ロケナデ 外面ヘラケズリ 内面条線残るヘラケナデ	40	内外面5YR5/2暗・赤褐色

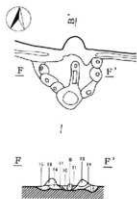
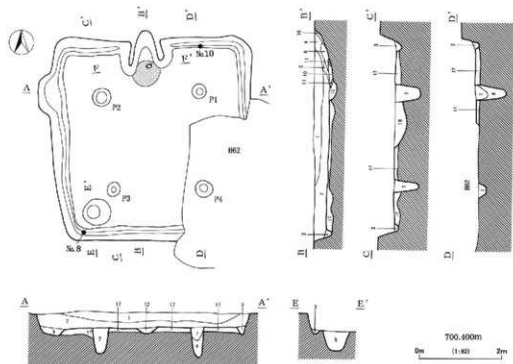
第45表 H60号住居址遺物観察表

H61号住居址

遺構は39-くグリッドに位置し、H62に切られる。平面形態はやや隅丸の方形である。規模は東西4.6m、南北4.6m、検出面から床面までの深さは40cmを測る。覆土はすり鉢状の2層である。床面は全体的に硬質で、壁際に幅10～15cmの溝が巡る。ピットは主柱穴が4個認められ、南西コーナーには径70cm、深さ50cmの土坑が存在する。カマドは北壁の中央に構築されている。両袖と火床から煙道への立ち上がりが残存していた。火床には径60cm、厚さ8cmの焼土が堆積し、中央には白色の粘土が堆積していた。袖は北壁から住居内に60cm程度延び、粘土で構築され、残存した袖の表面は一部焼土化していた。火床から煙道部へは35cm程度平坦の後30°の傾斜で、やや内湾気味に検出面へ

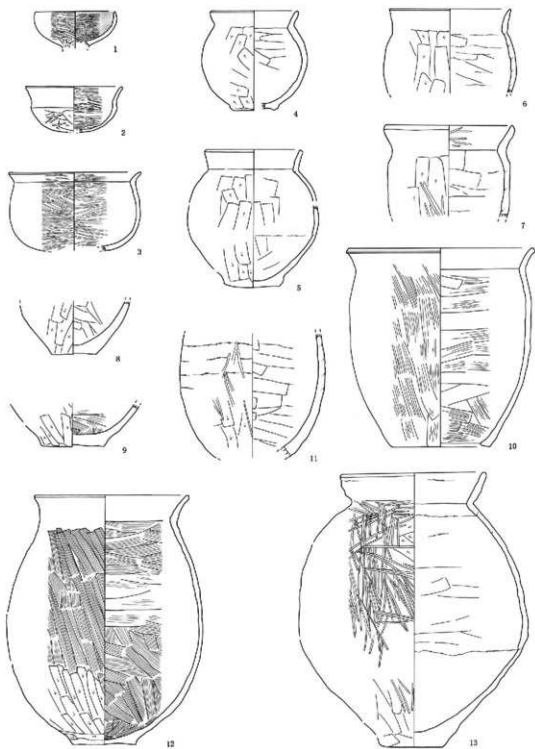
立ち上がる。住居の掘方は砂混じりで上面硬質の暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・高坏・甕・鉢・白玉が出土した。土師器の長胴甕が見あたらないこと、口縁端部が僅かに外反する土師器坏から古墳時代中期、5世紀後半としたい。

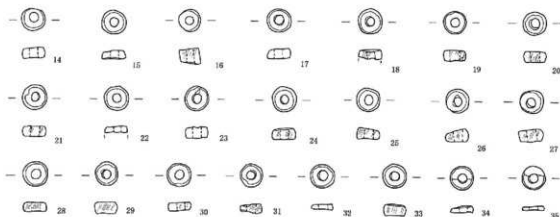


- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・小石・ α - β -燧石・炭化物。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・小石・ α - β -燧石・炭化物。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) 砂やや多い。しまりなし。
- 4 暗赤灰色土 (2.5YR3/4) 粘土層。
- 5 暗赤灰色土 (2.5YR3/1) 粘土層。一部礫土化。
- 6 極暗赤褐色土 (2.5YR2/4) 粘土・粘土・炭。
- 7 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・軽石・しまりなし。
- 8 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂主体。しまりなし。
- 9 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・しまりなし。
- 10 灰白色土 (10YR7/1) 白色粘土層。
- 11 赤褐色土 (2.5YR4/6) 粘土層。
- 12 赤褐色土 (2.5YR2/1) 炭・炭化物。
- 13 極暗赤褐色土 (2.5YR2/3) 粘土層。やや礫土化。
- 14 極暗赤褐色土 (2.5YR2/4) 粘土・砂。やや礫土化。
- 15 極暗褐色土 (7.5YR2/3) 粘土層・粘土・炭化物。
- 16 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・ α - β -炭化物。
- 17 暗褐色土 (10YR3/3) 上面やや硬質。砂やや多い。
- 18 暗褐色土 (10YR2/3) 砂少量。炭化物。

第84図 H61号住居址実測図



第85图 H61号住居址遺物実測図



第86図 H61号住居址遺物実測図

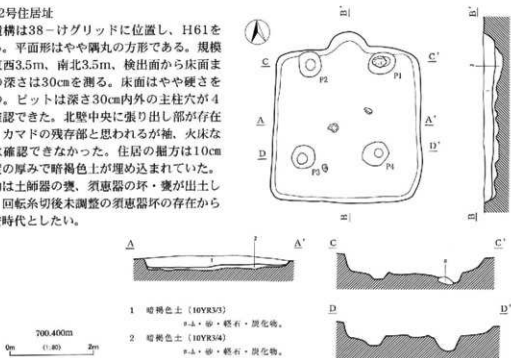
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	高杯	[10.2]	—	54.0	外周外縁ミガキ・底面ヘラケズリ 内面ミガキ・黒色光澤	片断30	外面5YR5/6暗赤褐色
2	土師器	杯	[12]	丸底	5.7	口辺横ナデ 外周外縁〜底面ヘラケズリ 内面ミガキ	25	外面2.5YR5/4暗い赤褐色 内外面5YR5/6暗色
3	土師器	鉢	[16.3]	丸底	9.6	外周ミガキ 内面ミガキ	25	内外面5YR5/6暗色
4	土師器	小器皿	[10.0]	5.8	12.2	外側・底面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	30	外面5YR5/7暗い赤褐色
5	土師器	甕	12	7.2	16.8	口辺横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	45	外面5YR4/3暗い赤褐色
6	土師器	甕	[15]	—	[16.3]	口辺横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ・輪縁み肌	口縁〜面上部破片	内外面5YR5/6暗褐色
7	土師器	甕	[16.3]	—	[11.3]	口辺横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁〜胴上部破片	内外面5YR5/6暗褐色
8	土師器	甕	—	5.5	9.6	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	胴部〜胴下部	外面5YR5/4暗い赤褐色
9	土師器	甕	—	7.6	9.3	外面ヘラケズリ 内面輪帯イハケ収め残るナデ	胴部〜胴下部	内外面5YR5/6暗赤褐色
10	土師器	甕	[20.2]	[12]	24.3	内外周縁残るヘラナデ	30	内外面5YR5/6暗褐色
11	土師器	甕	—	—	[15.2]	外面ヘラケズリ・ミガキ・輪縁み肌 内面ヘラナデ	胴縁破片	外面10YR5/3暗い黄褐色
12	土師器	甕	19	7.6	36.7	口辺横ナデ 外面上半部底面残るヘラ又はヘラナデ・下部ヘラケズリ 古縁多量残るヘラ又はヘラナデ	70	外面10YR5/2暗い黄褐色
13	土師器	甕	17.8	7.7	33.8	口辺横ナデ 外面ヘラケズリ残ナデ 内面ヘラナデ・輪縁み肌	80	外面7.5YR5/4暗い褐色

番号	器種	口径cm	底径cm	長さcm	重量g	備考	番号	器種	口径cm	底径cm	長さcm	重量g	備考
14	白瓦	0.3	0.7	0.35	0.29		25	白瓦	0.3	0.75	0.35	0.27	
15	白瓦	0.28	0.75	0.25	0.2		26	白瓦	0.3	0.7	0.4	0.28	
16	白瓦	0.2	0.7	0.5	0.33		27	白瓦	0.2	0.75	0.55	0.28	
17	白瓦	0.3	0.75	0.3	0.25		28	白瓦	0.32	0.75	0.25	0.24	
18	白瓦	0.28	0.75	0.3	0.24		29	白瓦	0.3	0.7	0.35	0.29	
19	白瓦	0.35	0.7	0.35	0.28		30	白瓦	0.3	0.75	0.25	0.19	
20	白瓦	0.32	0.7	0.35	0.3		31	白瓦	0.3	0.7	0.3	0.2	
21	白瓦	0.28	0.75	0.35	0.29		32	白瓦	0.33	0.7	0.2	0.12	
22	白瓦	0.25	0.75	0.2	0.14		33	白瓦	0.3	0.7	0.35	0.27	
23	白瓦	0.3	0.7	0.35	0.28		34	白瓦	0.3	0.7	0.2	0.12	
24	白瓦	0.35	0.75	0.25	0.27		35	白瓦	0.3	0.7	0.15	0.06	

第46表 H61号住居址遺物観察表

H62号住居址

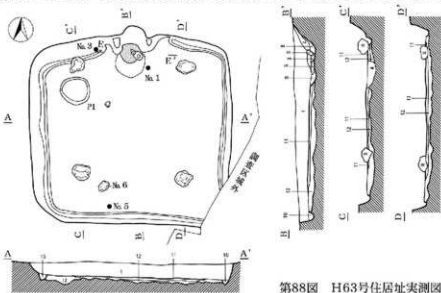
遺構は38-けグリッドに位置し、H61を切る。平面形はやや隅丸の方形である。規模は東西3.5m、南北3.5m、検出面から床面までの深さは30cmを測る。床面はやや硬さを持つ。ピットは深さ30cm内外の主柱穴が4個確認できた。北壁中央に張り出し部が存在し、カマドの残存部と思われるが袖、火床などは確認できなかった。住居の掘方は10cm程度の厚みで暗褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の甕、須恵器の環・甕が出土した。回転糸切後木調整の須恵器環の存在から平安時代としたい。



第87図 H62号住居址実測図

H63号住居址

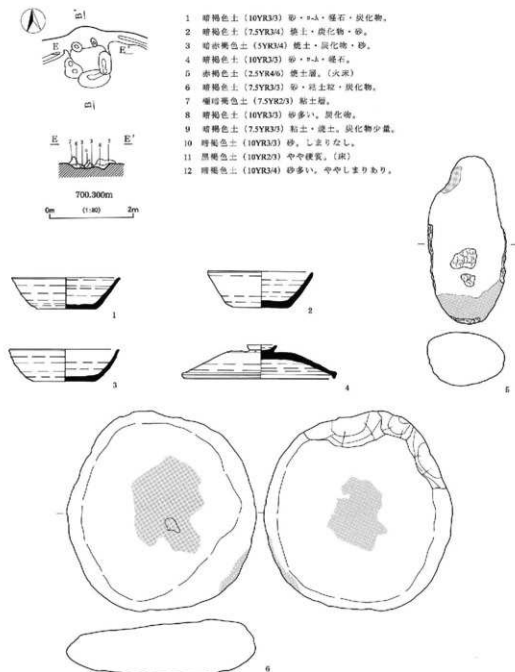
遺構は37-きグリッドに位置し、H64・65を切る。平面形は北壁はやや開いた隅丸方形である。規模は東西4.6m、南北4.1m、検出面から床面までの深さは40cmを測る。覆土は暗褐色土の単層である。床面は貼り床され硬質で、壁際に幅10cm程度の溝が巡る。ピットは認められないが、支柱を据えたと考えられる川原石を利用した礎石が床面上に4個確認できた。カマドは北壁の中央に構築されている。大半が破壊されているが、僅かな両袖と火床から煙道部への立ち上がりが残存していた。火床には径70cm、深さ8cmの焼土が堆積し、中央に支脚石が埋め込まれていた。袖は粘土で構築され、北壁から内側に30cm延びていた。火床から煙道部へは50°の傾斜で検出面へと立ち上がる。住居の掘方は5cmの貼り床直下に8cm内外の厚みで暗褐色土が埋め込



第88図 H63号住居址実測図

まれていた。

遺物は土師器の甕、須恵器の坏・甕・蓋が出土した。回転系切りされた須恵器坏及び甕の口縁形状から8世紀末～9世紀、平安時代としたい。



第89図 H63号住居址カマド・遺物実測図

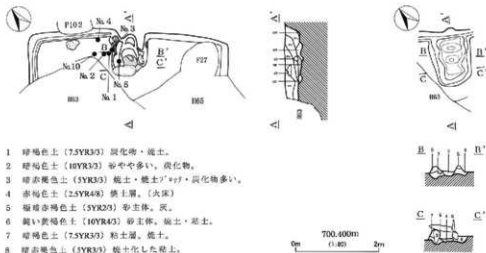
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	須恵器	杯	13.3	7.0	3.8	内外面ロクロナデ 底面回転糸切り 火だすき	90	内外面25YR/1黄褐色
2	須恵器	杯	12.0	6.8	4.4	内外面ロクロナデ 底面回転糸切り 火だすき	80	内外面25GYR/1灰白色
3	須恵器	杯	13.5	7.6	3.9	内外面ロクロナデ 底面回転糸切り	70	内外面25YR/1黄褐色
4	須恵器	蓋	18.6	-	4.1	内外面ロクロナデ 天冲面回転ヘラズリ 縁状つまみ取り付付	90	内外面25YR/2灰黄褐色

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考	番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
5	磁石	20.4	9.4	6.5	1262.84	棒・磁石	6	磁石	25.4	22.8	6.6	3099	底面跡あり

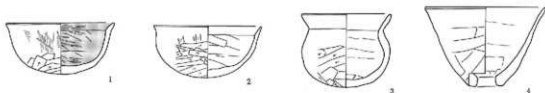
第47表 H63号住居址遺物観察表

H64号住居址

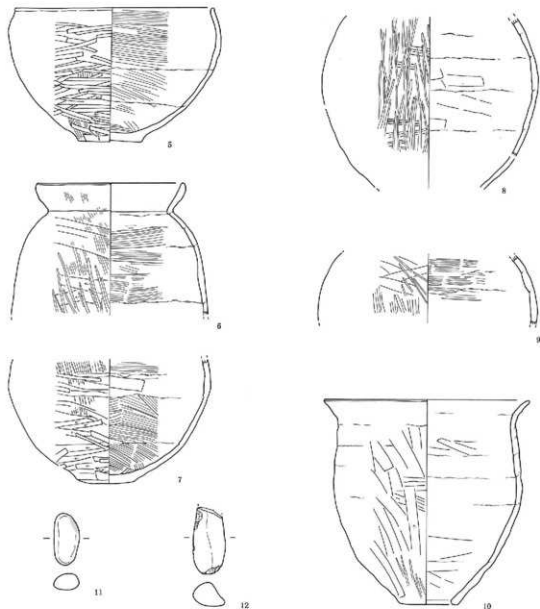
遺構は37ーきグリッドに位置し、H63・65に切られる。平面形態は残存状況から方形または長方形と考えられる。調査規模は東西4.8m、南北1.4m、検出面から床面までの深さは30cmを測る。覆土は残存範囲がカマドに近いこともあり、焼土・灰・炭化物といった混入物が多い。床面は硬く、一部に壁溝が認められた。カマドは北壁中央にあり、粘土と石材で構築された両袖、焚き口部に架けられた天井石及び火床から煙道部への立ち上がりが残存していた。西袖から西にかけて状態の良好な遺物が出土した。火床には自然石を利用した支脚石が埋め込まれ、径40cm、厚さ8cmの焼土が堆積していた。煙道部へは火床から北壁側60cmにおいて60°の角度で検出面に立ち上がる。壁方は貼り床程度の厚みで床直下は地山の砂となる。遺物は土師器の坏・鉢、甕が出土した。口縁端部がわずかに外反する土師器坏及び土師器の長胴甕が認められないことから古墳時代中期、5世紀後半としたい。



- 1 暗褐色土 (7.5YR3/3) 灰化物・焼土。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 砂や多い、炭化物。
- 3 暗赤褐色土 (5YR3/3) 粘土・焼土? + 砂・炭化物多い。
- 4 赤褐色土 (2.5YR4/8) 焼土層。(火床)
- 5 暗暗赤褐色土 (5YR2/3) 砂主体。灰。
- 6 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂主体。粘土・焼土。
- 7 暗褐色土 (7.5YR3/3) 粘土層。焼土。
- 8 暗赤褐色土 (5YR3/3) 粘土化した焼土。



第90図 H64号住居址遺構・遺物実測図



第91図 H64号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	埴	13.3	丸底	6.3	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ後ミダキ 内面黒色点線・ミダキ	90	外面7.5YR5/1黒黒色部半輝色
2	土師器	埴	13.3	丸底	6.4	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	60	内外面2.5YR5.6赤赤褐色
3	土師器	小形壺	11	丸底	9	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	95	外面2.5YR6.6褐色土
4	土師器	甗	14.8	4.3	9.7	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ 底面径2.4cm単孔	95	外面5YR6/4灰褐色
5	土師器	甗	24.0	7.7	16.5	外底面黒褐色内面ヘラナデ底面径2.4cm単孔 内面黒色点線ヘラナデ・輪紋み点	90	内外面7.5YR7/4褐色土

第48表 H64号住居址遺物観察表

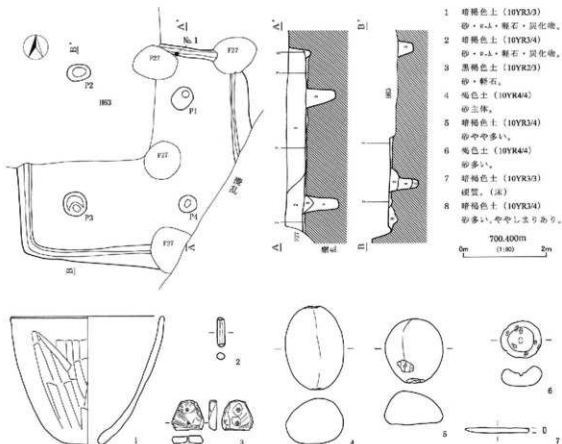
番号	器種	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	発掘年・部位	色調等
6	土師器	甕	[18.4]	-	(16.2)	口縁ナデ・土白陶のナデ・外周ヘラナズリ・赤褐色のナデ・底ミガキ 内面赤褐色のナデ・輪積み縁 高7と記 彩色の可成りあり	(1) 腰～胴部破片	外周2.5YR4/6赤褐色胎
7	土師器	甕	-	7	(15.2)	外周赤褐色のナデ・底ミガキ 内面赤褐色のナデ・ヘラナズリ・輪積み縁	胴部～胴下部	外周2.5YR4/6赤褐色胎
8	土師器	甕	-	-	(20)	外周赤褐色のヘラナズリ・底ミガキ 内面ヘラナズリ・輪積み縁	胴下部	外周2.5YR4/6赤褐色胎
9	土師器	甕	-	-	(8.4)	外周赤褐色のヘラナズリ・ヘラナズリ・底ミガキ 内面赤褐色のヘラナズリ・輪積み縁	胴部破片	外周1.0YR4/2灰黄褐色胎
10	土師器	甕	25.3	7.2	25.1	口縁ナデ・外周ヘラナズリ・ミガキ・一部赤褐色 内面ヘラナズリ・輪積み縁 高10.5cm併用	60	外周1.0YR6/3緑・黄褐色胎

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考	番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
11	磨石	6.4	3.16	2	63	磨面磨面1	12	磨石	8.25	3.95	3	128.8	磨面磨面3

第49表 H64号住居址遺物観察表

H65号住居址

遺構は37-けグリッドに位置し、F27、H63に切られ、H64を切る。一部下水道に破壊されている。平面形態は方形である。規模は東西約5.8m、南北5.6m、検出面から床面までの深さは45cmを測る。床面は硬質で貼り床されており壁際に幅15cm内外の溝が巡る。支柱穴は4個確認でき、深さは80cm内外を測る。カマドは確認できなかった。H63に破壊されていると思われる。掘方は貼り床のみで、床直下は地山の砂となる。遺物は土師器の坏・甕・瓶・石製品、鉄製品が出土しているが、状態の良好な甕1点を除き破片資料である。全体的にやや厚手の土師器甕、口縁端部が僅かに外反する土師器坏片の存在から5世紀後半、古墳時代中期としたい。



- 1 暗褐色土 (10YR3/5)
砂・s・h・軽石・炭化燼。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4)
砂・s・h・軽石・炭化燼。
- 3 黒褐色土 (10YR2/3)
砂・軽石。
- 4 褐色土 (10YR4/4)
砂主体。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4)
砂やや多い。
- 6 褐色土 (10YR4/4)
砂多い。
- 7 暗褐色土 (10YR3/3)
燼質。(注)
- 8 暗褐色土 (10YR3/4)
砂多い、ややしまりあり。

第92図 H65号住居址遺構・遺物実測図

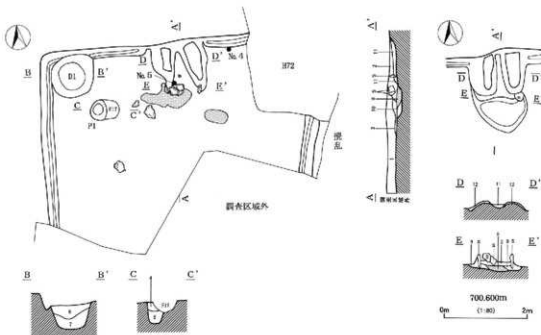
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	保存率・部位	色調等					
1	土師器	甕	18.8	4.4	13.8	口縁横ナデ 丹波暖へつケズリ 内面ヘラナデ	90	外面5YR6/8紅色土					
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考	番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
2	石製木製品	2.7	0.7	0.85	2.2	板石	5	板石	7.8	7.1	4.2	332.6	組釘痕2
3	石製焼品	2.75	2.85	0.7	7.8	穿孔3	6	器石	4.5	5.2	2	156.1	
4	磁石	7.8	7.1	4.2	322.5	組釘痕2	7	刀子	(7.9)	0.7	0.3	5.04	

第50表 H65号住居址遺物観察表

H66号住居址

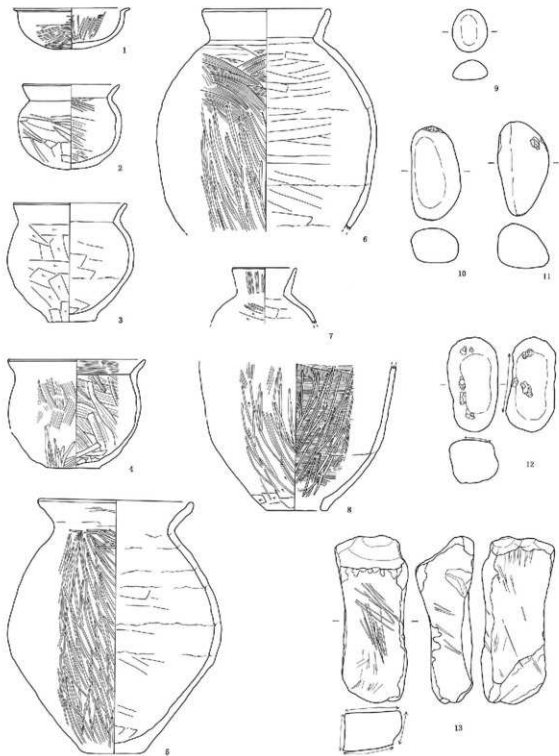
遺構は39-さグリッドに位置し、H72に切られる。平面形態は調査状況から方形と考えられる。調査規模は東西6.8m、南北4.8m、検出面から床面までの深さは30cmを測る。床面はやや硬さを持ち壁際に溝が巡る。ピットは主柱穴と思われるピットが1個、北西コーナーに径1.0m、深さ60cmの貯蔵穴が1基認められた。カマドは北壁の中央にあり、地山の砂及び粘土・石材によって構築された袖が一部残存していた。袖は壁内に1.0m程度張り出し、袖の先端には焚き口の補強として石が埋め込まれていた。西袖の焚き口付近に天井石の一部が崩落し、火床には径60cm、厚さ10cmの焼土が堆積していた。カマド中央からは銅丸の土師器甕が出土した。火床からは緩やかな傾斜で検出面に立ち上る。掘方はほとんど認められず、薄く貼られた床面直下は地山の砂となる。

遺物は土師器の坏・甕・壺が出土した。口縁が僅かに外反する坏及び、胴のはった甕が主体であることから5世紀後半、古墳時代中期としたい。

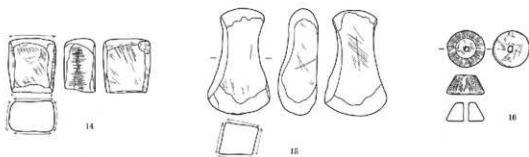


- | | |
|------------------------------------|-----------------------------------|
| 1 埴埴色土 (7.5YR3/3) 粘土・炭化物・砂・軽石。 | 7 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂多い。しまりなし。 |
| 2 赤褐色土 (2.5YR4/6) 粘土多量。炭化物。 | 8 明赤褐色土 (2.5YR5/8) 粘土層。(火床) |
| 3 黒褐色土 (5YR2/2) 炭化物多量。粘土。 | 9 棕褐色褐色土 (5YR2/3) 炭土・砂・軽石。 |
| 4 埴埴色土 (10YR3/3) 砂・軽石・しまりなし。 | 10 黒褐色土 (10YR2/2) 炭多い。 |
| 5 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂土体。埴埴色土。しまりなし。 | 11 埴埴色土 (7.5YR3/3) 粘土少量。砂多い。 |
| 6 埴埴色土 (10YR3/3) 粘土・炭化物・砂・軽石。 | 12 板状褐色土 (7.5YR2/3) 粘土・炭化物・粘土粒多い。 |

第93図 H66号住居址実測図



第94图 H66号住居址遺物実測図



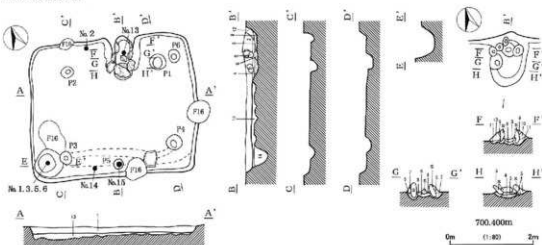
第95図 H66号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	測 量・文 様	残存率・部位	色調号
1	土師器	鉢	14.2	丸底	5	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面1ガキ	80	内外黄10R4/6赤色
2	土師器	甕	12	丸底	10.4	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	90	外黄10R4/6赤褐色
3	土師器	甕	14	8	14.5	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	80	外黄2.5YR5/6褐色粗
4	土師器	甕	[17]	6.9	13.3	口縁横ナデ 内外面赤黒焼色ヘラナデ	50	外黄5YR5/4焼い赤褐色
5	土師器	甕	19.1	7.8	31.1	口縁横ナデ・今や摩耗 外面横1ガキ 内面ヘラナデ	50	外黄2.5YR5/4焼い赤褐色
6	土師器	甕	[16]	-	22.3	口縁横ナデ 外面赤黒焼色ヘラナデ・胴下半縦1ガキ	10	外黄5YR5/4焼い赤褐色
7	土師器	甕	7.9	-	10.9	口縁横1ガキ 外面ナデ焼1ガキ 内面ヘラナデ	DM100-製図部 計	外黄2.5YR5/4焼い赤褐色
8	土師器	甕	-	7.5	11.6	外面ヘラケズリ・ナデ・1ガキ 外面赤黒焼色ナデ後縦1ガキ 底面厚片し製に赤褐色	此器へ割部 計	外黄2.5YR5/4焼い赤褐色

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
9	磨石	5.2	4.3	2.4	61	
10	磨石	11.5	6.1	4.2	440.2	両端に溝打痕
11	磨石	11.6	6.35	5.3	471.3	磨打痕4
12	磨・磨石	11.6	7.3	5.8	521	
13	砥石	20.45	8.95	6.9	1428.5	砥面4

第51表 H66号住居址遺物観察表

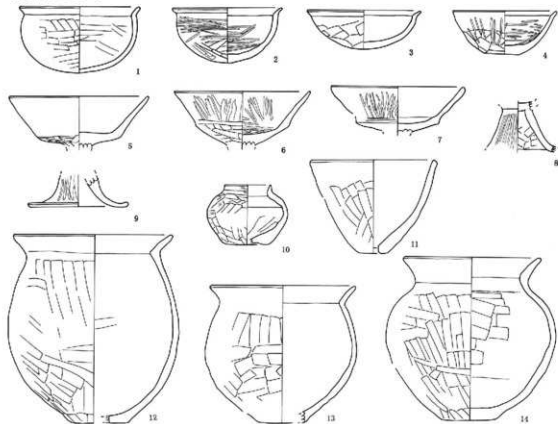
H67号住居址



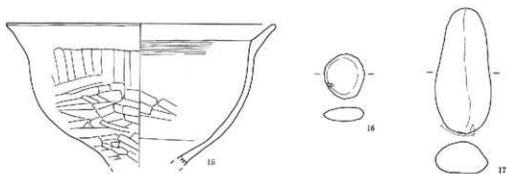
- | | |
|--------------------------------|----------------------------------|
| 1 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・砂・軽石・炭化物。 | 8 暗褐色土 (10YR3/4) 砂・砂やや多い。 |
| 2 棕褐色土 (5YR2/4) 粘土多い。粘土・炭化物。 | 9 赤灰色土 (2.5YR4/1) 粘土層。 |
| 3 暗褐色土 (7.5YR3/3) 粘土・炭少量。粘土7割。 | 10 暗赤褐色土 (2.5YR3/2) 粘土層。 |
| 4 赤褐色土 (2.5YR4/8) 粘土層。(火床) | 11 灰褐色土 (7.5YR4/2) 砂・砂・炭化物。 |
| 5 黒褐色土 (5YR2/1) 粘土多い。 | 12 暗褐色土 (7.5YR3/3) 砂・砂・炭化物。 |
| 6 暗褐色土 (7.5YR3/4) 砂・砂多い。 | 13 暗褐色土 (10YR3/3) 硬質。(灰) |
| 7 黒褐色土 (5YR2/1) 粘土層。 | 14 暗褐色土 (10YR3/4) 砂・砂多い。しまりややなし。 |

第96図 H67号住居址実測図

遺構は41-センチグリッドに位置し、F16に切られる。平面形は東西方向に長い隅丸長方形である。規模は東西4.0m、南北3.3m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。覆土は黒褐色土の単層である。床面は壁際の一部がやや軟弱な以外は貼り床され硬質である。ピットは6個確認できP1~4が主柱穴である。5は位置的に入口に関すると考えられる。南西コーナーには径70cm、深さ35cmの土坑が存在し、中から良好な状態で坏等の土器が出土した。本住居址の床面上からは比較的狀態の良好な土器が多く出土した。カマドは北壁中央に構築されている。破壊されているものの粘土で構築された両袖及び内壁部に利用された石材、焚き口に架けられた天井石、火床等が残存していた。火床には径40cm、厚さ8cmの焼土が堆積し、火床の北側に支脚石が埋め込まれ、上部に小型の土師器甕が載せられていた。火床から煙道部へは60cmほど平坦で、その後、60°の傾斜で検出面に立ち上がる。住居の掘方は4~8cmの厚みで暗褐色土が埋め込まれ硬質であった。遺物は土師器の坏・高坏・甕・甗が出土した。丸底で口縁端部がわずかに外反する土師器坏が主体であるため古墳時代中期、5世紀後半としたい。



第97図 H67号住居址遺物実測図



第98図 H67号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口徑cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	杯	14.9	丸底	8.1	口縁横ナデ 外底へラケズリ 内面ヘラナデ	100	外底5YR6/6明赤褐色
2	土師器	杯	13.5	丸底	6.6	口縁横ナデ 外底へラケズリ横ミガキ 内面ミガキ	80	内外底5YR6/6暗褐色
3	土師器	杯	14.1	丸底	4.7	口縁横ナデ 外底へラケズリ 内面ヘラナデ	98	内外底5YR6/8暗褐色
4	土師器	杯	12.9	3.4	3.2	口縁横ナデ 外底へラケズリ横ミガキ 内面ナデ後一部ミガキ	70	外底5YR3/6暗赤褐色
5	土師器	高杯	17.1	-	(5.1)	胴部体部横ナデ・底部ヘラケズリ	杯部90	外底5YR6/4暗い褐色
6	土師器	高杯	16.8	-	(5.7)	胴部内外面横ナデ横ミガキ	杯部100	内外底6YR4/6暗褐色
7	土師器	高杯	[18.5]	-	(5.5)	胴部体部内外面ナデ横筋状横ミガキ 底部ヘラケズリ 内面ミガキ	杯部50	外底5YR4/6赤褐色
8	土師器	高杯	-	-	(6.2)	胴部外底横ミガキ 内面ヘラナデ	底部50	内外底5YR6/6明赤褐色
9	土師器	高杯	-	[12.3]	(3.8)	胴部外底横ミガキ 胴部横ナデ 内面ヘラナデ	胴部50	内外底5YR5/5明赤褐色
10	土師器	蓋	[5.9]	[5]	7.3	口縁横ナデ 外底へラケズリ一部横筋残る 内面ヘラナデ	50	内外底5YR5/3暗い赤褐色
11	土師器	瓶	[15.7]	3.7	11.4	外底へラケズリ 内面ヘラナデ 底径約1.7cmの穿孔	70	外底5YR5/4暗い褐色
12	土師器	甕	19.6	7	16.8	口縁横ナデ 外底へラケズリ 内面ヘラナデ	80	外底2.5YR4/4暗い赤褐色
13	土師器	甕	18	6.1	16.8	口縁横ナデ 外底へラケズリ 内面ヘラナデ	70	外底2.5YR4/4暗い赤褐色
14	土師器	甕	[17]	6.8	20.1	口縁横ナデ 外底へラケズリ 内面ヘラナデ	40	外底5YR5/7暗い赤褐色
15	土師器	瓶	3.8	-	(17.3)	口縁横ナデ 外底へラケズリ 内面ヘラナデ 底部穿孔・底に横筋あり	70	外底5YR6/4暗い褐色

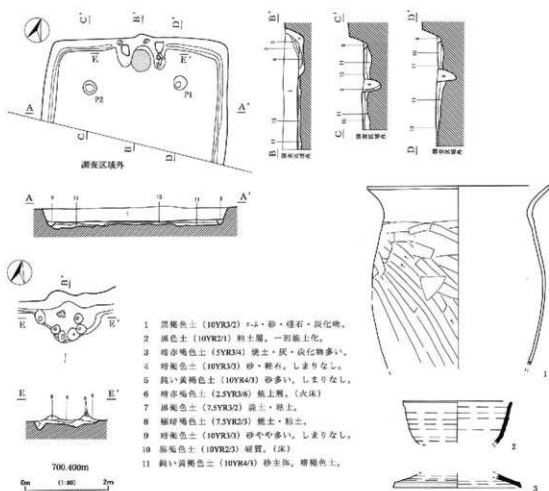
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考	番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
16	磨石	3.5	4.9	1.7	46.8		17	磨石	15.4	6.9	3.9	620.5	先端部打痕

第52表 H67号住居址遺物観察表

H68号住居址

遺構は41-スグリッドに位置し、H69を切り、南側は道路調査分となる。平面形は方形で、道路分を含めた全体の規模は東西4.6m、南北4.6m、検出面から床面までの深さは36cmを測る。(調査規模は東西4.6m、南北3.0m) 床面は貼り床され全体に硬質で、壁際に幅10cm内外の溝が巡る。ピットは主柱穴が4個確認でき、深さは50cm内外を測る。カマドは北壁の中央に構築され、破壊されているが両袖の一部と火床から煙道への立ち上がりが残存していた。袖は北壁から70cm程度内側に延び、東袖には一部石材が埋め込まれていた。火床には径55cm、厚さ8cmの焼土が堆積していた。火床から煙道へは60°の傾斜で検出面へ立ち上がる。住居の掘方は周辺部が僅かに深く掘り込まれ、貼り床直下に砂主体のにぶい黄褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の杯・甕、須臾器の杯・蓋・甕が出土した。口縁「く」の字状の武蔵甕の存在から奈良時代、8世紀後半としたい。



- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 灰・砂・礫石・炭化物。
- 2 黒色土 (10YR2/1) 粘土層、一部礫土化。
- 3 暗赤褐色土 (5YR3/4) 焼土・灰・炭化物多い。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・礫石。しまりなし。
- 5 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂多い。しまりなし。
- 6 暗赤褐色土 (2.5YR3/6) 粘土層。(火床)
- 7 黒褐色土 (7.5YR3/2) 粘土・粘土。
- 8 暗褐色土 (7.5YR2/3) 粘土・粘土。
- 9 暗褐色土 (10YR3/3) 砂やや多い。しまりなし。
- 10 黒褐色土 (10YR2/5) 硬質。(床)
- 11 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂主体。暗褐色土。

第99図 H68号住居址遺構・遺物実測図

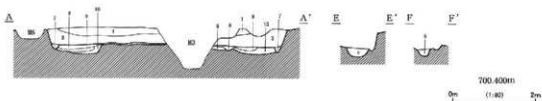
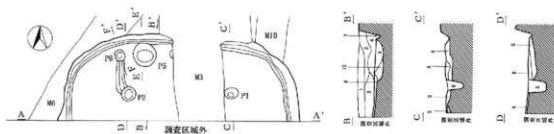
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	甕	22.5	-	(22.0)	口縁横ナデ 外面斜めヘラケズリ 内面ヘラナデ	40	外面5YR5/2灰褐色色
2	土師器	盃	[13.4]	-	(16.0)	内外面口ケロナデ	口縁一伴部破片	内外面4/0灰色
3	土師器	甕	[15.8]	-	(23.0)	内外面口ケロナデ	破片	内外面7.5YR5/3褐色色

第53表 H68号住居址遺物観察表

H70号住居址

遺構は47-セグリッドに位置し、M3・6に切られ、F18と切り合い関係にあり、南側半分は道路調査分となる。平面形は隅丸方形である。道路分を含めた規模は東西6.0m、南北5.2m、検出面から床面までの深さは40cmを測る。(調査規模は東西6.0m、南北2.2m) 床面は全体に貼り床され硬質で壁際に幅10cm程度の溝が巡る。ピットは道路部分を含め8個確認できP1~4が支柱穴である。P2とP6の間に溝が存在する。カマドは確認できなかったが、北壁の中央付近でM3に破壊された西側の境付近に焼土が存在することから、M3に破壊されたと考えられる。住居の掘方は僅かに周辺部が深く掘り下げられ、床直下に黒褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の杯・甕、須恵器の甕が出土しているが小破片である。道路部から出土の土師器甕の特徴から古墳時代後期、6世紀としたい。



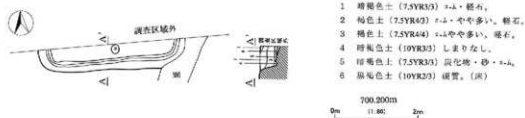
- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・礫石。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 砂・礫石・炭化物。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・礫石・炭化物。
- 4 暗褐色土 (7.5YR3/3) 粘土・粘土鉱・砂・礫石。
- 5 暗褐色土 (7.5YR3/3) 砂・礫石・砂。
- 6 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・礫石。しまりなし。
- 7 暗褐色土 (10YR3/4) 砂・礫石。しまりなし。
- 8 暗褐色土 (10YR3/3) 硬質。(床)
- 9 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・砂・礫石。上面一部硬質。
- 10 銅い黄褐色土 (10YR4/5) 砂多い。

第100図 H70号住居址実測図

H71号住居址

遺構は49-1グリッドに位置し、H73を切る。北側の大半は道路調査分となる。道路分を含めた平面形態は東西方向に長い隅丸長方形である。規模は東西3.4m、南北2.6m、検出面から床面までの深さは36cmを測る。(調査規模は東西3.4m、南北60cm) 覆土はすり鉢状で自然堆積と考えられる。床面は硬質で、床面直上に3cm内外の厚みの炭化層が存在する。壁際には幅10cm内外の溝が巡る。掘方は部分的には深く掘り込まれているが全体的には10cm程度の厚みで黒褐色土が埋め込まれていた。

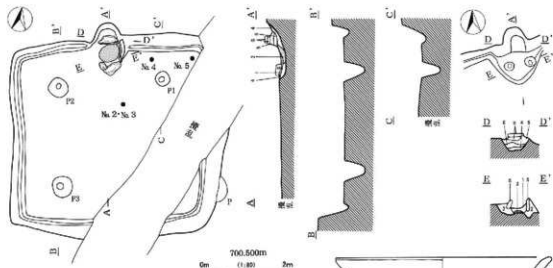
遺物は土師器の坏・甕・甔、須恵器の甕が出土した。遺物の特徴から奈良時代としたい。



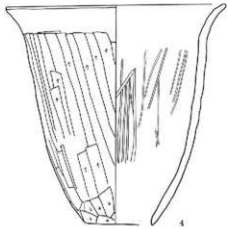
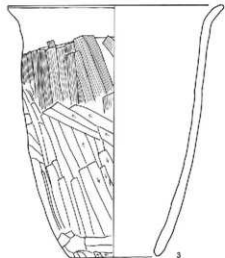
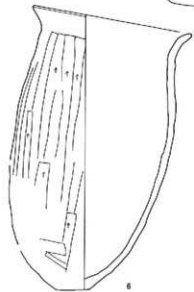
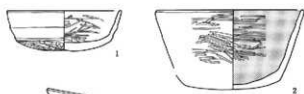
第101図 H71号住居址実測図

H72号住居址

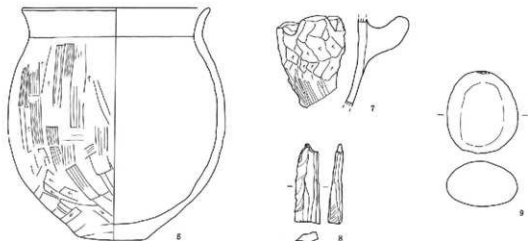
遺構は38-1グリッドに位置し、東壁から南壁にかけて下水道によって破壊されている。平面形態は方形で、規模は東西5.2m、南北4.8mを測る。調査区の間係から2回に分割して調査を実施した。床面は貼り床され硬質で、壁際に幅10cm内外の溝が巡る。ピットは深さ60cmを測る支柱穴が3個認められた。カマドは北壁のやや西寄りに位置する。袖は粘土を主体とし、先端の抜き口部には石が埋め込まれ、前部に天井石と思われる石が横たわっていた。火床には焼土の堆積が認められ、火床と煙道の境付近に天井石が残存していた。掘方は薄く、貼り床直下は地山の砂となる。遺物は土師器の坏・甕・甔、須恵器の甕が出土した。口辺有段の土師器坏から6世紀末～7世紀、古墳時代後期としたい。



- 1 暗赤褐色土 (5YR3/3) 焼土・灰。
- 2 極暗赤褐色土 (5YR2/4) 砂・焼土。
- 3 赤褐色土 (2.5YR4/5) 焼土層。
- 4 赤黒色土 (2.5YR2/1) 焼土・灰・砂。
- 5 極暗赤褐色土 (5YR2/4) 焼土・灰・しまりなし。
- 6 暗赤褐色土 (5YR3/4) 焼土・灰・粘土。
しまりなし。



第102図 H72号住居址遺構・遺物実測図



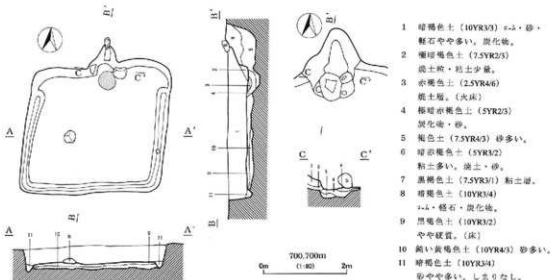
第103図 H72号住居址遺物実測図

番号	器種	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	鉢	14	9.6	4.9	口辺横ナデ・右段口縁 底部～底面ヘラケズリ 内面ミガキ	90	外面7.5YR6/4鈍い橙褐色
2	土師器	鉢	19	14.5	5.8	外面横ミガキ 底部ヘラケズリ 内面黒色地帯・ミガキ	40	外面5YR5/4鈍い赤褐色
3	土師器	蓋	28.5	16.6	30.0	口辺横ナデ 外面ミガキ・底面黒色地帯・下半ヘラケズリ 内面ヘラケナデ 底面厚2.5cm厚	70	外面5YR6/3鈍い橙褐色
4	土師器	蓋	27	8.4	27.2	口辺横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラケナデ・ミガキ 底面厚2.5cm厚	90	外面5YR6/3鈍い橙褐色
5	土師器	甕	23	8.5	28.5	口辺横ナデ 胴部ヘラケズリ・全段残存ナデ	70	外面5YR6/3鈍い橙褐色
6	土師器	甕	19.0	4	33.0	口辺横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラケナデ	70	外面2.5YR5/4鈍い赤褐色
7	土師器	瓶?	-	-	-	外面ヘラケズリ 内面ヘラケナデ 把手取り付	把手用磁片	外面5YR6/3鈍い橙褐色

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考	番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
8	石器	9.3	3.15	1.2	45.7	黒曜石製	9	漆・麻石	10	8.8	5.0	0.194	漆面に麻打痕

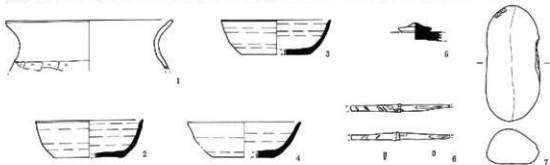
第54表 H72号住居址遺物観察表

H74号住居址



第104図 H74号住居址実測図

遺構は35-くグリッドに位置し、H82を切り、調査の関係から2回に分割して行った。平面形態は東西3.4m、南北3.2m、検出面から床面までの深さは50cmを測る。床面は硬質で北壁を除く壁際に溝が巡る。ピットは確認されなかった。カマドは北壁の中央に位置する。大半が破壊され、火床及び煙道部への立ち上がりのみ残存していた。火床には径40cm、厚さ8cmの焼土が堆積していた。掘方は10~15cmの厚みで上部に黒褐色土、下部に地山砂主体の鈍い黄褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の坏・甕、須恵器の坏・蓋・甕が出土した。小破片が大半である。底部回転糸切り後未調整須恵器の坏、口縁「コ」の字になりかけの武蔵甕から8世末~9世紀前半、平安時代とした。



第105図 H74号住居址遺物実測図

番号	器種	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調整・文様	焼存率・部位	色調等
1	土師器	甕	20.6	-	-	外面ヘラケズリ 内面ヘラナゲ	口縁破片	内外面5YR5.6/暗赤褐色
2	須恵器	坏	[13.3]	[8.3]	4.8	内外面ワケナゲ 底面回転糸切り	30	内外面7.5Y5.1/灰色
3	須恵器	坏	[13.5]	[8.3]	4.8	内外面ワケナゲ 底面回転糸切り	口縁~底面破片	内外面6N6.0/灰色
4	須恵器	坏	[14]	[7.5]	4.3	内外面ワケナゲ 底面回転糸切り	口縁~底面破片	内外面6N6.0/灰色
5	須恵器	甕	-	-	-	天井面ヘラケズリ 空吹つまみ取り付	天井面破片	内外面6N6.0/灰色

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
6	刀子	12.2	1	0.5	9.8	太刀頭一握り付 丸鋸・通体欠出
7	礫石	14.1	0.6	4.4	669.5	断面に幾打痕

第55表 H74号住居址遺物観察表

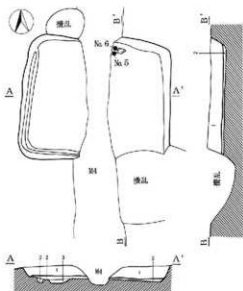
H75号住居址

遺構は34-レグリッドに位置し、H78・79を切り、M4に切られる。平面形はやや東西に長い長方形である。規模は東西3.4m、南北2.7m、検出面から床面までの深さは35cmを測る。覆土は極暗褐色土の単層である。床面は土間状に硬質で西壁から南壁の一部に幅15cmほどの溝が巡る。ピット、カマドは確認できなかった。掘方は厚さ5cm内外の貼り床のみ確認できた。

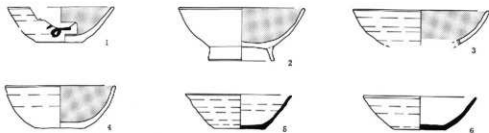
遺物は土師器の坏・碗、須恵器の坏が出土した。遺物の特徴から9世紀後半、平安時代とした。

- 1 極暗褐色土(7.5YR2/1) 炭土粒・泥土・F-J・砂・礫石・炭化物。
- 2 暗褐色土(7.5YR3/2) 硬質。(赤)
- 3 暗褐色土(7.5YR3/4) 砂多い。

700.000m
(1:80) 2m



第106図 H75号住居址実測図



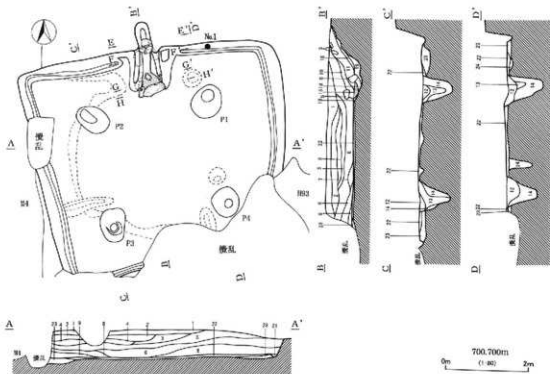
第107図 H75号住居址遺物実測図

番号	器種	形状	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	上脚器	杯	[13.1]	5.8	4.3	ロクロナデ 底面回転糸切り 内面黒色地帯 雲書	70	外面10YR7/2鈍い黄褐色
2	上脚器	碗	[16.8]	8.1	6.4	ロクロナデ 底面回転糸切り後両面粘り付付 内面黒色地帯 %3.5と同一体性の可能性あり	30	外面7.5YR7/3鈍い褐色
3	上脚器	杯(凸縁)	[16.8]	—	4.3	ロクロナデ 内面黒色地帯 %2と同 雲書の可能性あり	口縁破片	外面5YR7/3鈍い褐色
4	上脚器	杯	[13.6]	—	5.2	ロクロナデ 底面回転糸切り 内面黒色地帯	20	外面5YR7/4鈍い褐色
5	浅鉢器	杯	13.1	6.1	4.2	ロクロナデ 底面回転糸切り	100	内外面10YR4/1鈍い褐色
6	浅鉢器	杯	14	6	4.1	ロクロナデ 高底回転糸切り	60	内外面2.5YR/1黄褐色

第56表 H75号住居址遺物観察表

H77号住居址

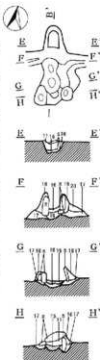
遺構は33-くグリッドに位置し、M4・H93に切れ、南側は攪乱に破壊されている。平面形態は方形である。規模は東西6.0m、南北は5.4m、検出面から床面までの深さは70cmを測る。床面は全体に硬質で壁際に幅15cmの溝が巡る。ピットは床面上で深さ70cm内外の支柱穴が4個認められた。



第108図 H77号住居址実測図

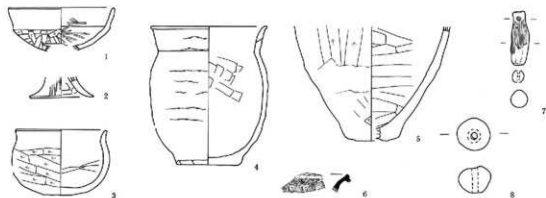
カマドは北壁中央に構築され、粘土で構築された袖及び火床から煙道部への立ち上がりが残存していた。袖は北壁から住居内に90cm程度延び、先端部には石が埋め込まれ、両袖間に天井石が架けられていた。火床には径40cm、厚さ10cmの焼土が堆積し、やや北寄りに自然石を利用した支脚石が埋め込まれていた。煙道部へは火床から40cm北壁寄り、およそ30°の角度を持ち北壁外70cmの検出面に立ち上がる。掘方は西側の壁際周辺が若干深く、その他は貼り床のみの状態であった。

遺物は土師器の坏・甕・高坏、須恵器の甕が出土した。土師器模倣坏の形状から6世紀、古墳時代後期としたい。



- 1 黒褐色土 (10YR2/2) s-s・礫石。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) s-s・礫石。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) s-s・礫石・炭化物。
- 4 黒褐色土 (10YR2/3) s-s・礫石・炭化物。
- 5 暗褐色土 (10YR3/3) s-s? s-s? 炭化物やや多い。
- 6 暗褐色土 (10YR3/3) s-s・砂やや多い。
- 7 鈍い黄褐色土 (10YR4/5) 砂・s-s多い。
- 8 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物多い。
- 9 暗褐色土 (10YR3/3) 炭化物やや多い。
- 10 黒褐色土 (7.5YR3/1) 粘土層。
- 11 黒褐色土 (7.5YR3/1) 粘土層。炭・灰やや多い。
- 12 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・炭化物。しまりややなし。
- 13 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂多い。しまりなし。
- 14 褐色土 (10YR4/4) 砂主体。しまりなし。
- 15 赤褐色土 (2.5YR4/8) 炭土層 (火床)
- 16 黒褐色土 (7.5YR3/2) 粘土層。
- 17 暗赤褐色土 (5YR3/2) 粘土・砂。
- 18 暗赤褐色土 (5YR3/3) 粘土・炭土・砂。
- 19 黒褐色土 (7.5YR3/2) 炭土・炭・粘土。
- 20 黒褐色土 (7.5YR3/1) 粘土主体。砂・炭化物。
- 21 暗褐色土 (10YR3/4) s-s・砂。
- 22 暗褐色土 (10YR3/3) 硬質。(床)
- 23 暗褐色土 (10YR3/3) やや硬質。(床)
- 24 褐色土 (10YR4/4) 砂主体。

第109図 H77号住居址カマド実測図



第110図 H77号住居址遺物実測図

番号	器種	形状	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	杯	13	丸底	5.2	口辺傾ナデ 体部~底部ヘラケズリ・径2.2cm穿孔 内面2分キ	100	外面7.5YR6/4鈍い橙色
2	土師器	高坏	-	2.8	(2.2)	縁部内面傾ナデ・ミガキ 内面ヘラナデ	断面80	内外面7.5YR7/6橙褐色
3	土師器	甕	11.2	丸底	8	口辺傾ナデ 体部~底部ヘラケズリ 内面ヘラナデ	70	内外面7.5YR7/4鈍い橙褐色
4	土師器	甕	[14.2]	2.6	17	口辺傾ナデ・輪縁不規 外面ヘラケズリ・輪縁高凸 内面ヘラナデ	65	内外面7.5YR7/4鈍い橙褐色
5	土師器	甕	-	30	(19)	外面ヘラケズリ 表面粘土 内面ヘラナデ	底面・胴部破片	外面5YR5/3鈍い赤褐色土
6	須恵器	甕	-	-	-	口辺傾ナデ 外面磨製波状文	口縁破片	内外面7.5Y5/1白色

第57表 H77号住居址遺物観察表

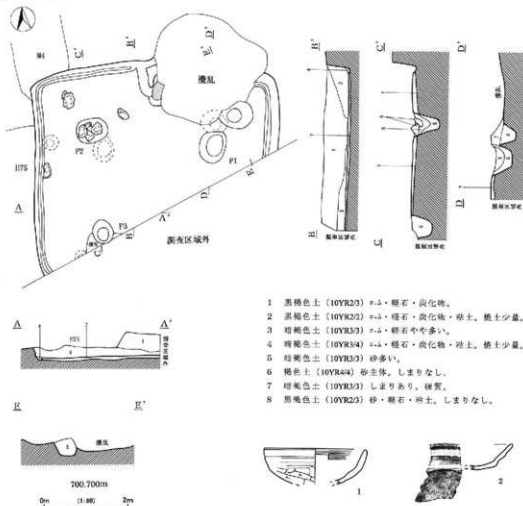
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考	番号	器種	長さcm	幅cm	孔径cm	重量g	備考
7	不明土製編	4.9	1.65	1.55	13.1	穿孔あり 底面土質劣	8	土土	0.8	1	0.18	0.77	

第58表 H77号住居址遺物観察表

H78号住居址

遺構は33-さグリッドに位置し、H75・M4に切られ、北壁部を一部攪乱に破壊されている。また、南側の一部は道路調査部分となる。平面形態は隅丸方形で、道路分を含めた規模は東西6.0m、南北5.2m、検出面から床面までの深さは60cmを測る。(調査規模は東西6.0m、南北4.8m)床面は硬質で、壁際に幅15cm内外の溝が巡る。ピットは床面上で4個確認でき、P1～3が支柱穴である。カマドは北壁中央に構築されているが、大半が攪乱に破壊され、火床から西袖の一部が残存しているのみである。掘方は厚さ4cm内外の貼り床のみであった。

遺物は土師器の坏・甕が出土したが破片が大半である。土師器模倣坏の形状から古墳時代後期、6世紀とした。



第111図 H78号住居址遺構・遺物実測図

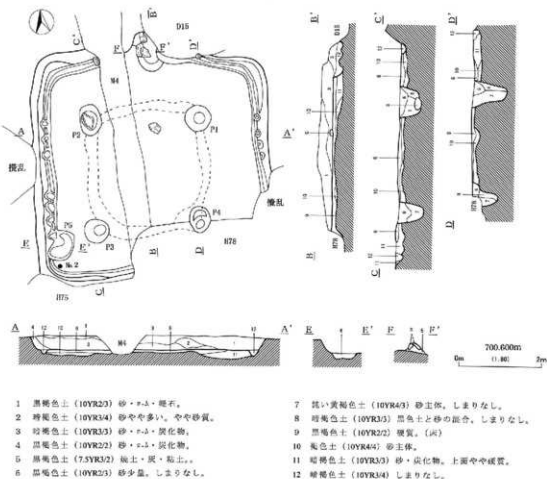
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土器部	罎	11.27	丸底	4.31	日冠ヘラナデ 外縁ヘラケズリ 内面ヘラナデ	30	内外面7.5YR5/3黄褐色
2	土器部	罎	—	丸底	3.21	日冠横ナデ・有段口縁 外縁ヘラケズリ 内面ヘラナデ	20	内外面5YR5/3黄褐色

第59表 H78号住居址遺物観察表

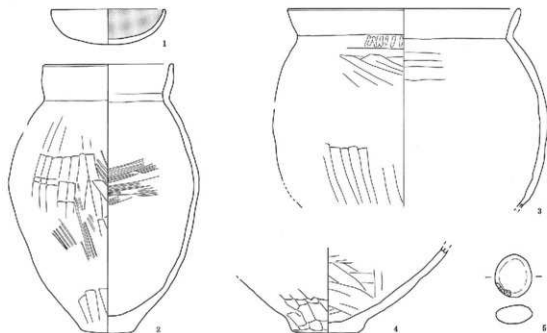
H79号住居址

遺構は33-こグリッドに位置し、H78・75・M4・D15に切られる。平面形態は隅丸の方形である。規模は東西5.6m、南北5.4m、検出面から床面までの深さは40cmを測る。覆土は黒色土と暗褐色土が主体で北から流れ込んだ自然堆積と考えられる。床面は硬質だが周辺部はやや軟質である。壁際には溝が巡り、西及び東壁際に小ピットが存在する。ピットは4個の支柱穴が認められ、深さは60～80cmを測る。カマドは北壁中央に構築されているが東側の一部はD15に破壊されている。火床と西袖に使用されたと思われる石材が僅かに残存していた。火床には明瞭な焼土は存在しなかった。掘方は中央に比べ周辺部がやや深く掘り込まれた状態である。

遺物は土師器の罎・甕、擦石が出土した。胴部の中央付近に最大径をもつ土師器甕から古墳時代後期、6世紀前半としたい。



第112図 H79号住居址実測図



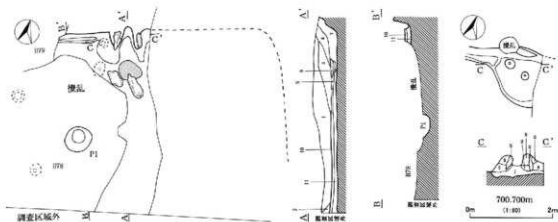
第113図 H79号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	甗	14	丸底	4.3	外面ヘラケズリ後1方巾 内面黒色洗刷・1方巾	90	外面2.5YR4/1黒灰色
2	土師器	甗	[16]	6.5	33.1	1) 凸條ナデ 外面ヘラケズリ・ヘラナデ・高麗瓦るナデ 内面黒色洗刷ヘラナデ	70	外面2.5YR6/9褐色
3	土師器	甗	28.7	—	24.0	凸條ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	40	内外面2.5YR4/3黒1赤褐色
4	土師器	甗	—	7.8	10.5	外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	底面～胴下半	外面2.5YR5/9褐色褐色

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
5	磨-般石	6.2	4.5	2.32	56.1	断面に溝付痕

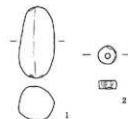
第60表 H79号住居址遺物観察表

H80号住居址



第114図 H80号住居址実測図

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 赤褐色土 (10YR2/3) 砂・軽石・炭化物。 | 7 黒褐色土 (5YR2/1) 灰・炭土・砂。 |
| 2 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・軽石・炭化物。 | 8 暗赤褐色土 (5YR3/3) 粘土層。やや炭土化。 |
| 3 暗赤褐色土 (5YR3/3) 炭土・粘土少量。 | 9 黒褐色土 (5YR3/1) 粘土層。粘土・砂。 |
| 4 暗赤褐色土 (2.5YR3/4) 炭土・粘土多量。 | 10 暗褐色土 (10YR3/3) やや硬質。(灰) |
| 5 暗赤褐色土 (5YR2/3) 粘土・炭土。 | 11 褐色土 (10YR4/4) 砂主体。 |
| 6 赤褐色土 (2.5YR4/8) 粘土層 (灰床) | |



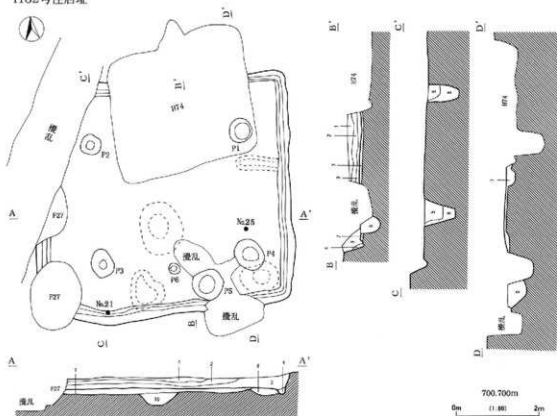
第115図 H80号住居址遺物実測図

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考	番号	器種	長さcm	幅cm	孔径cm	重量g	備考
1	磁石	9.8	4.3	4.1	230.9	90度に磨打痕	2	瓦玉	0.25	0.58	0.15	0.15	

第61表 H80号住居址遺物観察表

遺構は32-さグリッドに位置し、H78・79に切られ、南側は道路調査部分となる。調査部分は僅かで、道路分を含めた規模は東西2.4m、南北7.2m、検出面から床面までの深さは40cmを測る。(調査規模は東西2.4m、南北4.5m) 床面は硬質で、カマドは北壁に構築され、カマド西側の壁際に溝が認められた。ピットは1個確認でき、支柱穴と考えられた。カマドは粘土で構築された袖及び火床から煙道部に至る立ち上がりが残存し、火床には径50cm、厚さ5cmの焼土が堆積していた。掘方は5～8cmの厚みで砂主体の褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の坏・高坏・甕が出土したが小破片である。本住居址は6世紀前半のH79に切られ、丸底で口縁端部が僅かに外反する坏・高坏坏部の形状・塗彩された甕から、H79にやや先行する古墳時代中期、5世紀後半としたい。

H82号住居址

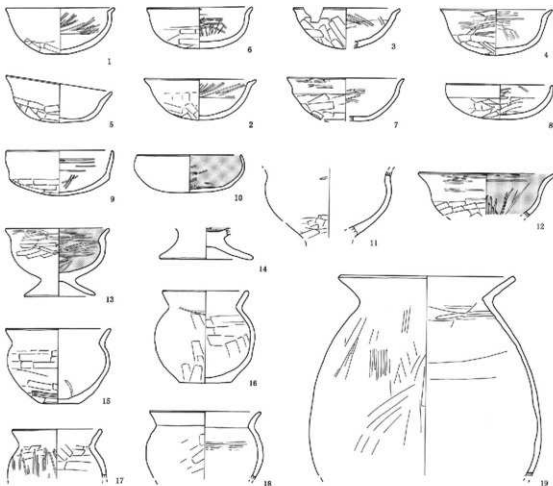


第116図 H82号住居址実測図

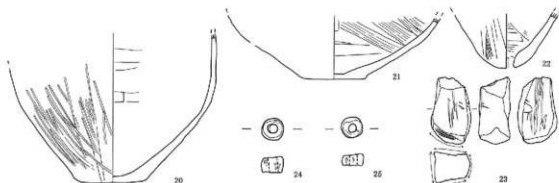
- | | |
|------------------------------------|-------------------------------|
| 1 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・軽石・炭化物。 | 6 暗褐色土 (10YR3/4) 砂主体、しまりなし。 |
| 2 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂・砂や多い、軽石・炭化物。 | 7 暗褐色土 (10YR3/3) 硬質。(床) |
| 3 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・砂、軽石・炭化物。 | 8 暗褐色土 (10YR3/4) やや硬質。 |
| 4 暗褐色土 (10YR3/4) 砂・砂、軽石・炭化物、しまりなし。 | 9 暗褐色土 (10YR2/2) 砂・軽石、上面やや硬質。 |
| 5 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・砂、しまりなし。 | 10 褐色土 (10YR4/4) 砂主体。 |

遺構は35-くグリッドに位置し、H74、F27に切れ、北西コーナー付近を下水道に破壊される。平面形態は残存状況から隅丸方形と考えられる。覆土の堆積は東方向からの流れ込みである。床面の大半は硬質だが、壁際はやや軟質となり、幅15cm内外の溝が巡る。ピットは床面上で6個確認できP1~4は主柱穴である。カマド・炉などの施設は認められなかった。北壁にカマドが存在していたとするとH74に完全に破壊されたと考えられる。掘方は5~10cmの厚みで砂質の暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・高坏・甕、砥石、白玉が出土した。丸底で口縁端部が僅かに外反する坏、高坏の坏部形状から古墳時代中期、5世紀後半としたい。



第117図 H82号住居址遺物実測図



第118図 H82号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	杯	13.5	丸底	5.6	口縁横ナデ 外面体部～底部ヘラケズリ 内面ナデ・筋文・ミガキ	85	内外面5YR6/6暗赤褐色
2	土師器	杯	13.8	丸底	5	口縁横ナデ 外面体部～底部ヘラケズリ 内面ナデ・ミガキ・筋文・一筋帯	90	内外面5YR6/6暗赤褐色
3	土師器	杯	13.2	丸底	4.9	口縁横ナデ 外面体部～底部ヘラケズリ 内面ナデ・ミガキ・筋文	70	内外面5YR6/4暗い赤褐色
4	土師器	杯	13.9	丸底	5.8	外面口縁～体部ナデ後ミガキ・底部ヘラケズリ 内面ナデ・ミガキ	60	内外面7.5YR6/4暗い褐色
5	土師器	杯	13.1	丸底	4～5.6	口縁横ナデ 外面体部～底部ヘラケズリ 内面ナデ	70	内外面5YR5/6暗赤褐色
6	土師器	杯	[13]	丸底	5	外面口縁～体部ナデ後ミガキ・底部ヘラケズリ 内面ナデ・ミガキ	30	内外面5YR5/4暗い赤褐色
7	土師器	杯	14.4	丸底	5.3	外面口縁～体部ナデ後ミガキ・底部ヘラケズリ 内面ナデ・ミガキ	50	内外面5YR6/6暗褐色
8	土師器	杯	13.2	丸底	4.3	口縁横ナデ 外面体部～底部ヘラケズリ 内面ナデ・ミガキ	50	内外面5YR6/4暗い赤褐色
9	土師器	杯	13.2	丸底	5.5	口縁横ナデ 体部～底部ヘラケズリ 内面ヘラナデ・ミガキ	60	内外面5YR5/4暗い赤褐色
10	土師器	杯	[12.3]	丸底	(4.6)	外面ヘラケズリ後ナデ 内面黒色色遣	25	外面6YR5/2灰褐色
11	土師器	高杯	—	—	(8.6)	杯部外面ヘラケズリ後ミガキ 内面ミガキ	杯部60	外面6YR6/6暗褐色
12	土師器	杯	[16.9]	—	(5.3)	外面口縁ナデ後ミガキ 体部ヘラケズリ 内面黒色筋帯・筋文	25	内外面2YR6/4暗い赤褐色
13	土師器	高杯	12.7	8.7	8.3	杯部外面口縁～体部ナデ後ミガキ 内面赤褐色 筋帯横ナデ	80	内外面2YR6/4暗い赤褐色
14	土師器	高杯	—	11.5	13.8	杯部内面赤褐色筋帯 筋帯横ナデ・ミガキ	杯部60	内外面5YR5/4暗い赤褐色
15	土師器	小笠蓋	12.9	5	9.2	口縁横ナデ 外部ヘラケズリ・ナデ 底部ヘラケズリ 内面ヘラナデ	85	外面10YR5/2灰赤褐色
16	土師器	小笠蓋	[10.6]	[6.4]	11.3	口縁横ナデ 外部ヘラケズリ・ナデ 底部ヘラケズリ 内面ヘラナデ	50	外面7.5YR4/1黒灰色
17	土師器	小笠蓋	[11]	—	90	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ後ミガキ 内面ヘラナデ	口縁～胴部破片	内外面7.5YR4/1黒灰色
18	土師器	小笠蓋	[13.7]	—	98.20	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁～胴部破片	内外面7.5YR4/1黒灰色
19	土師器	壺	[22]	—	(24.6)	口縁横ナデ 外面赤褐色残るヘラナデ 内面ヘラナデ・輪帯み	口縁～胴部破片	外面7.5YR2/3暗い褐色
20	土師器	壺	—	9	(13.3)	外面ヘラケズリ後ミガキ 内面ヘラナデ	底部～胴部	外面10YR7/3暗い赤褐色
21	土師器	壺	—	8	(7.8)	外面胴部～底部ヘラケズリ 外面赤褐色筋帯・V 内面赤褐色残るヘラナデ	底部～胴部下	外面5YR6/6暗赤褐色
22	土師器	甕	—	[9.2]	96.80	外面ヘラケズリ 内面赤褐色残るヘラナデ 底径2.3cmの厚丸	底部～胴下部破片	外面5YR6/4暗い褐色

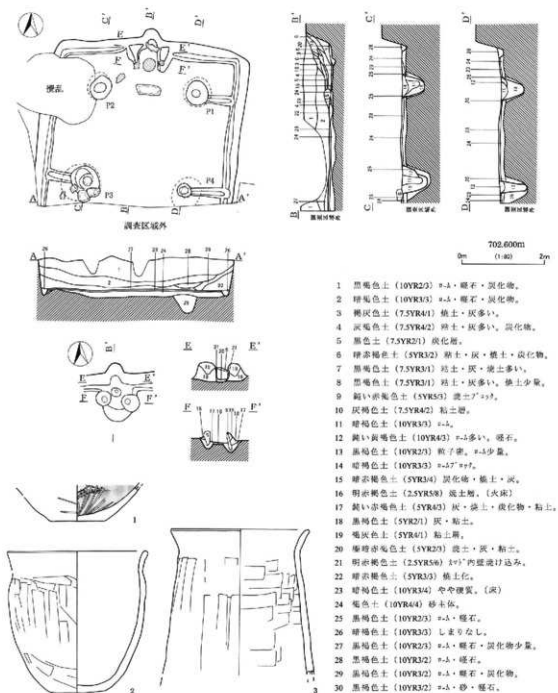
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
23	砥石	8.2	4.85	3.8	212.7	片面5
24	白玉	0.5	0.7	0.28	0.85	
25	白玉	0.25	0.65	0.22	0.2	

第62表 H82号住居址遺物観察表

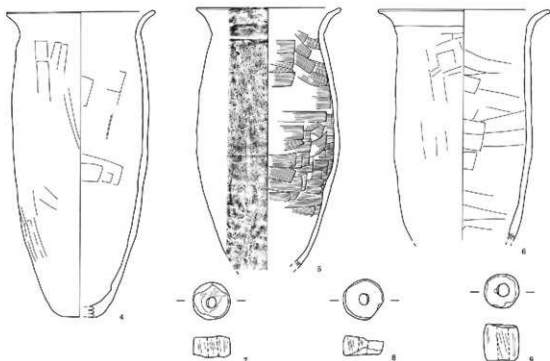
H84号住居址

遺構は4-つグリッドに位置し、西壁の一部を攪乱に破壊され、南側は調査区域外となる。平面形態は方形と考えられる。規模は東西4.6m、南北は調査規模で4.0m。検出面から床面までの深さは80cmを測る。床面は全体に硬質で隙際に溝が巡る。ピットは主柱穴が4個確認でき周溝からピットに向かって溝が存在する。間仕切りに関する溝と考えられる。カマドは北壁中央に構築されている。粘土で構築された両袖の一部と火床から標道に延びる立ち上がりが残存していた。火床には径30cm、厚さ5cmの焼土が堆積し、火床から平坦に45cmの位置で急激な角度で検出面に立ち上がる。

遺物は土師器の坏・甕が出土した。本住居址は長胴甕の形状から古墳時代後期としたい。



第119図 H84号住居址遺構・遺物実測図



第120図 H84号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	杯・鉢	-	6.6	(4.2)	外面ミガキ 内面黒色塗理・ミガキ	底部～縁部	外面5YR4/2灰褐色粒
2	土師器	鉢	[17.2]	7.4	17.3	口辺織ナデ 外面・底面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	80	内外面5YR3/1灰褐色
3	土師器	甕	[17]	-	(1.8)	口辺織ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁～胴部破片	内外面5YR7/3暗褐色
4	土師器	甕	[18.2]	6.3	(37.5)	口辺織ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	45	内外面5YR5/4暗褐色粒
5	土師器	甕	[17.8]	-	(32.2)	口辺織ナデ 外面下部赤黒帯ヘラナデ・下部ヘラケズリ・ナデ 内面赤黒帯ヘラナデ	50	内外面5YR5/4暗褐色粒
6	土師器	甕	[21.1]	-	(28.5)	口辺織ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁～胴部破片	内外面5YR5/3暗褐色粒

番号	器種	長さcm	幅cm	口径cm	重量g	備考
7	杯玉	0.65	1.15	0.25	1.5	
8	杯玉	0.6	1.2	0.32	1.2	

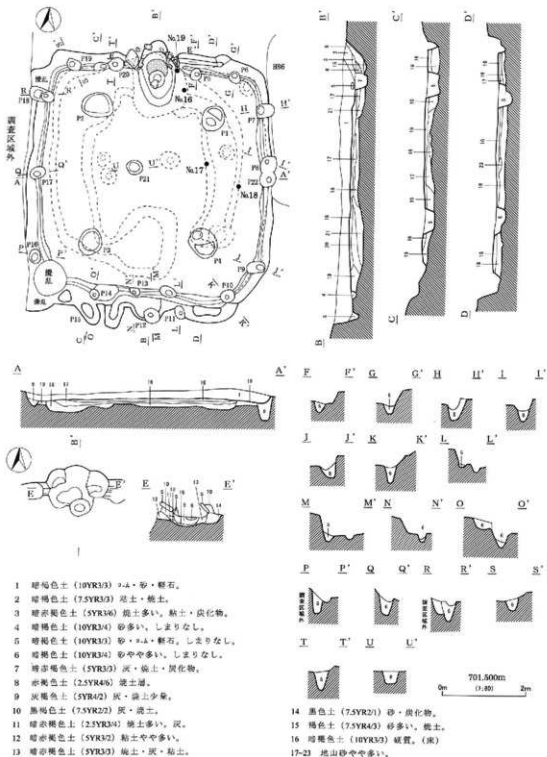
番号	器種	長さcm	幅cm	口径cm	重量g	備考
9	杯玉	1.1	1.1	0.35	2.1	

第63表 H84号住居址遺物観察表

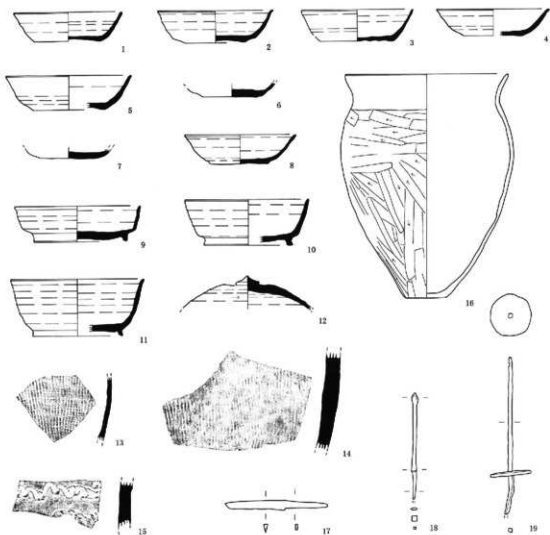
H85号住居址

遺構は15-ヒグリッドに位置し、耕作による小ピットによって南壁際が破壊されている。平面形態はやや隅丸の方形である。規模は東西6.0m、南北6.1m、検出面から床面までの深さは35cmを測る。床面は硬質で周辺部は軟質部が一部存在する。壁際には溝が廻り1.5～2m間隔で壁柱穴らしきピットが存在する。主柱穴は4個確認できたが深さは25cm内外と浅い。カマドは北壁中央に構築され、破壊された袖の一部及び火床から煙道部に至る立ち上がりが残存していた。火床には焼土が堆積しているが南側はピットに破壊されている。煙道部は火床からは45°とやや緩やかな傾斜で検出面に立ち上がる。床下直下の掘方は5～30cmの厚さで砂質土が埋め込まれていた。

遺物は須恵器の杯・高台付杯、土師器の甕が出土した。本住居址は土師器甕の口縁形状から8世紀末から9世紀前半、平安時代としたい。



第121図 H85号住居址実測図



第122図 H85号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	煎茶器	平	13.3	8	3.6	ロクロナデ 底面割断面切り 火だすき	90	内外面2.5Y4/1黄灰色
2	煎茶器	平	[14.2]	7.5	4	ロクロナデ 底面割断面切り 火だすき	60	内外面3Y5/1灰色
3	煎茶器	平	[13.6]	9	3.8	ロクロナデ 底面割断面へつ切り 火だすき	50	内外面7.5Y5/1灰色
4	煎茶器	平	[13.8]	[7.2]	3.3	ロクロナデ 底面割断面切り 火だすき	30	内外面3Y5/1灰色
5	煎茶器	平	[13.4]	[8.6]	4.1	ロクロナデ 底面割断面切り 火だすき	40	内外面3Y5/1灰色
6	煎茶器	平	-	7.2	2.7	ロクロナデ 底面割断面切り 火だすき	底面30	内外面3Y5/1灰色
7	煎茶器	平	-	8.8	1.3	ロクロナデ 底面割断面切り 火だすき	底面30	内外面3Y5/1灰色
8	煎茶器	平	[13.7]	7.3	3.6	ロクロナデ 底面割断面切り 火だすき	30	内外面7.5Y7/4暗・橙色
9	煎茶器	西台付鉢	15.4	11.4	4.3	ロクロナデ 底面割断面切り後西台取り付け 火だすき	90	内外面3Y5/1灰色
10	煎茶器	西台付鉢	[15.2]	[10.9]	5.6	ロクロナデ 底面割断面取り付け	20	内外面7N4/0灰色

第64表 H85号住居址遺物観察表

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	色調等
11	須恵器	高台付罎	16.6	11.1	7	口ウロナデ 底面(板瓦)切り縁高台縁り付付	25	内外面7.0YR5/1灰色
12	須恵器	罎	-	-	14.3	口ウロナデ 天澤部ヘラケズリ 宝珠つまみ彫り付付	30	内外面4Y5/1灰色
13	須恵器	罎	-	-	-	外底縁子彫き 内面ナデ	胴部破片	内外面5Y5/1灰色
14	須恵器	罎	-	-	-	外底平行彫き 内面ナデ	胴部破片	内外面4.0R6色
15	須恵器	罎	-	-	-	外底波状文 内面ナデ	破片	内外面N3.0暗灰色
16	土師器	罎	20	3.2	27.6	口縁横ナデ 外底ヘラケズリ 内面ヘラナデ	80	外底10R5.4赤褐色

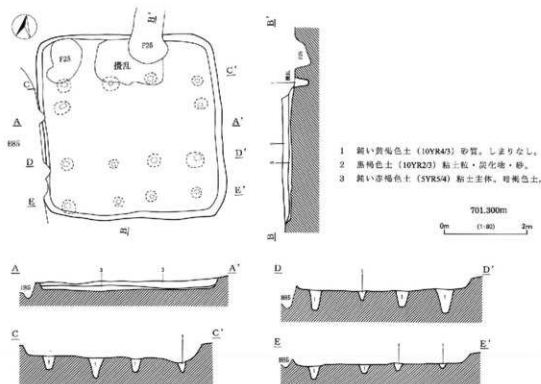
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
17	刀子	12.6	1.2	6.1	12.73	
18	鉄鏃	13	0.8	6.0	11.88	基部欠損

第65表 H85号住居址遺物観察表

H86号住居址

遺構は13-はグリッドに位置し、H85を切る。平面形態は方形である。規模は東西4.2m、南北4.3m。検出面から床面までの深さは20cmを測る。床面は広い範囲に粘土が広がり硬質であるが、それ以外の箇所はやや軟質である。床面上でピットは確認できなかったが、粘土を除去した掘方では小ピットが規則的に存在した。カマド・炉などの施設は認められなかった。

遺物は奈良・平安時代の土師器、須恵器が出土したが小破片であり、本住居址に伴うかは断定できなかった。形状から、中世の竪穴状遺構である可能性も考えられる。



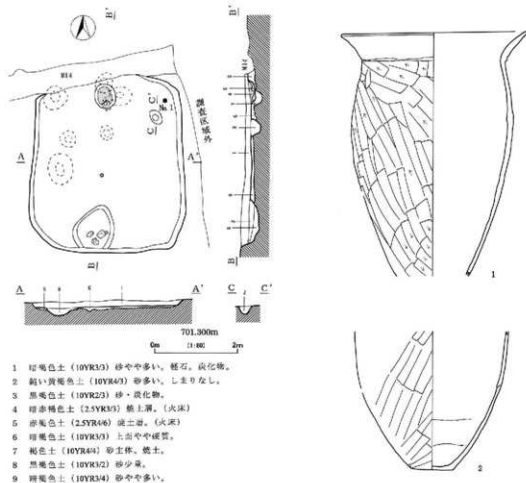
第123図 H86号住居址実測図

H87号住居址

遺構は11-わグリッドに位置し、北壁の一部はM14に切られる。平面形態はやや南北に長い隅丸方形である。規模は東西3.4m、南北は残存規模で4.2m、検出面から床面までの深さは16cmを測る。

床面は薄く硬質な貼り床面が認められた。ピットは床面上で1個、浅い土坑1個が認められたが本住居址に伴うかは断定できなかった。カマドは北壁中央に構築されているが火床が残存していたのみである。

遺物は僅かで、形状の分かるものは北東コーナーから出土した武蔵甕だけである。本住居址は口縁「く」の字状の武蔵甕から奈良時代とした。



第124図 H87号住居址遺構・遺物実測図

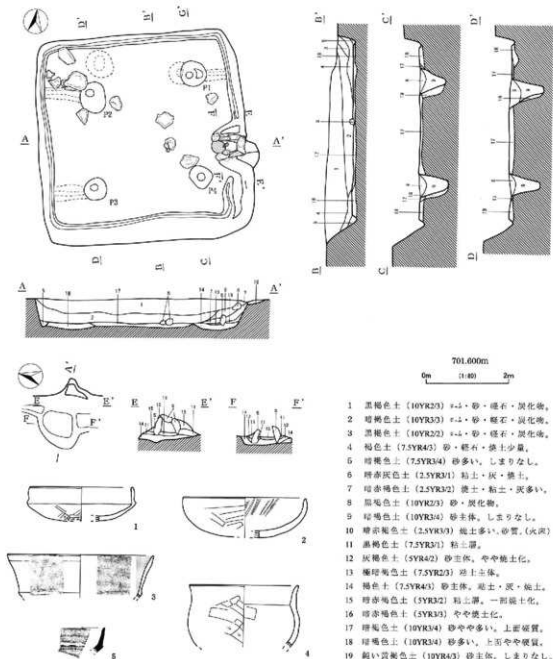
番号	遺構	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土加齢	溝	22.8	-	0.8	口縁ナズリ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナズリ	80	外面5YR5/4鈍い暗褐色
2	土加齢	溝	-	5	-	外面ヘラケズリ 内面ヘラナズリ	底面一部ナズリ	外面5YR5/4鈍い暗褐色

第66表 H87号住居址遺物観察表

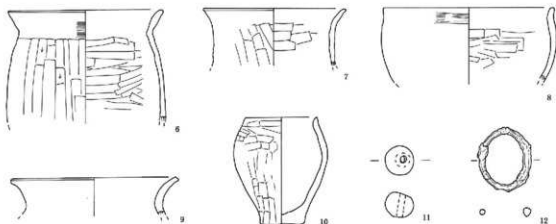
H88号住居址

遺構は12-ひグリッドに位置する。平面形態は方形で、規模は東西4.8m、南北4.6m、検出面から床面までの深さは70cmを測る。床面は全体に硬質で壁際に幅15cm内外の溝が巡る。ピットは支柱穴が4個認められ、P1～3には壁際からの溝が存在する。間仕切りに関すると考えられる。カマドは東壁のやや南寄りに位置し、粘土と石材を利用して構築された袖及び火床から煙道に至る立ち上がりが残存していた。火床には径32cm、厚さ6cmの厚みで焼土が堆積し、煙道部立ち上がり付近に一部天井石が架けられていた。掘方は床直下に5～10cmの厚みで暗褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕・鉢、須恵器の坏、土玉が出土した。土師器の丸底及び模倣坏、須恵器坏の形状から6世紀、古墳時代後期としたい。



第125図 H88号住居址遺構・遺物実測図



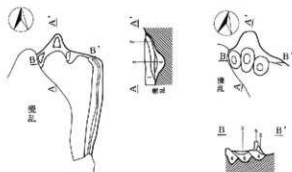
第126図 H88号住居址遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	罎	[12.6]	丸底	(4.2)	口辺横ナデ 外面下部へ紅部ヘラケズリ 内面ヘラナデ	25	内外表5YR4/2灰褐色
2	土師器	罎	[15.1]	丸底	4.9	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ・ナデ 内面ヘラナデ残ミガキ	25	外面7.5YR5/3弱い褐色
3	土師器	罎	[1.8]	-	(3.2)	口辺内外面ミガキ 内面黒色処理	口縁破片	外面10YR7/4弱い黄褐色
4	土師器	鉢	[13.4]	-	(7.8)	口辺横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁・側面破片	外面表2.5YR5/6弱赤褐色
5	土師器	罎	-	-	-	口辺横ナデ	口縁破片	内外表N5/0灰色
6	土師器	甕	[1.9]	-	(13.8)	口辺横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁・側面破片	内外表2.5YR5/3弱い褐色
7	土師器	甕	[17.6]	-	(7)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁・側面破片	外面7.5YR4/2灰褐色
8	土師器	鉢	[2.1]	-	(3.2)	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	口縁・側面破片	内外表5YR6/4弱い褐色
9	土師器	甕	[20.6]	-	(4.0)	口縁横ナデ	口縁30	内外表7.5YR7/3弱い褐色
10	土師器	甕	9	5	13.2	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラナデ	95	外面2.5YR5/4弱い赤褐色

番号	器種	長さcm	幅cm	孔径cm	底径cm	備考
11	土玉	0.75	0.9	0.2	0.61	
12	土師器破片	0.9	0.9	0.75	0.61	孔径0.2

第67表 H88号住居址遺物観察表

H93号住居址



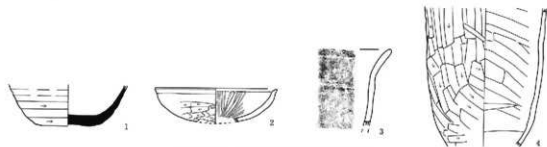
- 1 黒褐色土 (7.5YR3/1) 粘土・炭化物。
- 2 暗赤褐色土 (5YR3/4) 粘土・地上多い。
- 3 黒褐色土 (5YR3/1) 粘土・粘土。
- 4 暗赤褐色土 (5YR3/2) 粘土粒・粘土・砂。
- 5 赤灰色土 (2.5YR4/1) 粘土層。
- 6 暗褐色土 (7.5YR3/3) 粘土・砂・炭化物。

700,600m
0m (1:40) 2m

第127図 H93号住居址実測図

遺構は32-けグリッドに位置し、H94を切り、遺構の大半は攪乱に破壊されている。正確な平面形態は不明である。調査規模は東西1.4m、南北2.4m、検出面から床面までの深さは25cmを測る。床面はやや硬質で、壁際に溝が巡ると思われる。ピットは確認できなかった。カマドは北壁に位置し、袖及び煙道への立ち上がりだけが僅かに残存しているだけであった。

遺物は土師器の坏・甕、須恵器の甕が出土したが、カマドから出土した土師器甕、須恵器の甕以外は切り合い関係にあるH94の混入である可能性も考えられる。遺物及び切り合い関係からH94より新しい古墳時代後期としたい。

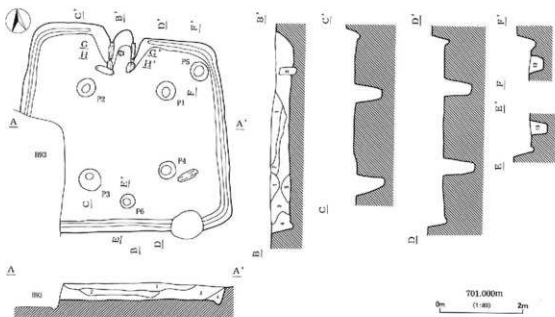


第128図 H93号住居址遺物実測図

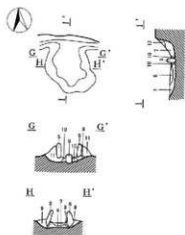
遺物	器種	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	保存率・部位	色面等
1	明透器	甕	-	6	-	口縁ナデ 底面回転糸切り横ヘラケズリ	底面-底面	2.5Y7/1灰白色
2	土師器	坏	15	丸底	(6.1)	口縁横ナデ 底部-底部ヘラケズリ 内面放射状文	口縁-底部	2.5Y8.5/9暗赤褐色
3	土師器	甕	-	-	(6.4)	口縁横ナデ 外周縁目尻のナデ 内面口縁上方 内面糸目残るナデ	口縁断面	7.5Y2.5/3.0暗褐色
4	土師器	甕	-	-	(17.1)	外周ヘラケズリ 内面ヘラナデ	胴部	7.5Y3.5/2.0暗褐色

第68表 H93号住居址遺物観察表

H94号住居址



第129図 H94号住居址実測図

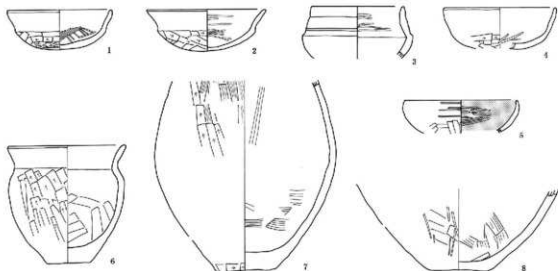


- 1 黒褐色土 (10YR3/2) 軽石・砂や多い。灰子混。
- 2 黒褐色土 (10YR3/2) 軽石・砂や多い。灰子混。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) 砂や多い。
- 4 黒褐色土 (10YR3/3) 砂・軽石少量。
- 5 黒褐色土 (10YR2/2) 炭化物や多い。
- 6 暗赤褐色土 (5YR3/2) 粘土・炭土主体。
- 7 黒褐色土 (7.5YR3/2) 砂・炭土主体。
- 8 黒褐色土 (7.5YR3/1) 粘土多い。
- 9 褐色土 (7.5YR4/4) 粘土少量。
- 10 黒褐色土 (7.5YR3/1) 粘土主体。炭土少量。
- 11 黒褐色土 (5YR3/1) 粘土層。
- 12 黒褐色土 (10YR2/3) 灰・粘土・炭土。
- 13 暗褐色土 (7.5YR3/3) 砂・炭化物。

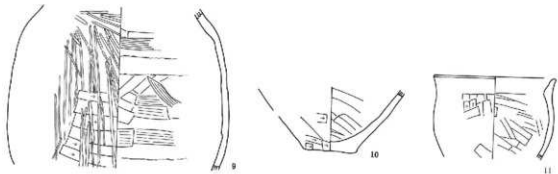
第130図 H94号住居址カマド実測図

遺構は31-けグリッドに位置し、H93に切られる。平面形態はやや隅丸の方形である。規模は東西5.0m、南北4.7m、検出面から床面までの深さは50cmを測る。覆土はすり鉢気味の自然堆積である。床面は壁際を僅かに除き全体に硬質である。壁際には幅15cm内外の溝が走り、ピットは6個認められた。P1~4が主柱穴で、P6は位置的に入口に関与と思われる。P5は小型だが、位置的に貯蔵穴である可能性が伺える。カマドは北壁の中央に構築され粘土及び石材を利用して構築されている。袖は北壁から住居内に70cm程度伸び、内壁部には扁平な石材が埋め込まれている。西袖の前面部には焚き口に架けられたと思われる天井石が横たわっていた。火床部には明瞭な焼土は堆積していなかったが、やや北寄りに自然石を利用した支脚石が埋め込まれていた。掘方は貼り床のみであった。

遺物は土師器の坏・甕が出土した。口辺途中に段を有する土師器坏の存在から6世紀末~7世紀、古墳時代後期としたい。



第131図 H94号住居址遺物実測図

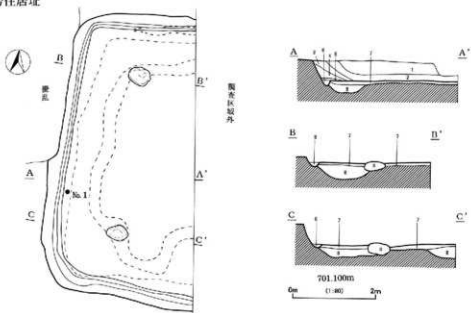


第132図 H94号住居址遺物実測図

番号	部種	形状	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	保存率・部位	色調等
1	土師器	杯	13	丸底	4.8	外面口縁横ナデ 外面～底縁ヘラケズリ 内面ミガキ	90	外外面10YR7/4鈍い黄褐色
2	土師器	杯	14.6	丸底	5.1	外面口縁横ナデ 外面～底縁ヘラケズリ 内面ミガキ	70	内外面5YR6/4鈍い紅色
3	土師器	杯	[14.6]	—	6.4	口縁有段 外面縁部ヘラケズリ横ナデ 内面ミガキ	口縁～縁部流汗	内外面10YR5/3鈍い黄褐色
4	土師器	杯	[14]	丸底	5.0	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ナデ一部ミガキ	口縁～縁部流汗	内外面10YR6/6明黄褐色
5	土師器	杯	[13.6]	丸底	5.0	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面黄褐色・ミガキ	口縁～縁部流汗	外面10YR7/2鈍い黄褐色
6	土師器	小笠蓋	14.7	5.3	14.3	口縁横ナデ 外面縦ヘラケズリ 内面ヘラケズリ	95	外面2.5YR5/4鈍い赤褐色
7	土師器	蓋	—	7.3	(23.3)	外面ヘラケズリ・外面縁部ナデ 内面ヘラケズリ・外面縁部ナデ 割上至腹上付置	40	外面5YR5/3鈍い褐色
8	土師器	蓋	—	7.1	(16.5)	外面ヘラケズリ 内面赤褐色ヘラケズリ 9と同一個体	底縁～胴部	外面2.5YR4/4鈍い赤褐色
9	土師器	蓋	—	—	(19.0)	外面ヘラケズリ 内面赤褐色ヘラケズリ 8と同一個体	胴部～胴下部	外面2.5YR4/4鈍い赤褐色
10	土師器	蓋	—	6.6	8.0	外面ヘラケズリ 内面ヘラケズリ	底縁～胴部	外面10YR5/2鈍い黄褐色
11	土師器	蓋	[15]	—	10.0	口縁横ナデ 外面ヘラケズリ 内面ヘラケズリ	口縁～胴部割片	外面5YR5/3鈍い赤褐色

第69表 H94号住居址遺物観察表

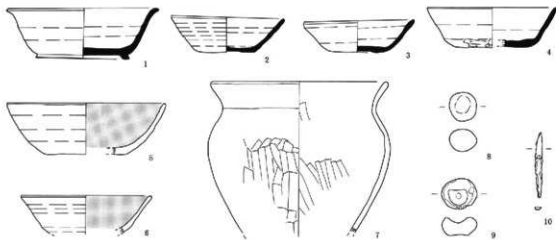
H97号住居址



第133図 H97号住居址実測図

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1 褐色色土 (10YR3/3) 砂・軽石・炭化物。 | 5 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・軽石。 |
| 2 黒褐色土 (10YR3/2) 砂・軽石・炭化物。 | 6 褐色色土 (10YR3/3) しまりなし。 |
| 3 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・軽石・炭化物。 | 7 黒褐色土 (10YR2/3) 軽質。(床) |
| 4 褐色色土 (10YR3/4) 砂やや多い。 | 8 褐色土 (10YR4/4) 砂少。 |

遺構は17-ひグリッドに位置し、H95・104に切られ東側の半分は道路調査分となる。平面形態はやや隅丸の方形である。道路分を含めた規模は東西6.4m、南北7.2m、検出面までの深さは45cmを測る。(調査規模は東西3.8m、南北7.2m) 床面は貼り床され硬質で壁際に溝が巡る。道路部も含め、柱の位置に径60cm内外の川原石が埋め込まれていた事から礎石建ちの住居址であることが伺える。カマドは道路部分の北壁中央に構築されている。掘方は中央が浅く、周辺部が深い状況であった。遺物は土師器の碗・甕、須恵器の坏・甕、古銭(中世)、白玉が出土した。5・6・7はH104の混入遺物と考えられるため、底部回転糸切り後ヘラ調整を施す須恵器坏から8世紀後半、奈良時代としたい。



第134図 H97号住居址遺物実測図

番号	部類	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	須恵器	西台村鉢	18.7	11.5	6.1	ロクロナデ 底面回転糸切り後高台盛り付 外面丸部凸	98	外面丸部10Y7/2灰白色
2	須恵器	鉢	14	8.1	4.5	ロクロナデ 底面回転糸切り 火だすき	85	内外面7.5YR5/1灰白色
3	須恵器	鉢	13.7	6.9	4.2	ロクロナデ 底面回転糸切り 火だすき	70	内外面7.5YR5/1灰白色
4	須恵器	鉢	[15.9]	7.6	4.8	ロクロナデ 底面・側面回転糸切り	40	内外面2.5Y5/2黄褐色
5	土師器	鉢	[19.5]	[9.7]	[6.3]	ロクロナデ 底面ヘラナズリ 内面黒色処理	25	外面10YR7/3緑・黄褐色
6	土師器	鉢	[16]	-	[4.7]	ロクロナデ 内面黒色処理?	25	外面10YR5/4黄褐色
7	土師器	甕	[21.9]	-	-	口縁・胴上部ロクロナデ 外面ヘラナズリ 内面ヘラナデ	口縁一胴中部	外面10YR7/4黄褐色

番号	部類	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
8	礎石	3.5	3.3	2.7	44.9	
9	礎石	3.8	4.3	2.3	14.8	厚さ最大径3.3 径2.06
10	針	7.95	0.88	0.3	0.01	

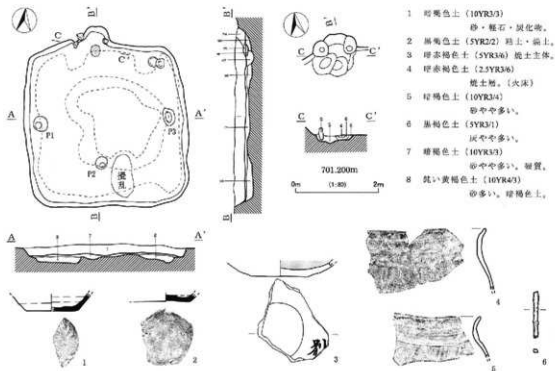
第70表 H97号住居址遺物観察表

H98号住居址

遺構は18-ふグリッドに位置し、F29に切られる。平面形態は隅丸の方形である。規模は東西4.0m、南北4.0m、検出面から床面までの深さは30cmを測る。床面は硬く貼り床されている。ピットは3個認められ、壁際のP1・3が主柱穴、P2が入口に関すると考えられる。カマドは北壁のやや西寄りに構築されているが、大半は破壊され火床と北壁外に張り出した煙道部の立ち上がりのみ残存し

ていた。掘方は中央部は貼り床のみで、周辺部は貼り床直下に20cm程度の厚みで地山主体の鈍い黄褐色土が埋め込まれていた。

遺物は須恵器の坏、土師器の坏・甕が出土し、土師器坏には墨書も認められた。底部回転糸切り後未調整の須恵器坏及び口縁「コ」の字状の武蔵甕の存在から9世紀、平安時代とした。



第135図 H98号住居址遺構・遺物実測図

番号	器種	胎形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	須恵器	坏	-	[6.4]	[2.1]	口縁ナデ 底部回転糸切り	底面〜縁部断片	内外面10YR5/1黄褐色
2	須恵器	坏	-	7	(1)	口縁ナデ 底部回転糸切り	底面部	内外面10YR5/1黄褐色
3	土師器	坏	-	[6.4]	[1.8]	口縁ナデ 外面ヘラケズリ 内面黒色結輝 外面墨書「コ」	30	外面2.5YR5/6暗赤褐色
4	土師器	甕	-	-	[7.2]	口縁ナデ 外面ヘラケズリ 武蔵甕	口縁断片	外面5YR5/4鈍い赤褐色
5	土師器	甕	-	-	[5]	口縁ナデ 外面ヘラケズリ 武蔵甕	口縁断片	外面5YR5/6暗赤褐色

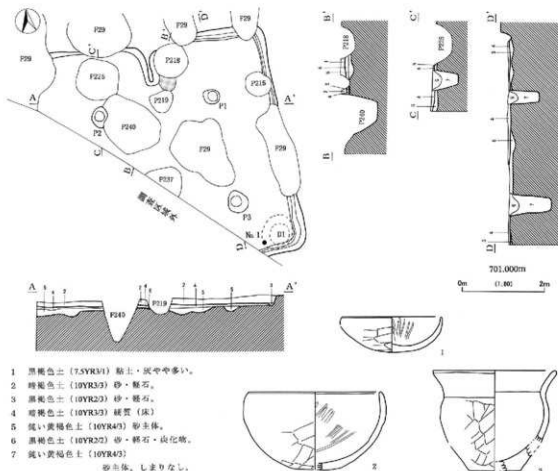
番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
6	不明焼製品	5.72	0.74	0.49	3.37	回転糸切

第71表 H98号住居址遺物観察表

H99号住居址

遺構は19-ふグリッドに位置し、F29に切られ、南側は調査区域外となる。平面形態は残存状況から方形と考えられる。調査規模は東西5.2m、南北5.8m、検出面から床面までの深さは20cmを測る。床面は壁際の一部を除き貼り床され硬質である。壁際には溝が巡り、3個の支柱穴が認められた。カマドは北壁に構築されているが、火床の一部と西袖を残し大半がビットに破壊されている。掘方は10cm内外の厚みで地山の砂主体の鈍い黄褐色土が埋め込まれていた。

遺物は土師器の坏・甕が出土した。底部丸底の坏及び厚手の甕の存在から5世紀後半、古墳時代中期とした。



第136図 H199号住居址構・遺物実測図

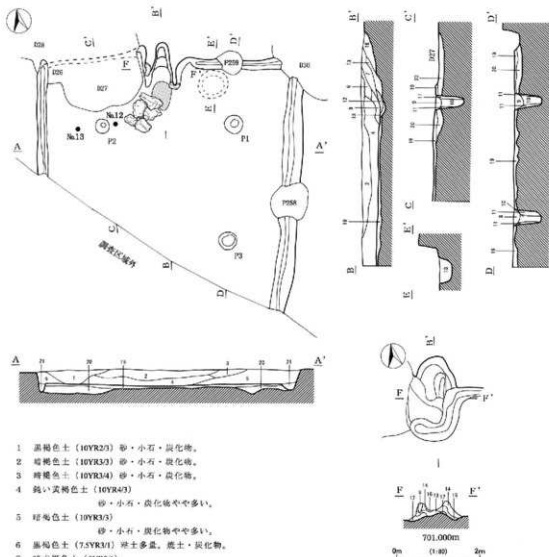
番号	品類	器形	口径cm	底径cm	胎高cm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	杯	12.6	8.9	4.3	口縁端ミガキ 外面から底面へラケズリ突ミガキ 内面直刷毛ミガキ	70	外面5YR5/6暗赤褐色
2	土師器	杯	16.4	8.9	9.5	口縁端ナデ 外面ヘラケズリ 内面ミガキ	25	外面10YR7/4鈍い黄褐色
3	土師器	甕	15.8	15.4	12.3	口縁端ナデ 外面磨ナデ 底面ヘラケズリ 内面ナデ	口縁・底面残片	外面5YR5/6暗赤褐色

第72表 H99号住居址遺物観察表

H1103号住居址

遺構は21-ヒグリッドに位置し、北壁及び東壁の一部を土坑・ピットによって破壊され、南側は調査区域外となる。平面形態は調査状況から方形と思われる。床面は貼り床され硬質で、壁際に幅15cm内外の溝が走る。規模は東西6.6m、南北は調査規模の最大で5.8m、検出面から床面までの深さは40cmを測る。ピットは深さ70cm内外の主柱穴が3個認められた。カマドは北壁の中央に構築され、粘土や石材を利用した両袖及び火床から煙道部への立ち上がりが一部残存していた。袖は北壁から住居内に60cm延びているが先端付近は完全に破壊されている。火床は長径70cmの楕円状で厚さ8cmの厚みで焼土が堆積していた。火床の前部にはカマドの構築材と考えられる石材が散在していた。煙道への立ち上がりは火床から緩やかな傾斜で北壁外40cmの検出面に至る。掘方はやや壁際部分が深く、貼り床直下に8cm内外の厚みで褐色土が埋め込まれていた。遺物は土師器の杯・高杯・甕、須恵器の杯・甕が出土した。土師器の底部丸底の杯および模倣杯、胴中央あたりに最大径をもつ土師器長胴甕

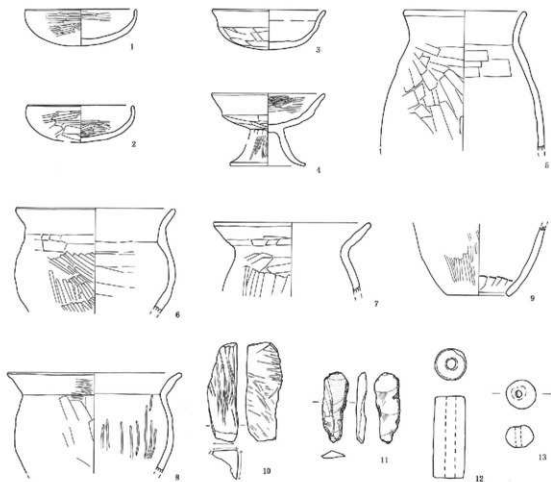
の存在から5世紀末～6世紀初頭、古墳時代中期としたい。



- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・小石・炭化物。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・小石・炭化物。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) 砂・小石・炭化物。
- 4 鈍い黄褐色土 (10YR4/3)
砂・小石・炭化物やや多い。
- 5 暗褐色土 (10YR3/3)
砂・小石・炭化物やや多い。
- 6 黒褐色土 (7.5YR3/1) 粘土多量。炭土・炭化物。
- 7 暗赤褐色土 (5YR3/6)
粘土主体。灰・粘土・炭化物。
- 8 暗赤褐色土 (5YR3/4) 粘土多量。
- 9 黒褐色土 (10YR2/3) 粘土密。砂・礫石。
- 10 暗褐色土 (10YR3/3) 砂や多い。しまりなし。
- 11 暗褐色土 (10YR4/4) 砂主体。しまりなし。
- 12 明赤褐色土 (2.5YR5/8) 粘土層。(火床)
- 13 黒褐色土 (5YR2/1) 粘土層。
- 14 黒褐色土 (7.5YR2/2) 粘土層。

- 15 暗赤灰色土 (2.5YR3/1) 粘土層。
- 16 暗赤褐色土 (2.5YR3/3) 粘土・灰・炭土。
- 17 黒褐色土 (5YR2/2) 砂多い。礫石・灰。
- 18 暗褐色土 (7.5YR3/3) 粘土・粘土少量。
- 19 暗褐色土 (10YR3/3) 硬質。(灰)
- 20 褐色土 (10YR4/4) 砂主体。しまりなし。
- 21 鈍い黄褐色土 (10YR4/5) 砂多い。(河積)

第137図 H1103号住居址実測図



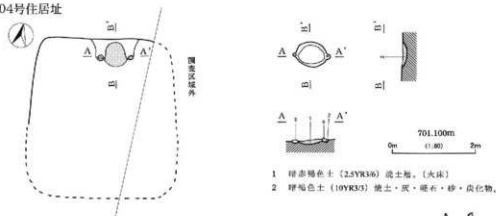
第138図 H103号住居址遺物実測図

番号	器種	図形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	保存率・部位	色調等
1	土師器	片	15.8	丸底	4.5	口縁ミガキ 外面ヘラケズリ後ミガキ 内面ミガキ	50	内外面5YR6/2灰褐色粒
2	土師器	片	[13.2]	丸底	4.6	口縁織ミガキ 外面ヘラケズリ後ミガキ 内面ミガキ	40	外面5YR5/4緑い赤褐色
3	土師器	片	14	丸底	4.9	口縁織ミガキ 外面ヘラケズリ 内面ナシ	80	内外面2.5YR5/4緑い赤褐色
4	土師器	片	14.1	[6]	8.9	外縁口縁ナシ・外面ヘラケズリ・内面ミガキ 底縁外縁ヘラケズリ・底ミガキ・内面ヘラケズリ	50	外面10YR8/4灰黄褐色
5	土師器	甕	[15.2]	-	(1.7)	口縁織ナシ 外面ヘラケズリ 内面ヘラケズリ	口縁～胴部	外面2.5YR5/6明赤褐色
6	土師器	甕	[19.6]	-	(1.99)	口縁織ナシ 外面ヘラケズリ後ミガキ 内面ヘラケズリ	口縁～胴部	外面0YR5/6緑色
7	土師器	甕	[19.4]	-	(3)	口縁上縁織ナシ・下縁ヘラケズリ 外面ヘラケズリ 内面ヘラケズリ	口縁～胴部	外面0YR5/9鈍い赤褐色
8	土師器	甕	[21.4]	-	(1.23)	口縁織ナシ後ナシ 外面ヘラケズリ 内面ヘラケズリ	口縁～胴部	外面10YR5/2灰黄褐色
9	土師器	甕	-	[7.6]	18.6	外面ヘラケズリ後ミガキ 内面ヘラケズリ	底部～胴下部	外面10YR11/7灰色

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考	番号	器種	長さcm	幅cm	孔径cm	重量g	備考
10	硯石	12.15	3.7	4.3	153.2	塊状断面に透眼	12	碧玉	2.5	0.95	0.3	4.5	
11	瑪瑙片	4.35	1.6	0.45	3.2	膜入品	13	土玉	0.7	0.9	0.2	0.5	

第73表 H103号住居址遺物観察表

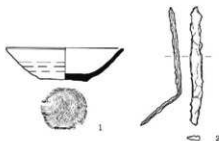
H104号住居址



- 1 緑赤褐色土 (2.5YR3/6) 粘土層。(火床)
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 粘土・灰・磁石・砂・炭化物。

遺構は17-ひグリッドに位置し、H97を切る。H97調査中に本遺溝の存在が認められたことから、貼り床の一部とカマドの存在のみ確認できた。確認された規模は東西約3.2m、南北4.0m、壁の立ち上がりは認められなかった。カマドは北壁に構築され、火床及び粘土で構築された袖が一部確認できたのみである。

遺物は須恵器の坏が出土した。底部回転糸切り後未調整の坏であることから平安時代としたい。

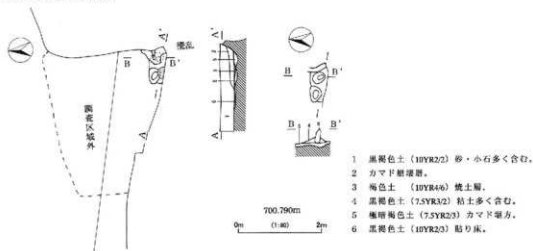


第139図 H104号住居址遺構・遺物実測図

番号	品名	器形	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	色調号
1	須山基	坏	1.16	5.8	3.9	口クロナデ 底部回転糸切り 未だすき	80	内外表2.5Y4/2暗灰黄色
番号	品名	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考		
2	刀子	16.8	1.43	0.6	21.54			

第74表 H104号住居址遺物観察表

H105号住居址実測図



- 1 黒褐色土 (10YR2/2) 砂・小石多く含む。
- 2 カマド附埋層。
- 3 褐色土 (10YR4/6) 粘土層。
- 4 黒褐色土 (7.5YR3/2) 粘土多く含む。
- 5 極暗褐色土 (7.5YR2/3) カマド埋方。
- 6 黒褐色土 (10YR2/3) 貼り床。

第140図 H105号住居址実測図

遺構は28-くグリッドに位置し、床面上ではカマド周辺部のみ確認できた。周辺部は攪乱によって破壊された部分が多い。調査規模は東西2.4m、南北1.2m、確認面から床面までの深さは25cmを測る。壁溝、ピットは確認できなかった。カマドは北壁に構築されており、北側のおよそ半分が調査可能であった。北軸は粘土を主な構築材とし、一部石材が埋め込まれていた。火床には焼上の堆積が認められた。

遺物は、土師器の甕が出土した。時期は、口縁の形状が「コ」の字状の武蔵甕であることから、9世紀前半、平安時代とした。



第141図 H105号住居址遺物実測図

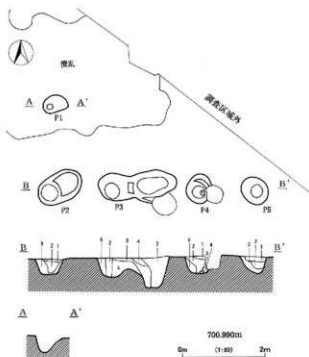
番号	器種	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調整・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	甕	11.8	-	5	口縁部ナデ 武蔵甕	口縁部片	内外面SYR6/4に近い褐色
2	土師器	甕	-	-	10.5	外縁ヘラケズリ	胴部部片	内外面SYR4/5褐色

第75表 H105号住居址遺物観察表

第2節 掘立柱建物址 (F)

F1号掘立柱建物址

遺構は22-うグリッド周辺に位置し、北側は調査区域外となる。確認できたピットは南北1間、東西4間の6個が確認できた。(溝持ちのP3を2個とした)ピットの形状は円形又は楕円形でテラスを持つ物も認められた。規模は短径60cm～長径1.2mとあまり企画性は認められない。柱の抜き取りが行われた可能性も考えられる。深さはP3の東側が70cmとやや深いのを除き50cm内外である。時期はピット内から底部回転糸切り後未調整の須恵器坏片等が出土している事から平安時代以降とした。

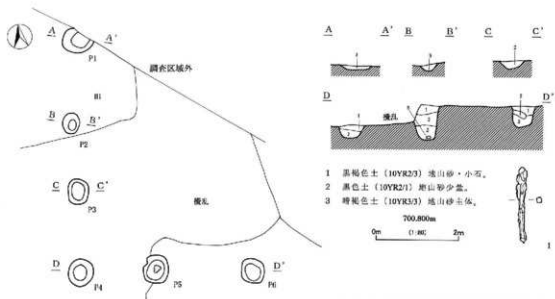


- 1 黒褐色土 (10YR2/5) 埋山砂・小石。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) 粘土。
- 3 黒褐色土 (10YR2/5) 埋山砂多い、小石。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) 埋山砂主体。

第142図 F1号掘立柱建物址実測図

F2号掘立柱建物址

遺構は23-いグリッドに位置し、北側は調査区域外となる。確認できたピットは東西2間、南北3間の6個である。ピットの形状は円形又はやや隅丸の方形状である。径は50～70cmを測る。深さはP5が80cm、P6が55cmであるのに対し他のピットは攪乱又は住居址に切られていることから15cm内外と浅い。時期は古墳時代の住居址との切り合い関係が不鮮明であるが、底部回転糸切りの須恵器坏片が出土していることから奈良・平安時代以降とした。



第143図 F 2号掘立柱建物址遺構・遺物実測図

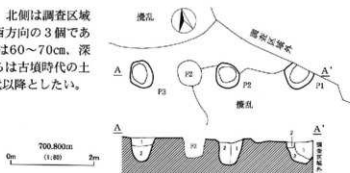
番号	別種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
1	角釘	9.35	1.28	1.16	15.1	出處不明

第76表 F 2掘立柱建物址遺物観察表

F 3号掘立柱建物址

遺構は22-いグリッドに位置し、北側は調査区域外となる。確認できたピットは東西方向の3個である。形状はやや不正の円形で、径は60~70cm、深さは55cm内外を測る。ピット内からは古墳時代の土師器片が出土した。時期は古墳時代以降としたい。

- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 地山砂・小石。
- 2 黒褐色土 (10YR2/2) 地山砂・小石。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) 砂主体。

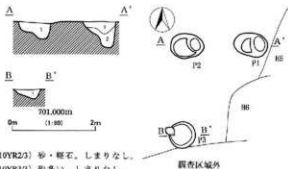


第144図 F 3号掘立柱建物址実測図

F 5号掘立柱建物址

遺構は28-こグリッドに位置し、H 5・6に切られる。確認できたピットは南北1間、東西1間の3個である。形状はP 1・2が西側にテラスを伴う楕円形で、P 3はほぼ円形である。深さはP 1が60cm、P 2が40cm、P 3が20cmである。遺物は古墳時代の土師器片が数片出土した。時期は古墳時代後期の住居址に切られることからこれ以前としたい。

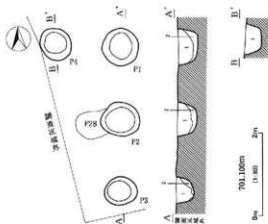
- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・軽石。しまりなし。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 砂多い。しまりなし。



第145図 F 5号掘立柱建物址実測図

F 6号掘立柱建物址

遺構は25-レグリッドに位置し、西側は調査区域外となる。確認できたピットは南北2間、東西1間の4個である。形状はほぼ円形で径70~95cm、深さは50cm内外を測る。

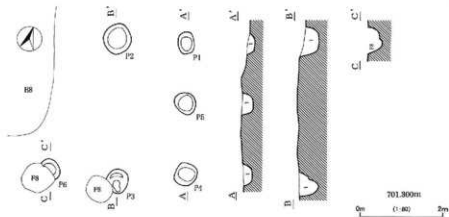


- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・礫石。しまりなし。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 砂多い。

第146図 F 6号掘立柱建物址実測図

F 7号掘立柱建物址

遺構は22-レグリッドに位置し、F 8を切り、H 8と切り合い関係にあると思われるが、新旧は断定できなかった。確認できたピットは南北2間、東西2間の6個である。形状は隅丸方形または不整形円形で、径は40~75cm、深さは40cm内外を測る。

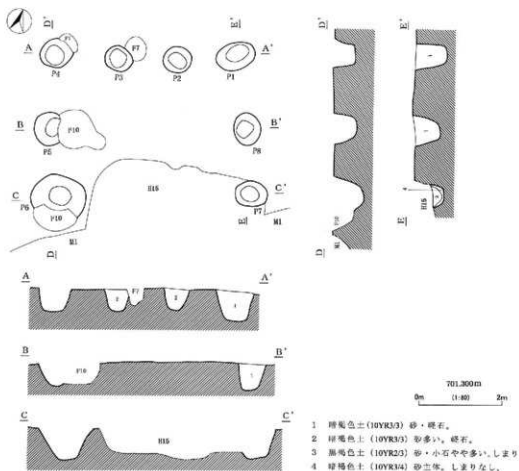


- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・礫石。しまりなし。

第147図 F 7号掘立柱建物址実測図

F 8号掘立柱建物址

遺構は22-レグリッドに位置し、H 15・F 7・F 10を切る。確認できたピットは南北2間、東西3間の8個である。南側については一部H 15との掘り下げ順が逆になり、確認できなかったピットも存在すると思われる。ピット形状は円形又は楕円形で、径70cm~1.2m、深さは70cm前後を測る。遺物は古墳時代から奈良・平安時代の上器片が出土したが奈良時代の住居址を切っているための混入品と思われる。時期は奈良時代の住居址を切る事からこれ以降と思われる。



第148図 F 8号掘立柱建物址実測図

F 9号掘立柱建物址

遺構は25-さグリッドに位置する。確認できたピットは南北2間の3個である。東側にピットが存在しないことから西側の調査区外に展開すると考えられる。ピット形状はほぼ円形で、径60~80cm、深さ45cm内外を測る。遺物は古墳時代の土器片が数片出土した。時期は古墳時代又はこれ以降としたい。

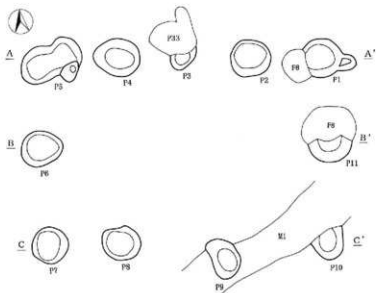
701,100m
 0m (1:40) 2m

- 1 暗褐色土(10YR3/3) 砂・礫石・炭・炭化物。
 2 鈍い黄褐色土(10YR4/3) 砂多い。暗褐色土。

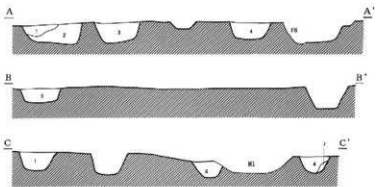
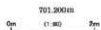
第149図 F 9号掘立柱建物址実測図

F 10号掘立柱建物址

遺構は23-さグリッドに位置し、M1・F8に切られる。確認できたピットは南北2間、東西は北で4間、南で3間の11個である。ピット形状は円形又は不整円形で径80cm～1.1m、深さは50cm内外を測る。



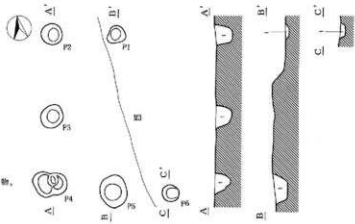
- 1 暗褐色土 (10YR3/5) 砂・礫石・炭化物。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 砂多い。
- 3 暗褐色土 (10YR3/5) 砂・礫石。
- 4 暗褐色土 (10YR3/5) 砂・礫石やや多い、炭化物。
- 5 暗褐色土 (10YR3/5) 砂・礫石やや多い。
- 6 暗褐色土 (10YR2/5) 砂・礫石。
- 7 暗褐色土 (10YR3/4) 砂・礫石やや多い、炭化物。



第150図 F 10号掘立柱建物址実測図

F 11号掘立柱建物址

遺構は調査区南西の47-ちグリッドに位置し、M3に切られる。確認できたピットは南北2間、東西は北で1間、南で2間の6個である。ピット形状はほぼ円形で、径40～80cm、深さは40cm内外を測る。



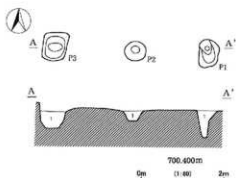
- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・礫石・炭化物。



第151図 F 11号掘立柱建物址実測図

F12号掘立柱建物址

遺構は45-たグリッドに位置する。確認できたピットは東西2間の3個である。形状は方形・円形・不整形と様々で、径は50~70cm、深さは25~70cmを測る。

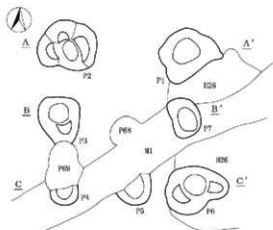


1 黒褐色土 (10YR2/3) 炭化物・砂・礫石・砂。

第152図 F12号掘立柱建物址実測図

F13号掘立柱建物址

遺構は23-レグリッドに位置し、やや大型で不整形のピット7個が確認できた。径は70cm~1.4m、深さ80cm内外を測る。



1 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・礫石・炭化物。

2 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・礫石・炭化物。

3 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂主体、埋褐色土。

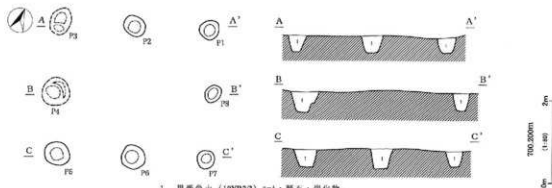
4 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・礫石。

5 暗褐色土 (10YR2/3) 砂やや多い、礫石。

6 暗褐色土 (10YR3/4) 砂主体、礫石。

第153図 F13号掘立柱建物址実測図

F14号掘立柱建物址



1 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・礫石・炭化物。

第154図 F14号掘立柱建物址実測図

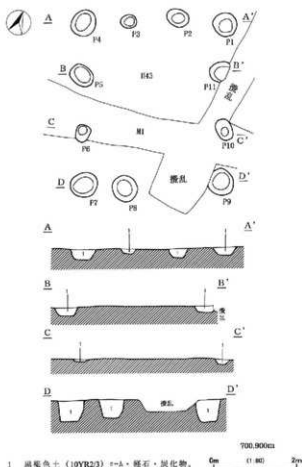
遺構は調査区北西の48-こグリッドに位置する。道路調査分を含めて確認できたピットは南北2間、東西2間の8個である。形状はほぼ円形で、径45cm~70cm、深さ40cm内外を測る。

F 15号掘立柱建物址

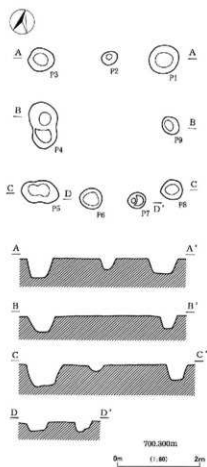
遺構は33-そグリッドに位置し、M 1に切られ、H43を切る。確認できたピットは南北3間、東西3間(南側は一部掘乱に破壊されている。)の11個である。形状はほぼ円形で、径40~60cm、深さ15~56cmを測る。遺物は古墳時代から平安時代の土器片が出土した。時期は古墳時代の住居址を切り、中世と思われる溝に切られる事から平安時代から中世としたい。

F 16号掘立柱建物址

遺構は41-さグリッドに位置し、確認できたピットは南北2間、東西は北で2間、南で3間の9個である。形状は円形及びだるま状の物が認められる。径は40cm~1.1m、深さは20~60cmを測る。遺物は古墳時代から奈良・平安時代の土師器・須恵器片が出土した。時期は平安時代以降としたい。



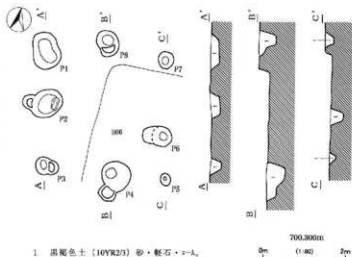
第155図 F 15号掘立柱建物址実測図



第156図 F 16号掘立柱建物址実測図

F 17号掘立柱建物址

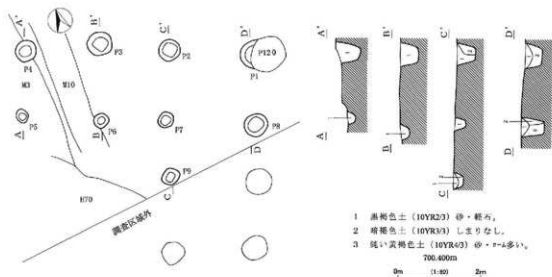
遺構は39-スグリッドに位置し、H66を切る。確認できたピットは南北2間、東西2間の8個である。形状は円形又はだるま状で、径は30~80cm、深さは20~45cmを測る。遺物は古墳時代から平安時代の土師器片が出土した。時期は平安時代の遺物及び古墳時代の住居址を切ることから平安時代とした。



第157図 F 17号掘立柱建物址実測図

F 18号掘立柱建物址

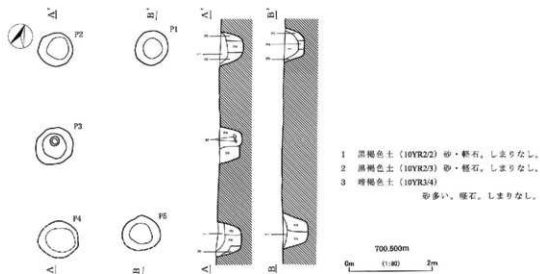
遺構は46-スグリッドに位置し、M3・10に切られ、H70を切る。南東側の一部は道路調査分となる。確認できたピットは道路分を含め、東西3間、南北3間の12個である。形状はほぼ円形で、径40~60cm、深さは20~60cmを測る。中世のM3に切られ、古墳時代の住居址を切ることから、この間に存在した遺構と考えられる。



第158図 F 18号掘立柱建物址実測図

F 19号掘立柱建物址

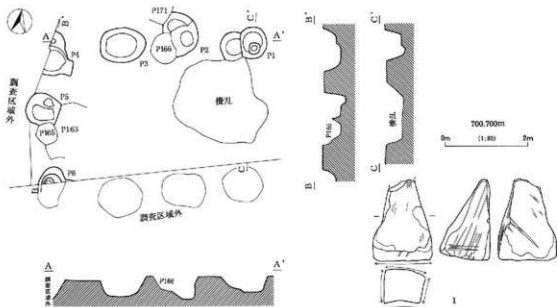
遺構は40-スグリッドに位置する。確認できたピットは南北2間、東西1間の5個である。形状は円形で、径90cm内外、深さ50~60cmを測る。ピットの確認状況から遺構は調査区域外の東側に展開すると推測される。遺物は古墳から平安時代の土師器・須恵器片が僅かに出土した。時期は平安時代の遺物から平安時代以降とした。



第159図 F19号掘立柱建物址実測図

F20号掘立柱建物址

遺構は36-すグリッドに位置し、南側は道路調査分となる。確認できたピットは道路調査分を含め南北2間、東西3間の9個である。規模は南北4.6m、東西5.5mを測る。ピット径は70cm~1.1m、深さは60cm内外を測る。遺物は先端部に敲打痕の残る砥石が出土している。



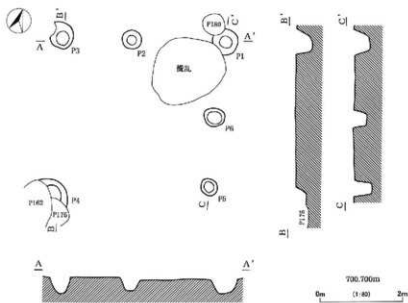
第160図 F20号掘立柱建物址遺構・遺物実測図

番号	品名	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
1	砥石	10	7.35	6.3	454.2	砥石に敲痕

第77表 F20号掘立柱建物址遺物観察表

F 21号掘立柱建物址

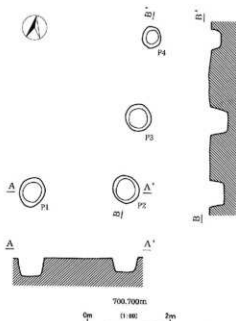
遺構は36-レグリッドに位置し、部分的に攪乱に破壊されている。確認できたピットは南北2間、東西2間の6個である。形状は円形で、径40~70cm、深さ40cm内外を測る。



第161図 F 21号掘立柱建物址実測図

F 22号掘立柱建物址

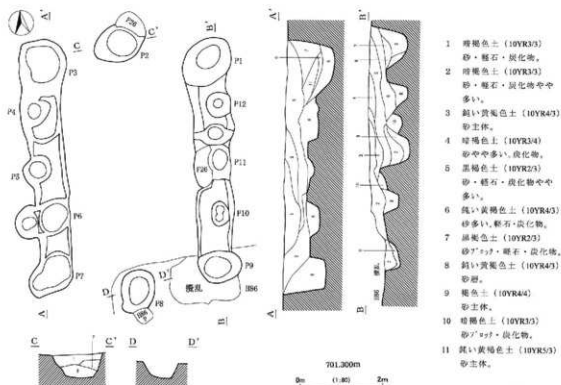
遺構は36-レグリッドに位置する。確認できたピットは南北2間、東西1間の4個である。形状は円形で、径50~70cm、深さ25~40cmを測る。遺物は古墳時代から平安時代の土師器・須恵器片が僅かに出土している。時期は平安時代以降としたい。



第162図 F 22号掘立柱建物址実測図

F 25号掘立柱建物址

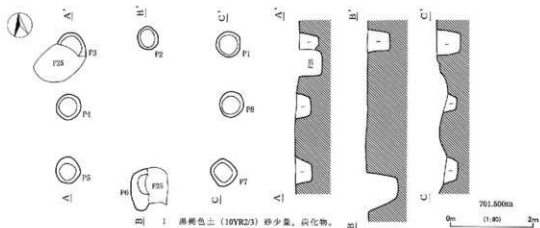
遺構は14-のグリッドに位置し、D 20に切られ、F 26を切る。東西2間、南北は溝持ちで、柱痕は西で5個、東で6個確認できた。規模は東西5.2m、南北は6.0m、柱痕の深さは1.0m内外を測る。遺物は古墳時代から奈良・平安時代の土師器・須恵器・灰釉陶器が出土している。時期は平安時代以降としたい。



第163図 F25号掘立柱建物址実測図

F26号掘立柱建物址

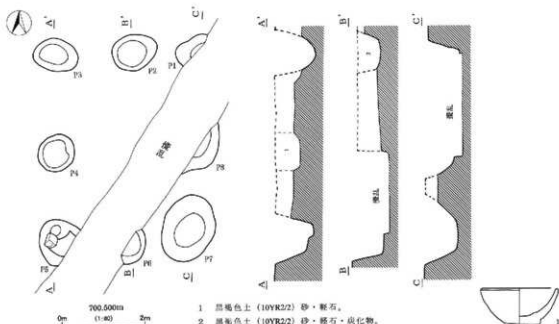
遺構は13-のグリッドに位置し、F25に切られる。確認できたピットは南北2間、東西2間の8個である。形状は円形で、径70cm前後、深さ30~60cmを測る。



第164図 F26号掘立柱建物址実測図

F27号掘立柱建物址

遺構は36-くグリッドに位置し、H63・65・82を切り、一部攪乱に破壊されている。確認できたピットは南北2間、東西2間の8個である。ピット形状は円形又は楕円形で、径80cm~1.7mを測る。遺物はP2底部から平安時代、10世紀後半から11世紀頃と思われる土師器杯の完形品が出土した事から本遺構は遺物と同時代の平安時代としたい。



第165図 F27号掘立柱建物址遺構・遺物実測図

番号	形種	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	杯	9.6	4.7	4.4	浅部ヘラタズリ 外面ヘラタズ 内面ヘラタズ	100	外面10YR7/3黒い黄褐色

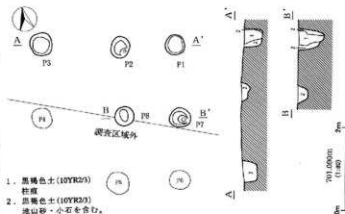
第78表 F27号掘立柱建物址遺物観察表

F31号掘立柱建物址

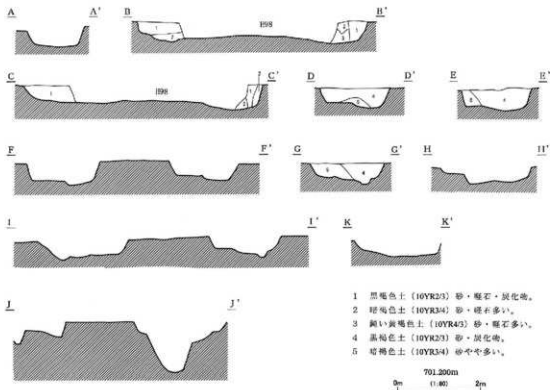
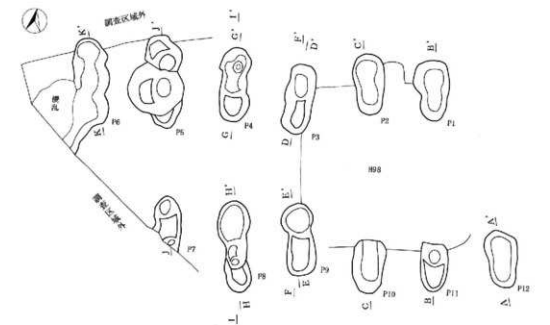
遺構は21-うグリッドに位置し、南側は道路調査分となる。ピットの形状は、ほぼ円形で径40~50cm、深さは20~60cmを測る。全体では8個のピットが認められ、2×2間の総柱であることが予測される。

F29号掘立柱建物址

遺構は調査区北の19-ふグリッドに位置し、H98・99を切る。確認できたピットは南北1間、東西5間の12個である。形状は楕円形で長径1.2~1.3m、深さは50cm内外を測る。時期は平安時代の住居址を切ることからこれ以降としたい。



第166図 F31号掘立柱建物址実測図

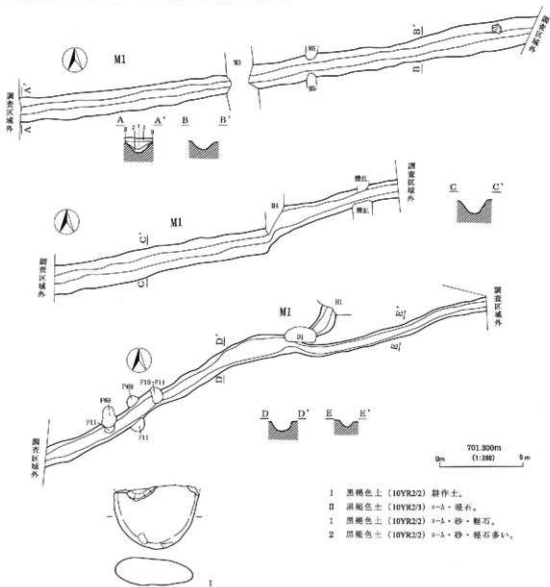


第167图 F 29号掘立柱建物址实测图

第3節 溝状遺構 (M)

M1号溝状遺構

遺構は調査区南西の49-でグリッドからおよそ東西方向に140m延びた後、道路調査分にて向きをおよそ北方向に変え17mの地点で調査区域外に至る。調査区西側の先は一部小海線に掘削され分断されていると思われる。規模は確認面での最大幅1.8m、底最大幅60cm、最大深は80cmを測る。全長は確認された範囲での推定で約157mを測る。遺物は古墳時代～平安時代の土師器・須恵器片が出土したが、住居址からの混入品と考えられる。時期は平安時代の住居址を切り、中世と考えられるM3に切られることから、M3に先行する中世としたい。



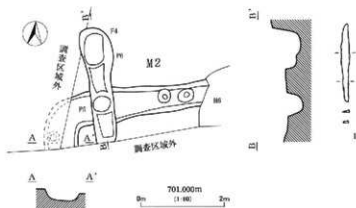
第168図 M1号溝状遺構 遺構・遺物実測図

第79表 M1号溝状遺構遺物観察表

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
1	餅石	7.9	10.5	3.5	366.23	

M 2号溝状遺構・F 4号掘立柱建物址

遺構は29-Cグリッドに位置し、F 4に切れられ、H 6と切り合い関係にあるが新旧は確認できなかった。規模は全長4.4m、確認面での最大幅90cm、底最大幅60cm、最大深は30cmを測る。確実な時期は不明である。



第169図 M 2号溝状遺構・
F 4号掘立柱建物址遺構・遺物実測図

M 3号溝状遺構

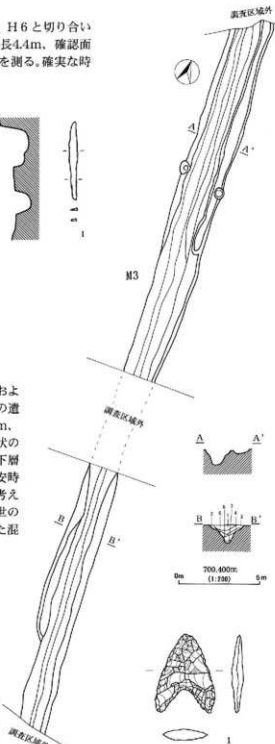
遺構は47-Tグリッドに位置し、調査区西側をおよそ南北方向に存在し、切り合い関係にあるすべての遺構を切る。規模は全長44m、確認面での最大幅2.8m、底最大幅70cm、最大深1.2mを測る。一部にテラス状の台を有し、斜面途中からやや斜面角が急になる。下層には砂礫が堆積していた。遺物は古墳時代から平安時代の土器片が出土しているが住居址からの混入と考えられる。時期は、本調査区北側の調査において中世の遺物が出土していることから、中世としたい。また混入と思われる黒曜石製の石鏃が出土している。

- 1 埴埴色土 (10YR3/3) ㊦-㊧・軽石・砂。
- 2 灰色土 (10YR4/6) ㊦-㊧と埴埴色土の混在。
- 3 黒褐色土 (10YR3/2) ㊦-㊧・軽石・砂や多い。
- 4 黒褐色土 (10YR2/3) ㊦-㊧・軽石・砂多い。
- 5 埴埴色土 (10YR3/3) ㊦㊧質、砂。
- 6 褐色土 (10YR4/6) ㊦-㊧・砂主体。
- 7 埴埴色土 (7.5YR3/3) ㊦㊧。

番号	器種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
F4-1	刀子	9.6	1.1	0.3	6.9	
M3-1	石鏃	2.4	1.85	0.35	1.2	

第80表 F 4号掘立柱建物址・

M 3号溝状遺構遺物観察表



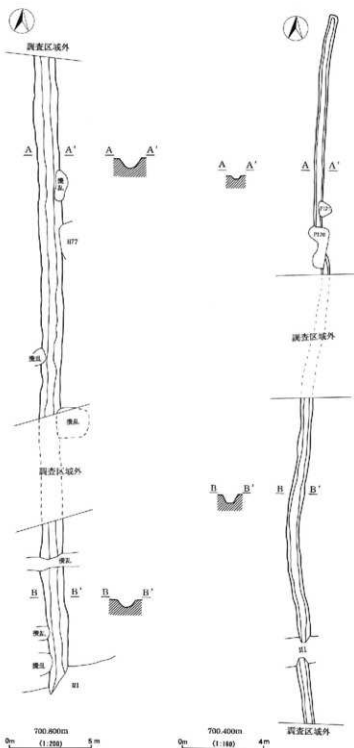
第170図 M 3号溝状遺構 遺構・遺物実測図

M4号溝状遺構

遺構は34-キグリッド付近から南方向に存在し、34-たグリッド付近でM1に合流する。規模は全長約38m、確認面での最大幅1.36m、底最大幅60cm、最大深70cmを測る。遺物は古墳時代から奈良平安時代の土器片が出土しているが住居址からの混入と考えられる。平安時代の住居址を切り、M1に合流していることからM1同様、中世としたい。

M5号溝状遺構

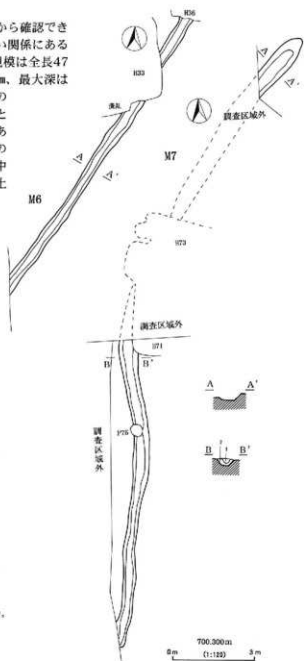
遺構は45-キグリッド付近から確認され、南方向に延び、調査区域外に至る。確認された北側は表土掘削時に削り取られたと思われる。確認できた規模は全長35m、確認面での最大幅70cm、底最大幅40cm、最大深50cmを測る。M1に切られ古墳時代の住居址を切る。本住居址の時期は奈良・平安時代以降、中世間としたい。



第171図 M4号溝状遺構実測図 第172図 M5号溝状遺構実測図

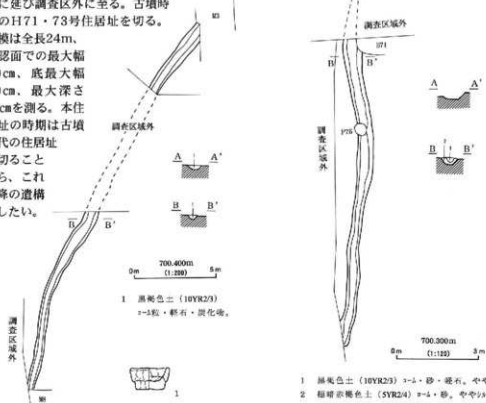
M6号溝状遺構

遺構は調査区北西の45-こグリッド付近から確認でき、南西方向に延び、調査区外に至る。切り合い関係にある住居址、M10を切り、M3に切られる。規模は全長47m、確認面での最大幅90cm、底最大幅40cm、最大深さは30cmを測る。遺物は古墳時代から平安時代の土器片が出土しているが住居址からの混入と考えられる。本住居址の時期は平安時代である9世紀後半のH136号住居址を切り、中世のM3に切られることから9世紀後半以降、中世間としたい。遺物はこの他小型の手捏ね土器が出土している。



M7号溝状遺構

遺構は調査区西の49-たグリッド付近から確認でき、およそ南方向に延び調査区外に至る。古墳時代のH71・73号住居址を切る。規模は全長24m、確認面での最大幅80cm、底最大幅50cm、最大深さ20cmを測る。本住居址の時期は古墳時代の住居址を切ることから、これ以降の遺構としたい。



第173図 M6号溝状遺構 遺構・遺物実測図

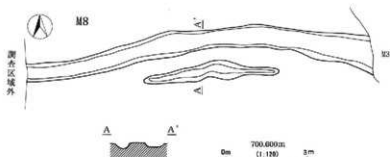
第174図 M7号溝状遺構実測図

番号	遺構	形状	口径cm	底径cm	深さcm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土器器	平づくね土器	4.9	3.6	2.6	粘土層き上17層	95	内外表7.5YR6.4(暗)橙色

第81表 M6号溝状遺構遺物観察表

M 8号溝状遺構

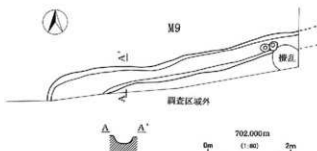
遺構は調査区南西48-つグリッドから東西方向に存在し、西側調査区外からM3に至り消滅する。規模は全長12.6m、確認面での最大幅1.1m、底最大幅80cm、最大深25cmを測る。本遺構の時期はM3に合流すると思われ、断定はできないが中世である可能性が考えられる。



第175図 M 8号溝状遺構実測図

M 9号溝状遺構

遺構は調査区東端の12-たグリッドから途中調査区域外を経て道路調査地域に至る。本調査区域における全長は6m、確認面での最大幅60cm、底最大幅40cm、最大深20cmを測る。切り合い関係もなく遺物の出土が認められないことから時期は不明である。



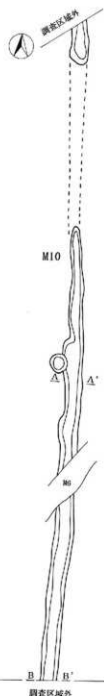
第176図 M 9号溝状遺構実測図

M10号溝状遺構

遺構は46-レグリッドに位置し、M3の東側をほぼ並行して存在する。全長は24m、確認面での最大幅70cm、底最大幅25cm、最大深20cmを測る。古墳時代のH70を切ることから、これ以降の遺構と考えられる。

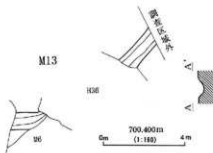


第177図 M10号溝状遺構実測図



M13号溝状遺構

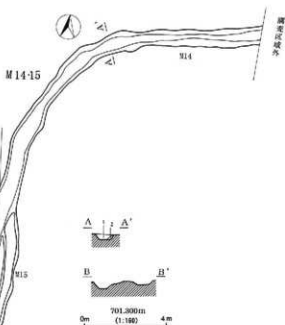
遺構は調査区北西の46-
くグリッドに位置し、H33
・36に切られM6に合流す
る。確認された規模は途中、
住居址に破壊されているこ
とから2区画に分断されて
いる。全長は西側2.8m、東
側1.6m、確認面での最大幅
1.1m、底最大幅40cm、深さ30cmを測る。時
期は古墳時代の住居址に切られることから
これ以降の遺構と考えられるが詳細は不明
である。



第178図 M13号溝状遺構実測図

M14号溝状遺構

遺構は調査区北東の11-ぬグリッドから
途中道路建設部分を跨ぎ17-ほグリッドに
かけて存在する。全長は道路部分及び現道
下を含めた推定で45m、確
認面での最大幅1.0m、底最
大幅60cm、深さは35cmを
測る。道路予定地付近では
獣骨片が覆土に含まれてい
た。本住居址の時期は平安
時代の住居址を切る事から
これ以降の遺構と考えられ
る。



- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・礫石。
- 2 暗褐色土 (7.5YR3) 砂土体。礫石・小石多い。



M15号溝状遺構

遺構はM14に近接し
て存在し、道路調査部
において交差する。南
側の調査規模は長さ2
m、幅1m、深さ40cm。
北側の調査規模は長さ
5.6m、幅1m、深さ30
cmを測る。

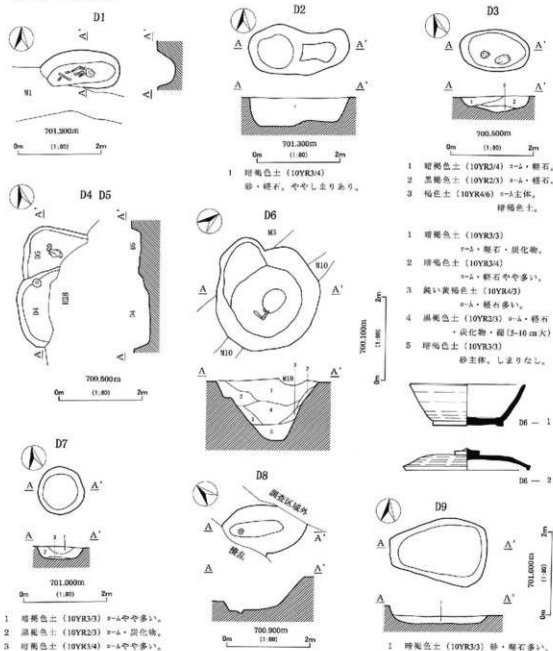


第179図 M14・M15号溝状遺構 遺構・遺物実測図

番号	部 種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備 考
1	礫石	6.7	6.45	2.4	51.7	

第82表 M14号溝状遺構遺物観察表

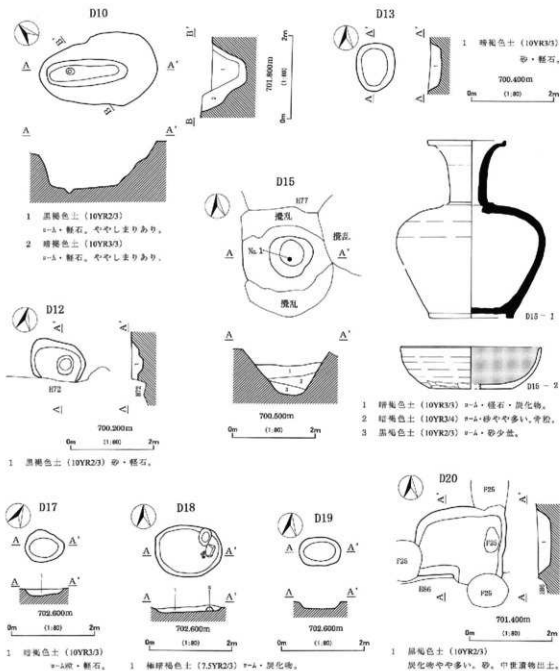
第4節 土坑 (D)



第180図 D1～D9号土坑・D6号土坑遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	漆器器	高付付杯	14.2	8.7	3.6	内外面口クロナグ 大ダスキ 底部00転曲切り縁高白彫り付	99%	内外面3Y5/2Rオリーブ色
2	漆器器	盃	7.5	3.2	2.2	内外面口クロナグ 大ダスキ つまみ彫り付	60%	内外面3Y3/1R褐色

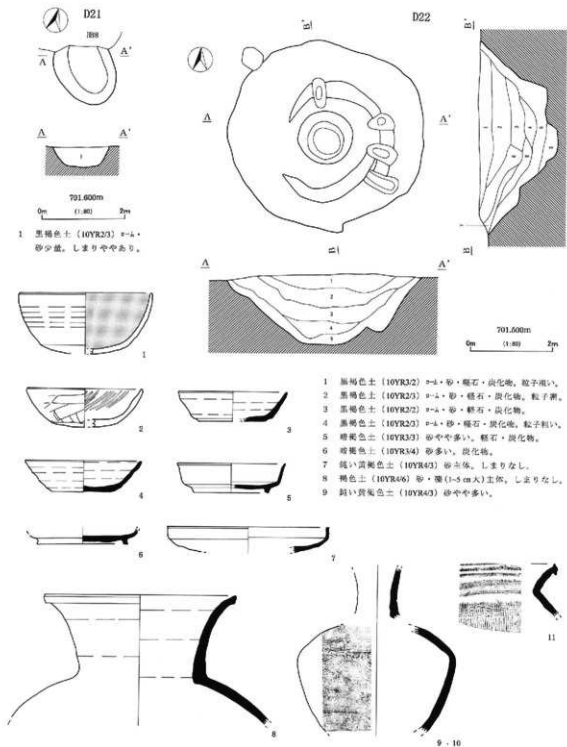
第83表 D6号土坑遺物観察表



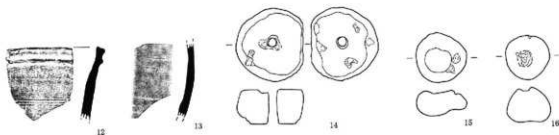
第181図 D10・12・13・15・17～20号土坑・D15号土坑遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・文様	残存率・部位	色調号
1	煎豆鉢	直	[9.6]	10.2	21.8	口外ナデ 表面次第一帯(2がわ) 無縁縁合?造 高台繋り付け	60	外面7.5YR4/3暗棕色
2	土師器	坪	[17.4]	[16.2]	5.2	口外ナデ 底面・周辺部へラケズリ 内面黒色処理 縁文	55	内外面5YR5/1灰色

第84表 D15号土坑遺物観察表



第182図 D21号土坑実測図、D22号土坑・遺物実測図

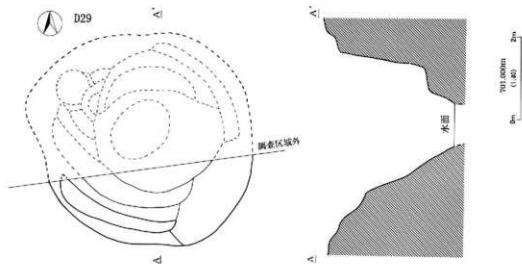


第183図 D22号土坑遺物実測図

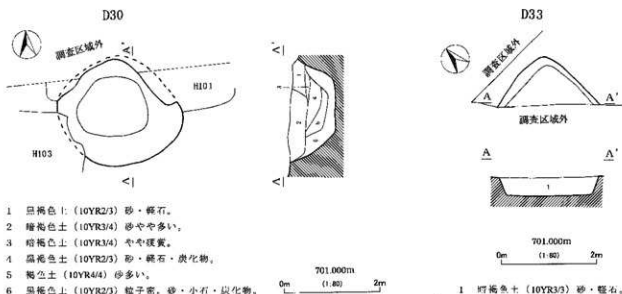
番号	品種	形状	口径cm	底径cm	高さcm	調査・文様	残存率・部位	色調等
1	土師器	杯	[16.4]	丸底気味	7.4	口クロナジ 底面ヘラケズリ 内面黒色地埋	30	外面2.5YR5/6赤褐色
2	土師器	杯	[14.2]	[7.8]	4.7	底部下半から底面ヘラケズリ 内面ナジ・線文	50	内外面5YR7/4黒い褐色
3	須恵器	杯	13.4	8.2	3.7	口クロナジ 底面凹陥気味	70	内外面N6/0灰色
4	須恵器	杯	13.7	7.3	3.8	口クロナジ 底面凹陥気味 縁ヘラケズリ 火だすき	70	内外面5Y6/1灰色
5	須恵器	高台付杯	[13.1]	[6]	3.8	口クロナジ 底面凹陥気味 縁高台縁り付 火だすき	40	内外面7.5Y5/1灰色
6	須恵器	高台付杯	-	11.1	1.8	底面凹陥ヘラケズリ 縁高台縁り付 底面凹陥気味多数 火だすき	成形・高台80	内外面10YR5/1褐色
7	須恵器	杯口蓋	[19.6]	-	3.1	口クロナジ 自然釉付着	口縁～縁部残片	内外面10Y5/1灰色
8	須恵器	甕	23.65	-	[15.6]	口縁口クロナジ 外面紅さ 内面ナジ	口縁～縁部残片	内外面5YR5/0灰色
9	須恵器	甕	-	-	[13.1]	口クロナジ 外面下部ヘラケズリ 頸部線文 自然釉付着 口縁～縁部 胴部	内外面5YR5/3黒い赤褐色	
10	須恵器	甕	-	-	[6.1]	口クロナジ 内外面一部自然釉付着 口縁～縁部	胴部	内外面2.5YR5/3黒い赤褐色
11	須恵器	甕	-	-	-	口縁張り出し 口辺狭ナジ 外面頸部平行線さ 内面ナジ	口縁～縁部	外面N5/0灰色
12	須恵器	甕	-	-	-	口クロナジ 口縁張り出し 外面頸部波状文 横流脱3条	口縁残片	内外面5Y2/1灰白色
13	須恵器	甕	-	-	30	口クロナジ 内面一部釉付着	口内面残片	2.5YR7/1灰白色

番号	品種	長さcm	幅cm	厚さcm	重量g	備考
14	軽石製品	8.9	8.3	4.2	172.3	口径1.1
15	軽石製品	6.1	6.15	3	34	口径1.0
16	軽石製品	5.4	5.45	4.2	50.1	口径1.0

第85表 D22号土坑遺物観察表



第184図 D29号土坑実測図

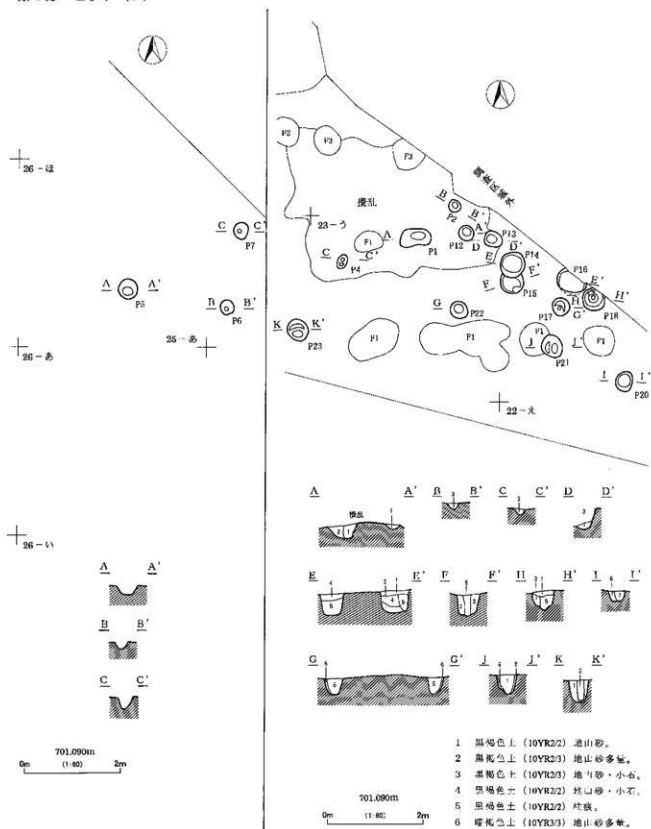


第185図 D30、33号土坑実測図

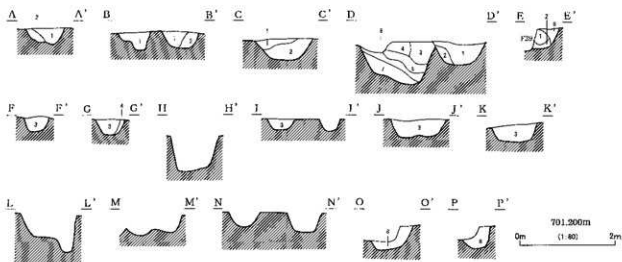
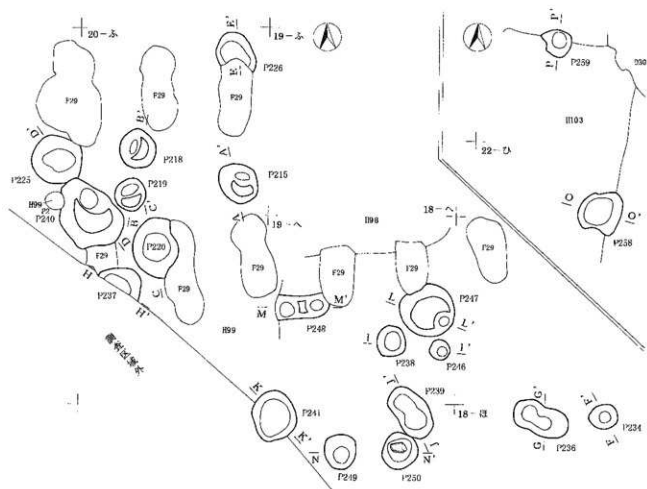
調査点	平面形状	南北(m)	東西(m)	深さ(m)	土坑位置	地層	出土遺物	特徴
D1	楕円形	0.96	2	0.4	21-3	中世	瀬竹片	M1を切る
D2	不整形円形	1.24	2.48	0.72	23-3	不明		
D3	楕円形	1.04	1.68	0.4	44-1	不明		
D4	隅丸方形?	(1.36)	(1.76)	0.24	43-1	平安時代 以前		H28に切られる
D5	隅丸方形?	(1.36)	(1.44)	0.24	43-1	平安時代 以前		H28に切られる
D6	不整形形	2.72	2.8	1.52	47-1	中世以前		M10に切られる
D7	円形	1.2	1.12	0.32	34-1	不明		
D8	楕円形	(2.0)	1.2	0.8	32-1	縄文		北西隅を脱乳に破壊される 漆とし穴
D9	不整形形	1.6	2.4	0.25	15-1	不明		
D10	楕円形	2.88	1.85	1.04	14-1	縄文		漆とし穴
D12	不整形形	(0.96)	1.44	0.32	38-1	古墳時代 前期以前		南側をH72に切られる
D13	楕円形	0.96	1.2	0.35	42-1	不明		
D15	不整形形	(3.2)	(2.08)	1.2	33-1	奈良	須恵瓦環・重 土須恵瓦	北出側付近を脱乳に破壊される
D17	楕円形	0.8	0.96	0.2	3-1	不明		
D18	隅丸方形	1.28	1.68	0.15	4-1	平安	灰箱陶器・土器器 須恵瓦	
D19	楕円形	0.7	1.04	0.2	4-1	不明		
D20	L字状方形	1.84	2.24	0.32	14-1	中世		南辺部をF25を切る。
D21	楕円形	(1.55)	1.52	0.5	12-1	不明		北側をH88に切られる
D22	円形	4.7	4.8	2	12-1	奈良	土師器・須恵瓦・ 石製品	すり鉢状の大型土坑
D29	円形	(2.0)	5.04	(2.16)	18-1	奈良・平安	土師器・須恵瓦	深さ3.2mで湧水が認められる 井戸?
D30	隅丸方形	(2.3)	2.72	0.56	20-1	奈良・平安	土師器・須恵瓦	H103を切る
D33	方形?	(1.6)	(1.65)	0.4	22-1	不明		南西側調査区域外

第86表 土坑観察表

第5節 ビット (P)

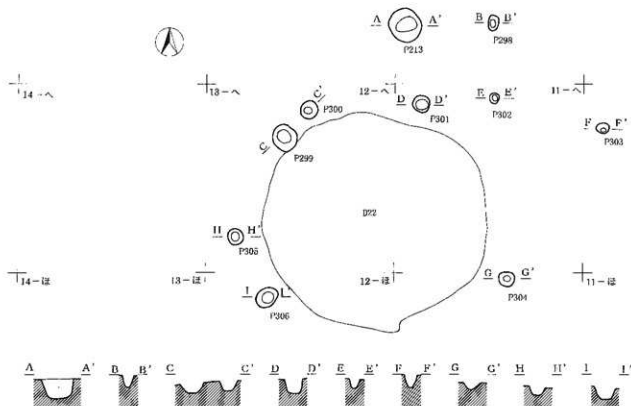
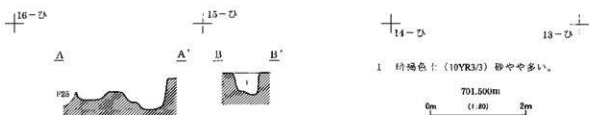
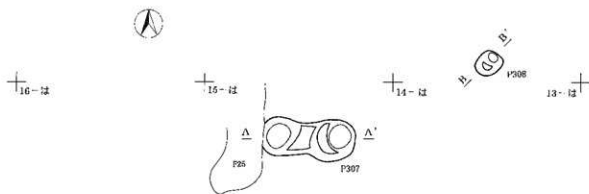


第186図 ビット実測図 (1)

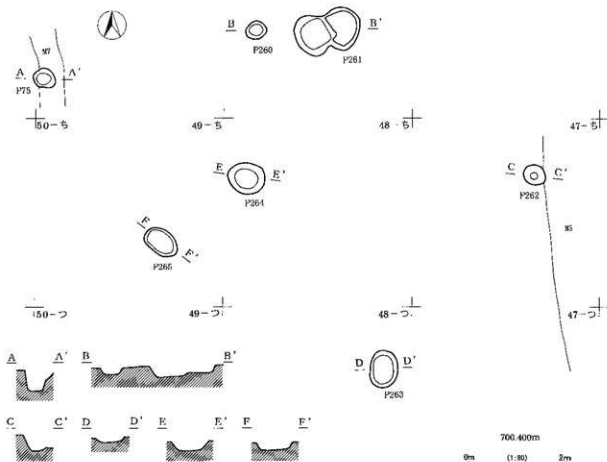
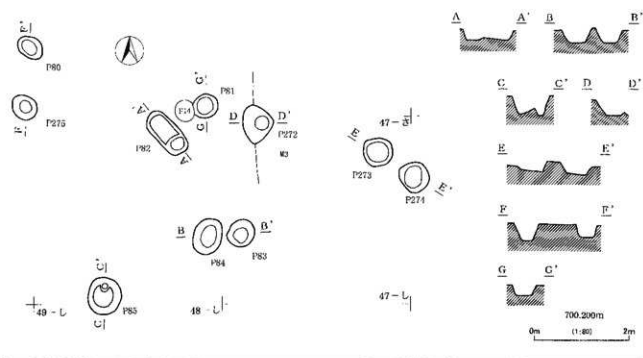


- | | |
|----------------------------|-------------------------------|
| 1 原褐色土 (10YR2/3) 砂・炭化物。 | 5 鈍い黄褐色土 (10YR4/3) 砂・軽石多い。 |
| 2 暗褐色土 (10YR3/4) 砂やや多い。 | 6 黒褐色土 (10YR2/3) 砂やや多い。 |
| 3 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・軽石・炭化物。 | 7 鈍い黄褐色土 (10YR4/5) 砂多い。しまりなし。 |
| 4 暗褐色土 (10YR3/4) 砂・軽石多い。 | 8 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・軽石。 |

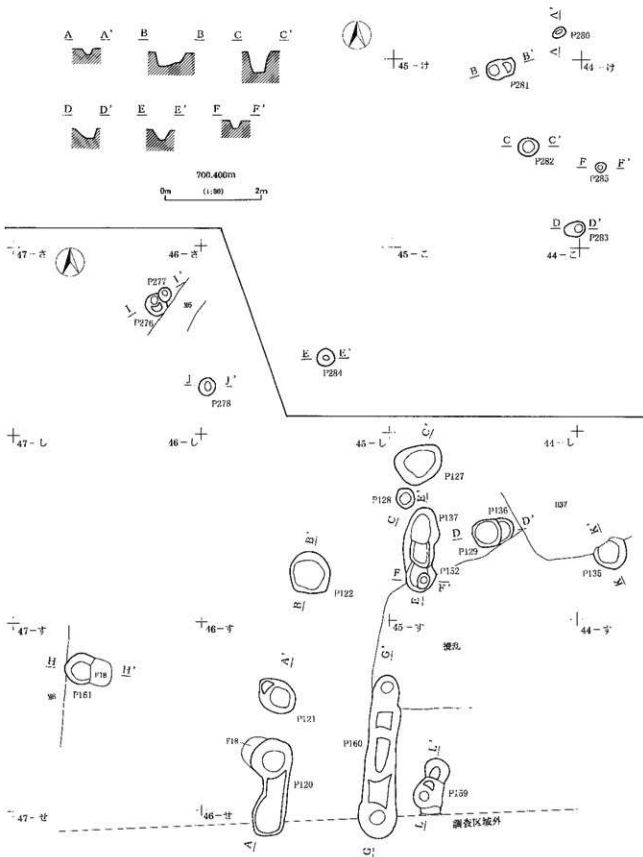
第187図 ビット実測図 (2)



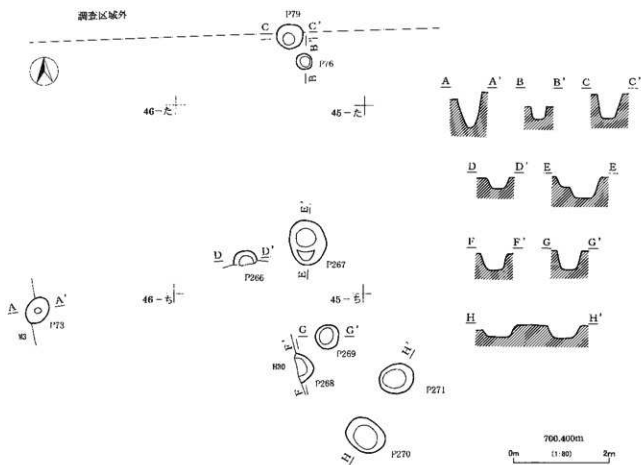
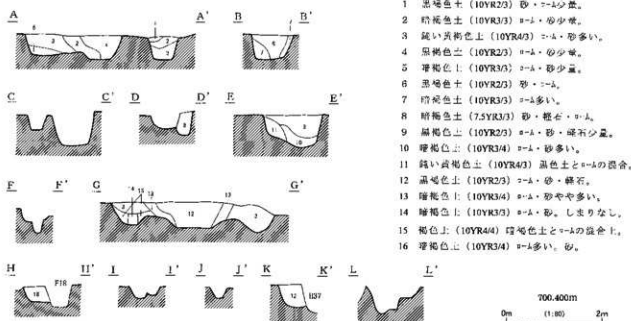
第188図 ビット実測図 (3)



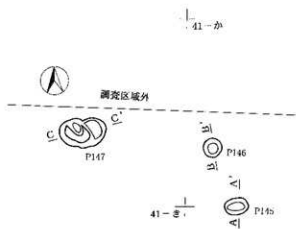
第189図 ビット実測図(4)



第190図 ビット穴測図 (5)

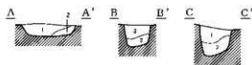
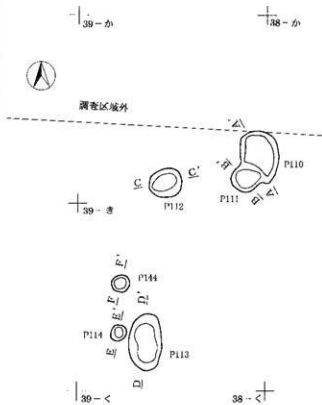


第191図 ピット実測図 (6)



700.400m
(1:80)
0m 2m

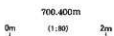
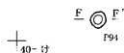
- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・礫石。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・礫石。



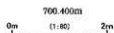
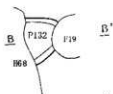
700.400m
(1:80)
0m 2m

- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・礫石。
- 2 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・軽石が多い。
- 3 暗褐色土 (10YR3/4) 砂・礫石多い。
- 4 暗褐色土 (7.5YR3/4) しまりなし。

第192図 ビット実測図 (7)



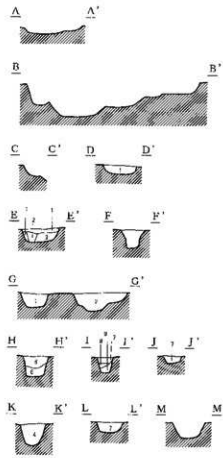
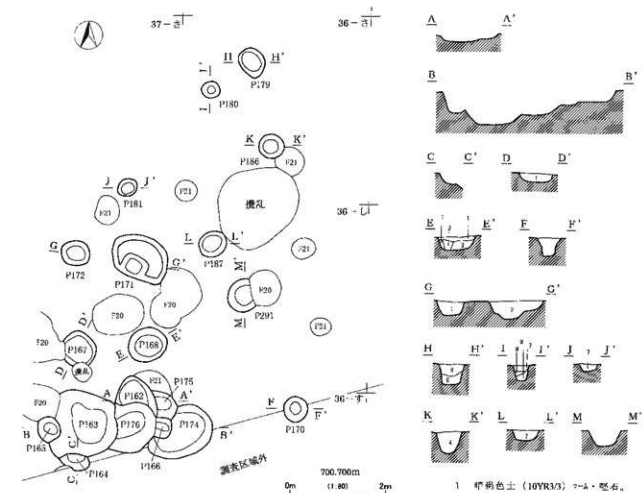
- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 礫石・砂。
- 2 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・軽石・砂。
- 3 黒褐色土 (10YR2/3) 礫石・砂・砂。
- 4 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・砂・砂。



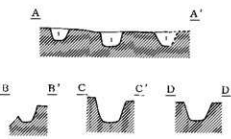
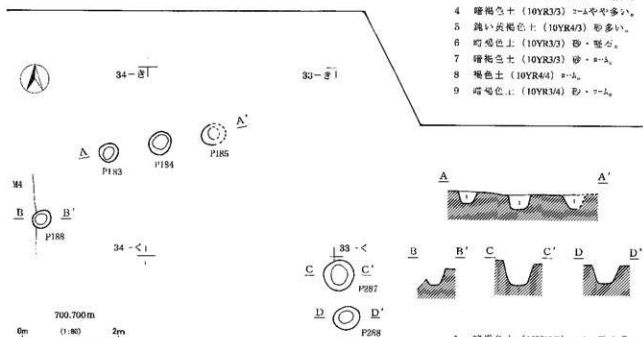
調査区域外

- 1 黒褐色土 (10YR2/3) 砂。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 砂多い、ややシト質。
- 3 暗褐色土 (10YR3/3) 砂多い、ややシト質。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 暗褐色土と砂の混合土。
- 5 暗褐色土 (10YR3/3) 黒色土と砂・砂の混合土。しまりあり。

第193図 ビット実測図 (8)

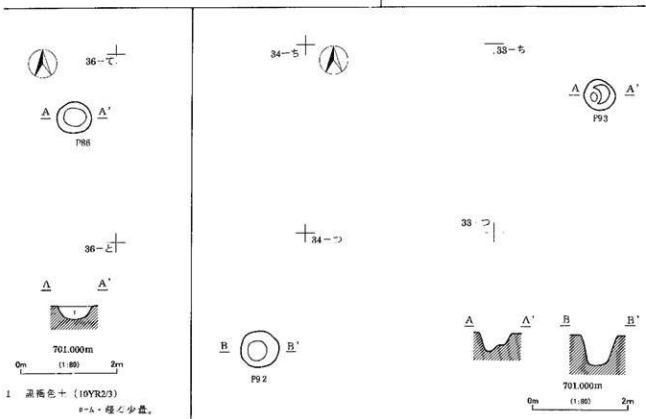
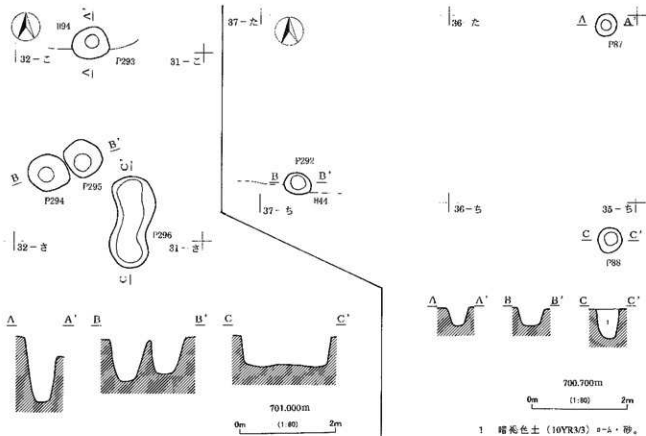


- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・砂石。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) 砂・砂石。
- 3 黄褐色土 (10YR4/3) 砂・砂石。
- 4 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・砂石。
- 5 黄褐色土 (10YR4/3) 砂・砂石。
- 6 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・砂石。
- 7 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・砂石。
- 8 暗褐色土 (10YR4/4) 砂・砂石。
- 9 暗褐色土 (10YR3/4) 砂・砂石。

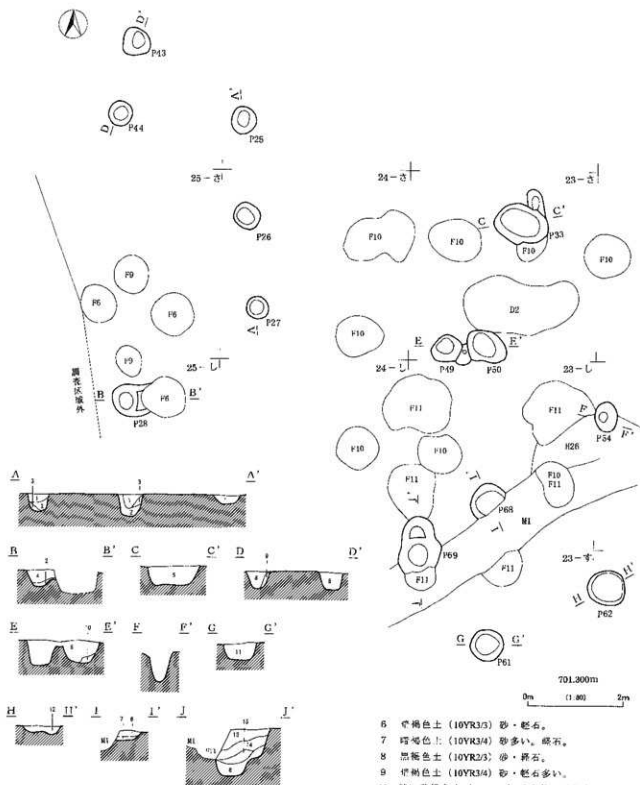


- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・砂石。

第195図 ビット実測図 (10)



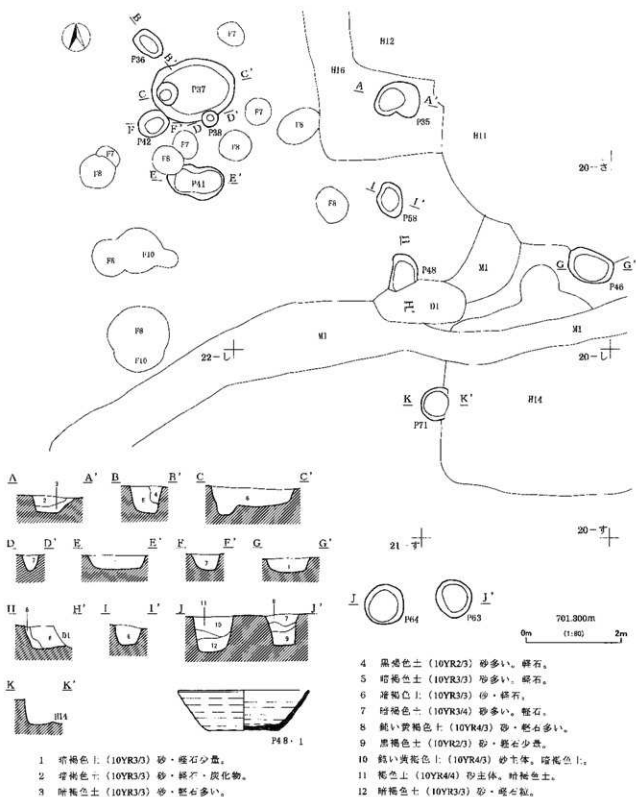
第196図 ビット実測図(11)



- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 砂・礫石少量。
- 2 褐色土 (10YR4/4) 砂主体。礫石少量。
- 3 黒褐色土 (10YR2/2) 砂・礫石やや多い。
- 4 玉褐色土 (10YR2/3) 砂やや多い。礫石・炭化物。
- 5 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・礫石・炭化物。

- 6 玉褐色土 (10YR3/3) 砂・礫石。
- 7 暗褐色土 (10YR3/4) 砂多い。礫石。
- 8 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・礫石。
- 9 玉褐色土 (10YR3/4) 砂・礫石多い。
- 10 強い黄褐色土 (10YR4/3) 砂主体。暗褐色土。
- 11 暗褐色土 (10YR3/4) 砂と暗褐色土の混合。
- 12 黒褐色土 (10YR2/3) 砂・礫石少量。
- 13 玉褐色土 (10YR2/2) 砂・礫石。
- 14 暗褐色土 (10YR2/3) 砂・礫石やや多い。
- 15 暗褐色土 (10YR3/4) 砂多量。しまりなし。

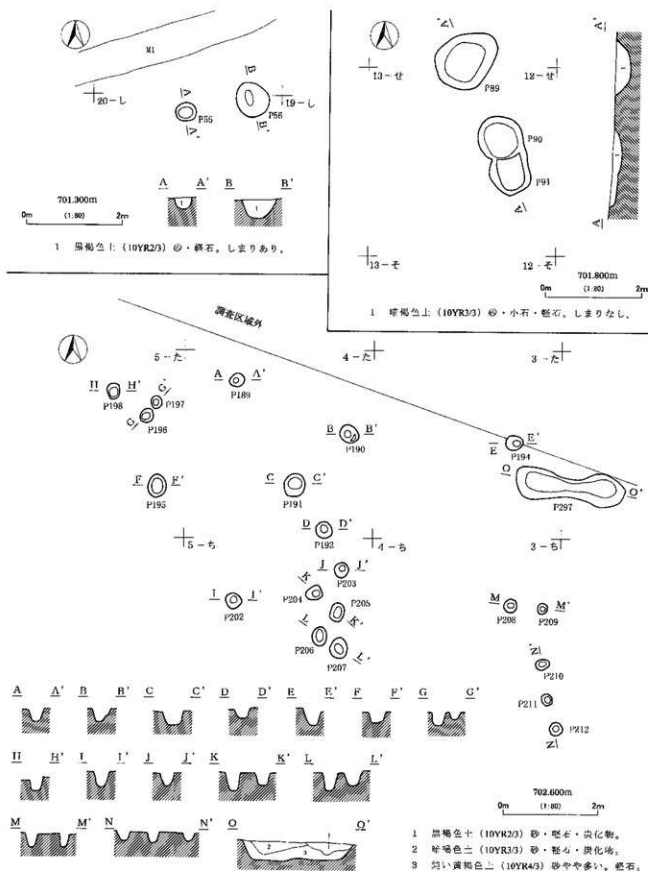
第197図 ビット実測図(12)



第198図 ビット実測図(13)・P48遺物実測図

番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調 査 文 様	検出率・部位	色調等
1	銅器類	杯	14	7.4	4.2	11クロナダ 此器は転写済み 大だすき	40	内外面2.5YR7/1灰白色

第87表 ビット遺物観察表



第199図 ビット実測図(14)

第6節 古銭



H5



H34

第200図 古銭

遺構名	器種	種別	外径cm	内径cm	厚さcm	重量g	備考
H5	古銭	(寛永通寶)	[2.28]	[0.6]	0.08	1.04	50%欠損 新寛永
H34	古銭	洪武通寶	2.42	0.55	0.16	3.13	明 1368

第88表 古銭観察表



B区全景（西から）



B区南側拡張部全景（北西から）



C区全景（北東から）



D区北西部全景（東から）



D区東側全景（南から）



D区南端・C区北端全景（南東から）



E区全景（北から）



F区全景（南から）



G区全景 (北から)



H区全景 (南から)



I区全景 (北から)



J区全景 (南東から)



K区東側全景 (南から)



K区西側全景 (南東から)



L区東側全景（南東から）



L区西側全景（東から）



B区調査風景（西から）



C区表土除去作業（西から）



D区表土除去作業（西から）



E区調査風景（北から）



J区表土除去・廃土処理作業（東から）



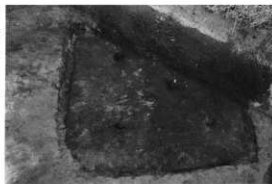
K区表土除去作業（東から）



L区調査風景（西から）



L区表土除去作業（西から）



H1号住居址全景（南から）



H1号住居址掘方全景（西から）



H3号住居址全景（南西から）



H4号住居址全景（南から）



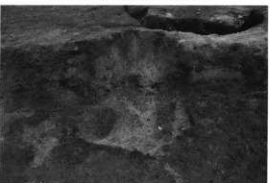
H4号住居址カマド（南西から）



H4号住居址カマド（北から）



H4号住居址カマド構築材除去状況（南から）



H4号住居址カマド掘方（南から）



H4号住居址掘方全景（南東から）



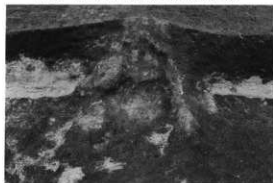
H5・6号住居址全景（東から）



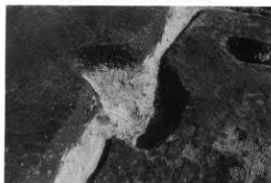
H5・6号住居址掘方全景（東から）



H8号住居址全景（南から）



H8号住居址カマド（南から）



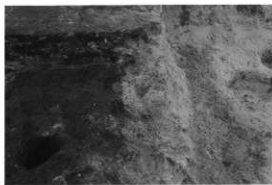
H8号住居址カマド掘方（南西から）



H8号住居址掘方全景（南から）



H10号住居址全景（西から）



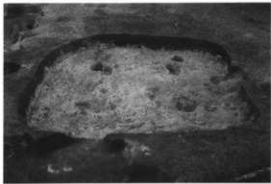
H10号住居址カマド掘方 (西から)



H10号住居址掘方全景 (南西から)



H11号住居址全景 (東から)



H11号住居址掘方全景 (東から)



H12号住居址全景 (南から)



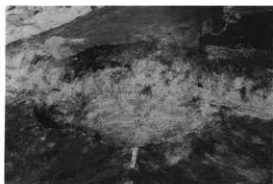
H12号住居址掘方全景 (南から)



H13号住居址全景 (西から)



H13号住居址カマド (南から)



H13号住居址カマド掘方（南から）



H13号住居址掘方全景（南西から）



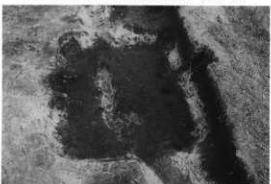
H14号住居址北側調査部分掘方全景（東から）



H14号住居址南側調査部分全景（西から）



H14号住居址掘方全景（西から）



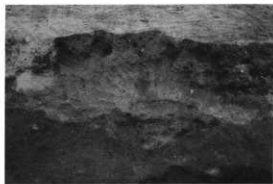
H15号住居址掘方全景（西から）



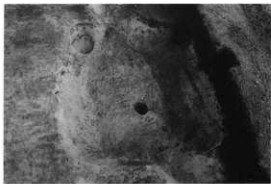
H15号住居址カマド（南から）



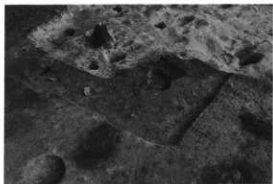
H15号住居址カマド石材状況（南から）



H15号住居址カマ掘方(南から)



H15号住居址掘方全景(西から)



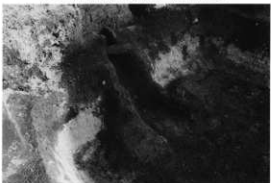
H16号住居址全景(南西から)



H16号住居址掘方全景(北西から)



H19号住居址全景(北西から)



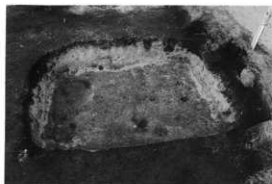
H19号住居址カマド(北西から)



H19号住居址カマド(西から)



H19号住居址カマド掘方(南西から)



H19号住居址掘方全景（南から）



H20号住居址全景（北西から）



H21号住居址全景（西から）



H21号住居址カマド（南から）



H21号住居址カマド掘方（南東から）



H21号住居址掘方全景（西から）



H22号住居址北側調査部分全景（南から）



H22号住居址カマド掘方（東から）



H22号住居址北側調査部分掘方全景（南から）



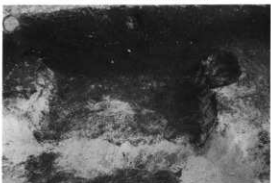
H22号住居址南側調査部分掘方全景（北から）



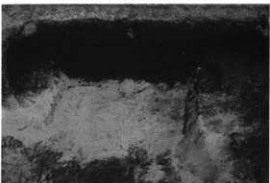
H23号住居址全景（東から）



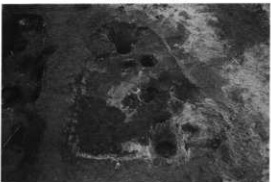
H23号住居址掘方全景（東から）



H24号住居址全景（西から）



H24号住居址掘方全景（西から）



H25・26号住居址全景（東から）



H25・26号住居址掘方全景（西から）



H27号住居址全景（東から）



H27号住居址カマド（南西から）



H27号住居址カマド掘方（南東から）



H27号住居址掘方全景（西から）



H28号住居址全景（南から）



H28号住居址カマド（南から）



H28号住居址カマド（南東から）



H28号住居址掘方全景（南から）



H29号住居址全景（南から）



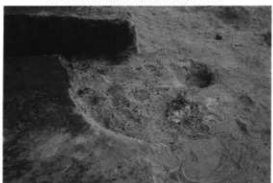
H29号住居址カマド（南から）



H29号住居址遺物出土状況（1）



H29号住居址遺物出土状況（2）



H29号住居址カマド掘方（南から）



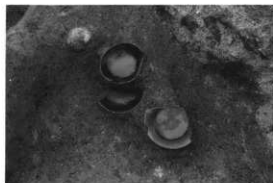
H29号住居址掘方全景（南から）



H30号住居址全景（西から）



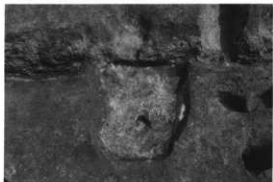
H30号住居址カマド（南から）



H30号住居址遺物出土状況



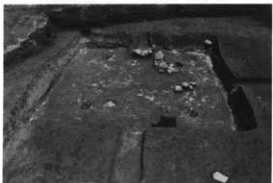
H30号住居址北東コーナー土坑（北東から）



H30号住居址カマド掘方（南から）



H30号住居址掘方全景（南から）



H31号住居址全景（南から）



H31号住居址掘方全景（南から）



H32号住居址全景（南から）



H32号住居址掘方全景（南から）



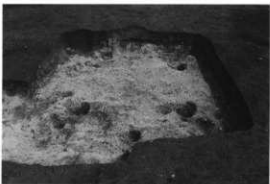
H33号住居址全景 (南から)



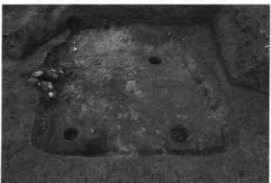
H33号住居址カマド (南から)



H33号住居址カマド掘方 (南から)



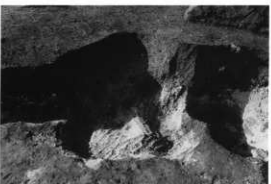
H33号住居址掘方全景 (南から)



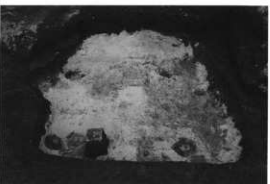
H34号住居址全景 (西から)



H34号住居址カマド (南から)



H34号住居址カマド掘方 (南から)



H34号住居址掘方全景 (西から)



H35号住居址全景（南から）



H35号住居址カマド（南から）



H35号住居址カマド（南東から）



H35号住居址掘方全景（南から）



H36号住居址全景（西から）



H36号住居址カマド（西から）



H36号住居址カマド掘方（南西から）



H36号住居址掘方全景（西から）



H37号住居址北側調査部分全景（西から）



H37号住居址南側調査部分全景（東から）



H37号住居址カマド西側遺物出土状況



H37号住居址カマド袖遺物出土状況



H37号住居址遺物出土状況



H37号住居址カマド（南から）



H37号住居址北側調査部分掘方全景（西から）



H37号住居址南側調査部分掘方全景（東から）



H38号住居址全景（北東から）



H38号住居址遺物出土状況（1）



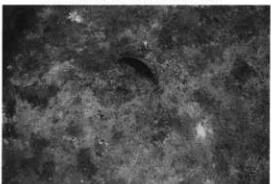
H38号住居址遺物出土状況（2）



H38号住居址遺物出土状況（3）



H38号住居址遺物出土状況（4）



H38号住居址炉跡



H38号住居址遺物除去後全景（北東から）



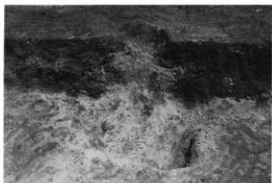
H38号住居址掘方全景（南西から）



H40号住居址全景（西から）



H40号住居址カマド（南から）



H40号住居址カマド掘方（南から）



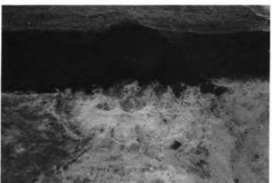
H40号住居址掘方全景（西から）



H41号住居址全景（南から）



H41号住居址カマド（南から）



H41号住居址カマド掘方（南から）



H41号住居址掘方全景（南から）



H42号住居址全景（南から）



H42号住居址遺物出土状況（1）



H42号住居址遺物出土状況（2）



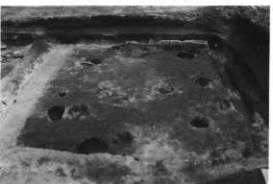
H42号住居址カマド（南から）



H42号住居址カマド掘方（南から）



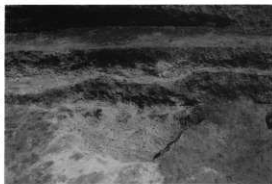
H42号住居址掘方全景（南から）



H43号住居址全景（南から）



H43号住居址カマド（南から）



H43号住居址カマド掘方（南から）



H43号住居址掘方全景（南から）



H44号住居址全景（南から）



H44号住居址掘方全景（南から）



H45号住居址全景（南から）



H45号住居址掘方全景（南から）



H46号住居址全景（南から）



H46号住居址根田？掘り下げ状況（南から）



H46号住居址遺物出土状況



H46号住居址掘方全景（南から）



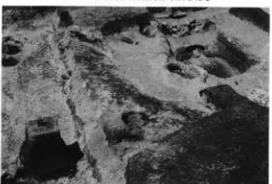
H47号住居址全景（東から）



H47号住居址鉄鏝出土状況



H48号住居址全景（南東から）



H49号住居址全景（南から）



H49号住居址掘方全景（南から）



H50号住居址全景（南から）



H50号住居址カマド (南から)



H50号住居址カマド天井石除去後 (南から)



H50号住居址掘方全景 (南から)



H51号住居址全景 (北東から)



H51号住居址掘方全景 (北東から)



H52号住居址全景 (東から)



H52号住居址掘方全景 (東から)



H53号住居址全景 (南東から)



H53号住居址掘方全景（東から）



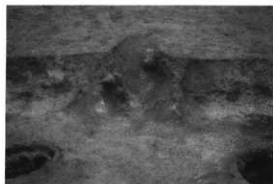
H57号住居址全景（南から）



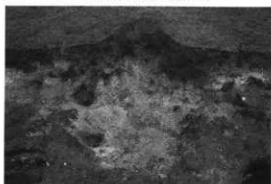
H57号住居址掘方全景（南から）



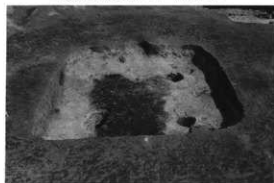
H59号住居址全景（南から）



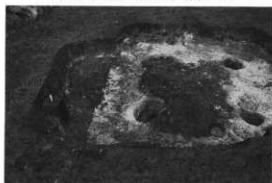
H59号住居址カマド（南から）



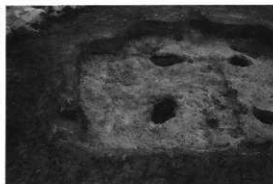
H59号住居址カマド掘方（南から）



H59号住居址掘方全景（南から）



H60号住居址全景（南から）



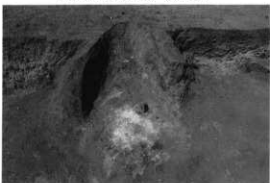
H60号住居址掘方全景（南から）



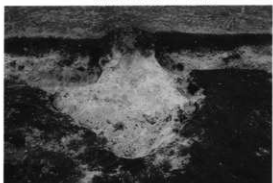
H61号住居址全景（南から）



H61号住居址遺物出土状況



H61号住居址カマド（南から）



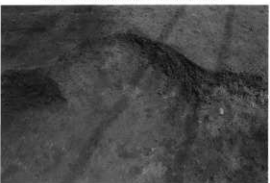
H61号住居址カマド掘方（南から）



H61号住居址掘方全景（南から）



H62号住居址全景（南から）



H62号住居址カマド（南から）



H62号住居址掘方全景（南から）



H63号住居址全景（南から）



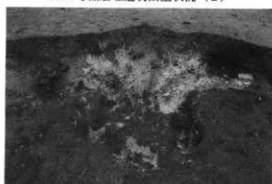
H63号住居址遺物出土状況（1）



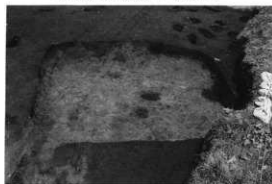
H63号住居址遺物出土状況（2）



H63号住居址カマド（南から）



H63号住居址カマド掘方（南から）



H63号住居址掘方全景（南から）



H64号住居址全景（北西から）



H64号住居址遺物除去後（南から）



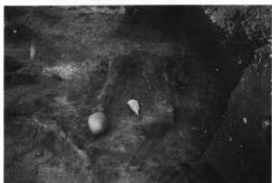
H64号住居址カマド西側遺物出土状況



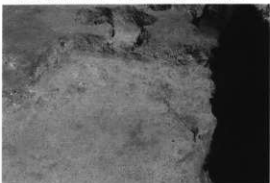
H64号住居址カマド（北西から）



H64号住居址カマド遺物除去後（南西から）



H64号住居址カマド（南西から）



H64号住居址掘方全景（南西から）



H65号住居址西側調査部分全景（西から）



H65号住居址東側調査部分全景（南東から）



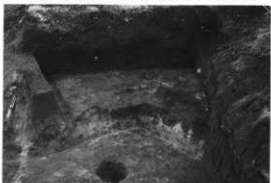
H65号住居址西側調査部分掘方全景（西から）



H65号住居址東側調査部分掘方全景（南東から）



H66号住居址西側調査部分全景（南西から）



H66号住居址東側調査部分全景（北から）



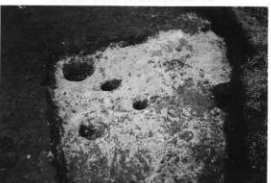
H66号住居址東側調査部分遺物出土状況



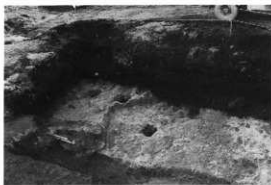
H66号住居址カマド（南から）



H66号住居址カマド掘方（南から）



H66号住居址西側調査部分掘方全景（南から）



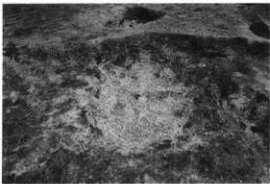
H66号住居址東側調査部分掘方全景（北東から）



H67号住居址遺物出土状況



H67号住居址カマド（南東から）



H67号住居址カマド掘方（南から）



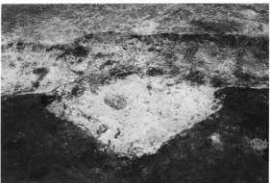
H67号住居址掘方全景（南から）



H68号住居址全景（南から）



H68号住居址カマド（南から）



H68号住居址カマド掘方（南から）



H68号住居址掘方全景（南から）



H70号住居址全景（南から）



H70号住居址掘方全景（南から）



H71号住居址全景（南から）



H71号住居址カマド（南から）



H71号住居址カマド掘方（南から）



H71号住居址掘方全景（南から）



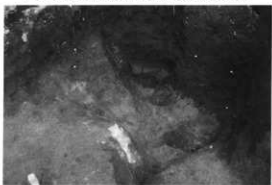
H72号住居址東側調査部分全景（東から）



H72号住居址西側調査部分全景（西から）



H72号住居址カマド（西から）



H72号住居址カマド掘方（南から）



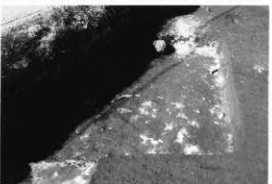
H72号住居址東側調査部分掘方全景（東から）



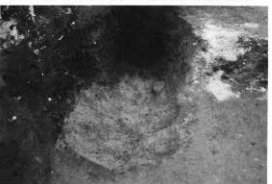
H72号住居址西側調査部分掘方全景（南西から）



H74号住居址西側調査部分全景（南西から）



H74号住居址東側調査部分全景（南から）



H74号住居址カマド掘方（南から）



H74号住居址東側調査部分掘方全景（南から）



H74号住居址西側調査部分掘方全景（北から）



H75号住居址全景（南東から）



H75号住居址遺物出土状況



H75号住居址掘方全景（南東から）



H77号住居址西側調査部分全景（南から）



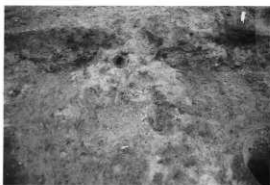
H77号住居址東側調査部分全景（南から）



H77号住居址カマド東側遺物出土状況



H77号住居址カマド (南から)



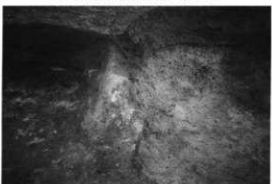
H77号住居址カマド掘方 (南から)



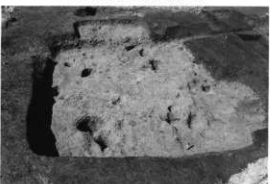
H77号住居址掘方全景 (南から)



H78号住居址全景 (東から)



H78号住居址カマド (南から)



H78号住居址掘方全景 (東から)



H79号住居址全景 (東から)



H79号住居址遺物出土状況



H79号住居址カマド (南西から)



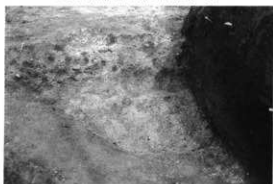
H79号住居址掘方全景 (南から)



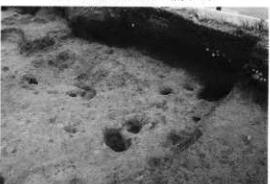
H80号住居址全景 (南西から)



H80号住居址カマド (南から)



H80号住居址カマド掘方 (南から)



H80号住居址掘方全景 (南西から)



H82号住居址東側調査部分全景 (南西から)



H82号住居址西側調査部分全景 (南から)



H82号住居址東側調査部分掘方全景（南から）



H82号住居址西側調査部分掘方全景（南から）



H84号住居址全景（南東から）



H84号住居址カマド（東から）



H84号住居址カマド（南から）



H84号住居址カマド掘方（南から）



H84号住居址掘方全景（南東から）



H85号住居址全景（南から）



H85号住居址刀子出土状況



H85号住居址鉄製紡錘車出土状況



H85号住居址鉄錐出土状況



H85号住居址カマド（南から）



H85号住居址カマド掘方（南から）



H85号住居址掘方全景（南から）



H86号住居址全景（南から）



H86号住居址掘方全景（北東から）



H87号住居址全景 (南西から)



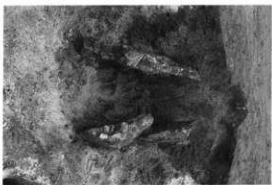
H87号住居址掘方全景 (南から)



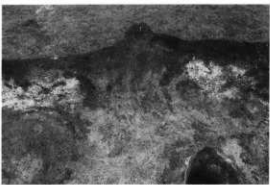
H88号住居址全景 (西から)



H88号住居址カマド (西から)



H88号住居址カマド石材使用状況 (西から)



H88号住居址カマド掘方 (西から)



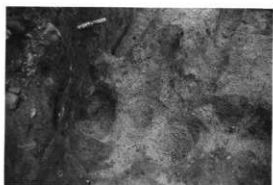
H88号住居址掘方全景 (西から)



H93号住居址全景 (南から)



H93号住居址カマド (南から)



H93号住居址カマド掘方 (南から)



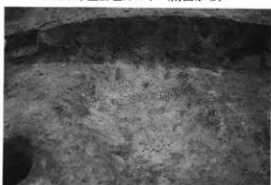
H94号住居址全景 (南東から)



H94号住居址カマド (南西から)



H94号住居址カマド (南から)



H94号住居址カマド掘方 (南から)



H94号住居址掘方全景 (南から)



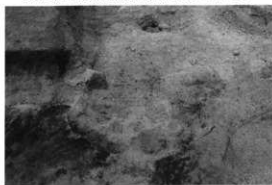
H97号住居址南・東側調査部分全景 (東から)



H97号住居址北側調査部分全景（南から）



H97号住居址カマド（南から）



H97号住居址カマド掘方（南から）



H97号住居址南・東側調査部分掘方全景（東から）



H97号住居址北側調査部分掘方全景（南から）



H98号住居址全景（南から）



H98号住居址カマド（南から）



H98号住居址カマド掘方（南から）



H98号住居址掘方全景（南から）



H99号住居址全景（南から）



H99号住居址掘方全景（南から）



H103号住居址全景（南東から）



H103号住居址カマド（南から）



H103号住居址カマド掘方（南から）



H103号住居址掘方全景（南東から）



H104号住居址全景（南から）



H104号住居址カマド痕跡 (南から)



H105号住居址全景 (南から)



H105号住居址カマド (北から)



H105号住居址掘方全景 (北から)



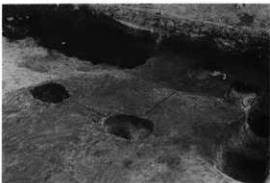
F 1号掘立柱建物址全景 (西から)



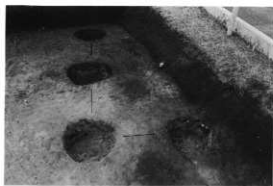
F 2号掘立柱建物址全景 (西から)



F 3号掘立柱建物址全景 (西から)



F 5号掘立柱建物址全景 (北西から)



F 6号掘立柱建物址全景（北から）



F 7号掘立柱建物址全景（南東から）



F 8号掘立柱建物址全景（南東から）



F 9号掘立柱建物址全景（東から）



F 10号掘立柱建物址全景（西から）



F 11号掘立柱建物址全景（南から）



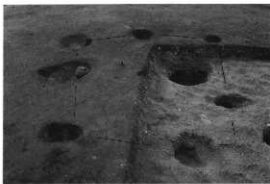
F 14号掘立柱建物址全景（南から）



F 15号掘立柱建物址全景（南から）



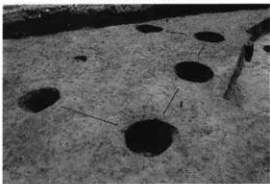
F16号掘立柱建物址全景（南から）



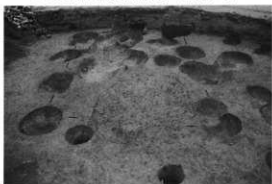
F17号掘立柱建物址全景（南から）



F18号掘立柱建物址全景（北東から）



F19号掘立柱建物址全景（北西から）



F20号掘立柱建物址全景（東から）



F21号掘立柱建物址全景（南から）



F22号掘立柱建物址全景（南から）



F25号掘立柱建物址全景（東から）



F26号掘立柱建物址全景（南から）



F27号掘立柱建物址全景（南から）



F29号掘立柱建物址全景（南から）



D1号土坑全景（南東から）



D2号土坑全景（西から）



D3号土坑全景（北から）



D4・5号土坑全景（南東から）



D6号土坑全景（北東から）



D7号土坑全景（南から）



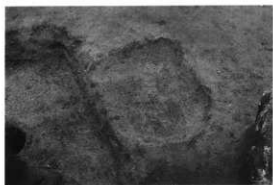
D8号土坑全景（東から）



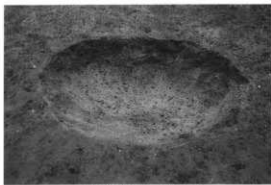
D9号土坑全景（北東から）



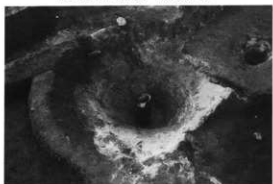
D10号土坑全景（北東から）



D12号土坑全景（南東から）



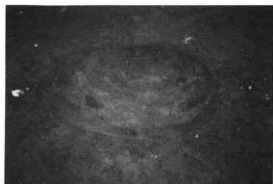
D13号土坑全景（東から）



D15号土坑全景（南東から）



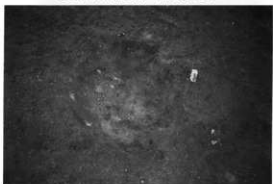
D15号土坑遺物出土状況



D17号土坑全景（北東から）



D18号土坑全景（南東から）



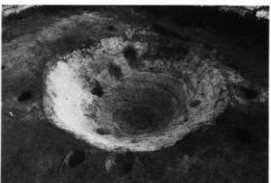
D19号土坑全景（西から）



D20号土坑全景（北西から）



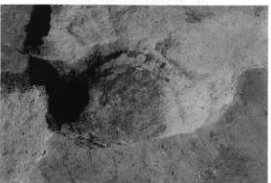
D21号土坑全景（南から）



D22号土坑全景（北西から）



D29号土坑全景（南から）



D30号土坑全景（南から）



D33号土坑全景 (南から)



B区東側 M1号溝状遺構全景 (東から)



B区西側 M1号溝状遺構全景 (東から)



B区 M2号溝状遺構全景 (北から)



E区 M1号溝状遺構全景 (東から)



C区 M3号溝状遺構全景 (北から)



C・D区 M3・10号溝状遺構全景（南から）



D区 M3・5・10号溝状遺構全景（北から）



E区 M4号溝状遺構全景（北から）



F区 M4号溝状遺構全景（南から）



C区 M5号溝状遺構全景（北から）



D区 M5号溝状遺構全景 (南から)



D区 M6号溝状遺構全景 (南東から)



C区 M6号溝状遺構全景 (南から)



C区 M6・7号溝状遺構全景 (南から)



I区 M9号溝状遺構全景 (西から)



K区 M14号溝状遺構全景（西から）



L区 M14・15号溝状遺構全景（北から）



H28-19角釘



H33-7刀子



H33-8鏃



H47-8鏃



H48-3刀子

図版
五十六



H50-18角釘



H52-1角釘



H53-3刀子



H65-7鐵



H74-6刀子



H85-17刀子



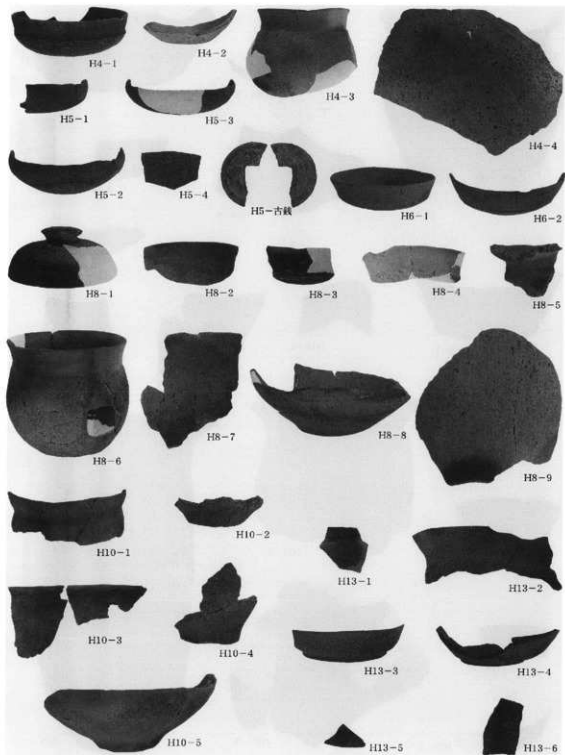
H85-18鐵



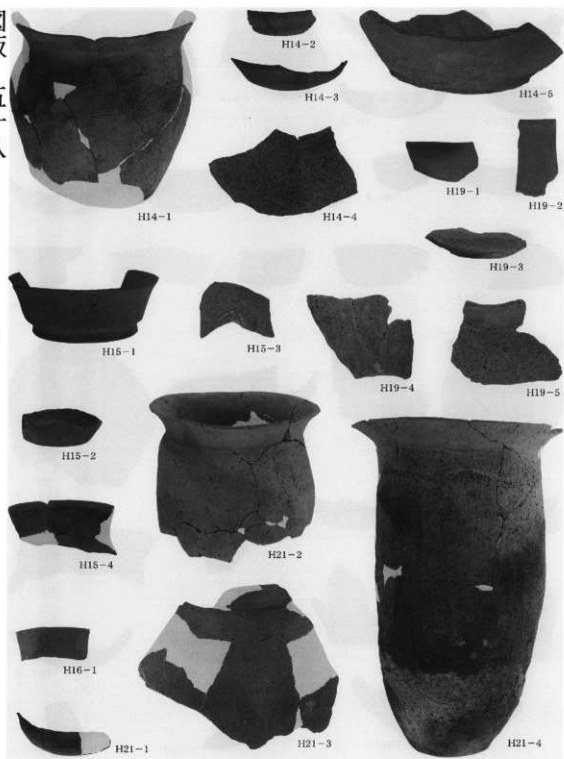
H85-19紡錘車



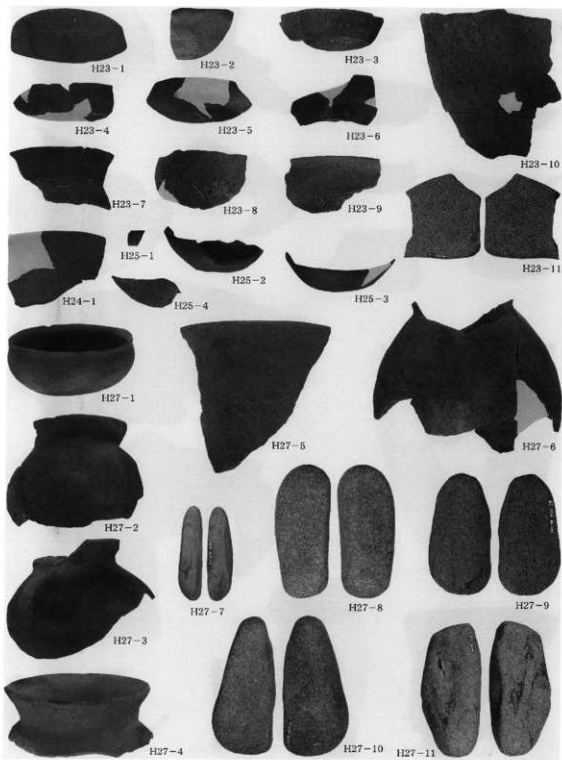
F4-1刀子



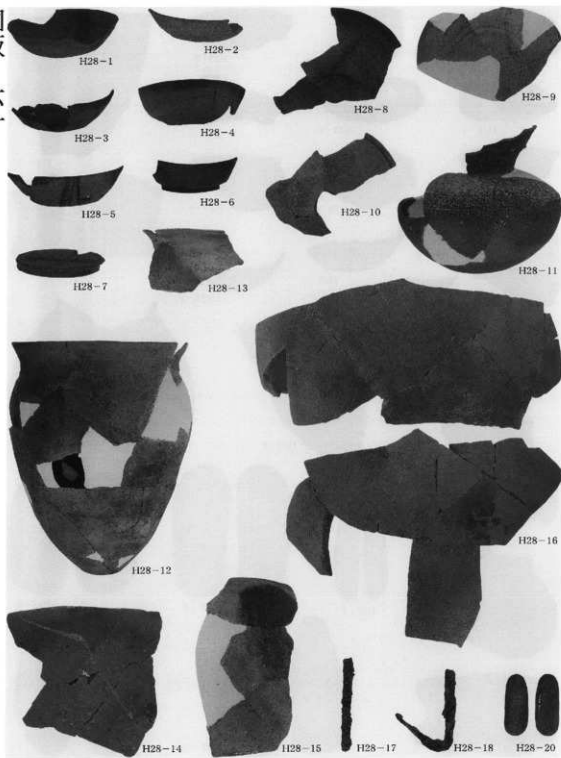
H4・5・6・8・10・13・号住居址遺物



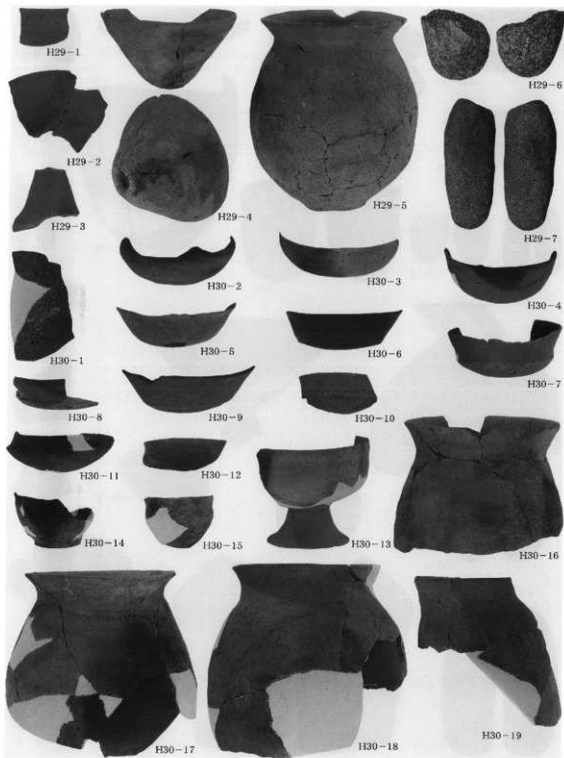
H14·15·16·19·21号住址遺物



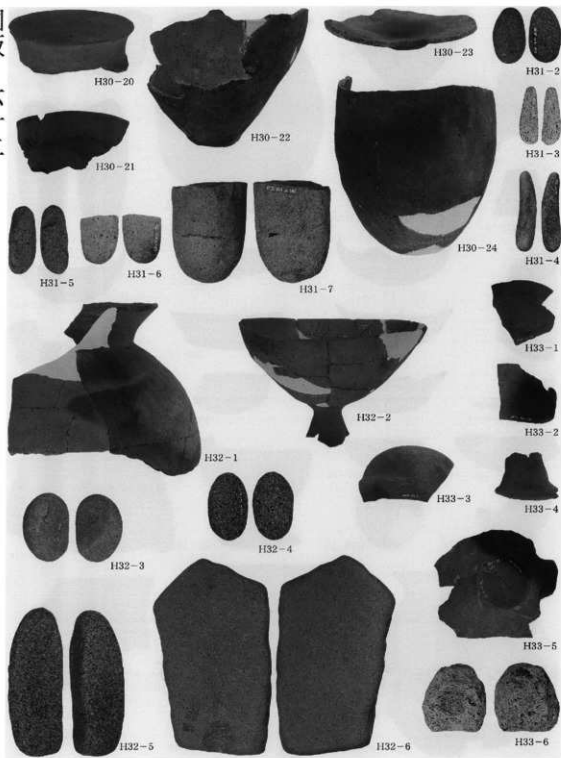
H23・24・25・27号住居址遺物



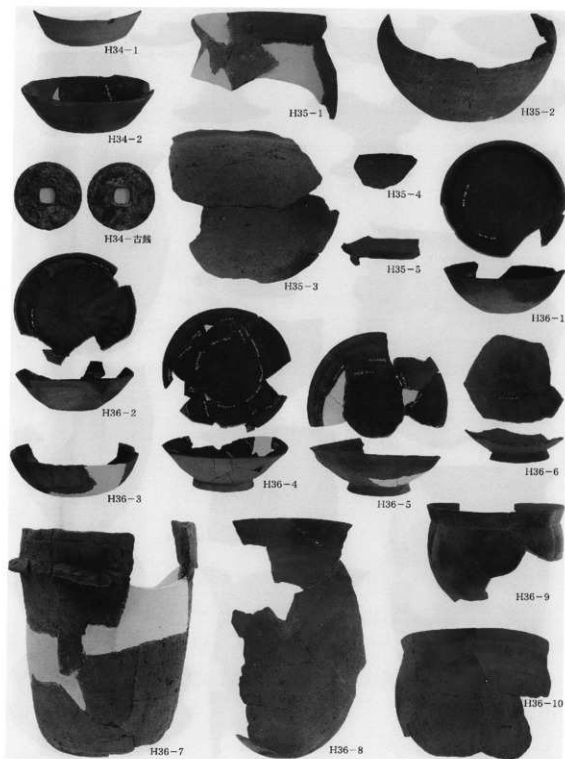
H28号住居址遺物



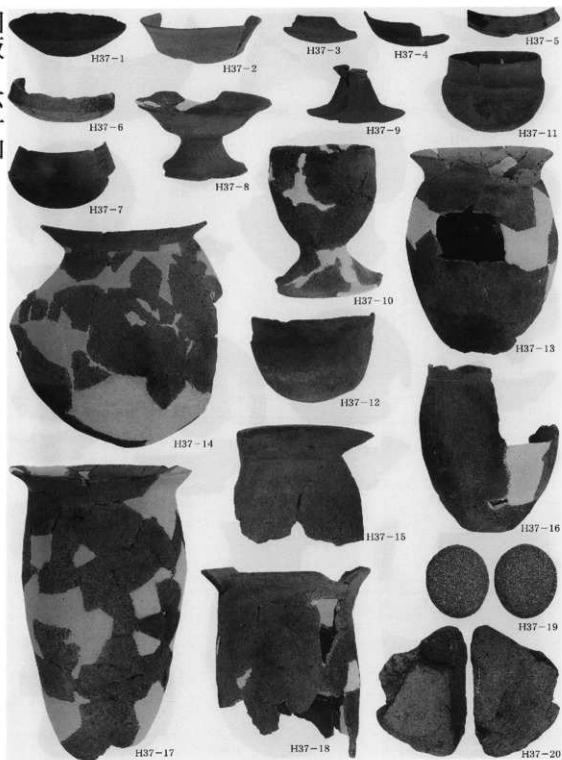
H29・30号住居址遺物



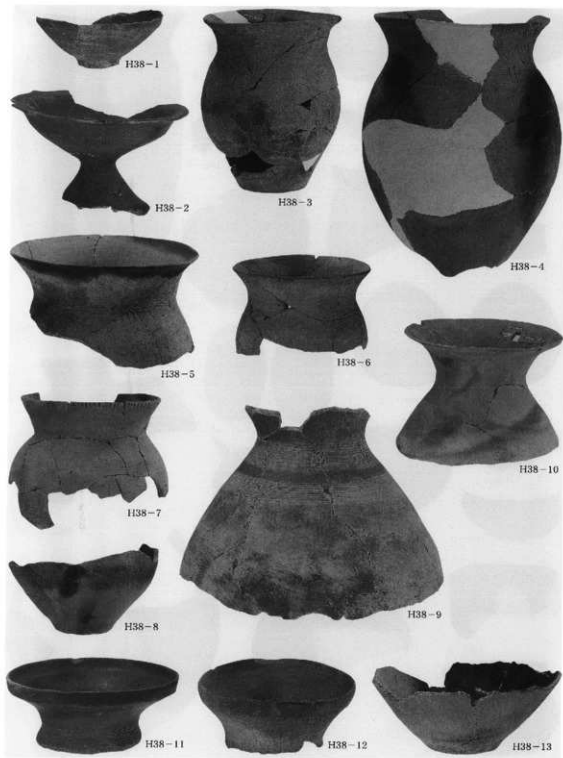
H30・31・32・33号住居址遺物



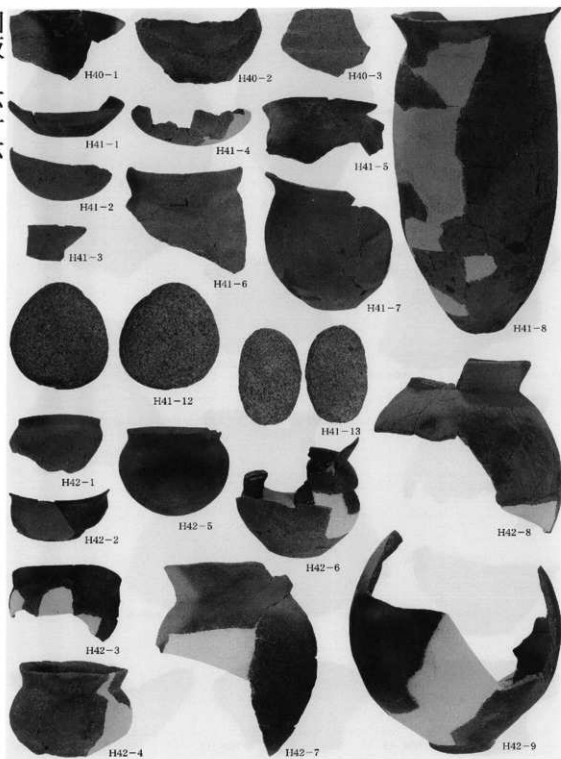
H34・35・36号住居址遺物



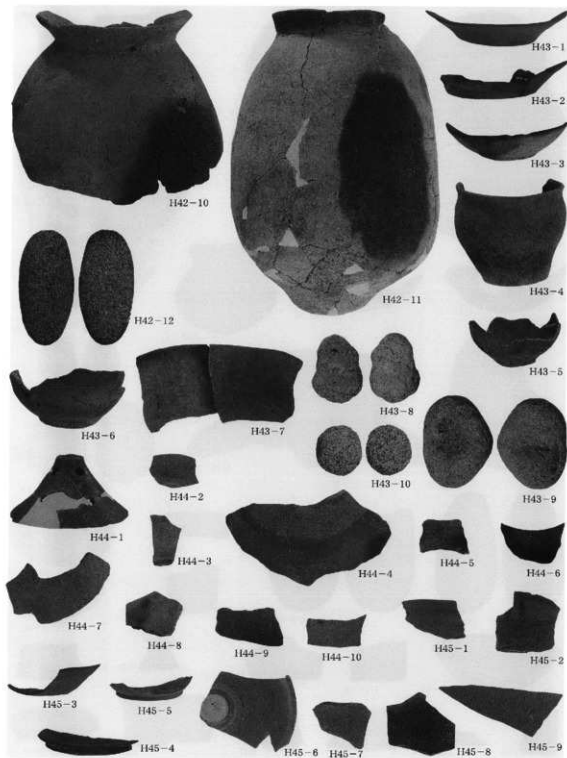
H37号住居址遺物



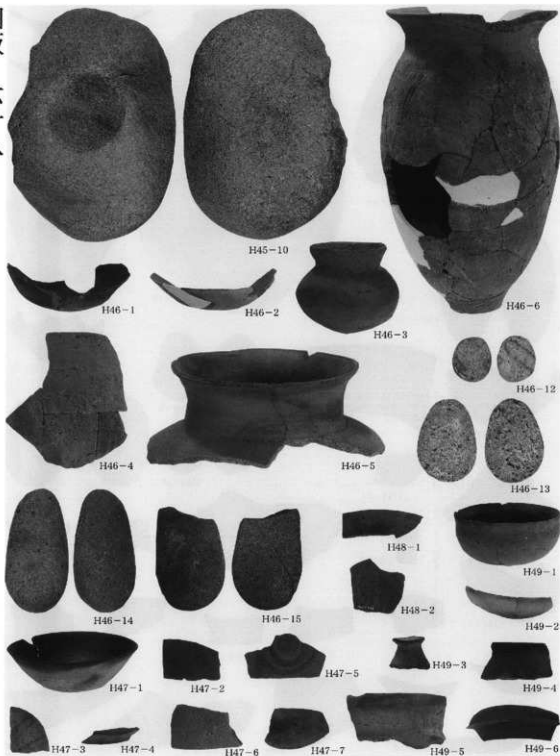
H38号住居址遺物



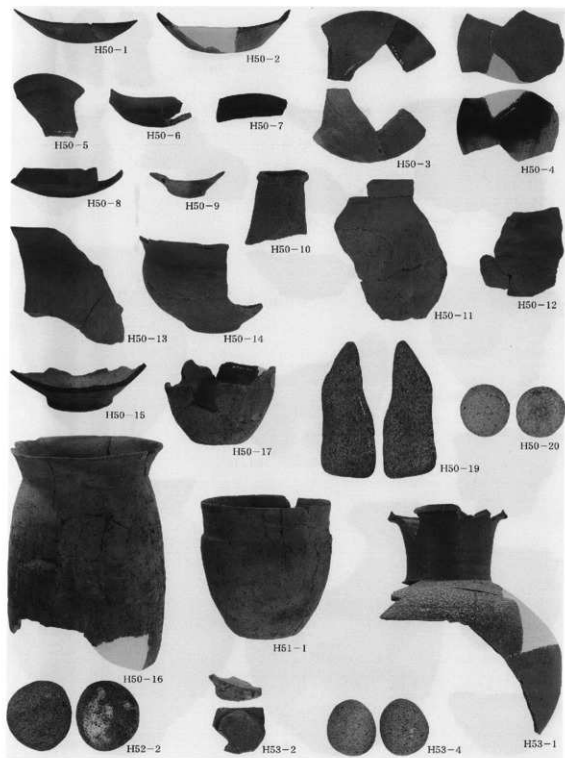
H40・41・42号住居址遺物



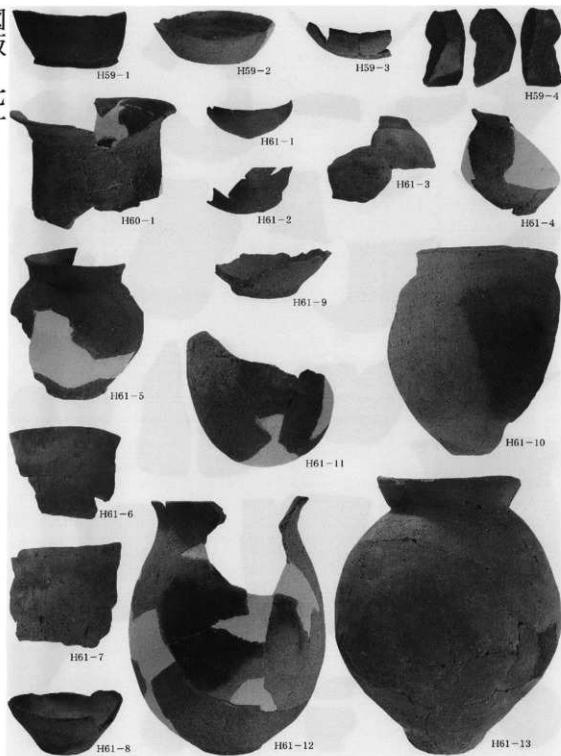
H42·43·44·45号住居址遺物



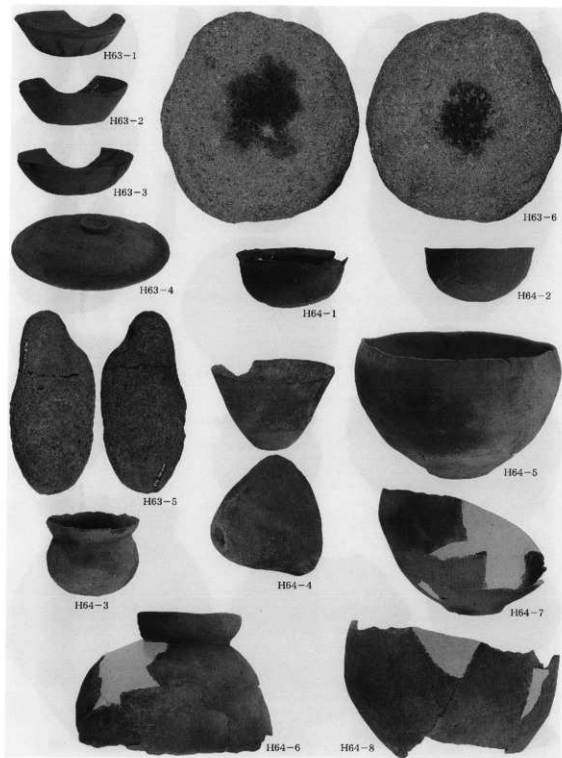
H45・46・47・48・49号住居址遺物



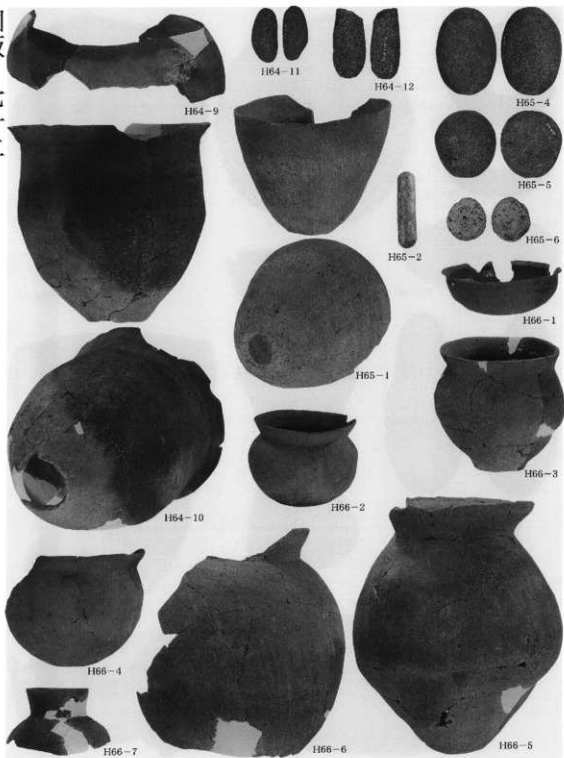
H50・51・52・53号住居址遺物



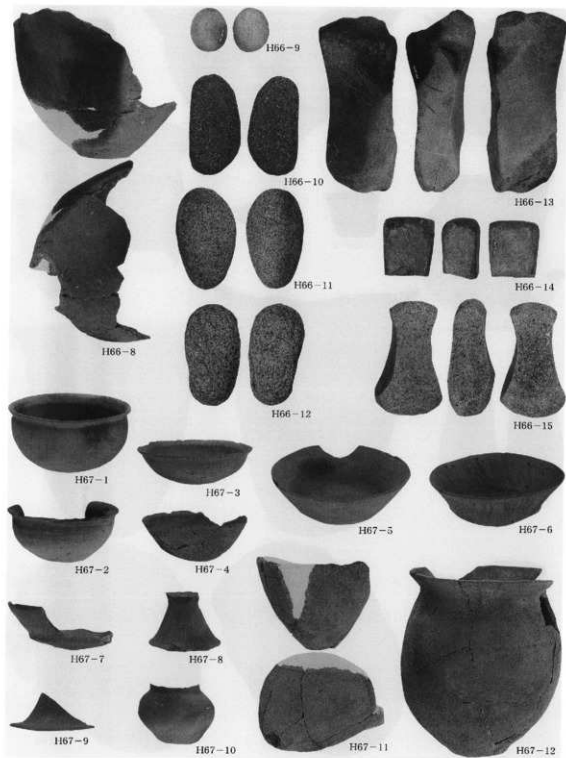
H59·60·61号住居址遺物



H63·64号住居址遺物

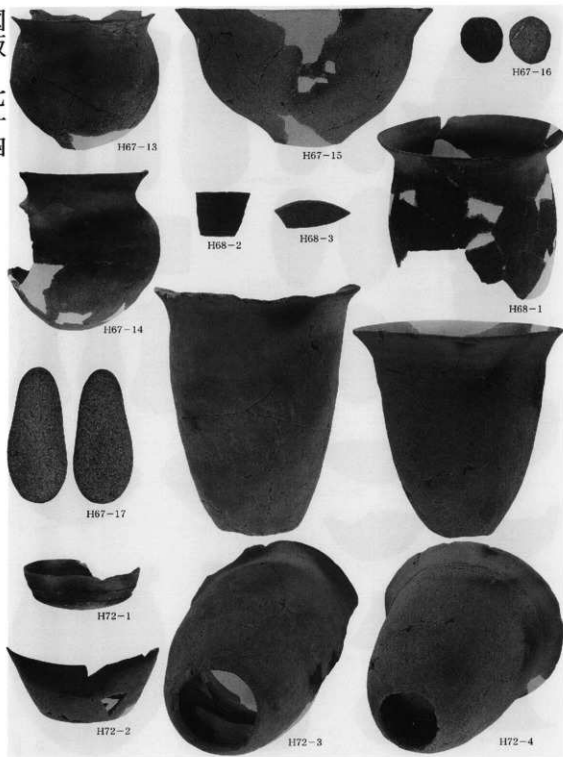


H64・65・66号住居址遺物

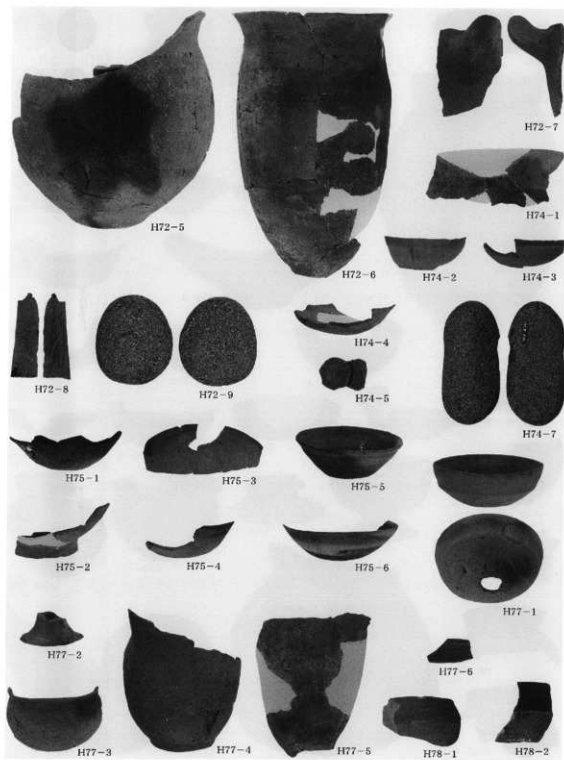


H66·67号住居址遺物

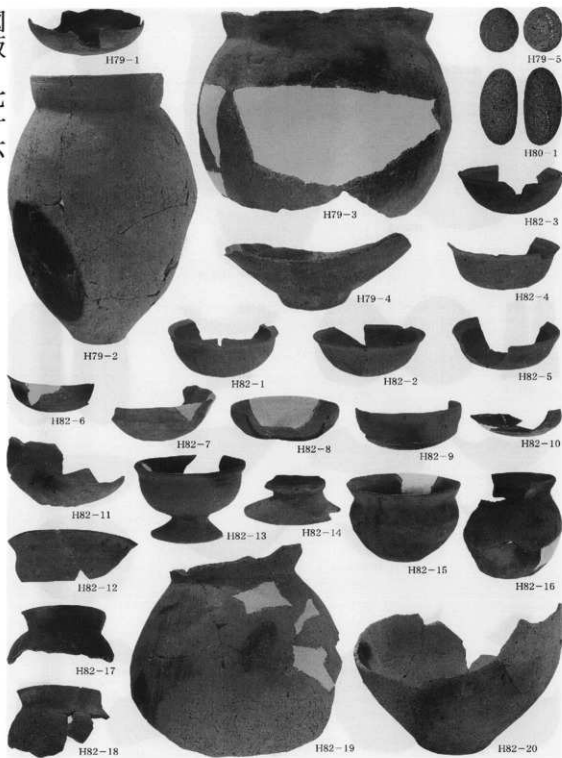
図版
七十四



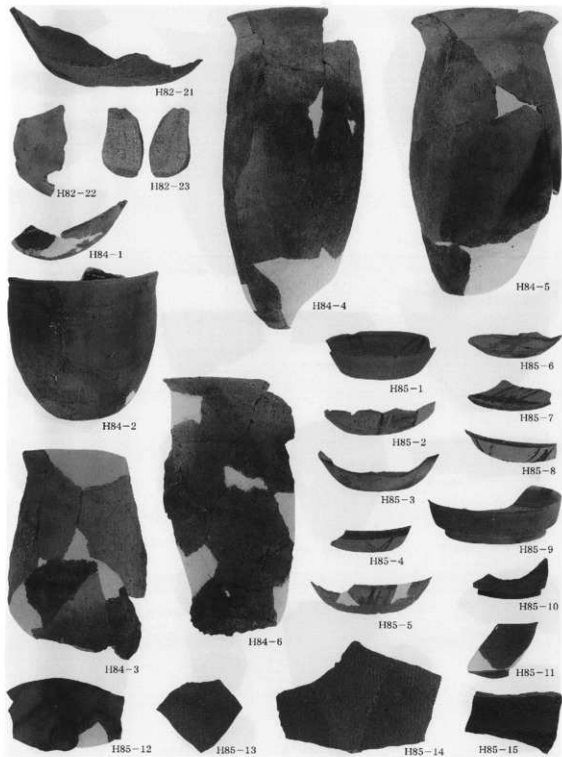
H67・68・72号住居址遺物



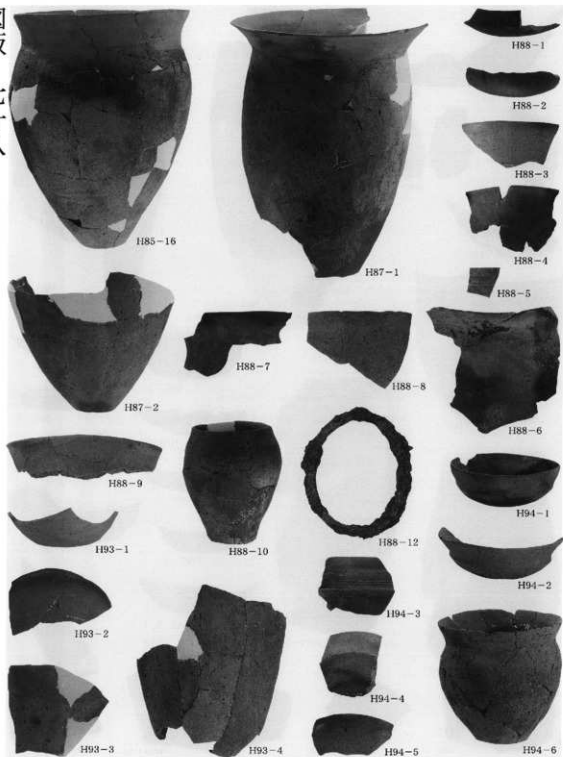
H72・74・75・77・78号住居址遺物



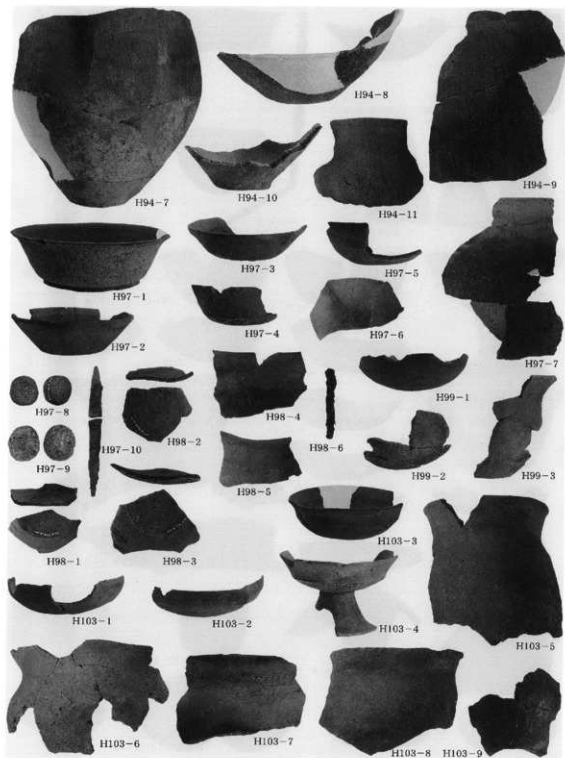
H79·80·82号住居址遗物



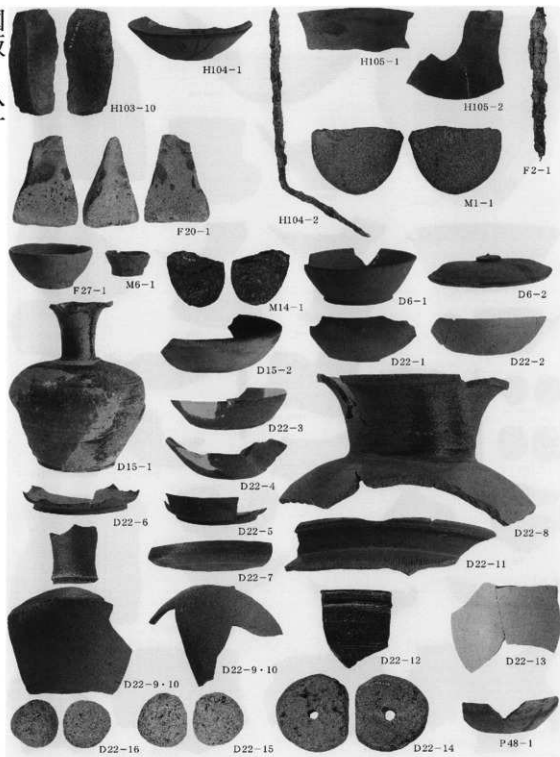
H82・84・85号住居址遺物



H85・87・88・93・94号住居址遺物



H94・97・98・99・103号住居址遺物



H103・104・105号住居址、F2・20・27号掘立柱建物址
M1・6・14号溝状遺構、D6・15・22号土坑、P48号ビット遺物

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第172集
岩村田遺跡群 西八日町遺跡Ⅳ

編集・発行 長野県佐久市教育委員会
長野県佐久市中込3056

文化財課
長野県佐久市志賀5953
電話 0267-68-7321

印刷所 キクハラインク有限会社

報告書抄録

番 名	岩村町遺跡群 西八日町遺跡IV
ふりがな	いわむらだいせきぐん にしようかまちいせきよん
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第172集
編著者名	上原 学
編集・発行機関	佐久市教育委員会 社会教育部 文化財課
発行年月日	2010.3
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68 7321
住 所	長野県佐久市志賀5953
遺跡名	岩村町遺跡群 西八日町遺跡IV
遺跡所在地	佐久市岩村町2192-1、2192-3、2193-1、2194-1、2130-10、2130-5、2128-3、2128-2、2133-1、2133-4、2135-1外
遺跡番号	佐久市 52
北 緯	北緯36度15分59秒
東 経	東経139度48分34秒
調査期間	西八日町遺跡IV 平成19(2007)年10月1日～平成20(2008)年1月10日 (現場) 平成19(2007)年10月1日～平成20(2008)年3月26日 (整理作業) 平成20(2008)年5月19日～平成21(2009)年3月2日 (現場) 平成20(2008)年4月7日～平成21(2009)年3月31日 (整理作業) 平成21(2009)年4月13日～平成19(2009)年5月29日 (現場) 平成21(2009)年4月7日～平成22(2010)年3月31日 (整理作業)
調査面積	5,165㎡
調査原因	佐久都市計画事業 岩村田相生町南上地区画整理事業
種 別	集落跡
主な時代	弥生後期・古墳・奈良・平安・中世
遺跡概要	集落址-弥生+古墳+奈良+平安+中世-竪穴住居址+組立柱建物址+溝状遺構+土坑+ヒット 弥生土器+土師器+須恵器+灰輪陶器+金属製品+石製品+土製品+玉類+古銭
特記事項	遺跡は、弥生時代後期から中世に至る幅広い時期が混在する複合遺跡である。弥生時代から平安時代については住居址等の集落跡、中世では区画溝と考えられる溝状遺構が発見され調査を実施した。今回の調査によって、弥生時代から継続的に集落が営まれていた様子を伺い知ることができた。。